

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄						備考		
計画の区分	研究科の専攻の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホウジン オオサカデンキツウシンダイガク 学校法人 大阪電気通信大学								
フリガナ大学の名称	オオサカデンキツウシンダイガクダイガクイン 大阪電気通信大学大学院 (Osaka Electro-Communication University Graduate School)								
大学の位置	大阪府寝屋川市初町18番8号								
大学の目的	本学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的とする。								
新設学部等の目的	産業の基盤となる工学およびその根幹をなす科学技術の基礎と応用を教授研究するとともに、高度な工学技術を通して社会に貢献できる専門的な人材を養成する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】 工学部 電気電子工学科 電子機械工学科 機械工学科 基礎理工学科 環境科学科 情報通信工学科 情報工学科 通信工学科
	工学研究科 (Graduate School of Engineering)	年	人	年次人	人		年月 第1年次	大阪府寝屋川市初町 18番8号	
	工学専攻博士前期課程 (Division of Engineering Master's Degree Program)	2	70	-	140	修士(工学)	2020年4月 第1年次		
	工学専攻博士後期課程 (Division of Engineering Doctoral Degree Program)	3	12	-	36	博士(工学)	2020年4月 第1年次		
計		82	-	176					
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	大阪電気通信大学大学院 総合情報学研究科 総合情報学専攻(M) (30) (2019年6月届出予定) 総合情報学専攻(D) (5) (2019年6月届出予定) 工学研究科 先端理工学専攻(M) (廃止) (△15) 先端理工学専攻(D) (廃止) (△3) 電子通信工学専攻(M) (廃止) (△20) 電子通信工学専攻(D) (廃止) (△3) 制御機械工学専攻(M) (廃止) (△30) 制御機械工学専攻(D) (廃止) (△5) 情報工学専攻(M) (廃止) (△35) 情報工学専攻(D) (廃止) (△5) ※2020年4月学生募集停止 総合情報学研究科 デジタルアート・アニメーション学専攻(M) (廃止) (△10) デジタルゲーム学専攻(M) (廃止) (△10) コンピュータサイエンス専攻(M) (廃止) (△10) コンピュータサイエンス専攻(D) (廃止) (△5) ※2020年4月学生募集停止 2020年4月名称変更 大阪電気通信大学 医療福祉工学部→医療健康科学部 医療福祉工学科→医療科学科								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	工学専攻博士前期課程	71科目	4科目	6科目	81科目	30単位			
工学専攻博士後期課程	0科目	4科目	0科目	4科目	12単位				

教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	人
教員組織の概要	新設	工学研究科	35 (42)	18 (20)	2 (2)	0 (0)	55 (64)	0 (0)	1 (1)
		工学専攻博士前期課程							
	既設	工学研究科	35 (42)	18 (20)	2 (2)	0 (0)	55 (64)	0 (0)	0 (0)
		工学専攻博士後期課程							
	分	総合情報学研究科	17 (18)	10 (11)	1 (1)	0 (0)	28 (30)	0 (0)	2 (2)
		総合情報学専攻博士前期課程							
		総合情報学研究科	17 (18)	10 (11)	1 (1)	0 (0)	28 (30)	0 (0)	0 (0)
		総合情報学専攻博士後期課程							
	計		52 (60)	28 (31)	3 (3)	0 (0)	83 (94)	0 (0)	3 (3)
	既設	医療福祉工学研究科	9 (13)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	15 (19)	0 (0)	1 (1)
医療福祉工学専攻博士前期課程									
医療福祉工学研究科		9 (13)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	15 (19)	0 (0)	0 (0)	
医療福祉工学専攻博士後期課程									
計		9 (13)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	15 (19)	0 (0)	1 (1)	
合計		61 (73)	34 (37)	3 (3)	0 (0)	98 (113)	0 (0)	4 (4)	
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		
	事務職員		90人 (90)		34人 (34)		124人 (124)		
	技術職員		18 (18)		2 (2)		20 (20)		
	図書館専門職員		2 (2)		0 (0)		2 (2)		
	その他の職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)		
	計		110 (110)		36 (36)		146 (146)		
校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用		計			
	校舎敷地	122,201.41㎡	0.00㎡	0.00㎡		122,201.41㎡			
	運動場用地	170,309.72㎡	0.00㎡	0.00㎡		170,309.72㎡			
	小計	292,511.13㎡	0.00㎡	0.00㎡		292,511.13㎡			
	その他	0.00㎡	0.00㎡	0.00㎡		0.00㎡			
	合計	292,511.13㎡	0.00㎡	0.00㎡		292,511.13㎡			
校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用		計				
	87,584.13㎡ (87,830.07㎡)	0.00㎡ (0.00㎡)	0.00㎡ (0.00㎡)		87,584.13㎡ (87,830.07㎡)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	69室	9室	120室	11室 (補助職員0人)	0室 (補助職員0人)				
専任教員研究室		新設学部等の名称		室数					
		工学研究科 工学専攻		65 室					
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕冊	学術雑誌 〔うち外国書〕種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
	工学研究科	285,982 [59,283]	3,710 [3,112]	2,142 [2,091]	7,680	7,674	45		
	工学専攻	(285,952 [59,273])	(3,705 [3,107])	(2,137 [2,086])	(7,676)	(7,631)	(45)		
	計	285,982 [59,283] (285,952 [59,273])	3,710 [3,112] (3,705 [3,107])	2,142 [2,091] (2,137 [2,086])	7,680 (7,676)	7,674 (7,631)	45 (45)		
図書館	面積	閲覧座席数		収納可能冊数					
	3,093.58㎡	426		335,800		大学全体			
体育館	体育館以外のスポーツ施設の概要								
	3,253.10㎡	テニスコート5面		トレーニングルーム					

2019年6月
届出予定
2019年6月
届出予定

学部単位での特定不能なため、
大学全体の数

大学全体

経費の積り 及び維持方法 の概要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には、電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む。 上段は博士前期課程、後段は博士後期課程。	
		教員1人当り研究費等		303千円	311千円	311千円	311千円	311千円		— 千円
		共同研究費等		2,895千円	2,753千円	0千円	0千円	0千円		— 千円
		図書購入費	3,637千円	3,158千円	2,673千円	2,616千円	2,616千円	2,616千円		— 千円
	設備購入費	6,020千円	5,228千円	4,425千円	4,330千円	4,330千円	4,330千円	— 千円		
学生1人当り 納付金	第1年次		第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	1,150 千円		1,050 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円			
	1,150 千円		1,050 千円	1,050 千円	— 千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			手数料, 補助金, 受取利息・配当金							
既	大 学 の 名 称	大阪電気通信大学								
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
大 学 等 の 状 況	工学部	年	人	年次人	人		倍		大阪府寝屋川市 初町18番8号	
	電気電子工学科	4	80	—	320	学 士 (工 学)	1.07	1961 年度		
	電子機械工学科	4	80	—	320	学 士 (工 学)	1.09	1965 年度		
	機械工学科	4	90	—	360	学 士 (工 学)	1.06	1975 年度		
	基礎理工学科	4	60	—	240	学 士 (工 学)	1.10	2007 年度		
	環境科学科	4	90	—	360	学 士 (工 学)	1.00	2011 年度		
	建築学科	4	80	—	160	学 士 (工 学)	1.14	2018 年度		
	情報通信工学部						1.06		大阪府寝屋川市 初町18番8号	
	情報工学科	4	160	—	640	学 士 (情報工学)	1.06	2005 年度		
	通信工学科	4	80	—	320	学 士 (工 学)	1.08	2005 年度		
	医療福祉工学部						1.06		大阪府四條畷市 清滝1130-70	
	医療福祉工学科	4	80	第3年次 5	330	学 士 (工 学)	1.03	2004 年度		
	理学療法学科	4	40	—	160	学 士 (理学療法)	1.06	2006 年度		
	健康スポーツ科学科	4	70	第3年次 5	290	学 士 (健康科学)	1.08	2008 年度		
総合情報学部						1.07		大阪府四條畷市 清滝1130-70		
デジタルアート・ アニメーション学科	4	—	—	—	学 士 (情報学)	—	2000 年度	※2015年度より 学生募集停止		
デジタルゲーム学科	4	—	—	—	学 士 (情報学)	—	2003 年度	※2018年度より 学生募集停止		
デジタルゲーム学科	4	140	第3年次 5	280	学 士 (情報学)	1.04	2018 年度			
ゲーム&メディア学科	4	110	—	220	学 士 (情報学)	1.01	2018 年度			
情報学科	4	90	—	360	学 士 (情報学)	1.16	2005 年度			
金融経済学部								大阪府寝屋川市 早子町12-16		
資産運用学科	4	—	—	—	学 士 (ファイナンス)	—	2009 年度	※2018年度より 学生募集停止		

既設	工学研究科 博士後期課程								大阪府寝屋川市 初町18番8号
	先端理工学専攻	3	3	—	9	博 士 (工 学)	0.44	1992 年度	
	電子通信工学専攻	3	3	—	9	博 士 (工 学)	0.00	2006 年度	
	制御機械工学専攻	3	5	—	15	博 士 (工 学)	0.13	1992 年度	
大 学	情報工学専攻	3	5	—	15	博 士 (工 学)	0.00	1992 年度	
	工学研究科 博士前期課程								大阪府寝屋川市 初町18番8号
	先端理工学専攻	2	15	—	30	修 士 (工 学)	0.73	1990 年度	
	電子通信工学専攻	2	20	—	40	修 士 (工 学)	0.37	2006 年度	
等 の 状 況	制御機械工学専攻	2	30	—	60	修 士 (工 学)	0.61	1990 年度	
	情報工学専攻	2	35	—	70	修 士 (工 学)	0.18	1990 年度	
	総合情報学研究科 博士後期課程								大阪府四條畷市 清滝1130-70
	コンピュータ サイエンス専攻	3	5	—	15	博 士 (情報学)	0.20	2007 年度	
の 状 況	総合情報学研究科 博士前期課程								大阪府四條畷市 清滝1130-70
	デジタルアート・ アニメーション学専攻	2	10	—	20	修 士 (情報学)	0.30	2004 年度	
	デジタルゲーム学専攻	2	10	—	20	修 士 (情報学)	0.75	2005 年度	
	コンピュータ サイエンス専攻	2	10	—	20	修 士 (情報学)	1.15	2006 年度	
の 状 況	医療福祉工学研究科 博士後期課程								大阪府四條畷市 清滝1130-70
	医療福祉工学専攻	3	5	—	15	博 士 (工 学)	0.33	2007 年度	
の 状 況	医療福祉工学研究科 博士前期課程								大阪府四條畷市 清滝1130-70
	医療福祉工学専攻	2	10	—	20	修 士 (工 学)	1.10	2005 年度	
附属施設の概要		該当なし							

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校に於ける収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要																
(工学研究科 工学専攻 博士前期課程)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
コース 電子通信工学 コース	光・電子工学分野 半導体デバイス工学 光デバイス工学 集積デバイス工学 光・電子デバイス工学特論	1後		2		○			1						隔年	
		1後		2		○			1						隔年	
		1後		2		○			1						隔年	
		1前		2		○			1						隔年	
	光・マイクログロ波工学分野	電磁波論 アンテナ工学 電磁計測特論 電波応用工学特論 衛星通信工学特論 電力システム工学	1後		2		○				1					隔年
			1後		2		○				1					隔年
			1前		2		○			1						隔年
			1前		2		○			1						隔年
			1前		2		○			1						隔年
			1前		2		○			1						隔年
	工学 通信分野 ネットワーク	ネットワーク工学特論 情報セキュリティ 信号処理 暗号理論特論 信号システム理論特論 情報システム工学特論	1前		2		○				1					隔年
			1後		2		○				1					隔年
			1前		2		○				1					隔年
			1前		2		○			1						隔年
			1前		2		○				1					隔年
			1前		2		○			1						隔年
小計（16科目）		—	0	32	0	—			10	5	0	0	0			
制御 機械工学 コース	計測制御工学分野 現代制御特論 ロボティクス特論 計測工学特論 バイオメカニズム論 アクチュエータ工学特論	1前		2		○			1						隔年	
		1後		2		○			1						隔年	
		1前		2		○			1	1					隔年・オムニバス	
		1前		2		○				1					隔年	
		1後		2		○			2						隔年・オムニバス	
	分機 械・加 工学 機械力学特論 材料力学特論 加工学特論 CAD工学特論	1後		2		○			1						隔年	
		1後		2		○			1						隔年	
		1後		2		○			1	1					隔年・オムニバス	
		1前		2		○			1						隔年	
	環 境工 学ギ ャ ー分 野 熱工学特論 環境設計工学 エネルギー変換工学特論 流体工学特論	1後		2		○			1		1				隔年・オムニバス	
		1後		2		○				1					隔年	
		1後		2		○			1						隔年	
		1後		2		○			1						隔年	
	コ ー ス 共 通 分 野 テクニカルコミュニケーション1 テクニカルコミュニケーション2 国際工学技術特論1 国際工学技術特論2 産学連携機械工学特論	1前		2		○			1						隔年	
		1後		2		○			1						隔年	
		1前		2		○			1						集中	
1後			2		○			1						集中		
1後			2		○			1								
小計（18科目）		—	0	36	0	—			12	4	1	0	0			

教育課程等の概要															
(工学研究科 工学専攻 博士前期課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
コース 情報工学 専門科目	情報分野基礎	情報数理学特論	1前	2		○				1					隔年
		自然言語処理特論	1前	2		○				1					隔年
	情報処理学分野	パターン認識特論	1後	2		○					1				隔年
		知能情報処理特論	1後	2		○					1				隔年
		三次元計測特論	1前	2		○					1				隔年
		画像情報解析特論	1後	2		○					1				隔年
		コンピュータビジョン特論	1前	2		○					1				隔年
	工学生産分野	計算機統計学特論	1前	2		○									隔年・集中
		人間工学特論	1前	2		○					1				隔年
	基礎計算機分野	理論計算機科学特論	1後	2		○					1				隔年
		システムLSI設計特論	1前	2		○					1				隔年
	学視分野情報	コンピュータグラフィックス特論	1後	2		○					1				隔年
		光情報センシング特論	1前	2		○					1				隔年
		光情報処理特論	1後	2		○					1				隔年
小計(14科目)		—	0	28	0	—	—	—	4	7	0	0	0	兼1	
合計(81科目)		—	12	138	0	—	—	—	35	18	2	0	0	兼1	
学位又は称号		修士(工学)		学位又は学科の分野			工学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
<p><全コース共通></p> <ul style="list-style-type: none"> ・必修科目…12単位 ・選択したコースの選択科目…14単位以上 ・合計…30単位以上 <p>他コースの科目8単位以内を選択科目に充当可</p> <p>履修については、研究指導を担当する教員の指示に従うものとする</p> <p>本学大学院に2年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、当該研究科の目的に応じ、修士の学位論文又は特定の課題についての研究及び制作活動の成果の審査並びに最終試験に合格すること。</p> <p>ただし、優れた研究業績を上げた者については、在学期間を1年以上とすることができる。</p>							1学年の学期区分		2期						
							1学期の授業期間		15週						
							1時限の授業時間		90分						

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教 育 課 程 等 の 概 要														
(工学研究科 工学専攻 博士後期課程)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
先端理工学	先端理工学特殊研究	1～3通		12						10				
電子通信工学	電子通信工学特殊研究	1～3通		12						7				
制御機械工学	制御機械工学特殊研究	1～3通		12						8				
情報工学	情報工学特殊研究	1～3通		12						3				
小計(4科目)		—	0	48	0					28	0	0	0	0
合計(4科目)		—	0	48	0					28	0	0	0	0
学位又は称号		博士(工学)			学位又は学科の分野			工学関係						
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
<p>・選択したコースの1科目…12単位</p> <p>本学大学院に5年(博士前期課程を修了した者)にあっては、当該課程における2年の在学期間を含む。)以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格すること。</p> <p>ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、本学大学院に3年(博士前期課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者)にあっては、当該課程における2年の在学期間を含む。)以上在学すれば足りるものとする。</p> <p>修士の学位若しくは専門職学位を有する者又は、学校教育法施行規則第156条の規定により大学院への入学資格に関し修士の学位を有する者と同程度以上の学力があると認められた者が、本学大学院に入学した場合の修了要件は、博士後期課程に3年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格することとする。</p> <p>ただし、優れた研究業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。</p>							1 学年の学期区分			2期				
							1 学期の授業期間			15週				
							1 時限の授業時間			90分				

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教 育 課 程 等 の 概 要														
(工学研究科 先端理工学専攻 博士前期課程)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	
総合電子工学分野	固体物理学特論1	1①		1		○			1					隔年 2019年未開講 隔年・ オムニバス 隔年・ オムニバス
	固体物理学特論2	1②		1		○			1					
	半導体工学特論1	1③		1		○			1					
	半導体工学特論2	1④		1		○								
	ナノ工学特論	1前		2		○			3					
	先端計測特論	1後		2		○			2					
	小計(6科目)	—	0	8	0	—			3	0	0	0	0	
物質化学分野	有機化学特論	1前		2		○				1				隔年
	無機化学特論	1前		2		○			1					隔年
	バイオナノテクノロジー特論	1後		2		○			1					隔年
	ケミカルバイオロジー特論	1後		2		○			1					隔年
	分子分光光学特論	1後		2		○			1					隔年
	資源工学特論	1後		2		○					1			隔年
	小計(6科目)	—	0	12	0	—			4	1	1	0	0	—
基礎科学分野	量子物理学特論	1前		2		○			1					隔年
	現代物理学特論	1前		2		○			1					隔年
	先端物理学特論	1後		2		○					1			隔年
	シミュレーション統計力学特論1	1③		1		○			1					隔年
	シミュレーション統計力学特論2	1④		1		○			1					隔年
	地球物理学特論	1後		2		○				1				隔年
	小計(6科目)	—	0	10	0	—			3	1	1	0	0	—
数理解析分野	複素解析特論	1前		2		○								2019年未開講
	微分方程式特論1	1③		1		○			1					隔年
	微分方程式特論2	1④		1		○			1					隔年
	応用解析特論	1後		2		○			1					隔年
	現代幾何学特論	1後		2		○			1					隔年
	多様体特論	1前		2		○								2019年未開講
	応用離散数学特論	1前		2		○								2019年未開講
	数理物理学特論	1前		2		○				1				隔年
	確率モデル特論	1前		2		○				1				隔年
	現象数理学特論	1前		2		○			1					隔年
	小計(10科目)	—	0	18	0	—			3	1	0	0	0	—

教 育 課 程 等 の 概 要																
(工学研究科 先端理工学専攻 博士前期課程)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通	先端理工英語1	1前		1				○			1					共同 共同 共同 共同
	先端理工英語2	1後		1				○			1					
	先端理工英語3	1前		1				○			1					
	先端理工英語4	1後		1				○			1					
	ゼミナール1	1前	1					○			13	3	2			
	ゼミナール2	1後	1					○			13	3	2			
	ゼミナール3	2前	1					○			13	3	2			
	ゼミナール4	2後	1					○			13	3	2			
	特別研究1	1前	2					○			13	3	2			
	特別研究2	1後	2					○			13	3	2			
	特別研究3	2前	2					○			13	3	2			
	特別研究4	2後	2					○			13	3	2			
小計（12科目）		—	12	4	0	—					13	3	2	0	0	—
合計（40科目）		—	12	52	0	—					13	3	2	0	0	—
学位又は称号		修士（工学）			学位又は学科の分野			工学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
・必修科目…12単位 ・選択科目…18単位以上 ・合計…30単位以上 履修については、研究指導を担当する教員の指示に従うものとする 本学大学院に2年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、当該研究科の目的に応じ、修士の学位論文又は特定の課題についての研究及び制作活動の成果の審査並びに最終試験に合格すること。 ただし、優れた研究業績を上げた者については、在学期間を1年以上とすることができる。							1学年の学期区分			2期						
							1学期の授業期間			15週						
							1時限の授業時間			90分						

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教 育 課 程 等 の 概 要															
（工学研究科 電子通信工学専攻 博士前期課程）															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
工学・電子デバイス	半導体デバイス工学	1後		2		○			1						隔年
	光デバイス工学	1後		2		○			1						隔年
	集積デバイス工学	1後		2		○			1						隔年
	波導光学	1後		2		○									2019年未開講
	光・電子デバイス工学特論	1前		2		○			1						隔年
	小計（5科目）	—	0	10	0	—			4	0	0	0	0		—
光・マイクロ波工学	電磁波論	1後		2		○			1						隔年
	導波工学	1後		2		○									2019年未開講
	アンテナ工学	1後		2		○				1					隔年
	電磁計測特論	1前		2		○			1						隔年
	電波応用工学特論	1前		2		○			1						隔年
	衛星通信工学特論	1前		2		○			1						隔年
	電力システム工学	1前		2		○			1						隔年
小計（7科目）	—	0	14	0	—			5	1	0	0	0		—	
工学通信・ネットワーク	ネットワーク工学	1前		2		○				1					隔年
	情報セキュリティ	1後		2		○				1					隔年
	信号処理	1前		2		○				1					隔年
	暗号理論特論	1前		2		○			1						隔年
	信号システム理論特論	1前		2		○				1					隔年
	情報システム工学特論	1前		2		○			1						隔年
小計（6科目）	—	0	12	0	—			2	4	0	0	0		—	
共通	ゼミナール1	1前	1					○	11	5					共同
	ゼミナール2	1後	1					○	11	5					共同
	ゼミナール3	2前	1					○	11	5					共同
	ゼミナール4	2後	1					○	11	5					共同
	特別研究1	1前	2				○		11	5					
	特別研究2	1後	2				○		11	5					
	特別研究3	2前	2				○		11	5					
	特別研究4	2後	2				○		11	5					
小計（8科目）	—	12	36	0	—			11	5	0	0	0		—	
合計（26科目）		—	12	36	0	—			11	5	0	0	0		—
学位又は称号		修士（工学）		学位又は学科の分野				工学関係							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
・必修科目…12単位 ・選択科目…18単位以上 ・合計…30単位以上 履修については、研究指導を担当する教員の指示に従うものとする 本学大学院に2年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、当該研究科の目的に応じ、修士の学位論文又は特定の課題についての研究及び制作活動の成果の審査並びに最終試験に合格すること。 ただし、優れた研究業績を上げた者については、在学期間を1年以上とすることができる。	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	15週
	1 時限の授業時間	90分

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教 育 課 程 等 の 概 要															
(工学研究科 制御機械工学専攻 博士前期課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
計測制御工学	現代制御特論	1前		2		○			1						隔年
	ロボティクス特論	1後		2		○			1						隔年
	計測工学特論	1前		2		○				1					隔年
	バイオメカニズム論	1前		2		○				1					隔年
	光情報センシング特論	1前		2		○								兼1	隔年
	デジタル信号処理特論	1前		2		○								兼1	隔年
	三次元計測特論	1前		2		○								兼1	隔年
	アクチュエータ工学特論	1後		2		○			2						隔年・オムニバス
小計（8科目）	—	0	16	0	—	—	—	4	2	0	0	0	兼3	—	
機械・加工学	機械力学特論	1後		2		○			1						隔年
	材料力学特論	1後		2		○			1						隔年
	加工学特論	1後		2		○			1	1					隔年・オムニバス
	ナノ計測工学	1後		2		○			1						隔年
	CAD工学特論	1前		2		○			1						隔年
小計（5科目）	—	0	10	0	—	—	—	5	1	0	0	0		—	
エネルギー・環境工学	内燃機関特論	1後		2		○									2019年未開講
	熱工学特論	1後		2		○			2						隔年・オムニバス
	環境設計工学	1後		2		○				1					隔年
	エネルギー変換工学特論	1後		2		○			1						隔年
	水浄化工学特論	1前		2		○			1						隔年
	流体工学特論	1後		2		○			1						隔年
	電力システム工学	1前		2		○								兼1	隔年
小計（7科目）	—	0	14	0	—	—	—	4	1	0	0	0	兼1	—	
共通	テクニカルコミュニケーション1	1前		2		○			1						隔年
	テクニカルコミュニケーション2	1後		2		○			4						隔年・オムニバス
	国際工学技術特論1	1前		2		○							兼3	集中	
	国際工学技術特論2	1後		2		○							兼3	集中	
	産学連携機械工学特論	1後		2		○			1						
	ゼミナール1	1前	1					○	13	4					共同
	ゼミナール2	1後	1					○	13	4					共同
	ゼミナール3	2前	1					○	13	4					共同
	ゼミナール4	2後	1					○	13	4					共同
	特別研究1	1前	2					○	10	3					
	特別研究2	1後	2					○	10	3					
	特別研究3	2前	2					○	10	3					
	特別研究4	2後	2					○	10	3					
小計（13科目）	—	12	10	0	—	—	—	13	4	0	0	0		—	
合計（33科目）	—	12	50	0	—	—	—	13	4	0	0	0		—	

学位又は称号	修士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係	
卒業要件及び履修方法			授業期間等	
・必修科目…12単位 ・選択科目…18単位以上 ・合計…30単位以上 履修については、研究指導を担当する教員の指示に従うものとする 本学大学院に2年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、当該研究科の目的に応じ、修士の学位論文又は特定の課題についての研究及び制作活動の成果の審査並びに最終試験に合格すること。 ただし、優れた研究業績を上げた者については、在学期間を1年以上とすることができる。			1 学年の学期区分	2期
			1 学期の授業期間	15週
			1 時限の授業時間	90分

(注)

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

教育課程等の概要																
(工学研究科 情報工学専攻 博士前期課程)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
情報基礎学	情報数学特論	1前		2		○			1						2019年未開講	
	数理論理学特論	1前		2		○									兼1	隔年
	自然言語処理特論	1前		2		○										隔年
	システム制御理論特論	1前		2		○									兼1	隔年
	情報通信工学特論	1後		2		○										2019年未開講
	機械学習特論	1前		2		○									兼1	隔年
	知的信号処理特論	1前		2		○									兼1	隔年
	離散最適化特論	1前		2		○				1						隔年
	データマイニング特論	1前		2		○										2019年未開講
小計(9科目)	—	0	18	0	—			1	1	0	0	0	兼4	—		
情報処理学	パターン認識特論	1後		2		○				1					隔年	
	知能情報処理特論	1後		2		○				1					隔年	
	三次元計測特論	1前		2		○				1					隔年	
	知能ロボット工学特論	1後		2		○								兼1	隔年	
	画像情報解析特論	1後		2		○			1						隔年	
	コンピュータビジョン特論	1前		2		○			1						隔年	
小計(6科目)	—	0	12	0	—			2	3	0	0	0	兼1	—		
生産管理工学	計算機統計学特論	1前		2		○									2019年未開講	
	統計工学特論	1前		2		○			1						隔年	
	CAD特論	1前		2		○								兼1	隔年	
	人間工学特論	1前		2		○			1						隔年	
小計(4科目)	—	0	8	0	—			2	0	0	0	0	兼1	—		
計算機基礎学	並列処理特論	1後		2		○									2019年未開講	
	知能システム構成論	1前		2		○			1						隔年	
	理論計算機科学特論	1後		2		○									2019年未開講	
	システムLSI設計特論	1前		2		○				1					隔年	
	組合せ論特論	1後		2		○				1					隔年	
小計(5科目)	—	0	10	0	—			1	2	0	0	0		—		
視覚情報学	コンピュータグラフィックス特論	1後		2		○				1					隔年	
	視覚処理特論	1後		2		○			1						隔年	
	光情報センシング特論	1前		2		○			1						隔年	
	光情報処理特論	1後		2		○				1					隔年	
小計(4科目)	—	0	8	0	—			2	2	0	0	0		—		

教 育 課 程 等 の 概 要															
(工学研究科 情報工学専攻 博士前期課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通	情報工学特別講義	1後		2		○									2019年未開講
	情報工学演習1	1前	2				○		6	8					共同
	情報工学演習2	1後	2				○		6	8					共同
	情報工学演習3	2前	2				○		6	8					共同
	情報工学演習4	2後	2				○		6	8					共同
	特別研究1	1前	2				○		6	3					
	特別研究2	1後	2				○		6	3					
	特別研究3	2前	2				○		6	3					
	特別研究4	2後	2				○		6	3					
	小計(9科目)		—	16	2	0	—	—	—	6	8	0	0	0	兼6
合計(37科目)		—	16	58	0	—	—	—	6	8	0	0	0	兼6	—
学位又は称号		修士(工学)		学位又は学科の分野			工学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
・必修科目…16単位 ・選択科目…14単位以上 ・合計…30単位以上 履修については、研究指導を担当する教員の指示に従うものとする 本学大学院に2年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、当該研究科の目的に応じ、修士の学位論文又は特定の課題についての研究及び制作活動の成果の審査並びに最終試験に合格すること。 ただし、優れた研究業績を上げた者については、在学期間を1年以上とすることができる。							1学年の学期区分		2期						
							1学期の授業期間		15週						
							1時限の授業時間		90分						

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教 育 課 程 等 の 概 要														
(工学研究科 先端理工学専攻 博士後期課程)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	総合電子工学特殊研究	1～3通		12					3					
	物質化学特殊研究	1～3通		12					4	1	1			
	基礎科学特殊研究	1～3通		12					3	2	1			
	数理解析特殊研究	1～3通		12					3					
小計(4科目)		—	0	48	0	—			13	3	2	0	0	
合計(4科目)		—	0	48	0	—			13	3	2	0	0	
学位又は称号		博士(工学)			学位又は学科の分野			工学関係						
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
<p>1科目(12単位)を選択し履修すること。 ただし、研究指導を担当する教員の科目とする。</p> <p>本学大学院に5年(博士前期課程を修了した者)にあっては、当該課程における2年の在学期間を含む。)以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格すること。</p> <p>ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、本学大学院に3年(博士前期課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者)にあっては、当該課程における2年の在学期間を含む。)以上在学すれば足りるものとする。</p> <p>修士の学位若しくは専門職学位を有する者又は、学校教育法施行規則第156条の規定により大学院への入学資格に関し修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者が、本学大学院に入学した場合の修了要件は、博士後期課程に3年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格することとする。</p> <p>ただし、優れた研究業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。</p>								1学年の学期区分			2期			
								1学期の授業期間			15週			
								1時限の授業時間			90分			

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教 育 課 程 等 の 概 要														
(工学研究科 電子通信工学専攻 博士後期課程)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専 門 科 目	光・電子デバイス工学特殊研究	1～3通		12					4					
	光・マイクロ波工学特殊研究	1～3通		12					5	1				
	通信・ネットワーク工学特殊研究	1～3通		12					2	4				
小計(3科目)		—	0	36	0	—			11	5	0	0	0	
合計(3科目)		—	0	36	0	—			11	5	0	0	0	
学位又は称号		博士(工学)			学位又は学科の分野			工学関係						
卒 業 要 件 及 び 履 修 方 法								授 業 期 間 等						
<p>1科目(12単位)を選択し履修すること。 ただし、研究指導を担当する教員の科目とする。</p> <p>本学大学院に5年(博士前期課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。)以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格すること。</p> <p>ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、本学大学院に3年(博士前期課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。)以上在学すれば足りるものとする。</p> <p>修士の学位若しくは専門職学位を有する者又は、学校教育法施行規則第156条の規定により大学院への入学資格に関し修士の学位を有する者と同以上の学力があると認められた者が、本学大学院に入学した場合の修了要件は、博士後期課程に3年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格することとする。</p> <p>ただし、優れた研究業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。</p>								1 学年の学期区分				2期		
								1 学期の授業期間				15週		
								1 時限の授業時間				90分		

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教 育 課 程 等 の 概 要														
(工学研究科 制御機械工学専攻 博士後期課程)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専 門 科 目	計測制御工学特殊研究	1～3通		12					4	2				
	機械・加工工学特殊研究	1～3通		12					5	1				
	エネルギー・環境工学特殊研究	1～3通		12					4	1				
小計(3科目)		—	0	36	0	—			13	4	0	0	0	
合計(3科目)		—	0	36	0	—			13	4	0	0	0	
学位又は称号		博士(工学)		学位又は学科の分野			工学関係							
卒 業 要 件 及 び 履 修 方 法							授 業 期 間 等							
<p>1科目(12単位)を選択し履修すること。 ただし、研究指導を担当する教員の科目とする。</p> <p>本学大学院に5年(博士前期課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。)以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格すること。</p> <p>ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、本学大学院に3年(博士前期課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。)以上在学すれば足りるものとする。</p> <p>修士の学位若しくは専門職学位を有する者又は、学校教育法施行規則第156条の規定により大学院への入学資格に関し修士の学位を有する者と同程度の学力があると認められた者が、本学大学院に入学した場合の修了要件は、博士後期課程に3年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格することとする。</p> <p>ただし、優れた研究業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。</p>							1 学年の学期区分				2期			
							1 学期の授業期間				15週			
							1 時限の授業時間				90分			

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教 育 課 程 等 の 概 要														
(工学研究科 情報工学専攻 博士後期課程)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	情報基礎学特殊研究	1～3通		12					1	1				
	情報処理学特殊研究	1～3通		12					2	3				
	生産管理工学特殊研究	1～3通		12					2					
	計算機基礎学特殊研究	1～3通		12						2				
	視覚情報学特殊研究	1～3通		12					1	2				
小計(3科目)		—	0	36	0	—			6	8	0	0	0	
合計(3科目)		—	0	36	0	—			6	8	0	0	0	
学位又は称号		博士(工学)			学位又は学科の分野			工学関係						
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
<p>1科目(12単位)を選択し履修すること。 ただし、研究指導を担当する教員の科目とする。</p> <p>本学大学院に5年(博士前期課程を修了した者)にあっては、当該課程における2年の在学期間を含む。)以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格すること。</p> <p>ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、本学大学院に3年(博士前期課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者)にあっては、当該課程における2年の在学期間を含む。)以上在学すれば足りるものとする。</p> <p>修士の学位若しくは専門職学位を有する者又は、学校教育法施行規則第156条の規定により大学院への入学資格に関し修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者が、本学大学院に入学した場合の修了要件は、博士後期課程に3年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格することとする。</p> <p>ただし、優れた研究業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。</p>								1学年の学期区分				2期		
								1学期の授業期間				15週		
								1時限の授業時間				90分		

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教育課程等の概要																	
(工学部 電気電子工学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
総合科目	人文・社会・自然群	人間の探求	哲学の世界	1前		2		○								兼1	
		発達心理学	1前		2		○									兼1	
		現代社会と青年の心理	1後		2		○									兼1	
		教育制度論	2前		2		○									兼1	
		人間形成と教育	1後		2		○									兼1	
		現代社会と宗教	2後		2		○									兼1	
		道徳と教育	2後		2		○									兼1	
	文化の理解	歴史学の世界	1前		2		○									兼1	
		日本の近代史を探究する	2後		2		○									兼1	
		文学の世界	1後		2		○									兼1	
		芸術の世界	1前		2		○									兼1	
		国際コミュニケーション	2前		2		○									兼1	
		現代社会を考える1	1前		2		○									兼1	
		現代社会を考える2	1後		2		○									兼1	
		異文化の理解	1後		2		○									兼1	
	社会の認識と人権	日本国憲法の理念と現実	2後		2		○									兼1	
		社会生活と法	2前		2		○									兼1	
		経済学の世界	1前		2		○									兼1	
		家族のくらしと社会	1後		2		○									兼1	
		企業社会と労働	2前		2		○									兼1	
	自然の認識と科学の方法	環境の科学	2前		2		○									兼2	
社会とコンピュータ	生命の科学	2後		2		○									兼1		
	情報活用リテラシー	1前		2		○									兼1		
総合ゼミナール	情報社会と情報倫理	2後		2		○									兼1		
	総合ゼミナール	2前・後		2		○									兼2		
外国語群	英語	基礎英語1	1前		1			○							兼4		
		基礎英語2	1後		1			○							兼2		
		英語リーディング1	1前		1			○							兼2		
		英語リーディング2	1後		1			○							兼2		
		英語リーディング3	2前		1			○							兼2		
		英語リーディング4	2後		1			○							兼2		
		英語リーディング5	3前		1			○							兼2		
		英語リーディング6	3後		1			○							兼2		
		英語スキルアップセミナー1	2前		1			○							兼3		
		英語スキルアップセミナー2	2後		1			○							兼2		
		英語スキルアップセミナー3	3前		1			○							兼1		
		英語スキルアップセミナー4	3後		1			○							兼2		
		英語スキルアップセミナー5	4前		1			○							兼1		
		英語スキルアップセミナー6	4後		1			○							兼2		
		英語コミュニケーション1	2前		1			○							兼3		
		英語コミュニケーション2	2後		1			○							兼2		
		英語コミュニケーション3	3前		1			○							兼2		
		英語コミュニケーション4	3後		1			○							兼3		
		英文法セミナー	1前		1			○								兼1	
		ドイツ語	ドイツ語1	1前		1				○							兼1
			ドイツ語2	1後		1				○							兼2
			ドイツ語特別ゼミナール	2前		1				○							兼1
		フランス語	フランス語1	1前		1				○							兼1
	フランス語2		1後		1				○							兼1	

教 育 課 程 等 の 概 要																
(工学部 電気電子工学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
総合科目	外国語群	中国語	中国語1	1前		1				○						兼1
			中国語2	1前		1				○						兼1
			中国語3	1後		1					○					兼2
			中国語特別ゼミナール	2前		1					○					兼1
	韓国語	韓国語1	1前		1					○					兼1	
		韓国語2	1後		1					○					兼2	
	健康・スポーツ群	健康の科学	健康・スポーツ科学論	2前		2		○								兼1
			スポーツ実習1	1前		1				○					兼3	
			スポーツ実習2	1後		1					○				頭2	
			スポーツ実習3	3前・後		1					○				兼2	
			スポーツ実習4	4前・後		1					○				兼2	
	キャリア形成群	キャリア形成	キャリア入門	1前	2			○			7	1				
			電気電子工学入門	1前	2			○			7	1				
			グローバル研修	2後		2		○								兼1・集中
			地域連携プロジェクト入門	2後		2			○				1			兼2・集中
			地域連携ボランティア入門	2後		2			○							兼4・集中
			キャリア概論	2前		2		○								兼1
			キャリアデザイン演習	2後		2			○							兼2
			キャリア設計	3前		2		○			7	1				オムニバス
	インターンシップ	3後		2				○	7	1				集中		
小計(72科目)			—	4	106	0	—			7	1	0	0	0	兼52	
専門教育科目	基礎専門科目	数学	基礎解析・演習	1前		4				○						兼3
			基礎微積分1・演習	1前・後		4				○						兼4
			基礎微積分2・演習	1後・2前		4					○					兼3
			微分積分1・演習	1前		4				○						兼1
			微分積分2・演習	1後		4				○						兼1
			微分方程式	2後		2		○								兼1
			線形代数1	1前		2		○								兼4
			線形代数2	1後		2		○								兼3
	確率・統計	2前		2		○								兼1		
	物理	物理学1・演習	1前	4					○							兼3
		物理学・実験	1後	3						○						兼5
		物理学2	1後		2		○								兼3	
		現代物理学入門	2前		2		○								兼2	
	情報	コンピュータリテラシー1	1前		2				○							兼2
		コンピュータリテラシー2	1後		2				○						兼1	
		プログラミング基礎演習	1後		2				○		1					
	工学入門	基礎電気回路	1前	2			○			1						
小計(17科目)			—	11	36	0	—			2	0	0	0	0	兼21	
専門科目	実験	工学基礎実験	1前	2					○	1					兼2	
		電気電子工学実験1	2前	2					○	2	1				兼1	
		電気電子工学実験2	2後	2					○	1	1				兼1	
		電気電子工学実験3	3前	2					○	2					兼1	
		電気電子工学実験4	3後	2					○	3						
	電気電子工学基礎	電気数学・演習	1前	2					○	1						
		基礎電磁気学・演習	1前	2					○	1						
		電磁気学1	1前		2		○			1						
		電磁気学2	1後		2		○			1						
	電気電子設計製図	3前		2				○						兼1		

教 育 課 程 等 の 概 要															
(工学部 電気電子工学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	電気・電子回路	電気回路1	1後	2			○			1					
		電気回路2	2後		2			○		1					
		基礎電子回路	2前	2				○			1				
		電気回路演習	2前	2					○	1	1				
		電子回路演習	2後		2				○	1	1				
		デジタル電子回路	3前		2				○	1					
		アナログ電子回路	3後		2				○						
		LSI設計工学	3前		2				○						
	エネルギー電気応用	画像・映像工学	3後		2				○		1				
		電気機器	3前		2				○	1					
		パワーエレクトロニクス応用	3後		2				○	1					
		パワーエレクトロニクス・演習	3後		2				○	1					
		音響工学	3後		2				○						兼1・集中
		電気法規と施設管理	4前		2				○	1					兼3
	情報	送配電工学	3後		2				○	1					兼5
		プログラム演習1	2前	2					○	1					
		プログラム演習2	2後		2				○	1					
		コンピュータ・ハードウェア	2後		2				○	1					
		ハードウェア設計演習	3後		2				○						兼1
		情報工学1	1後	2					○	1					
		情報工学2	2前		2				○	1					
		情報工学3	3前		2				○	1					
	コンピュータ・ソフトウェア・演習	3後		2				○	2					オムニバス	
	計測制御	制御工学・演習	3前	2					○		1				
		ロボット制御	3前		2				○						兼1
		デジタル信号処理	3後		2				○	1					
		計測・センサ工学	2後		2				○						兼1
		電磁波工学	3後		2				○	1					
信号システム理論特論		4後		2				○		1					
電子・光デバイス	固体物理学・演習	2後	2					○	1						
	半導体工学・演習	2前	2					○	1						
	電気電子材料	3後		2				○						兼1	
	半導体デバイス	3前		2				○	1						
	光エレクトロニクス	3前		2				○	1						
	量子物理学	3前		2				○	1						
	半導体デバイス工学	4前		2				○	1						
その他	特別ゼミナール1	2前		2				○	1					集中	
	特別ゼミナール2	2後		2				○	1					集中	
	電気電子連携講座	3後		2				○	1					兼6	
	プレゼミナール	3後	2					○	7	1					
	知的財産権	3前		2				○						兼1・集中	
	電気電子工学創成演習	3後		2				○	1					集中	
	卒業研究	4通	8						7	1					
小計(53科目)		—	40	72	0			—	7	1	0	0	0	兼28	
合計(142科目)		—	55	214	0			—	7	1	0	0	0	兼101	

学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係	
卒業要件及び履修方法			授業期間等	
・人文・社会・自然群：8単位以上 ・外国語群：選択必修科目4単位以上を含み6単位以上 ・健康・スポーツ群：3単位以上 ・キャリア形成群：必修科目4単位を含み6単位以上 人文・社会・自然群、外国語群、健康・スポーツ群、キャリア形成群をあわせて24単位から40単位まで ・基礎専門科目：必修科目11単位、選択科目をあわせて24単位から40単位まで ・専門科目：必修科目40単位、選択必修科目2単位、選択科目をあわせて56単位から80単位まで 卒業要件単位：128単位以上 （履修登録の上限：48単位（年間））			1学年の学期区分	2期
			1学期の授業期間	15週
			1時限の授業時間	90分
(注) 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。				

教育課程等の概要															
(工学部 電子機械工学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合科目 人文・社会・自然群	人間の探求	哲学の世界	1前		2		○								兼1
		発達心理学	1前		2		○								兼1
		現代社会と青年の心理	1後		2		○								兼1
		教育制度論	2前		2		○								兼1
		人間形成と教育	1後		2		○								兼1
		現代社会と宗教	2後		2		○								兼1
		道徳と教育	2後		2		○								兼1
	文化の理解	歴史学の世界	1前		2		○								兼1
		日本の近代史を探究する	2後		2		○								兼1
		文学の世界	1後		2		○								兼1
		芸術の世界	1前		2		○								兼1
		国際コミュニケーション	2前		2		○								兼1
		現代社会を考える1	1前		2		○								兼1
		現代社会を考える2	1後		2		○								兼1
		異文化の理解	1後		2		○								兼1
	社会の認識と人権	日本国憲法の理念と現実	2後		2		○								兼1
		社会生活と法	2前		2		○								兼1
		経済学の世界	1前		2		○								兼1
		家族のくらしと社会	1後		2		○								兼1
		企業社会と労働	2前		2		○								兼1
自然の認識と科学の方法	環境の科学	2前		2		○								兼2	
	生命の科学	2後		2		○								兼1	
社会とコンピュータ	情報活用リテラシー	1前		2		○								兼1	
	情報社会と情報倫理	2後		2		○								兼1	
総合ゼミナール	総合ゼミナール	2前・後		2		○								兼1	
外国語群	英語	基礎英語1	1前		1				○						兼4
		基礎英語2	1後		1				○						兼2
		英語リーディング1	1前		1				○						兼6
		英語リーディング2	1後		1				○						兼6
		英語リーディング3	2前		1				○						兼2
		英語リーディング4	2後		1				○						兼2
		英語リーディング5	3前		1				○						兼2
		英語リーディング6	3後		1				○						兼2
		英語スキルアップセミナー1	2前		1				○						兼3
		英語スキルアップセミナー2	2後		1				○						兼2
		英語スキルアップセミナー3	3前		1				○						兼1
		英語スキルアップセミナー4	3後		1				○						兼2
		英語スキルアップセミナー5	4前		1				○						兼1
		英語スキルアップセミナー6	4後		1				○						兼2
		英語コミュニケーション1	2前		1				○						兼3
		英語コミュニケーション2	2後		1				○						兼4
	英語コミュニケーション3	3前		1				○						兼1	
	英語コミュニケーション4	3後		1				○						兼1	
	英文法セミナー	1前		1				○							兼2
	ドイツ語	ドイツ語1	1前		1				○						兼1
		ドイツ語2	1後		1				○						兼2
		ドイツ語特別ゼミナール	2前		1				○						兼1
	フランス語	フランス語1	1前		1				○						兼1
フランス語2		1後		1				○						兼1	

教 育 課 程 等 の 概 要																
(工学部 電子機械工学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
総合科目	外国語群	中国語	中国語1	1前		1				○						兼1
			中国語2	1前		1				○						兼1
			中国語3	1後		1					○					兼2
			中国語特別ゼミナール	2前		1					○					兼1
	韓国語	韓国語1	1前		1					○					兼1	
		韓国語2	1後		1					○					兼2	
	健康・スポーツ群	健康の科学	健康・スポーツ科学論	2前		2		○								兼1
			スポーツ実習1	1前		1					○					兼3
			スポーツ実習2	1後		1					○					兼3
			スポーツ実習3	3前・後		1					○					兼2
スポーツ実習4			4前・後		1					○					兼2	
キャリア形成群	キャリア形成	キャリア入門	1前		2		○				6	1	1		オムニバス	
		メカトロニクス基礎演習	1前		2			○			2				オムニバス	
		グローバル研修	2後		2			○							兼1・集中	
		地域連携プロジェクト入門	2後		2				○						兼3・集中	
		地域連携ボランティア入門	2後		2				○						兼4・集中	
		キャリア概論	2前		2			○							兼1	
		キャリアデザイン演習	2後		2				○						兼2	
		キャリア設計	3前		2				○		1					
		インターンシップ	3後		2					○	2					集中
小計(72科目)			—	0	110	0	—			6	1	1	0	0	兼57	
専門教育科目	基礎専門科目	数学	基礎解析・演習	1前		4				○						兼3
			基礎微積分1・演習	1前・後		4				○						兼3
			基礎微積分2・演習	1後・2前		4					○					兼2
			微積分1・演習	1前		4				○						兼1
			微積分2・演習	1後		4				○						兼1
			微分方程式	2後		2			○							兼1
			線形代数1	1前		2				○						兼5
			線形代数2	1後		2				○						兼4
	確率・統計	2前		2				○						兼1		
	物理/化学	力学1・演習	1前		4					○		1				兼4
		力学2	2前		2				○							
		基礎物理学	1後		2				○						兼4	
		物理学・実験	1前	3						○					兼5	
		化学1	2前		2				○						兼1	
	情報	コンピュータリテラシー1	1前		2					○						兼2
		コンピュータリテラシー2	1後		2					○					兼2	
		プログラミング基礎演習	1後		2					○		1			兼1	
	工学入門	基礎電気回路	1前	3					○		1					
	小計(19科目)			—	6	46	0	—			3	0	0	0	0	兼27
専門科目	数理基礎	電磁気学1	2前		2				○		1					
		電磁気学2	2後		2				○		1					
	機械基礎力学	機械運動学	2前		2				○		1					
		力学3	2後		2				○		1					
		材料力学1	2前		2				○		1					
		材料力学2	2後		2				○		1					
		熱工学	4前		2				○		1					
		流体力学	4前		2				○						兼1	
機械モデル論	3前		2				○			1						

教 育 課 程 等 の 概 要															
(工学部 電子機械工学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	生産・加工	工作法1	2前	2		○			1						兼1
		工作法2	2後	2		○			1						
		材料工学	3前	2		○									
		図学及び製図	1後	1				○	1						
		工学基礎製図	2前	1				○	1						
		CAD基礎	2後	2				○	1						
		設計製図1	3前	2				○	1						
		設計製図2	3後	2				○	1						
	電気・電子	電気回路1	1後		2		○			1					兼2
		電気回路2	2前		2		○			1					
		電子回路1	2後		2		○					1			
		電子回路2	3前		2		○					1			
		電気回路演習	1後		2			○				1			
		電子回路演習	3後		2			○				1			
		デジタル回路	4前		2					1					
		電気実験	2後	2					○	2		1			
	情報・制御	コンピュータ演習1	2前		2				○	1					兼1・オムニバス
		コンピュータ演習2	2前		2				○	1					兼1・オムニバス
		コンピュータ工学1	2後		2					1					兼1・オムニバス
		コンピュータ工学2	3前		2							1			兼1
		センシング論1	2後		2							1			
		センシング論2	3前		2								1		
		制御基礎論	3前		2							1			
		システム制御工学	3後		2							1			
	その他	基礎工学	1前		2					2			1		オムニバス
		工学英語	3前		2					1					兼1・集中
		知的財産権入門	3前		2										
		メカトロニクス1	2後		2					1					
		メカトロニクス2	3前		2										兼1
		ロボット工学	3後		2					1					
		電子機械実験1	3前	2						1		1			
		電子機械実験2	3後	2						1	1				兼1
		特別ゼミナール1	2前		2				○	1					集中
		特別ゼミナール2	2後		2				○	1					集中
		プレゼミナール	3後	2					○	6	1	1			集中
	卒業研究	4通	2					○	6	1	1				
小計（45科目）		—	14	74	0	—	—	—	6	1	1	0	0	兼9	
合計（136科目）		—	20	230	0	—	—	—	6	1	1	0	0	兼92	
学位又は称号			学士（工学）			学位又は学科の分野			工学関係						
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
・人文・社会・自然群：8単位以上 ・外国語群：選択必修科目4単位以上を含み6単位以上 ・健康・スポーツ群：3単位以上 ・キャリア形成群：6単位以上 人文・社会・自然群、外国語群、健康・スポーツ群、キャリア形成群をあわせて24単位から40単位まで ・基礎専門科目：必修科目5単位、選択科目をあわせて24単位から40単位まで ・専門科目：必修科目20単位、選択科目をあわせて56単位から80単位まで 卒業要件単位：128単位以上 （履修登録の上限：48単位（年間））								1学年の学期区分				2期			
								1学期の授業期間				15週			
								1時限の授業時間				90分			

(注)

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

教 育 課 程 等 の 概 要															
(工学部 機械工学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合科目 人文・社会・自然群	人間の探求	哲学の世界	1前		2		○								兼1
		発達心理学	1前		2		○								兼1
		現代社会と青年の心理	1後		2		○								兼1
		教育制度論	2前		2		○								兼1
		人間形成と教育	1後		2		○								兼1
		現代社会と宗教	2後		2		○								兼1
		道徳と教育	2後		2		○								兼1
	文化の理解	歴史学の世界	1前		2		○								兼1
		日本の近代史を探究する	2後		2		○								兼1
		文学の世界	1後		2		○								兼1
		芸術の世界	1前		2		○								兼1
		国際コミュニケーション	2前		2		○								兼1
		現代社会を考える1	1前		2		○								兼1
		現代社会を考える2	1後		2		○								兼1
	異文化の理解	1後		2		○								兼1	
社会の認識と人権	日本語上達法1	1前		2		○								兼1	
	日本語上達法2	2前・後		2		○								兼2	
	日本国憲法の理念と現実	2後		2		○								兼3	
	社会生活と法	2前		2		○								兼1	
	経済学の世界	1前		2		○								兼1	
自然の認識と科学の方法	家族のくらしと社会	1後		2		○								兼1	
	企業社会と労働	2前		2		○								兼1	
	政治のしくみを探究する	1後		2		○								兼1	
社会とコンピュータ	環境の科学	2前		2		○								兼2	
	生命の科学	2後		2		○								兼1	
総合ゼミナール	情報活用リテラシー	1前		2		○								兼1	
	情報社会と情報倫理	2後		2		○								兼1	
外国語群	英語	総合ゼミナール	2前・後		2		○							兼2	
		基礎英語1	1前		1				○						兼4
		基礎英語2	1後		1				○						兼4
		英語リーディング1	1前		1				○						兼6
		英語リーディング2	1後		1				○						兼6
		英語リーディング3	2前		1				○						兼5
		英語リーディング4	2後		1				○						兼4
		英語リーディング5	3前		1				○						兼2
		英語リーディング6	3後		1				○						兼2
		英語スキルアップセミナー1	2前		1				○						兼3
		英語スキルアップセミナー2	2後		1				○						兼2
		英語スキルアップセミナー3	3前		1				○						兼1
		英語スキルアップセミナー4	3後		1				○						兼2
		英語スキルアップセミナー5	4前		1				○						兼1
		英語スキルアップセミナー6	4後		1				○						兼2
		英語コミュニケーション1	2前		1				○						兼3
		英語コミュニケーション2	2後		1				○						兼3
		英語コミュニケーション3	3前		1				○						兼1
		英語コミュニケーション4	3後		1				○						兼1
	英文法セミナー	1前		1				○						兼2	
ドイツ語	ドイツ語1	1前		1				○						兼1	
	ドイツ語2	1後		1				○						兼2	
	ドイツ語特別ゼミナール	2前		1				○						兼1	
フランス語	フランス語1	1前		1				○						兼1	
	フランス語2	1後		1				○						兼1	

教育課程等の概要																
(工学部 機械工学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
総合科目	外国語群	中国語	中国語1	1前		1				○						兼1
			中国語2	1前		1				○						兼1
			中国語3	1後		1					○					兼2
			中国語特別ゼミナール	2前		1					○					兼1
	韓国語	韓国語1	1前		1					○					兼1	
		韓国語2	1後		1					○					兼2	
	健康・スポーツ群	健康の科学	健康・スポーツ科学論	2前		2			○							兼1
			スポーツ実習1	1前		1					○				兼3	
			スポーツ実習2	1後		1					○				兼3	
			スポーツ実習3	3前・後		1					○				兼2	
スポーツ実習4			4前・後		1					○				兼2		
キャリア形成群	キャリア形成	キャリア入門	1前		2			○							兼1	
		機械工学入門	1前		2			○			1	1				
		グローバル研修	2後		2			○							兼1・集中	
		地域連携プロジェクト入門	2後		2				○						兼3・集中	
		地域連携ボランティア入門	2後		2				○						兼4・集中	
		キャリア概論	2前		2			○							兼1	
		キャリアデザイン演習	2後		2				○						兼2	
		キャリア設計	3前		2			○							兼1	
インターンシップ	3後		2					○		1			集中			
小計(72科目)			—	0	110	0	—			2	2	0	0	0	兼56	
専門教育科目	基礎専門科目	数学	基礎解析・演習	1前		4				○		3	1			兼1・オムニバス
			基礎微積分1・演習	1前・後		4				○		2	1			兼1・オムニバス
			基礎微積分2・演習	1後・2前		4					○					兼1
			微分積分1・演習	1前		4				○						兼3
			微分積分2・演習	1後		4				○						兼3
			線形代数1	1前		2			○							兼4
			線形代数2	1後		2			○							兼3
			確率・統計	2前		2			○							兼1
	物理/化学	力学1・演習	1前		4				○			1				兼4
		力学2	1後		2			○			1					
		基礎物理学	1後		2			○							兼4	
		物理学・実験	1前	3						○					兼5	
	情報	化学1	2前		2			○							兼1	
		化学2	2後		2			○							兼1	
コンピュータリテラシー1		1前		2				○						兼2		
工学入門	コンピュータリテラシー2	1後		2				○						兼2		
	プログラミング基礎演習	1後		2				○						兼1		
工学入門			基礎電気回路	1前		2			○		1					
小計(18科目)			—	3	46	0	—			5	2	0	0	0	兼24	
専門科目	力学・運動学	工業力学及び演習1	1後		2				○		1					
		工業力学及び演習2	2前		2				○		1					
		機械運動学	2前		2			○			1					
		機械力学1	2後	2			○			1						
		機械力学演習	2後		2				○		1					
		機械力学2	3前		2			○			1					
	材料力学	材料力学1	2前		2			○			1					
		材料力学演習	2前		2				○		1					
			材料力学2	2後		2			○		1					

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
・人文・社会・自然群：8単位以上 ・外国語群：選択必修科目4単位以上を含み6単位以上 ・健康・スポーツ群：3単位以上 ・キャリア形成群：6単位以上 人文・社会・自然群、外国語群、健康・スポーツ群、キャリア形成群をあわせて24単位から40単位まで	1学年の学期区分	2期
・基礎専門科目：必修科目3単位、選択科目をあわせて24単位から40単位まで ・専門科目：必修科目31単位、選択必修科目25単位以上、選択科目をあわせて56単位から80単位まで	1学期の授業期間	15週
卒業要件単位：128単位以上 （履修登録の上限：48単位（年間））	1時限の授業時間	90分

(注)

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

教 育 課 程 等 の 概 要															
(工学部 基礎理工学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合科目 人文・社会・自然群	人間の探求	哲学の世界	1前		2		○								兼1
		発達心理学	1前		2		○								兼1
		現代社会と青年の心理	1後		2		○								兼1
		教育制度論	2前		2		○								兼1
		人間形成と教育	1後		2		○								兼1
		現代社会と宗教	2後		2		○								兼1
		道徳と教育	2後		2		○								兼1
	文化の理解	歴史学の世界	1前		2		○								兼1
		日本の近代史を探究する	2後		2		○								兼1
		文学の世界	1後		2		○								兼1
		芸術の世界	1前		2		○								兼1
		国際コミュニケーション	2前		2		○								兼1
		現代社会を考える1	1前		2		○								兼1
		現代社会を考える2	1後		2		○								兼1
		異文化の理解	1後		2		○								兼1
	社会の認識 と人権	日本国憲法の理念と現実	2後		2		○								兼1
		社会生活と法	2前		2		○								兼1
		経済学の世界	1前		2		○								兼1
		家族のくらしと社会	1後		2		○								兼1
		企業社会と労働	2前		2		○								兼1
政治のしくみを探究する	1後		2		○								兼1		
自然の認識 と科学の方法	環境の科学	2前		2		○				1	1			兼1	
	生命の科学	2後		2		○								兼1	
社会と コンピュータ	情報活用リテラシー	1前		2		○								兼1	
	情報社会と情報倫理	2後		2		○								兼1	
総合ゼミナール	総合ゼミナール	2前・後		2		○								兼2	
外国語群	英語	基礎英語1	1前		1				○						兼4
		基礎英語2	1後		1				○						兼2
		英語リーディング1	1前		1				○						兼3
		英語リーディング2	1後		1				○						兼3
		英語リーディング3	2前		1				○						兼3
		英語リーディング4	2後		1				○						兼2
		英語リーディング5	3前		1				○						兼2
		英語リーディング6	3後		1				○						兼2
		英語スキルアップセミナー1	2前		1				○						兼3
		英語スキルアップセミナー2	2後		1				○						兼2
		英語スキルアップセミナー3	3前		1				○						兼1
		英語スキルアップセミナー4	3後		1				○						兼2
		英語スキルアップセミナー5	4前		1				○						兼1
		英語スキルアップセミナー6	4後		1				○						兼2
		英語コミュニケーション1	2前		1				○						兼2
		英語コミュニケーション2	2後		1				○						兼3
		英語コミュニケーション3	3前		1				○						兼1
	英語コミュニケーション4	3後		1				○						兼1	
	英文法セミナー	1前		1				○						兼1	
	ドイツ語	ドイツ語1	1前		1				○						兼1
		ドイツ語2	1後		1				○						兼2
		ドイツ語特別ゼミナール	2前		1				○						兼1
	フランス語	フランス語1	1前		1				○						兼1
フランス語2		1後		1				○						兼1	

教 育 課 程 等 の 概 要																
(工学部 基礎理工学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
総合科目	外国語群	中国語	中国語1	1前		1				○						兼1
			中国語2	1前		1				○						兼1
			中国語3	1後		1					○					兼2
			中国語特別ゼミナール	2前		1					○					兼1
	韓国語	韓国語1	1前		1					○					兼1	
		韓国語2	1後		1					○					兼2	
	健康・スポーツ群	健康の科学	健康・スポーツ科学論	2前		2		○								兼1
			スポーツ実習1	1前		1				○					兼2	
			スポーツ実習2	1後		1					○				兼2	
			スポーツ実習3	3前・後		1					○				兼2	
	キャリア形成群	キャリア形成	キャリア入門	1前		2		○				1				
			基礎理工学入門	1前		2		○			5	1	1			
			グローバル研修	2後		2		○								兼1・集中
			地域連携プロジェクト入門	2後		2			○							兼3・集中
			地域連携ボランティア入門	2後		2			○							兼3・集中
			キャリア概論	2前		2		○								兼1
			キャリアデザイン演習	2後		2			○							兼1
			キャリア設計	3前		2		○			1					
	インターンシップ	3後		2				○	1					集中		
小計(72科目)			—	0	110	0	—	—	—	5	1	1	0	0	兼54	
専門教育科目	基礎専門科目	数学	基礎解析・演習	1前		4			○			1				兼2
			基礎微積分1・演習	1前・後		4				○						兼4
			基礎微積分2・演習	1後・2前		4					○					兼3
			微分積分1・演習	1前		4				○						兼1
			微分積分2・演習	1後		4				○						兼1
			線形代数1	1前		2		○			1					兼1
			線形代数2	1後		2		○			1					兼1
	理科基礎	物理学1・演習	1前		4				○							兼4
		物理学・実験	1後	3						○		1				兼3
		物理学2	1後		2			○			1	1			兼1	
		現代物理学入門	2前		2			○							兼2	
		化学1	1前		2			○			1					
		化学2	1後		2			○			1					
		生物学	3前		2			○							兼1	
		地球科学	2前		2			○				1				
	熱学	3後		2			○							兼1		
	情報	コンピュータリテラシー1	1前		2				○							兼1
		コンピュータリテラシー2	1後		2				○						兼1	
		プログラミング基礎演習	2前		2				○		1					
小計(19科目)			—	3	48	0	—	—	—	3	2	0	0	0	兼20	
専門科目	数学系	複素数の数学	2前		2		○								兼1	
		常微分方程式	2前		2		○								兼1	
		離散数学	2後		2		○				1					
		ベクトル解析	3前		2		○								兼1	
		確率・統計1	2後		2		○					1				
		応用代数学	3前		2		○								兼1	
		応用幾何学	2後		2		○				1					
		フーリエ解析	3前		2		○								兼1	
		確率・統計2	3前		2		○					1				
		数理解析	3後		2		○								兼1	

教 育 課 程 等 の 概 要															
(工学部 基礎理工学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	数学系	現象数理学特論	4前		2		○			1					2019年度未開講 兼1 兼1
		複素解析特論	4前		2		○								
		微分方程式特論1	4後		1		○								
		微分方程式特論2	4後		1		○								
	物理系	電気回路・演習	2前		2			○		1					2019年度未開講 2019年度未開講 2019年度未開講 2019年度未開講
		電気磁気基礎	1後		2		○			1	1				
		電磁気学	2後		2		○				1				
		量子物理・化学	2後		2		○			1					
		光計測工学	3前		2		○			1					
		一般力学	2後		2		○			1					
		電磁物理学	3後		2		○					1			
		物性科学	3後		2		○			1					
		量子力学	3前		2		○					1			
		地球物理学特論	4前		2		○				1				
		量子物理学特論	4前		2		○								
		現代物理学特論	4後		2		○					1			
	化学系	無機化学	1後		2		○								兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1
		無機材料化学	2前		2		○								
		有機化学	2後		2		○			1					
		物理化学1	2前		2		○								
		物理化学2	2後		2		○			1					
		高分子化学	3前		2		○								
		機器分析	4前		2		○								
		電気化学	3後		2		○								
	実験・演習	サイエンス実験	2前	2					○	1	1	1			兼1 兼1 兼1
		化学実験	2後	2					○	2					
		応用サイエンス実験	3前		2				○	2					
		工学基礎実験	1前	2					○	1					
		応用数学演習	3前		2				○	1					
	情報・計測・シミュレーション	コンピュータ・シミュレーション	2後		2		○			1					兼1
		シミュレーション化学	3前		2		○								
		計測・データ処理	3後		2		○					1			
	融合・その他	基礎理工学ゼミナール1	2前		2				○	1					兼1 兼1 集中 集中 オムニバス 兼1・オムニバス
		基礎理工学ゼミナール2	2後		2				○	3	1				
基礎理工学ゼミナール3		3前		2				○	1	1					
基礎理工学ゼミナール4		3後		2				○		1	1				
基礎理工学ゼミナール5		4前		2				○	1						
特別ゼミナール1		2前		2				○	1						
特別ゼミナール2		2後		2				○	1						
基礎理工学特別講義1		3前		2		○			3	1	1				
基礎理工学特別講義2		3後		2		○			1	1					
プレゼミナール		3後	2					○	5	2	1				
卒業研究		4通	8						5	2	1				
小計(55科目)		—	16	96	0	—			5	2	1	0	0	兼16	
合計(146科目)		—	19	254	0	—			5	2	1	0	0	兼84	
学位又は称号		学士(工学)			学位又は学科の分野			工学関係							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 人文・社会・自然群：8単位以上 ・ 外国語群：選択必修科目4単位以上を含み6単位以上 ・ 健康・スポーツ群：3単位以上 ・ キャリア形成群：6単位以上 人文・社会・自然群、外国語群、健康・スポーツ群、キャリア形成群をあわせて24単位から40単位まで <ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎専門科目：必修科目3単位、選択科目をあわせて24単位から40単位まで ・ 専門科目：必修科目16単位、選択必修科目18単位以上、選択科目をあわせて56単位から80単位まで 卒業要件単位：128単位以上 （履修登録の上限：48単位（年間））	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分
(注) 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。 2 私立の大学若しくは高等専門学校の取容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。		

教育課程等の概要															
(工学部 環境科学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合科目 人文・社会・自然群	人間の探求	哲学の世界	1前		2		○								兼1
		発達心理学	1前		2		○								兼1
		現代社会と青年の心理	1後		2		○								兼1
		教育制度論	2前		2		○								兼1
		人間形成と教育	1後		2		○								兼1
		現代社会と宗教	2後		2		○								兼1
		道徳と教育	2後		2		○								兼1
	文化の理解	歴史学の世界	1前		2		○								兼1
		日本の近代史を探究する	2後		2		○								兼1
		文学の世界	1後		2		○								兼1
		芸術の世界	1前		2		○								兼1
		国際コミュニケーション	2前		2		○								兼1
		現代社会を考える1	1前		2		○								兼1
		現代社会を考える2	1後		2		○								兼1
		異文化の理解	1後		2		○								兼1
	社会の認識と人権	日本国憲法の理念と現実	2後		2		○								兼1
		社会生活と法	2前		2		○								兼1
		経済学の世界	1前		2		○								兼1
家族のくらしと社会		1後		2		○								兼1	
企業社会と労働		2前		2		○								兼1	
自然の認識と科学の方法	環境の科学	2前		2		○								兼1	
	生命の科学	2後		2		○								兼1・集中	
社会とコンピュータ	情報活用リテラシー	1前		2		○								兼1	
	情報社会と情報倫理	2後		2		○								兼1	
総合ゼミナール	総合ゼミナール	2前・後		2		○								兼2	
外国語群	英語	基礎英語1	1前		1				○						兼4
		基礎英語2	1後		1				○						兼2
		英語リーディング1	1前		1				○						兼3
		英語リーディング2	1後		1				○						兼3
		英語リーディング3	2前		1				○						兼3
		英語リーディング4	2後		1				○						兼2
		英語リーディング5	3前		1				○						兼2
		英語リーディング6	3後		1				○						兼2
		英語スキルアップセミナー1	2前		1				○						兼3
		英語スキルアップセミナー2	2後		1				○						兼2
		英語スキルアップセミナー3	3前		1				○						兼1
		英語スキルアップセミナー4	3後		1				○						兼2
		英語スキルアップセミナー5	4前		1				○						兼1
		英語スキルアップセミナー6	4後		1				○						兼2
		英語コミュニケーション1	2前		1				○						兼1
		英語コミュニケーション2	2後		1				○						兼2
	英語コミュニケーション3	3前		1				○						兼2	
	英語コミュニケーション4	3後		1				○						兼1	
	英文法セミナー	1前		1				○							兼1
	ドイツ語	ドイツ語1	1前		1				○						兼2
		ドイツ語2	1後		1				○						兼2
		ドイツ語特別ゼミナール	2前		1				○						兼1
	フランス語	フランス語1	1前		1				○						兼1
フランス語2		1後		1				○						兼1	

教 育 課 程 等 の 概 要															
(工学部 環境科学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合科目	外国語群	中国語	中国語1	1	1				○						兼1
			中国語2	1	1				○						兼1
			中国語3	1	1				○						兼2
			中国語特別ゼミナール	2	1				○						兼1
	韓国語	韓国語1	1	1				○						兼1	
		韓国語2	1	1				○						兼2	
	健康・スポーツ群	健康の科学	健康・スポーツ科学論	2	2		○								兼1
			スポーツ実習1	1	1				○						兼3
			スポーツ実習2	1	1				○						兼2
			スポーツ実習3	3	1				○						兼2
スポーツ実習4			4	1				○						兼2	
キャリア形成群	キャリア形成	キャリア入門	1	2		○			7	1	1			兼1	
		環境科学入門	1	2		○			7	1	1			オムニバス	
		グローバル研修	2	2		○								兼1・集中	
		地域連携プロジェクト入門	2	2			○		1					兼2・集中	
		地域連携ボランティア入門	2	2			○		1					兼3・集中	
		キャリア概論	2	2		○								兼1	
		キャリアデザイン演習	2	2			○							兼1	
		キャリア設計	3	2		○			3	1	1			オムニバス	
インターンシップ	3	2				○	7	1	1			兼1・集中			
小計(72科目)			—	0	110	0			7	1	1	0	0	兼53	
専門教育科目	特別基礎科目	地球環境の物理	1	2		○			1						
		地球環境の化学	1	2		○			1						
		環境社会学	1	2		○			1						
	小計(3科目)			—	6	0	0		3	0	0	0	0	兼0	
基礎専門科目	理科	物理学1・演習	1	4			○							兼4	
		物理学2	1	2		○								兼3	
		物理学・実験	1	3				○						兼5	
		化学1	1	2		○				1					
		化学2	1	2		○				1					
		生活化学実験	1	2				○		1	1				
		生物1	1	2		○								兼1	
		地球環境の生物	1	2		○				1					
		地球科学	2	2		○								兼1	
	環境基礎	有機化学1	1	2		○				1					
		有機化学2	2	2		○				1					
		無機化学	1	2		○								兼1	
		無機材料化学	2	2		○								兼1	
		生物2	1	2		○								兼1	
		物理化学1	2	2		○			1						
		高分子化学	2	2		○			1						
		熱力学1	2	2		○			1						
		熱力学演習	2	2			○		1						
		工業力学1	1	2		○			1						
工学基礎製図	1	1				○				1					
CAD基礎	2	2				○						兼1			
基礎電気回路	2	2		○			1								
環境科学実験	2	2				○	3								

教育課程等の概要																	
(工学部 環境科学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門教育科目 基礎専門科目	数学	基礎解析・演習	1前		4			○							兼3		
		基礎微積分1・演習	1前・後		4			○							兼4		
		基礎微積分2・演習	1後		4			○							兼2		
		微分積分1・演習	1前・後		4			○							兼1		
		微分積分2・演習	1後		4			○							兼1		
		線形代数1	3前		2			○							兼1		
		環境の数学	1前		2			○		1							
	情報	コンピュータリテラシー1	1前		2			○							兼2		
		コンピュータリテラシー2	1後		2			○							兼2		
		プログラミング基礎演習	1後		2			○		1							
プログラミング演習		2前		2			○		1					兼1			
小計(34科目)		—	7	73	0	—	—	—	6	1	1	0	0	兼26			
専門科目	環境科学 共通	電気電子工学1	3前		2		○			1					2019年度未開講 兼1・集中		
		電気電子工学2	3後		2		○			1							
		電気実験	2後		2				○								
		化学実験	2後		2				○			1					
		大気と水の環境学	2後		2			○									
		気象観測	3前		2			○									
		リサイクル論	3前		2			○									
		環境倫理	4前		2			○									
	エコ化学	有機化学3	2後		2			○									兼1
		物理化学2	2後		2			○			1						
		機器分析	3前		2			○				1					
		電気化学	2後		2			○									
		環境と電池	3前		2			○									
		エコマテリアル	3後		2			○									
		ナノ化学	3後		2			○									
		エコ化学実験1	3前		2												
	エコ化学実験2	3後		2								1					
	バイオ化学	生化学	2後		2			○								兼1	
		バイオ材料	3前		2			○									
		高分子材料	2後		2			○									
		化学生物学	3前		2			○									
		食品化学	3後		2			○									
		数理生物学	4前		2			○									
		環境・化学コンピュータ演習	2後		2				○								
		環境・化学シミュレーション	3前		2			○									
		バイオ化学実験1	3前		2									1			
	バイオ化学実験2	3後		2													
	エネルギー機械	機械CAD	2後		2			○								オムニバス	
		流体力学1	2後		2			○									
		流体力学2	3前		2			○									
熱力学2		2後		2			○										
伝熱工学		3前		2			○					1					
材料力学		3前		2			○										
機械力学		2後		2			○										
設計工学		4前		2			○										
空気調和・冷凍工学		3後		2			○										
エネルギー変換工学		3後		2			○										
エネルギー機械実験1		3前		2													
エネルギー機械実験2		3後		2													
エネルギー機械演習		3後		2				○									

教 育 課 程 等 の 概 要															
(工学部 環境科学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門 教育 科目	その他	特別ゼミナール1	2前	2				○		1					集中 集中
		特別ゼミナール2	2後	2				○		1					
		プレゼミナール	3後	2				○		7	1	1			
		卒業研究	4通	8					○	7	1	1			
		小計(44科目)	—	10	84	0	—	—	—	7	1	1	0	0	
合計(153科目)			—	23	267	0	—	—	71	1	1	0	0	兼81	
学位又は称号		学士(工学)			学位又は学科の分野			工学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
・人文・社会・自然群：8単位以上 ・外国語群：6単位以上 ・健康・スポーツ群：3単位以上 ・キャリア形成群：6単位以上 人文・社会・自然群、外国語群、健康・スポーツ群、キャリア形成群をあわせて24単位から40単位まで ・特別基礎科目：必修科目6単位 ・基礎専門科目：必修科目7単位、選択科目をあわせて30単位から62単位まで ・専門科目：コース別必修科目16～20単位、選択科目をあわせて56単位から80単位まで 卒業要件単位：128単位以上 (履修登録の上限：48単位(年間))								1学年の学期区分			2期				
								1学期の授業期間			15週				
								1時限の授業時間			90分				
(注)															
1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。															
2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。															
3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。															
4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。															

教 育 課 程 等 の 概 要															
(情報通信工学部 情報工学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合科目 人文・社会・自然群	人間の探求	哲学の世界	1前		2		○								兼1
		発達心理学	1前		2		○								兼1
		現代社会と青年の心理	1後		2		○								兼1
		教育制度論	2前		2		○								兼1
		人間形成と教育	1後		2		○								兼1
		現代社会と宗教	2後		2		○								兼1
		道徳と教育	2後		2		○								兼1
	文化の理解	歴史学の世界	1前		2		○								兼1
		日本の近代史を探究する	2後		2		○								兼1
		文学の世界	2後		2		○								兼1
		芸術の世界	1前		2		○								兼1
		国際コミュニケーション	2前		2		○								兼1
		現代社会を考える1	1前		2		○								兼1
		現代社会を考える2	1後		2		○								兼1
		異文化の理解	1後		2		○								兼1
	社会の認識と人権	日本国憲法の理念と現実	2後		2		○								兼1
		社会生活と法	2前		2		○								兼1
		経済学の世界	1前		2		○								兼1
		家族のくらしと社会	1後		2		○								兼1
		企業社会と労働	2前		2		○								兼1
	自然の認識と科学の方法	環境の科学	2前		2		○								兼1
		生命の科学	2後		2		○								兼1・集中
	社会とコンピュータ	コンピュータと情報活用術	1前		2		○			1					
		コンピュータで文化を測る	1後		2		○			1					
情報活用リテラシー		1前		2		○								兼1	
総合ゼミナール	情報社会と情報倫理	2後		2		○								兼1	
	総合ゼミナール	2前・後		2		○								兼2	
外国語群	英語	基礎英語1	1前		1				○						兼4
		基礎英語2	1後		1				○						兼3
		英語リーディング1	1前		1				○						兼4
		英語リーディング2	1後		1				○						兼4
		英語リーディング3	2前		1				○						兼2
		英語リーディング4	2後		1				○						兼2
		英語リーディング5	3前		1				○						兼2
		英語リーディング6	3後		1				○						兼2
		英語スキルアップセミナー1	2前		1				○						兼3
		英語スキルアップセミナー2	2後		1				○						兼2
		英語スキルアップセミナー3	3前		1				○						兼1
		英語スキルアップセミナー4	3後		1				○						兼1
		英語スキルアップセミナー5	4前		1				○						兼1
		英語スキルアップセミナー6	4後		1				○						兼2
	英語コミュニケーション1	2前		1				○						兼3	
	英語コミュニケーション2	2後		1				○						兼1	
	英語コミュニケーション3	3前		1				○						兼1	
	英語コミュニケーション4	3後		1				○						兼1	
	英文法セミナー	1前		1				○							兼1
	ドイツ語	ドイツ語1	1前		1				○						兼2
ドイツ語2		1後		1				○						兼2	
ドイツ語特別ゼミナール		2前		1				○						兼1	
フランス語	フランス語1	1前		1				○						兼1	

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(情報通信工学部 情報工学科)																		
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手					
総合科目	外国語群	フランス語	フランス語2	1後		1				○						兼1		
		中国語	中国語1	1前		1					○						兼1	
	中国語2		1前		1					○						兼1		
	中国語3		1後		1					○						兼2		
	中国語特別ゼミナール		2前		1					○						兼1		
	韓国語	韓国語1	1前		1					○						兼1		
		韓国語2	1後		1					○						兼2		
	健康・スポーツ群	健康の科学	健康・スポーツ科学論	2前		2		○									兼1	
			スポーツ実習1	1前		1					○						兼4	
			スポーツ実習2	1後		1					○						兼2	
			スポーツ実習3	3前・後		1					○						兼2	
			スポーツ実習4	4前・後		1					○						兼2	
	キャリア形成群	キャリア形成	情報キャリア入門(注2)	1前		2		○				3	4				オムニバス	
			情報工学入門(注2)	1前		2		○				1	1					
			グローバル研修	2後		2		○										兼1・集中
			地域連携プロジェクト入門	2後		2			○									兼3・集中
			地域連携ボランティア入門	2後		2			○									兼4・集中
			キャリア概論	2前		2		○				1						兼1
			キャリアデザイン演習	2後		2			○									兼1
			キャリア設計	3前		2		○				1	3					オムニバス
	インターンシップ	3後		2					○									
小計（74科目）			—	0	114	0	—			5	6	0	0	0	兼55			
専門教育科目	基礎専門科目	数学	基礎解析・演習	1前		4				○						兼3		
			基礎微積分1・演習	1前・後		4				○							兼4	
			基礎微積分2・演習	1後		4					○						兼2	
			微分積分1・演習	1前		4					○						兼1	
			微分積分2・演習	1後		4					○						兼1	
			線形代数1	1前		2		○									兼4	
			線形代数2	1後		2		○									兼3	
			確率・統計1	1後		2		○										
			確率・統計2	2前		2		○				1						
			応用数学1	2前		2		○				1						
			応用数学2	2後		2		○					1					
			理科	基礎力学	1前		2		○									兼1
	基礎物理学	1後			2		○									兼1		
	化学1	1前			2		○									兼1		
	化学2	1後			2		○									兼1		
	生物1	1前			2		○									兼1		
	生物2	1後			2		○									兼1		
	情報	情報工学概論	1後		2		○									オムニバス		
		コンピュータ工学1	1前	2			○				1	1				オムニバス		
		コンピュータ工学2	1後	2			○				1	1				オムニバス		
		Cプログラミング入門1	1前		2		○				1							
Cプログラミング入門2		1後		2		○					1							
Cプログラミング入門演習1		1前	2				○				2				オムニバス			
Cプログラミング入門演習2		1後	2				○			1	1				オムニバス			
コンピュータ基礎演習1		1前		2			○				1				兼1・オムニバス			
コンピュータ基礎演習2		1後		2			○				1				兼1・オムニバス			
情報科学英語	2前		2		○				1									

教育課程等の概要																
(情報通信工学部 情報工学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目 基礎専門科目	電気・電子	基礎電子回路1	2前		2		○								兼1	
		基礎電子回路2	2後		2		○			1						
		基礎電気回路1	1前		2		○			1						
		基礎電気回路2	1後		2		○			1						
		電子基礎実験1	2前・後	2					○		2					兼3
		電子基礎実験2	2前・後	2					○		2					兼1
	小計(33科目)		—	12	64	0			—	6	6	0	0	0	兼21	
専門教育科目 基盤専門科目	情報工学基礎	情報数学1	2前		2		○				1					
		情報数学2	2後		2		○				1					
		情報理論1	2前		2		○				1					
		情報理論2	2後		2		○				1					
		論理回路1	2前		2		○				1					
		論理回路2	2後		2		○				1					
		数値計算論	2後		2		○				1					
		情報工学基礎	Cプログラミング	2前		2		○			1					
		Cプログラミング演習	2前		2			○		1	2					
		コンピュータ応用演習	2後		2			○		1	4					
	情報システム	プログラミング言語学	オペレーティングシステム	2後		2		○				1				
			コンピュータアーキテクチャ1	2前		2		○				1				
			コンピュータハードウェア	2後		2		○					1			
			コンピュータアーキテクチャ2	3前		2		○					1			
			情報ネットワーク	ネットワーク工学1	2後		2		○				1			
		ネットワーク工学2	3前		2		○			1						
	知的情報処理	アルゴリズム基礎論	コンパイル論	2後		2		○				1				
			人工知能	3前		2		○			1					
			アルゴリズム設計論	3前		2		○					1			
			データベース工学	3前		2		○				1				
統計情報解析			統計工学	3前		2		○			1					
	人間工学	3前		2		○			1							
情報システム	ソフトウェア工学	集積回路学	3前		2		○			1						
		認知科学	3前		2		○			1						
		制御工学	3前		2		○			1						
		メディア情報工学	画像工学	3前		2		○			1					
	信号処理学	3前		2		○				1						
	視覚情報学	3前		2		○			1							
実験	情報工学実験1	情報工学実験2	3前・後	2					○	1	2				兼2	
		情報工学実験2	3前・後	2					○	3	1					
群別専門科目	計算機システム	並列分散処理	3後		2		○								集中・2019年度未開講	
		オートマトンと計算論	4前		2		○								2019年度未開講	
	情報ネットワーク	ネットワークプログラミング	3後		2		○			1						
		情報セキュリティ工学	3後		2		○				1					
	知的情報処理	ソフトコンピューティング	3後		2		○				1					
		情報管理	3後		2		○				1					
		バイオ情報学	4前		2		○								2019年度未開講	
	統計情報解析	多変量データ解析	3後		2		○			1						
統計的品質管理		3後		2		○			1							
オペレーションズリサーチ		4前		2		○			1							
	データマイニング	4前		2		○			1							

教 育 課 程 等 の 概 要															
(情報通信工学部 情報工学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門 教育 科目	情報 システム	組み込みシステム論	3後		2		○			1					
		ヒューマンインタフェース	3後		2		○		1						
		ロボット工学	3後		2		○		1						
	メディア 情報工学	画像情報処理	3後		2		○		1						
		音声・言語情報処理	3後		2		○			1					
		カラービジョン	3後		2		○			1					
		光情報処理	4前		2		○			1					
	教養	コンピュータグラフィックス	4前		2		○			1					
		情報特許論	4前		2		○		1						
		情報特許論	4前		2		○		1						
その 他	特別ゼミナール1	2前		2			○		1						
	特別ゼミナール2	2後		2			○		1						
	プレゼミナール	3後	2				○		7	7					
	卒業研究	4通	8						7	7					
小計 (57科目)		—	14	106	0		—		7	7	0	0	0	兼4	
合計 (164科目)		—	26	284	0		—		7	7	0	0	0	兼80	
学位又は称号			学士 (情報工学)			学位又は学科の分野			工学関係						
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
・人文・社会・自然群：8単位以上 ・外国語群：選択必修科目4単位以上を含み6単位以上 ・健康・スポーツ群：3単位以上 ・キャリア形成群：6単位以上 人文・社会・自然群、外国語群、健康・スポーツ群、キャリア形成群をあわせて24単位から40単位まで ・専門科目：必修科目14単位、基盤専門科目16単位以上、群別専門科目16単位以上をあわせて24単位から40単位まで 卒業要件単位：128単位以上 (履修登録の上限：48単位 (年間))								1 学年の学期区分				2期			
								1 学期の授業期間				15週			
								1 時限の授業時間				90分			
(注)															
1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。 2 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。															

教育課程等の概要															
(情報通信工学部 通信工学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合科目	人文・社会・自然群	哲学の世界	1前		2		○								兼1
		発達心理学	1前		2		○								兼1
		現代社会と青年の心理	1後		2		○								兼1
		教育制度論	2前		2		○								兼1
		人間形成と教育	1後		2		○								兼1
		現代社会と宗教	2後		2		○								兼1
		道徳と教育	2後		2		○								兼1
	文化の理解	歴史学の世界	1前		2		○								兼1
		日本の近代史を探究する	2後		2		○								兼1
		文学の世界	2後		2		○								兼1
		芸術の世界	1前		2		○								兼1
		国際コミュニケーション	2前		2		○								兼1
		現代社会を考える1	1前		2		○								兼1
		現代社会を考える2	1後		2		○								兼1
		異文化の理解	1後		2		○								兼1
	社会の認識と人権	日本国憲法の理念と現実	2後		2		○								兼1
		社会生活と法	2前		2		○								兼1
		経済学の世界	1前		2		○								兼1
		家族のくらしと社会	1後		2		○								兼1
		企業社会と労働	2前		2		○								兼1
	自然の認識と科学の方法	環境の科学	2前		2		○								兼1
		生命の科学	2後		2		○								兼1・集中
	社会とコンピュータ	コンピュータと情報活用術	1前		2		○								兼1
		コンピュータで文化を測る	1後		2		○								兼1
情報活用リテラシー		1前		2		○								兼1	
情報社会と情報倫理		2後		2		○								兼1	
総合ゼミナール	総合ゼミナール	2前・後		2			○							兼2	
外国語群	英語	基礎英語1	1前		1				○						兼2
		基礎英語2	1後		1				○						兼2
		英語リーディング1	1前		1				○						兼2
		英語リーディング2	1後		1				○						兼1
		英語リーディング3	2前		1				○						兼5
		英語リーディング4	2後		1				○						兼4
		英語リーディング5	3前		1				○						兼2
		英語リーディング6	3後		1				○						兼2
		英語スキルアップセミナー1	2前		1				○						兼3
		英語スキルアップセミナー2	2後		1				○						兼2
		英語スキルアップセミナー3	3前		1				○						兼1
		英語スキルアップセミナー4	3後		1				○						兼2
		英語スキルアップセミナー5	4前		1				○						兼1
		英語スキルアップセミナー6	4後		1				○						兼2
		英語コミュニケーション1	2前		1				○						兼3
		英語コミュニケーション2	2後		1				○						兼1
	英語コミュニケーション3	3前		1				○						兼1	
	英語コミュニケーション4	3後		1				○						兼1	
	英文法セミナー	1前		1				○							兼1
	ドイツ語	ドイツ語1	1前		1				○						兼2
		ドイツ語2	1後		1				○						兼2
		ドイツ語特別ゼミナール	2前		1				○						兼1

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(情報通信工学部 通信工学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
総合科目	外国語群	フランス語	フランス語1	1前		1				○						兼1	
			フランス語2	1後		1				○						兼1	
		中国語	中国語1	1前		1					○						兼1
	中国語2		1前		1					○						兼1	
	中国語3		1後		1					○						兼2	
	中国語特別ゼミナール		2前		1					○						兼1	
	韓国語	韓国語1	1前		1					○						兼1	
		韓国語2	1後		1					○						兼2	
	健康・スポーツ群	健康の科学	健康・スポーツ科学論	2前		2			○								兼1
			スポーツ実習1	1前		1				○							兼3
			スポーツ実習2	1後		1					○						兼2
			スポーツ実習3	3前・後		1					○						兼2
			スポーツ実習4	4前・後		1					○						兼2
	キャリア形成群	キャリア形成	通信キャリア入門(注3)	1前	2				○			4	4				
			情報通信工学入門(注3)	1前	2				○			1					
グローバル研修			2後		2			○								兼1・集中	
地域連携プロジェクト入門			2後		2				○		1					兼3・集中	
地域連携ボランティア入門			2後		2				○		1					兼3・集中	
キャリア概論			2前		2			○			1						
キャリアデザイン演習			2後		2				○		1					兼1	
キャリア設計			3前		2			○			1						
インターンシップ			3後		2				○		4	4					
小計(74科目)			—	4	110	0				4	4	0	0	0	兼56		
専門教育科目	基礎専門科目	数学	基礎解析・演習	1前		4				○						兼3	
			基礎微積分1・演習	1前・後		4				○						兼4	
			基礎微積分2・演習	1後・2前		4					○					兼3	
			微分積分1・演習	1前		4				○						兼1	
			微分積分2・演習	1後		4				○						兼1	
			微分方程式	2後		2			○							兼1	
			線形代数1	1前		2				○						兼5	
			線形代数2	1後		2				○						兼4	
	確率・統計	2前		2				○						兼1			
	物理	物理学1・演習	1前		4					○						兼3	
物理学・実験		1前	3						○						兼5		
情報	物理学2	1後		2				○							兼3		
	コンピュータリテラシー1	1前		2					○						兼2		
工学入門	プログラミング基礎演習	1後	2						○		1						
	基礎電気回路	1前	2						○		1						
小計(15科目)			—	7	36	0				1	1	0	0	0	兼25		
専門科目	通信方式	電気回路1a・演習	1後	2					○		1						
		電気回路1b・演習	1後	2					○		1						
		基礎電磁気学1・演習	1後	2						○		1					
		基礎電磁気学2・演習	1後	2						○		1					
		電気回路2	2前		2			○			1						
		電子回路1	2前		2			○			1						
		電磁気学1	2前		2			○			1						
		計測工学	2後		2			○				1					
		電子回路2	2後		2			○			1	1					
		電磁気学2	2後		2			○			1						

教 育 課 程 等 の 概 要																
(情報通信工学部 通信工学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	通信方式	パルス回路	3前		2		○				1				兼1	
		電磁波工学1	3前		2		○				1					
		伝送線路工学	3後		2		○									
		電磁波工学2	3後		2		○				1					
	情報通信ネットワーク	基礎通信工学	1後	2			○				1	3				兼1
		情報伝送工学1	3前		2		○				1	1				
		ネットワーク工学	3前		2		○				1	1				
		光通信工学	3前		2		○				1	1				
		情報伝送工学2	3後		2		○				1	1				
		情報交換工学	3後		2		○				1	1				
		移動通信工学	3後		2		○				1	1				
		光エレクトロニクス	3後		2		○				1	1				
	電波法規	4前		2		○										
	情報工学	基礎情報工学	1後		2		○					1				兼1 兼1
		計算機工学	2前		2		○					1				
		ソフトウェア工学	2前		2		○					1				
		情報通信理論	2後		2		○				1	1				
		コンピュータシステム	2後		2		○					1				
		マルチメディア工学	3前		2		○					1				
		符号理論	3前		2		○				1	1				
情報セキュリティ		3後		2		○				1	1					
プログラミング演習1		2前		2			○				1					
プログラミング演習2		2後		2			○				1					
実験	工学基礎実験	1後	2					○		1				兼2 兼2 兼2		
	電気実験1	2前	2					○			2					
	電気実験2	2後	2					○			2					
	情報通信工学実験1	3前	2					○		2	1					
	情報通信工学実験2	3後	2					○		2	1					
その他	特別ゼミナール1	2前		2				○		1				兼5		
	特別ゼミナール2	2後		2				○		1						
	プレゼミナール	3後	2					○		4	4					
	卒業研究	4通	2					○		4	4					
小計（44科目）		—	24	64	0	—	—	—	—	4	4	0	0	0	兼5	
合計（133科目）		—	35	210	0	—	—	—	—	4	4	0	0	0	兼86	
学位又は称号			学士（工学）			学位又は学科の分野			工学関係							
卒業要件及び履修方法									授業期間等							
・人文・社会・自然群：8単位以上 ・外国語群：選択必修科目4単位以上を含み6単位以上 ・健康・スポーツ群：3単位以上 ・キャリア形成群：6単位以上 人文・社会・自然群、外国語群、健康・スポーツ群、キャリア形成群をあわせて24単位から40単位まで ・基礎専門科目：必修科目7単位、選択科目をあわせて24単位から40単位まで ・専門科目：必修科目130単位、選択必修科目10単位以上、選択科目をあわせて56単位から80単位まで 卒業要件単位：128単位以上 （履修登録の上限：48単位（年間））									1学年の学期区分			2期				
									1学期の授業期間			15週				
									1時限の授業時間			90分				

(注)

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

授 業 科 目 の 概 要			
(工学研究科工学専攻 博士前期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全 コ ー ス 共 通 科 目	特別研究1	<p>一連の「特別研究」は担当教員の指導の下、研究を立案・実施し、実践的な研究能力を養うことを目的とする。「特別研究1」では担当教員の指導に基づいて文献購読を行い、研究動向を把握するとともに研究分野および関連分野に関する高度な専門知識、技術を修得するための基礎を身に付ける。また、担当教員との議論を通して研究テーマを設定する。</p> <p>(2 阿久津典子)2次相転移および線形応答ダイナミクスを学び、モンテカルロ計算法、ディープラーニング法を学ぶ。</p> <p>(3 阿南景子)構造物の流体関連振動、または空調用圧縮機の最適設計に関連した現象の中から課題の抽出を行う。目的、手法を明確にするとともに、必要な知識が身につくよう個別に指導する。</p> <p>(4 井岡誠司)材料力学、連続体力学、破壊力学を基礎として、材料の強度評価や材料内部の欠陥検出に関する文献の調査を行い、研究遂行のための基礎力を身につけるように指導する。</p> <p>(6 入部正継)ロボティクスおよび制御工学に関する論文テーマに対応した内容の従来研究調査(文献調査)を行い、テーマに対して理解を深めるように研究指導する。</p> <p>(7 宇田豊)高精度大型部品の形状計測、機械要素運動誤差計測に関する文献の調査を行い、研究遂行のための基礎力を身につけ、研究テーマを設定し、研究意義を明確にできるように指導する。</p> <p>(8 越後富夫)映像メディア処理に関する研究動向を調査し、動画像、3Dデータを利用した課題解決手段を学ぶ。その活動を通して、映像メディア処理が解決可能な、現在または将来に繋がる社会的課題を選定する。</p> <p>(9 榎本博行)ナノ複合材料に関する先行研究の文献研究により何をどこまで明らかにするのか研究目標および研究課題を立て、研究をスタートさせる。</p> <p>(10 海老原聡)地下電磁波計測工学に関する知識を深め、高周波計測の能力が身に付くように指導する。</p> <p>(11 影島賢巳)ナノメートルスケール凝縮系、特に界面近傍において発現する特異な物性について、その理論と先行研究を精査し、未踏領域を見定めて研究課題の設定を行う。</p> <p>(12 兼宗進)コンピュータサイエンスの諸概念を概観し、現代社会での利用と、計測制御工学分野への応用についての発展に寄与する技術を探求する。</p> <p>(13 川口雅之)機能性材料の作製、および物性評価に関する研究を開始するにあたり、その準備として、専門知識や高度技術を習得する。</p> <p>(14 木原満)光通信システムの光ファイバや半導体レーザーなどの光デバイスに関して、文献を調査し、その分野の研究動向を把握するとともに研究に必要な基礎力を養成する。</p> <p>(15 来海暁)画像センシングに関する研究論文を講読することにより、研究動向を調査する。その活動を通じて研究課題を選定する。</p> <p>(16 小森政嗣)認知科学に関する文献講読を行い、関連分野の研究動向を調査する。また、研究を遂行する上で必要となる情報工学技術を学ぶ。これらの活動を通して研究テーマの選定を行う。</p> <p>(17 齊藤安貴子)ケミカルバイオロジー分野、および、生物有機化学分野に関する文献を調べ、自らの研究テーマをどのようにどこまで進めるか計画を立て、準備を行う。</p> <p>(18 柴垣佳明)レーダー等の電波応用工学の中で、電波の一般的性質やアンテナの放射特性等の知識が身に付くように指導する。</p> <p>(19 高岡大造)水浄化の手法である固液分離技術と微生物燃料電池に関する関連文献を調査し、研究内容を明確にするとともに、高度な専門的技術を修得するための基礎を身につける。</p> <p>(20 竹内和広)言語処理および知識処理に関わる文献購読を行い、自然言語処理分野における研究的基盤とその処理に必要な情報工学技術を学ぶ。これらの活動を通して研究論文を精読する技術・技能を修得すると共に、自身の研究テーマの選定を行う。</p> <p>(21 田中宏明)分子動力学法などの数値計算およびコンピュータシミュレーションの技法を習得する。</p> <p>(22 鄭聖熹)人と共存・協働できるロボットシステムに関するテーマにおいて、各テーマの対象システムの研究開発における研究背景、研究目的、研究目標が設定できるように指導を行う。</p> <p>(23 月間満)電磁気現象ならびにアクチュエータ技術に関わる理解を深めると共に、最新研究を文献等によって調査・整理し、課題抽出および研究テーマ設定の指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
（工学研究科工学専攻 博士前期課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全 コ ー ス 共 通 科 目	特別研究1	<p>(24 富岡明宏)有機材料を用いたナノ・メゾ構造体の基礎研究および応用例について文献調査するとともに作製に挑戦し、実践的な研究に着手する。</p> <p>(25 中瀬泰伸)集積回路のトランジスタに関する知識を深め、先端トランジスタの物理特性とシミュレーションパラメータの関係を理解するように指導する。</p> <p>(26 中田亮生)気象および水象に関する学問基礎の修得および文献調査を行い、広範な産業分野で関連する環境問題等について調査し、工学分野からのアプローチによって解決可能なテーマを検討する。テーマとしては、冬季の放射冷却による農作物への凍霜害検討とその防止技術の開発・夏季の閉鎖性水域における有機汚濁の観測とその抑制技術の検討である。</p> <p>(27 中村拓司)低次元トポロジ、特に結び目理論における研究の基礎となる専門知識を専門書などを読み習得する。</p> <p>(28 新開雅俊)コンピュータ支援による機械設計(CAD)に関するテーマについてテーマを設定し、研究開発における研究背景、研究目的、研究目標が設定できるように指導を行う。</p> <p>(29 原田融)ハドロン・原子核の基礎知識を習得する。専門書や論文から研究手法と研究動向を学ぶ。</p> <p>(30 ヒルド ミヒヤエル)研究課題に関わるコンピュータ・ビジョン分野の研究論文を購読し、研究方針を定める。研究計画を作成し、必要な機器・ソフトウェアなどを決定し、様々な予備調査・試作を行う。</p> <p>(31 前川泰之)衛星通信工学の電波伝搬に関する知識を深め、必要な測定値や情報の種類について指導する。</p> <p>(32 松浦秀治)半導体工学の物理に関する知識を深め、半導体の電気測定から物性を評価する能力が身に付くように指導する。</p> <p>(33 萬代武史)解析学、特に微分方程式やウェーブレット解析における研究の基礎となる専門知識を習得する。</p> <p>(34 溝井浩)原子核の構造についての基本的な知識を身に付ける。また、その研究手法について論文などを輪読して学ぶ。</p> <p>(35 村上恭通)情報セキュリティ技術に関して主に公開鍵暗号の課題について、文献を調査し、その分野の研究動向を把握するとともに研究に必要な基礎力を養成する。</p> <p>(36 森幸治)エネルギーシステムおよび熱流動現象に関してテーマを設定し、それに関する調査、課題の発掘および研究の方向性検討を行う。これらから、調査力、課題発掘力および企画力を育成する。</p> <p>(37 森田成昭)分子分光学の基礎、あるいはその応用に関する研究を開始するに当たり、その準備として、専門知識や高度技術を習得する。</p> <p>(38 安江常夫)表面科学とナノテクノロジーに関する基礎知識を深め、当該分野の研究動向を精査し研究課題の位置づけを行う。</p> <p>(39 柳田達雄)現象数理学、力学系による現象のモデリングの準備となる専門知識やプログラミングなどの計算機技法を習得し、力学系の概念を理解する。</p> <p>(40 山本剛宏)複雑流体の流動現象の解析を行うための基礎的知識である流体工学およびレオロジーに対する理解を深める。さらに、最新の研究動向の調査や論文調査を行うための手法を習得する。</p> <p>(41 湯口宜明)バイオナノ工学の基礎と応用に関する研究の準備として、専門知識や高度計測技術を習得する。</p> <p>(42 渡邊俊彦)計算知能工学技術、機械学習技術について文献を調査し、研究動向を把握するとともに研究に必要な基礎力を養成する。</p> <p>(43 青沼秀児)機能性有機分子の合成および物性評価に関する研究を開始するに当たり、先行研究を調査し分子設計を行う。</p> <p>(45 伊藤義道)フィードバック制御系の設計や解析に関する課題について文献を調査させ、問題を発見する能力が身に付けられるよう指導する。</p> <p>(47 尾花由紀)磁気圏物理学に関する研究を開始するための基礎知識を習得する。</p> <p>(48 何一偉)近年に発展してきた様々な通信方式、またその中におけるアンテナの役割、研究動向に関して、文献調査などを指導し、学生の視野を広げる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(工学研究科工学専攻 博士前期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全 コ ー ス 共 通 科 目	特別研究1	<p>(50 河合利幸) コンピュータグラフィックスやバーチャルリアリティに関する文献購読を行い、関連分野の研究動向を調査する。また、研究を遂行する上で必要となる映像関連技術を学ぶ。これらの活動を通して研究テーマの選定を行う。</p> <p>(51 木村和広) 数理物理学、特にミクロの現象を扱う量子物理学と素粒子物理学の基礎知識を学び、どのような課題があるか調べる。</p> <p>(52 境隆一) 暗号技術の数学に関する知識を深め、暗号研究の文献調査を通して暗号の安全性を評価する能力が身に付くように指導する。</p> <p>(53 佐藤寧洋) 情報ネットワークの基盤技術について、アーキテクチャおよび運用技術に関する理解を深め、当該分野の研究動向を知るために必要な文献の調査を通じて研究に必要な基礎力を養成する。</p> <p>(54 添田晴生) 文献購読を通して、エネルギー・環境工学分野における現状や課題に関する広範な知識および高度な専門的技術を修得する。</p> <p>(55 田代徹也) 様々な材料の除去加工に必要とされる工作機械および工具に関する技術について、実現可能なテーマを設定し、必要な情報を収集する。</p> <p>(56 土居元紀) マルチメディア工学に関する研究課題について、文献を調査し、その分野の研究動向を把握する。また、プログラミングなど研究に必要な基礎力を養成する。</p> <p>(59 疋田真一) 視覚センサを利用した計測制御システムに関する文献を調査し、現状における課題とその解決策について学ぶ。また、課題解決に必要な画像処理技術の基礎を身につける。</p> <p>(60 藤田 玄) 動画像符号化やそのシステムLSI設計に関する文献購読を行い、関連分野の研究動向を調査する。また、研究を遂行する上で必要となる映像関連技術を学ぶ。これらの活動を通して研究テーマの選定を行う。</p> <p>(61 光本浩士) 三次元計測、三次元データ処理に関連する文献購読を通して、高度な専門技術を修得するための基礎を身につける。</p> <p>(62 吉田晴行) 医療福祉分野におけるロボティクス・メカトロニクス技術の応用に重点を置き、未解決問題の抽出と解決策の考案を重ねて研究テーマを設定し、シミュレーションや実験の指導を行う。</p> <p>(63 田中孝徳) 分離科学の基礎、特に機械的単位操作の理論を修得するとともに、先端研究を調査しそのフロンティアを見定める。</p> <p>(64 多米田裕一郎) 宇宙線物理学に関する基礎知識や、データ解析に必要なプログラミングなどの解析ソフトウェア開発の技術を習得する。</p>	
	特別研究2	<p>一連の「特別研究」は担当教員の指導の下、研究を立案・実施し、実践的な研究能力を養うことを目的とする。「特別研究2」では担当教員および他の教員からの助言に基づいて、研究に主体的に取り組み、直面する様々な問題を協動的に解決する能力を身につける。また課題解決に必要な、研究分野および関連分野に関する高度な専門知識、技術を修得する。</p> <p>(2 阿久津典子) 結晶成長をモデル化した1次相転移ダイナミクスを学び、モンテカルロ計算・ディープラーニング活用法を考える。</p> <p>(3 阿南景子) 構造物の流体関連振動、または空調用圧縮機の最適設計に関連した現象の中から抽出した研究テーマについて、実験および理論解析が実施できるよう研究指導を行う。</p> <p>(4 井岡誠司) 材料の強度評価、内部の欠陥検出に関する理解を深め、材料力学、連続体力学、破壊力学の観点から研究テーマを設定し、必要な解析手法、実験手法について指導する。</p> <p>(6 入部正継) ロボティクスおよび制御工学に関する論文テーマに対して研究目的を明らかにし、その論文完成までの研究計画を明確化するように研究指導する。</p> <p>(7 宇田豊) 研究テーマに使用される測定機器類の特性について知識を深め、研究テーマを達成するために必要な課題について列挙でき、優先順位をつけられるように指導する。</p> <p>(8 越後富夫) 映像メディア処理関連分野の先行研究を徹底的に調査し、文献を詳細に理解する。関連研究の新規性、有効性の理解から、既存技術を利用した課題解決のための応用研究および既存技術を刷新する基礎研究の両面から自らの研究目標を定める。</p> <p>(9 榎本博行) ナノ複合材料に関する研究環境を構築し、試料作製方法および試料評価方法について習得する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(工学研究科工学専攻 博士前期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全 コ ー ス 共 通 科 目	特別研究2	<p>(10 海老原聡) 地下電磁波計測工学に関する知識を深め、レーダ計測の原理が理解できる能力が身に付くように指導する。</p> <p>(11 影島賢巳) 先に定めた研究課題にアプローチするための局所的な分析手法について考察し、その原理を詳しく学習する。また、実行に移すための要素技術を習得する。</p> <p>(12 兼宗進) 情報社会の基盤となる情報システムについて、構成する技術を理解し、それらを組み合わせることでセキュリティを確保しながら効果的に運用する技術を探求する。</p> <p>(13 川口雅之) 機能性材料の作製、および物性評価に関する研究をスタートさせ、指導教員と相談しながら課題を発見・解決する。</p> <p>(14 木原満) 光デバイス技術に関して、問題解決に必要な数学・数値計算法について学修し、知見を深める。</p> <p>(15 来海暁) 研究課題に沿って具体的な研究計画を策定する。その遂行に必要な画像センシングに関する技術を修得するとともに、実験環境を構築する。</p> <p>(16 小森政嗣) 自らの研究テーマに沿って認知科学分野のみならず様々な関連分野の文献の調査を行うことで関連研究を調査の技術を身につける。研究を遂行する上で必要となる情報工学技術を学ぶ。</p> <p>(17 齊藤安貴子) ケミカルバイオロジー分野、および、生物有機化学分野の研究を本格的にスタートさせ、必要な技術の習得をし、データの解析や解釈の仕方を指導教員と相談しながら学ぶ。</p> <p>(18 柴垣佳明) レーダー等の電波応用工学の中で、大気中の電波伝搬特性を大気観測に適応するために必要とされる知識が身に付くように指導する。</p> <p>(19 高岡大造) 固液分離技術と微生物燃料電池の現状や課題に関する広範な知識、高度な専門的技術、必要な実験手法や解析手法を習得し、実践する。</p> <p>(20 竹内和広) 自然言語に関わる自身の研究テーマに沿って知識・知能・認知に関わる幅広い関連分野の文献の調査を行い、それを踏まえて自然言語に関連した対象を処理する技術の実装・運用を行う。このことにより自然言語処理研究を遂行する上で必要となる情報工学技術を修得する。</p> <p>(21 田中宏明) 習得した数値計算やコンピュータシミュレーションの技法を用いて原子レベルの変形・破壊現象の解析を行う。</p> <p>(22 鄭聖熹) 人と共存・協働できるロボットシステムに関するテーマにおいて、各テーマの対象システムの研究開発における具体的な課題、その解決手段が明確に設定できるように指導を行う。</p> <p>(23 月間満) 電磁気現象ならびにアクチュエータ技術に関わる数値シミュレーション技術を習得、構築し、研究テーマの実現可能性や性能向上に向けた定量的検討を進めるよう指導する。</p> <p>(24 富岡明宏) ナノフォトニクス領域におけるナノ材料の開発、ナノ・メゾ構造体の構築に進み、有機エレクトロニクスやナノエレクトロニクスへの適用を模索する。</p> <p>(25 中瀬泰伸) 集積回路の基本回路に関する知識を深め、トランジスタ特性から回路の電気動作原理を理解し、遅延時間を見積もる能力が身に付くように指導する。</p> <p>(26 中田亮生) 主にフィールドにて局地的な気象または水象に関する観測を行うとともに、その観測技術等を習得する。</p> <p>(27 中村拓司) 低次元トポロジー、特に結び目理論における研究について、論文などを読み、研究動向を探りつつ、研究課題を見つける。</p> <p>(28 新関雅俊) 設計および工学的な計算に関する最新の研究を論文の調査によって学び、現状の問題点を学ぶ。そして自身の設計システムに、その技術を導入し、さらに効率的な設計・生産が行えるような総合的な知識を得ることを目標として探求をする。</p> <p>(29 原田融) ハドロン・原子核の基礎知識と量子論の理論計算の方法を学ぶ。具体的な課題に適用し、これを実践する。</p> <p>(30 ヒルド ミハヤエル) 研究方針に沿って、実験環境を構築し、データ獲得可能な状態を実現させる。研究問題を解くための技法・アルゴリズムを提案し、具体化させる。実験を行い、評価させる。</p> <p>(31 前川泰之) 衛星通信工学の電波伝搬に関する知識を深め、必要な測定値や情報の収集能力について指導する。</p> <p>(32 松浦秀治) 半導体工学の物理に関する知識を深め、半導体デバイスの動作原理が理解できる能力が身に付くように指導する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(工学研究科工学専攻 博士前期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全 コ ー ス 共 通 科 目	特別研究2	<p>(33 萬代武史)解析学、特に微分方程式やウェーブレット解析における研究の基礎となる事項について、自ら例などを考えて理解を深め、研究課題を見つける。</p> <p>(34 溝井浩)原子核反応についての基本的な知識を身に着ける。また、その研究手法について論文などを輪読して学ぶ。</p> <p>(35 村上恭通)情報セキュリティ技術に関して主に公開鍵暗号の課題について、問題解決に必要な数学・数値計算法・プログラミングについて学修し、知見を深める。</p> <p>(36 森幸治)テーマに沿って実験、解析などの手法を用いて研究を推進し、1年間の研究成果をまとめて中間発表を行う。さらに次年度の課題を明らかにし、それを解決する方法を検討する。これらから、実行力と基礎的なまとめる力を育成する。</p> <p>(37 森田成昭)分子分光学の基礎、あるいはその応用に関する研究をスタートさせ、指導教員と相談しながら課題を発見・解決する。</p> <p>(38 安江常夫)表面科学とナノテクノロジーに関する研究を遂行し、得られた結果の解析と分析を行う。</p> <p>(39 柳田達雄)現象数理学、具体的な現象の数理的なモデリング(常微分方程式)課題をプレゼンテーションおよびディスカッションにより開始する。</p> <p>(40 山本剛宏)関連分野の文献講読や指導教員との議論を通じ、複雑流体に関する知識の深化を図る。複雑流体の流動現象の解明のための研究に必要な実験手法や数値解析手法を習得し、実践する。</p> <p>(41 湯口宜明)多糖類工学の基礎と応用に関する研究をスタートさせ、指導教員と相談して研究を進める。</p> <p>(42 渡邊俊彦)計算知能工学技術、機械学習技術に関する研究課題を明確にし、プログラミングやシミュレーション、実験により、知見を深め、従来技術の問題点を把握する。</p> <p>(43 青沼秀児)機能性有機分子の合成および物性評価に関する研究を開始し、合成と物性評価を行う。</p> <p>(45 伊藤義道)フィードバック制御系の設計や解析分野において、自ら設定した問題を解決するために必要な数学の基礎を身に付けられるよう指導する。</p> <p>(47 尾花由紀)磁気圏物理学に関する研究を開始し、文献調査及び指導教員との議論を通じてテーマに関する理解を深める。</p> <p>(48 何一偉)電磁波やアンテナの計測手法、または電磁波の数値解析手法に関して専門書や文献の勉強を指導し、学生に研究に必要とする基礎力を身につけてもらう。</p> <p>(50 河合利幸)コンピュータグラフィックスやバーチャルリアリティをはじめとして関連分野の先行事例を調査する。また、映像関連技術やシステム構成術を学び、自らの研究テーマに沿ったシステムの設計を行う。</p> <p>(51 木村和広)数理論理学、特に厳密に解ける量子系を解析する数学的手法の基礎知識を学び、応用できる例を考え考察する。</p> <p>(52 境隆一)暗号技術に関する知識を深め、暗号の性能や安全性評価に必要なプログラミング能力が身に付くように指導する。</p> <p>(53 佐藤寧洋)通信方式やメディア制御、品質制御など個々の情報ネットワーク技術を習得させるとともに、社会インフラとしての情報ネットワーク技術に求められる重要性を理解させる。</p> <p>(54 添田晴生)自らの研究課題に主体的に取り組み、様々な情報収集を行い、知識を獲得しながら、課題解決のための能力の向上を目指す。</p> <p>(55 田代徹也)様々な材料の除去加工に必要とされる工作機械および工具に関する技術について、実際に実験を行いながら実践に必要な技術内容を調査する。</p> <p>(56 土居元紀)マルチメディア工学に関する研究課題について、課題解決の方法を検討する。そして、実験を立案し、実行して検証する。これらのことを通じて研究を実行する能力を養成する。</p> <p>(59 疋田真一)計測制御分野における文献を調査し、研究の遂行に求められる知識の蓄積と整理を進める。また、自らの研究課題への取り組みを通して、より高度な画像処理技術を身につける。</p> <p>(60 藤田 玄)自らの研究テーマに沿って、画像処理のみならず様々な関連分野の文献の調査を行うことで、関連研究調査の技術を身につける。研究を遂行する上で必要となる情報工学技術を学ぶ。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
（工学研究科工学専攻 博士前期課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全 コ ー ス 共 通 科 目	特別研究2	<p>(61 光本浩士)三次元計測、三次元データに関連する先行研究における問題点を見出し、その解決策を主体的に考える。また、他の教員からの助言を得、研究に対する考察を深める。</p> <p>(62 吉田晴行)医療福祉分野におけるロボティクス・メカトロニクス技術の応用に重点を置き、修士研究テーマに対応した実験手法、データ処理等の技術を指導する。</p> <p>(63 田中孝徳)化学・生物との境界領域の研究課題にアプローチするため、界面科学についても学習する。</p> <p>(64 多米田裕一郎)宇宙線観測の原理や、検出器の仕組みなど、宇宙線実験に必要な技術を習得する。</p>	
	特別研究3	<p>一連の「特別研究」は担当教員の指導の下、研究を立案・実施し、実践的な研究能力を養うことを目的とする。「特別研究3」では研究を遂行し、これまでに得られた成果をまとめ、教員および他の大学院生と討議を行い、研究の進展に必要な要因を客観的に分析することで、問題点および課題の見直しを行う。</p> <p>(2 阿久津典子)低電力デバイスに使われる半導体に関わる表面・界面の結晶成長をモデル化し表面・界面荒さおよびダイナミクスの理論計算を行う。</p> <p>(3 阿南景子)構造物の流体関連振動、または空調用圧縮機の最適設計に関連した各人の研究テーマについて、実験および理論解析を実施し、現象の解析、解明が進められるよう研究指導を行う。</p> <p>(4 井岡誠司)材料の強度評価、内部の欠陥検出に関する理解を深め、設定した研究テーマについて研究を進めて行きながら、新たな課題を発見する力を身につけるように指導する。</p> <p>(6 入部正継)ロボティクスおよび制御工学に関する論文テーマに対して定めた研究計画に則って研究を進めてまとめ、学会発表を行うように研究指導する。</p> <p>(7 宇田豊)特別研究1～2で行った研究成果を学会発表できるレベルにまとめる能力をつけ、特別研究4で総まとめるためのスケジューリングができるように指導する。</p> <p>(8 越後富夫)新規性のある課題解決手段の実現を目指し、実験を通じて、技術の改良、拡張を行い、結果を評価しながら、より最適な結果が得られるように改良を繰り返す。</p> <p>(9 榎本博行)学会発表を念頭に置いて、研究成果をまとめながら、研究課題について見直す。</p> <p>(10 海老原聡)地下電磁波計測工学に関する知識を深め、新たな地中レーダ計測のためのアンテナや実験手法を設計し、信号処理法を提案できる能力が身に付くように指導する。</p> <p>(11 影島賢巳)研究に独自性をもたらすために不可欠な新技術について考察し、そのために必要とされる新たな装置開発や分析手法の改良などに取り組む。</p> <p>(12 兼宗進)情報システムの基礎となるデータ処理とデータベースの技術を概観し、データサイエンスへの発展とIoTや人工知能への応用について技術的な探求を行う。</p> <p>(13 川口雅之)機能性材料の作製、および物性評価に関する研究をすすめる、成果の一部をまとめながら、他者と研究討議を行って課題を見直す。</p> <p>(14 木原満)光デバイス技術の分野の研究動向を見て課題を設定し、適切な解決法を選び、結果を導くとともに得られた結果の妥当性について検討する。</p> <p>(15 来海暁)構築した実験環境において実験を実施し、結果を考察する。この作業を繰り返すことにより、研究課題の目標とする成果への到達を目指す。</p> <p>(16 小森政嗣)自らの研究課題に関して認知科学的な問題意識に基づいて主体的に調査を行うとともに、研究を遂行する上で必要となる高度な情報工学技術を学び、研究遂行において直面する様々な問題の解決を行う。</p> <p>(17 齊藤安貴子)ケミカルバイオロジー分野、および、生物有機化学分野の研究を進め、成果の一部をまとめて学会等において他者と研究討議を行うことで、自らの研究内容・方法を見直す。</p> <p>(18 柴垣佳明)レーダー等の電波応用工学の中で、大気擾乱の風速推定方法を理解し、実際の風観測データの解析手法を検討できる能力が身に付くように指導する。</p> <p>(19 高岡大造)特別研究1、2で得られた結果を基に、独自の研究開発を遂行し、新たな現象や課題を見出す能力を育成し、得られた成果の外部への公表を目指す。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
（工学研究科工学専攻 博士前期課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全 コ ー ス 共 通 科 目	特別研究3	<p>(20 竹内和広) 蓄積した自然言語・知識処理に関わる基盤技術を改良・拡張する実験を実施し、結果を考察し、他者の意見を取り入れつつ、さらなる改善点を見つける。この作業を繰り返すことにより、研究遂行に必要な様々な問題解決法を実践的に修得する。</p> <p>(21 田中宏明) 超精密加工に関する課題に応じて数値計算やコンピュータシミュレーションの開発や改良を行い、超精密加工に関する新しい現象の解析・解明を行う。</p> <p>(22 鄭聖熹) 人と共存・協働できるロボットシステムに関するテーマにおいて、各テーマの対象システムの研究開発で設定した課題を、想定した手法を用いて解決できるように指導を行う。</p> <p>(23 月間満) 電磁気現象ならびにアクチュエータ技術に関わる研究テーマの実験的検証を実施し、工夫や改良を加えることで独自の研究開発を遂行する。</p> <p>(24 富岡明宏) これまでに研究してきた成果がどのように有機エレクトロニクスやナノエレクトロニクスへ生かせるのか、その実用的価値を模索し、次の段階の研究開発課題を設定する。</p> <p>(25 中瀬泰伸) 集積回路の論理回路に関する知識を深め、論理回路の遅延時間と消費電力を最適化する能力が身に付くように指導する。</p> <p>(26 中田亮生) 得られた観測データを整理・分析し、現象の把握を行う。</p> <p>(27 中村拓司) 低次元トポロジー、特に結び目理論における研究をすすめる。特に具体例を構成し、計算実験なども行い、成果をまとめながら、課題の調整を行う。</p> <p>(28 新開雅俊) コンピュータを利用した設計において現状や課題に関する広範な知識、およびCAD工学に関する高度な専門的技術の修得を行い、独自の研究開発を遂行し、新たな現象や課題を見出す能力の涵養を行い、また、得られた成果の外部への公表を目指す。</p> <p>(29 原田融) ハドロン・原子核の知識と計算手法を習得し、新たな課題に適用して理論的解析を行い、実験データとの比較を行う。</p> <p>(30 ヒルド ミヒヤエル) 技法・アルゴリズムを改善し、実験を行い、評価させることを繰り返すことにより、研究課題の目標への到達を目指す。他者の意見も参考にする。</p> <p>(31 前川泰之) 衛星通信工学の電波伝搬に関する知識を深め、必要な測定値や情報のデータ解析法について指導する。</p> <p>(32 松浦秀治) 半導体工学の物理に関する知識を深め、必要な半導体の物性を見積もるための評価方法を検討できる能力が身に付くように指導する。</p> <p>(33 萬代武史) 解析学、特に微分方程式やウェーブレット解析における研究の基礎となる事項について、自ら例などを考えて理解を深め、研究課題を見つける。</p> <p>(34 溝井浩) 原子核の構造や反応を研究するための実験を計画し、その実現のための放射線計測技術を身に着ける。</p> <p>(35 村上恭通) 情報セキュリティ技術に関して主に公開鍵暗号の課題について、適切な解決法を検討し、得られた結果を報告書・論文にまとめる能力を養成する。</p> <p>(36 森幸治) これまでの研究をさらに発展させるべく課題を設定し、その解決に向けて研究を推進する。これらから、高い課題発掘力、行動力および深い考察力を育成する。</p> <p>(37 森田成昭) 分子分光学の基礎、あるいはその応用に関する研究をすすめる、成果の一部をまとめながら、他者と研究討議を行って課題を見直す。</p> <p>(38 安江常夫) 表面科学とナノテクノロジーに関する研究を継続し、新たに得られた知見に関し議論を行い、今後の方針を定める。</p> <p>(39 柳田達雄) 現象数理学、偏微分方程式を含めて具体的に構築した現象のモデルを数理解析する。</p> <p>(40 山本剛宏) これまでに習得した複雑流体の流動現象に関する知識に基づき、複雑流体の流動現象の工学的応用を目的とする研究を遂行するための課題設定および問題解決の能力を涵養する。</p> <p>(41 湯口宜明) 多糖類工学の基礎と応用に関する研究をすすめて、成果の一部をまとめ、他者と研究について議論できるようにする。</p> <p>(42 渡邊俊彦) 計算知能工学技術、機械学習技術に関する研究課題についての有効な解決手段を考案、調査し、シミュレーションや実験等を実施して結果を導くとともに得られた結果の妥当性について検討する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
（工学研究科工学専攻 博士前期課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全 コ ー ス 共 通 科 目	特別研究3	<p>(43 青沼秀児) 機能性有機分子の合成および物性評価に関する研究をすすめ、専門知識と高度技術を身につける。</p> <p>(45 伊藤義道) フィードバック制御系の設計や解析分野において、自ら設定した問題を解決する手法を見出す能力を身に付けられるよう指導する。</p> <p>(47 尾花由紀) 磁気圏物理学に関する研究をすすめ、成果について第三者も含めた議論を行い、課題を見直す。</p> <p>(48 何一偉) アンテナや電波に対する理解をさらに深め、具体的な電磁波の問題に対するその思考能力、解決能力を高める。</p> <p>(50 河合利幸) 高度な映像関連技術やシステム構築術を学ぶことにより、自らの研究テーマに即したシステム構築を主体的に行うとともに、その過程で生じる様々な問題の解決を行う。</p> <p>(51 木村和広) 量子エントロピーの構造に関して厳密に解ける模型、素粒子模型、初期宇宙模型への応用研究成果をまとめ、さらなる展開を議論する。</p> <p>(52 境隆一) 暗号技術に関する知識を深め、当該分野の研究動向から課題を設定し、適切な解決法を選び、結果を導くとともに得られた結果の妥当性について検討する。</p> <p>(53 佐藤寧洋) 既存のネットワーク環境における問題点や課題を洗い出し、次世代ネットワークの実現に向けた適切な解決法について考察させるとともに、その実現方法について具体的に検討させる。</p> <p>(54 添田晴生) 研究成果を学会などで発表することを目指し、適確な文章を書く能力を身につけ、さらにはプレゼンテーション能力の向上を図る。</p> <p>(55 田代徹也) 様々な材料の除去加工に必要とされる工作機械および工具に関する技術について、実際に実験を行うことにより加工時の現象を調査する。</p> <p>(56 土居元紀) マルチメディア工学に関する研究課題について、これまでの研究成果から提案手法を評価し、課題解決までに残る問題について適切な解決法を検討できる能力を養成する。</p> <p>(59 疋田真一) 研究課題解決に向けた取り組みの過程で、分野横断的視点を身につける。さらに、研究成果を公表するために必要なプレゼンテーション能力の向上を図る。</p> <p>(60 藤田 玄) 自らの研究テーマに関して既存技術の問題点を整理し、問題点を解決するための方策を検討するとともに、研究を遂行する上で必要となる高度な情報工学技術を学び、研究遂行において直面する様々な問題の解決を行う。</p> <p>(61 光本浩士) 三次元計測、三次元データ処理に関連する新しい手法を提案するために、プログラム化、検証実験を目指す。研究活動を通し、関連分野に関する研究能力の向上を図る。</p> <p>(62 吉田晴行) 医療福祉分野におけるロボティクス・メカトロニクス技術の応用に重点を置き、修士研究テーマに対応した実験手法、データ処理等の技術を指導する。</p> <p>(63 田中孝徳) 研究に独自性をもたらすために不可欠な新技術について考察し、そのために必要とされる新たな装置開発や分析手法の改良などに取り組む。</p> <p>(64 多米田裕一郎) 超高エネルギー宇宙線の観測作業や、データ解析手法を習得し、観測データを解析する。</p>	
	特別研究4	<p>一連の「特別研究」は担当教員の指導の下、研究を立案・実施し、実践的な研究能力を養うことを目的とする。「特別研究4」ではこれまでに得られた研究成果をまとめ、学会発表、論文投稿を目指す。それによって得られた知見に基づいて研究内容を修正し、最終的に学位論文としてまとめる。</p> <p>(2 阿久津典子) 計算結果を解析し、結晶育成法の改善方法などの提言を行う。</p> <p>(3 阿南景子) 各人の研究テーマについて、実験および理論解析の結果から現象の本質の理解を進め、研究成果を修士論文としてまとめられるよう指導する。</p> <p>(4 井岡誠司) 材料の強度評価、内部の欠陥検出に関する研究テーマに関して研究成果をまとめるとともに、研究発表、討論をすることができるように研究指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
（工学研究科工学専攻 博士前期課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全 コ ー ス 共 通 科 目	特別研究 4	<p>(6 入部正継) ロボティクスおよび制御工学応用に関する論文テーマに対して、研究計画に則って進めた研究内容をまとめ、学会発表および論文化するよう研究指導する。</p> <p>(7 宇田豊) これまで行った研究を進めてまとめる能力をつけ、研究成果より新たな研究テーマを見いだせる能力を身に着けるように指導する。</p> <p>(8 越後富夫) 自らの研究の優位性を主張できるように、発表資料、論文にまとめ、映像メディア処理関連学会で外部の専門家からの評価を聞くとともに改善点を考察し、最終的に学位論文にまとめる。</p> <p>(9 榎本博行) 国際学会での発表または論文発表を視野に入れて、研究成果をまとめる。</p> <p>(10 海老原聡) 地下電磁波計測工学に関する知識を深め、新たな地中レーダ計測法を評価することができるように指導する。</p> <p>(11 影島賢巳) これまでの研究活動を通じて習得した知識・ビジョン・技術を総合して分析に取り組み、結果の解析を通じて凝縮系物性物理上の新たな見解を創生する。</p> <p>(12 兼宗進) コンピュータでのソフトウェア開発の基礎となるプログラミング言語の視点から、計測制御、ネットワーク、人工知能などのコンピュータ技術の発展を理解する。</p> <p>(13 川口雅之) 機能性材料の作製、および物性評価に関する研究について、成果をまとめ、それをもとにプレゼンテーションとディスカッションを行う。</p> <p>(14 木原満) 光デバイス技術に関する研究課題の成果を公表するのに必要なコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を涵養する。</p> <p>(15 来海暁) 研究計画に沿って得られた成果を学位論文としてまとめるとともに、画像センシング分野の学会においても発表する。</p> <p>(16 小森政嗣) 学位論文の執筆に向けて主体的に研究を進めるとともに、関連学会等での対外発表および学位論文の執筆を通して自らの研究成果を適切に正確に発信するスキルを身につける。</p> <p>(17 齊藤安貴子) ケミカルバイオロジー分野、および、生物有機化学分野の研究を進め、研究成果をまとめて学会発表などを行い、論文執筆を行う。</p> <p>(18 柴垣佳明) レーダ等の電波応用工学の中で、大気観測データ解析から得られた新たな知見に対して評価・検討を行うことができる能力が身に付くように指導する。</p> <p>(19 高岡大造) 特別研究1～3で得られた結果を基に、研究成果を学位論文にまとめる。これらの活動を通して、研究能力を向上させ、技術者として活動できる人材の形成を目指す。</p> <p>(20 竹内和広) 学位論文の執筆に向けて主体的に研究を進めるとともに、関連学会等での対外発表および学位論文の執筆を通して自然言語処理・知識処理における研究成果および関連分野への貢献を適切・正確に説明する技術・技能を修得する。</p> <p>(21 田中宏明) 超精密加工に関する新しい現象の解析・解明を行うことにより、新たな加工法を提案する、またはより良い加工法に関しての科学的な指針を得る。</p> <p>(22 鄭聖熹) 人と共存・協働できるロボットシステムに関するテーマにおいて、提案手法における実験やシミュレーション結果の分析、考察を通じた論理的な結論の導出及び修士論文を作成の指導を行う。</p> <p>(23 月間満) 電磁気現象ならびにアクチュエータ技術に関わる研究テーマを論文としてまとめ、学会や論文として発表するよう指導する。</p> <p>(24 富岡明宏) 1年半実践してきた有機エレクトロニクス・ナノエレクトロニクス研究開発課題の進捗状況を自己分析し、社会的要請に応えるべく、自身の研究成果をまとめその価値を発信する。</p> <p>(25 中瀬泰伸) 集積回路の回路ブロックに関する知識を深め、機能レベルでの動作および消費電力を理解する能力が身に付くように指導する。</p> <p>(26 中田亮生) 特別研究1～3の結果から問題の解決法等を提案し、関連する国内の学会で口頭またはポスター発表を行う。産業応用の目的意識を持った研究者・技術者として活躍できるように指導する。</p> <p>(27 中村拓司) 低次元トポロジー、特に結び目理論における研究について、これまでの成果をまとめつつ、他分野への展開に関する議論も行う。</p> <p>(28 新関雅俊) 設計におけるコンピュータの利用に関する論文テーマに対して、研究計画に則って進めた研究内容をまとめ、学会発表および論文化するよう研究指導する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(工学研究科工学専攻 博士前期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全 コ ー ス 共 通 科 目	特別研究4	<p>(29 原田融)ハドロン・原子核における理論計算に基づき、結果と考察を行い、研究成果をまとめる。</p> <p>(30 ヒルド ミハエル)得られた成果を基にして、提案方法について発表論文をまとめる。最終的に学位論文も作成する。</p> <p>(31 前川泰之)衛星通信工学の電波伝搬に関する知識を深め、必要な測定値や情報の解析結果の評価法について指導する。</p> <p>(32 松浦秀治)半導体工学の物理に関する知識を深め、現在の半導体デバイスの問題点を解決できる方法を検討できる能力が身に付くように指導する。</p> <p>(33 萬代武史)解析学、特に微分方程式やウェーブレット解析における研究について、成果をまとめるとともに、さらなる展開に関する議論を行う。</p> <p>(34 溝井浩)原子核の構造や反応を研究するための実験を行い、その結果をまとめる。</p> <p>(35 村上恭通)情報セキュリティ技術に関して主に公開鍵暗号の課題について、研究成果を公表するのに必要なコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を涵養する。</p> <p>(36 森幸治)これまでに得られた知見を論文にまとめるとともに、国内外にて成果発表を行う。これから、編集力、プレゼンテーション力を育成する。</p> <p>(37 森田成昭)分子分光学の基礎、あるいはその応用に関する研究について、成果をまとめ、それをもとにプレゼンテーションとディスカッションを行う。</p> <p>(38 安江常夫)表面科学とナノテクノロジーに関する研究により得られた成果をまとめ上げるとともにプレゼンテーションを行いその成果を発信する。</p> <p>(39 柳田達雄)現象数理学、数理モデリングによる現象の解析結果をまとめ、それをもとにプレゼンテーションとディスカッションを行う。</p> <p>(40 山本剛宏)研究により得られた情報から普遍的な真理を見出す能力を訓練するとともに、これまでの複雑流体の流動現象に関する研究の成果を論文にまとめる。</p> <p>(41 湯口宜明)多糖類工学の基礎と応用に関する研究について、研究成果をまとめ、プレゼンテーションと議論を行う。</p> <p>(42 渡邊俊彦)計算知能工学技術、機械学習技術に関する研究課題についての成果を公表するのに必要なコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を涵養する。</p> <p>(43 青沼秀児)機能性有機分子の合成および物性評価に関する研究について、成果をまとめ、それをもとにプレゼンテーションとディスカッションを行う。</p> <p>(45 伊藤義道)フィードバック制御系の設計や解析分野において、自ら設定した問題やその解決法を説明する能力を身に付けられるよう指導する。</p> <p>(47 尾花由紀)磁気圏物理学に関する研究成果をまとめ、発表と論文執筆を行う。</p> <p>(48 何一偉)電波、アンテナの研究を発信する力をつけるため、論文作成や、プレゼンテーション、またディスカッションの能力を高める。</p> <p>(50 河合利幸)主体的にシステム構築やその評価を行うとともに、関連学会等での対外発表および学位論文の執筆を行い、自らの研究成果を適切かつ正確にまとめる。</p> <p>(51 木村和広)量子系を解析する数学的手法の成果をまとめ、新たな解析手法の可能性を探り、さらなる展開を議論する。</p> <p>(52 境隆一)暗号技術に関する研究課題の成果を公表するのに必要なコミュニケーション能力、プレゼンテーションの能力を涵養する。</p> <p>(53 佐藤寧洋)次世代ネットワークの実現のための具体的な課題に取り組み、研究課題の成果を公表するために必要なコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を涵養する。</p> <p>(54 添田晴生)学位論文の執筆と公聴会などに向けて、これまでの研究成果をまとめるために、これまで培ってきた能力を全て発揮し、総合的な能力の向上を図る。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
（工学研究科工学専攻 博士前期課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全 コ ー ス 共 通 科 目	特別研究4	<p>(55 田代徹也) 様々な材料の除去加工に必要とされる工作機械および工具に関する技術について、実際に行った実験結果をまとめ、発表する。</p> <p>(56 土居元紀) マルチメディア工学に関する研究課題について、これまでの研究を文章に纏め、公表するために必要なコミュニケーション、プレゼンテーションの能力を涵養する。</p> <p>(59 疋田真一) 自らの研究課題に主体的に取り組む。また、学位論文の執筆活動を通して、関連研究をふまえながら研究成果を正確かつ適切に説明できる能力を身につける。</p> <p>(60 藤田 玄) 学位論文の執筆に向けて主体的に研究を進めるとともに、関連学会等での対外発表および学位論文の執筆を通して、自らの研究成果を適切かつ正確に発信するスキルを身につける。</p> <p>(61 光本浩士) 三次元計測、三次元データ処理に関連する新しい手法について先行研究との比較実験を行い、手法の優位性を検証する。それらの研究成果を学位論文としてまとめる。</p> <p>(62 吉田晴行) 医療福祉分野におけるロボティクス・メカトロニクス技術の応用に重点を置き、修士研究テーマに対応した実験手法、データ処理等の技術を指導する。得られた研究成果をまとめ、修士論文の執筆を指導する。</p> <p>(63 田中孝徳) 研究活動を通じて習得した知識を社会に還元するため、新たな分離技術および理論を創生する。また、それをもとにプレゼンテーションとディスカッションを行う。</p> <p>(64 多米田裕一郎) 超高エネルギー宇宙線の解析結果をまとめ、プレゼンテーションと議論を行う。</p>	
	ゼミナール1	一連の「ゼミナール」において大学院生が研究成果、関連する文献の内容等を定期的に発表し、教員を含む聴講者と質疑応答を行う。それを通してプレゼンテーション能力を修得するとともに問題解決能力を涵養する。「ゼミナール1」では研究成果、関連する文献の内容等の発表、聴講を通して、プレゼンテーション能力の基礎となる資料の作成および発表技術の基本を修得する。	共同
	ゼミナール2	一連の「ゼミナール」において大学院生が研究成果、関連する文献の内容等を定期的に発表し、教員を含む聴講者と質疑応答を行う。それを通してプレゼンテーション能力を修得するとともに問題解決能力を涵養する。「ゼミナール2」ではプレゼンテーション用資料の作成および発表の技術をさらに向上させるとともに、研究によって得られた専門知識や研究内容を正確かつ適切に表現する能力を修得する。	共同
	ゼミナール3	一連の「ゼミナール」において大学院生が研究成果、関連する文献の内容等を定期的に発表し、教員を含む聴講者と質疑応答を行う。それを通してプレゼンテーション能力を修得するとともに問題解決能力を涵養する。「ゼミナール3」では自らの発表に関する質疑応答において聴講者から出された意見に正しく対応するとともに、その意見について深く検討し、自らの研究に発展的に反映させる能力を修得する。	共同
	ゼミナール4	一連の「ゼミナール」において大学院生が研究成果、関連する文献の内容等を定期的に発表し、教員を含む聴講者と質疑応答を行う。それを通してプレゼンテーション能力を修得するとともに問題解決能力を涵養する。「ゼミナール4」では自らの発表における質疑応答や他の学生の発表に関する討論への積極的な参加を通して協調的かつ創造的に問題解決を行う能力を修得する。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(工学研究科工学専攻 博士前期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コース専門科目 先端理工学コース 総合電子工学分野	固体物理学特論1	有機・無機の固体を利用した最先端のキーテクノロジーでは、固体の性質を正しく理解することが必要である。ここでは、その第一歩として、固体における結合、結晶構造を取り上げ、その種類や特徴を理解する。	
	固体物理学特論2	固体エレクトロニクスのさまざまな電子デバイスの性能向上には目を見張るばかりである。これらの電子デバイス中の物理現象を理解するためには、量子力学にもとづく電子の運動についての知識が必要である。本講義では、結晶中の原子・電子のふるまいを理解することを目的とする。	
	半導体工学特論1	近年の高度な情報化社会の実現は半導体デバイスの著しい進歩・発展に負うところが大きい。本講義では、半導体とそれらを用いた半導体デバイスへの応用に重要な物理現象と電子構造を中心に解説し、応用上重要であるPN接合へと話を進める。ダイオードや光子素子などの基本的な半導体素子についても概観する。	隔年
	半導体工学特論2	近年の高度情報化社会は、半導体デバイス技術の発展によりもたらされた。半導体デバイスの基本構成要素であるpn接合と金属-半導体接触は、電子回路中で整流作用、増幅作用、スイッチングなどの動作機能の基礎となっている。本講義では、まず、金属と半導体との接合におけるエネルギー障壁と電気伝導との関係について理解を深める。さらに、トランジスタ(バイポーラトランジスタ、電界効果トランジスタ)の構造と動作原理についても学ぶ。	隔年
	ナノ工学特論	半導体デバイスをはじめとする最先端の技術においては、従来のマクロスコピックな物性の理解だけでは不十分であり、ナノメートルオーダーの構造の物性やその形成手法などの理解が必要となる。本講義ではナノテクノロジーに直接結びつくいくつかのトピックスを取り上げ、ナノ領域での物質の振る舞いについて述べる。 (オムニバス方式/全15回) (9 榎本博行/5回) ナノ複合材料の創製について、ナノ構造と量子効果、インターカレーションと層間剥離、ナノシートと交互吸着法など、最近の研究を含めて詳しく紹介する。 (11 影島賢巳/5回) 電子の位相コヒーレンス長と同程度で、エネルギー準位の量子化を伴うようなサイズのメソスコピック系に特有な現象とその応用の可能性を概観する。量子力学・電磁気学的な基礎から出発し、局在のスケールリング理論を経て、コンダクタンスの量子化やA/B効果などの輸送現象、単一電子デバイスへの応用例など、先端的な話題を紹介する。 (38 安江常夫/5回) ナノ構造形成の基礎となる結晶成長過程について、成長素過程と成長様式、エピタキシャル成長に関して講述する。	隔年 オムニバス方式
	先端計測特論	物質の多様な物理的性質の本質を理解するためには、ミクロな視点で物質を観察することが不可欠である。最近の計測機器に関する技術的革新によって、従来不可能であった新しい研究分野も誕生している。しかし、機器がブラックボックスになると測定不可能な条件下で無駄なデータを収集する恐れがあり、機器を有効に活用することができない。計測機器の理論、原理を十分に理解することが正しい結論を得るために重要であり、正しい結論への近道といえる。 (オムニバス方式/全15回) (38 安江常夫/5回) 固体の化学結合状態を解析するためのX線光電子分光法について、原理と情報深さ、バックグラウンド除去法など、実用的に必要な事項について解説する。 (9 榎本博行/5回) X線回折の原理から応用まで、X線の性質、X線回折による化学分析、X線回折を利用した解析方法など、最近の研究を含めて詳しく解説する。 (11 影島賢巳/5回) : 原子レベルにまで至る分解能を持つ計測・観察手段として広汎に用いられている各種の走査プローブ顕微鏡について概観する。その端緒である走査トンネル顕微鏡の原理と歴史、応用例を紹介したのち、そこから分化した原子間力顕微鏡およびその他の手法について、その原理と種々の分野への応用例を紹介する。	隔年 オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(工学研究科工学専攻 博士前期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
物質化学分野	有機化学特論	物質の構造や反応を理解する上で「電子」は極めて重要な役割を果たしている。特に、有機化学は、炭素の2s、2p軌道の電子が主体となっているため、その物性や反応と電子状態との相関が複雑なd、f軌道をもつ遷移金属化合物と比較してずっと単純明快である。このため、2pπ電子だけを考えるヒュッケル近似でも有機化合物の物性や反応性のある程度説明することができる。今日ではコンピュータの進歩により高精度の分子シミュレーション計算が容易に実行できるようになり、物性や反応の解析や予測に活用されている。本講義では、シミュレーションの基礎となる量子化学と分子軌道法を概説した後、シミュレーション計算の活用の仕方を事例をあげて紹介する。	隔年
	無機化学特論	物質科学の研究には、化学的な知識や考察が欠かせない。特に化学結合の本質を学ぶことは、新しい物質の構造や性質を理解するために不可欠である。この授業では、無機材料固体の結晶構造、化学結合、および物性について講述する。さらに実際に、先端理工学分野で使用されている物質・材料の構造と物性について、化学的な視点から講述する。また、受講する学生には、本講義に関する課題を与え、レポートを作成、発表、議論することによって理解を深めさせる。	隔年
	バイオナノテクノロジー特論	生体高分子構造や細胞機能の基礎事項を講述した後、最新のバイオナノ工学のトピックスを紹介し解説する。またナノレベルにおける観察手法についても講述する。	隔年
	ケミカルバイオロジー特論	ケミカルバイオロジーは、化学の技術と知識を用いて生命現象を明らかにする学問である。生物学的な研究では困難であった生命現象も、化学物質を「Tool (ツール、道具)」として用いたり、化学分野の分析方法を応用したりすることで新たな知見を得ることが可能である。本講義では、ケミカルバイオロジー分野で用いられている最新の技術等を紹介し、化学の技術が生命科学分野でどのように応用可能なかを考察し議論していく。また、学会等における学術的なプレゼンテーション能力の向上を図る。	隔年
	分子分光学特論	様々な電磁波を用いた分子分光について、原理と応用を学ぶ。分析対象にあわせて適切な分析手法を選び、得られた結果を解釈できるようにする。	隔年
先端理工学コース	資源工学特論	固液分離技術の知識は資源を有効活用するためには必要である。よって、本講義は次のトピックスについて学ぶ。 1) 固液分離技術の基礎、2) 固液分離の前処理、3) 沈降理論とその応用技術、4) 濾過理論とその応用技術、5) 圧搾理論とその応用技術、6) 遠心分離法とその応用技術、7) 固液分離の最新の話	隔年
	量子物理学特論	量子物理学の基礎を体系的に修得するため、量子力学に絞って基礎方程式の解釈と解法を中心に扱う。量子的状態の記述、状態ベクトル、演算子、行列に基づく量子力学、シュレディンガー方程式による波動力学の理論体系を概説し、中心力ポテンシャル、スピンと角運動量の取り扱いを詳しく説明する。また、トンネル効果やアルファ崩壊、磁場中の粒子の運動解説し、演習を課しながら計算力の修得をめざす。	隔年
	現代物理学特論	物理学の対象は、我々が日常的に目にする現象から、微視的には素粒子まで・巨視的には宇宙まで、様々な階層に及び、複雑多様な豊かな現象が見られるが、そこには普遍的に広く成り立つ時空・物質・相互作用に関わる基本法則が働いている。基本的な自然法則の知識を身につけながら、これを使って、これまでに解明されている最先端の科学的実験結果に対する理解を深める。	隔年
	先端物理学特論	物理学の法則は、素粒子・原子核のようなミクロの世界から巨大な宇宙にいたる様々な現象や運動を記述できるだけでなく、それ自身美しい対称性やその破れを内包している。この講義ではそれらを踏まえながら、原子核・素粒子・宇宙物理学の概論を学ぶ。また、特殊相対性理論についても学び、応用的な話題として素粒子反応・核分裂や宇宙線の物理も学習する。	隔年
	シミュレーション統計力学特論1	スーパーコンピュータ「京」に代表されるように、コンピュータの高速化により実験の前にシミュレーションによる「計算機実験」を活用することが現実 implement されるようになってきた。シミュレーションが必要となる系をよく考えてみると、結局、集合系(多体系)の予測が問題となっていることがわかる。系が全体としてあたかも生き物のような振る舞いを示す場合、単位となっている個々の要素の特徴が失われて数少ない「巨視的変数」で制御される。この情報の縮約は、伝統的には原子の集合系が問題となっているが、生物の集合系、人の社会行動系、スマートグリッド系、群制御・群知能系でも同様なことが起きている。 原子の集合系を起源とする統計力学を学ぶことで、上記の広い意味の集合系に対して洞察力を養い、人の社会行動(避難など)や群制御にたいする応用を身につけることを目標とする。授業ではシミュレーションプログラムによる実習もまじえて統計力学の式を体感的に理解できるように工夫する。	隔年
コース専門科目	先端理工学コース	物質化学分野	
		基礎科学分野	

授 業 科 目 の 概 要				
(工学研究科工学専攻 博士前期課程)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎 科学 分野	シミュレーション統計力学特論2	シミュレーション統計力学特論1では、沢山の要素の勝手な動きから如何に全体を代表する量、すなわち温度やエントロピー、を抽出したらよいかということを取り扱った。言い換えれば、平衡状態の統計熱力学を学んだ。 シミュレーション統計力学特論2では、非平衡状態を取り扱う。平衡状態に近い非平衡系の典型現象として「ゆらぎ」と線形応答の関係を学ぶ。平衡状態から遠い非平衡形の典型現象として結晶成長理論を学ぶ。	隔年	
	地球物理学特論	地球物理学とは、地球と地球近傍の宇宙空間を物理的な手法によって研究する学問分野である。地球内部から海洋、地表、大気圏、宇宙空間まで、地球物理学が取り扱う領域は幅広いが、本講では、太陽と太陽が引き起こす地球近傍宇宙空間の環境変動に焦点を当てて講義を行う。また講義の後半では、これらの知見がどのような観測事例に基づいて明らかにされてきたかを述べる。直接現地に赴くことが困難な宇宙空間の環境計測について、どのような物理量のどのような観測が行われているのか、実際の事例を元に学ぶ。これにより、幅広い意味での地球環境を理解し、地球環境データについて現代を生きる知識人として必要なリテラシーを養うことが本講義のテーマである。	隔年	
	複素解析特論	この科目は、「応用解析学特論」、「微分方程式特論1、2」などと同様、さまざまな専門分野に供するための基礎科目として位置づけられたものである。工学においては、複素数を用いることにより、色々な計算が簡明になる。この講義では、変数を複素数にまで広げて考えた関数(複素関数)の微分積分を修得する。特に、複素積分を用いることによって実関数の定積分が簡潔に計算できるようになることが主たる目的である。	隔年	
	現代幾何学特論	曲線は数学のさまざまな場面で現れるなじみ深い対象である。この講義では、3次元ユークリッド空間内の曲線を取り扱う。前半は微積分を用いて曲線の幾何的性質を理解する。後半は長さや角度などにとらわれず図形の連続的なつながりに着目した幾何学である位相幾何学(トポロジー)の観点から曲線、特に閉曲線の性質を理解する。	隔年	
	数理物理学特論	ラプラス方程式について、(1) 基本性質、(2) 境界値問題、(3) 数値解法について解説する。 例えば、安定した状態における温度分布、空間曲線に張られた安定な状態の膜、電荷や質量を持たない点における静電場や重力場のポテンシャルなどは、すべてラプラス方程式をみたす。このように、物理と工学の種々の異なる問題がラプラス方程式を解くことに帰着される。ラプラス方程式に、適切な境界条件を与えて解く問題を「境界値問題」という。 境界値問題の解法には(1) よく知られた関数を用いて解を表現する、(2) 数学解析の理論を用いて解の存在を証明する、(3) 数値的に近似解を求めるといように種々の法があるが、この授業では、数値的な近似解を求めるとい手順を紹介し構成し、近似解を評価することによって、数学的に解の存在を証明する手法を解説する。これらのことにより、ラプラス方程式を数値的に解くことができ、その解は確かに真の解を近似していることがわかる。	隔年	
	確率モデル特論	拡散方程式とその差分法解法の確率論への応用を学ぶことをテーマとする。前半では、スターリングの公式の証明を解説し、ド・モアブル-ラプラスの定理を証明する。さらに、エントロピーを用いて大偏差原理を解説する。 後半では、ランダム・ウォークを解説し、それが拡散方程式の差分近似となることを示す。また、ランダム・ウォークを用いて、拡散方程式の境界条件の意味を解説する。差分近似解が真の解に収束することは、ド・モアブル-ラプラスの定理を用いれば証明される。また、大偏差原理は拡散方程式の漸近挙動を示していることがわかる。	隔年	
	現象数理学特論	理工学や様々な自然現象の記述に用いられる力学系について学ぶ。線形系よりも非線形力学系に主眼を置いて、その物理・化学・生物現象へ応用し非線形力学系の理解を深める。数値解析等の演習を通して現象記述としての力学系理論の習得を目指す。	隔年	
	コース 共通 分野	先端理工英語1	主に、リーディング・リスニング・ライティングに関し、これまで培ってきた基礎学力を基に、理系論文を読みこなせるよう、より実践的な英語力を養成することを目的とする。本科目では、これらの基礎力を養うことを目指す。また、これらを達成するために、先端理工学コースの教員が指導を行う。	
		先端理工英語2	主に、リーディング・リスニング・ライティングに関し、これまで培ってきた基礎学力を基に、理系論文を読みこなせるよう、より実践的な英語力を養成することを目的とする。本科目では、これらの応用力を養うことを目指す。また、これらを達成するために、先端理工学コースの教員が指導を行う。	
	先端理工学 コース	数理解析分野		

授 業 科 目 の 概 要			
(工学研究科工学専攻 博士前期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
光・電子デバイス工学分野	半導体デバイス工学	半導体デバイス工学は、エレクトロニクスの主役である半導体デバイス(電子素子)を理解する上で、重要な科目である。 本講義は、半導体工学の基礎である接合(金属-半導体接触、pn接合、MOS構造)のエネルギーバンド図と電気的特性について復習した後、各種半導体デバイスの動作原理について話し合う。その後、各々の半導体デバイスの問題点について検討し、改善策に関して議論する。	隔年
	光デバイス工学	光ファイバの出現以来、光ファイバ通信技術ははげましく発展し、現在のICT(情報通信)やIoT(様々なモノがネットワークにつながる)社会を支えている。 本講義では、光ファイバを用いた光デバイスや光導波路型の光デバイスを解説する。また、通信以外の分野で注目されている光センサについても解説する。	隔年
	集積デバイス工学	近年のICは、ほとんどがMOSトランジスタで構成されている。一方、学部での講義ではバイポーラによる電子回路の理解が主になっているため、産業界で必要とされる知識が大幅に不足している。 本講座では、MOSトランジスタの電気特性を理解した上でトランジスタレベルの回路設計(すなわちアナログ回路設計)の知識およびスキルを習得する。	隔年
	光・電子デバイス工学特論	本講義では、光デバイスおよび電子デバイスの先進的な基礎研究、開発・応用をめざした展開のための研究などを紹介し、受講生が社会に出た後も実践的に研究開発に携われるよう技術力を養うことを目的とする。 基礎研究の例として、量子構造を生かした半導体光・電子デバイスの原理と構造を講義し、新規ナノ構造を利用するナノテクノロジーの出現とバイオ分野への展開についても紹介する。 またアクティブラーニングとして、受講生自らが選択したトピックについて図書館やインターネットを活用して技術調査を行い、文献紹介とともに技術の概要を発表してもらう。	隔年
電子通信工学コース 光・マイクロ波工学分野	電磁波論	電磁界の現象、記述、取り扱い方、解析方法について述べ、電磁界の基本的な現象を説明及び数学的取り扱いができることを目的とする。	隔年
	アンテナ工学	アンテナ工学では電波の送受信や計測に欠かせないアンテナについてその原理、特性、計測方法について勉強する。 電波は音声や画像情報を運ぶ手段としてラジオ放送やテレビ放送、衛星通信に重要な役割を果たしている。近年、携帯電話、無線LAN、カーナビゲーションシステムが普及され、電波は日常生活の隅々に利用されている。電波は通信のみならず、リモートセンシング、計測、医療、加工等、様々な分野で幅広く利用されている。電波を送信、または受信するにはアンテナが用いられる。周波数や用途に応じて、様々なアンテナが利用されている。最近では、新しい通信技術に対応できるようにアンテナの小型化、広帯域化、高機能性などといった研究は盛んに行われている。 本講義では、まず電波を理解するために必要な理論について勉強し、次に電波の発生や伝搬などについて考察し、それからアンテナの特性を表す諸定数について習う。最後には種々のアンテナの構造を見ながらそれらの特性などについて講義する。	隔年
	電磁計測特論	本講義では電磁波を用いて計測を行う際に必要になる、基本的な知識について講義する。とくに、レーダ計測や電波計測で用いられる計測機器や信号処理について学ぶ。	隔年
	電波応用工学特論	電磁波(電波と光)を用いたリモートセンシングは、遠くにあるものを現地に行くことなく測定する技術であり、社会の様々な分野で重要な技術となっている。例えば、レーダーによる船舶・航空機等の監視システムや人工衛星による地球環境のモニタリングがあげられる。本科目では、リモートセンシング技術を理解するために、レーダー観測の基礎的な事項からその応用例までを講義する。	隔年
	衛星通信工学特論	近年の情報通信ネットワークのグローバル化に伴い、高度情報通信社会において必要不可欠なインフラストラクチャーになった衛星通信回線について、今日までの発展の歴史と利用形態の特長について述べ、そのシステム構成の概略を説明する。特に遠距離の宇宙空間で行われる衛星通信特有の伝送方法と回線設計の問題点を指摘し、降雨による電波の減衰や交差偏波識別度(XPD)劣化等、電波伝搬上の諸問題と、ネットワーク運用上の注意点を詳しく論じる。また最近のブロードバンド通信に適應した衛星回線によるインターネット利用についても触れる。	隔年
電力システム工学	社会の基盤である電力システムに関し、その構成要素である発電分野、送配電分野およびその制御保護技術などについて学ぶ。具体的には、(1)火力、原子力、水力、再生可能エネルギーなどの各種発電技術、(2)架空送電線、ケーブル、変電設備、制御保護、配電系統などの電力輸送技術、(3)安定度、周波数制御方式、電圧制御方法、保護方式などの制御保護技術について学ぶ。	隔年	

授 業 科 目 の 概 要			
(工学研究科工学専攻 博士前期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
工学専攻 電子通信工学コース 通信・ネットワーク工学分野	ネットワーク工学特論	情報通信ネットワークは21世紀に入ると、大きく変貌をしつつある。一つは、基本技術にIPを、すなわちパケット交換技術を取り入れたことである。このことにより、コンピュータ間通信や映像配信などを実行するマルチメディアネットワークが実現される用にある。もう一つは、光交換技術を積極的に採用していることである。このことは、超高速通信と高スループットの実現の原動力を果たしている。本講義では、光ネットワーク、またはIPネットワークの基本技術と最新動向を学習することを目的とする。	隔年
	情報セキュリティ	ネットワークを利用した様々なサービスが導入される中、こうしたネットワークで送受信される情報には盗み見されたり、改ざんされたりはならない重要なものが含まれています。本講義では、情報セキュリティにおける基本的な要素である暗号について詳しく解説した後、秘密を守る機能である秘匿機能および改ざんを防止する認証、署名機能がどのように活用されているかについて解説します。特に暗号の安全性の根拠がどのような問題に依存しているのか、それらの暗号を安全に利用するためのポイント等について理解することを目指します。また、最近注目を集めているブロックチェーン技術について、その特徴を詳しく示します。	隔年
	信号処理	音声や画像および映像など様々な信号はコンピュータではデジタル信号として取り扱われる。そして、それらの処理には様々なデジタル信号処理技術が用いられている。本講義では、デジタル信号処理の基礎と応用について解説する。また、デジタルフィルタの設計などの演習を行い実践的に理解することを目的とする。	隔年
	暗号理論特論	インターネットで安全な通信を提供するプロトコルにTLS(旧称:SSL)があります。TLSには様々な暗号技術が使用されています。本講座では、まず、TLSに用いられている主な暗号技術について紹介し、TLSで用いられる秘密鍵暗号技術であるトリプルDESとAESのアルゴリズムについて解説します。次に、主たるテーマである公開鍵暗号技術について、Diffie-Hellman鍵共有方式とRSA公開鍵暗号を原理から理解できるように、実装に必要な数論アルゴリズムを詳細に解説します。更に、フリーの計算機代数ソフトウェアPARI/GPを用いた実習を通じて、公開鍵暗号の理解を深めます。また、その他の公開鍵暗号技術についても詳解し、将来、暗号にとっては脅威となる量子コンピュータ時代の暗号についても言及します。	隔年
	信号システム理論特論	状態空間表現に基づく制御系設計理論、いわゆる現代制御理論の基礎を習得することを目的とする。また、MATLABを使った制御系の設計ができるようになることを目指す。このためには、制御対象や制御仕様を数式で適切に記述すること、制御理論を正しく理解すること、MATLABの基本的な使い方に習熟することが必要である。	隔年
	情報システム工学特論	現代社会においては、産業上のいわゆるエンタープライズシステムを中心とした情報システムは社会生活全般において不可欠なインフラの一つとなっている。本講義ではこの情報システムを設計・構成する上で重要なデータベースシステムやシステムの信頼性などをまず講述する。また、情報システムに蓄積されるビッグデータの扱いは企業戦略の立案や経営効率の向上のために非常に重要である。領域の知識やタスクを試行やデータベースの蓄積データから計算機により自動的に獲得する機械学習は人工知能分野の中でも特に重要な技術の一つであり、近年ではこの機械学習の実用化技術としてデータマイニングの研究も進められている。本講義では情報システム技術を概説するとともに、これらの発展のために重要な機械学習技術に関して理論的な面を中心に講述する。	隔年

授 業 科 目 の 概 要			
(工学研究科工学専攻 博士前期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
計測制御工学分野 制御機械工学コース コース専門科目	現代制御特論	本講義では物理システム(電子回路、機構など)の制御に必要なとなるシステム制御系の設計方法について解説することで、マイクロコンピュータやPCなどのデジタル装置を使用したフィードバック制御器の設計方法を理解する。	隔年
	ロボティクス特論	ロボティクスは電気電子、機械、制御、情報、計測等複数の専門分野のテクノロジーが集約された応用学問領域である。特定のタスクが実行できるロボットを実現するためには、各分野の専門知識及び応用技術を理解した上で、それらを目標とするタスク実現過程においてうまく機能するように実装しなければならない。 本講義では、ロボティクスの特徴である多リンク系の自律移動制御の代表的なロボットとして、移動体上にマニピュレータが搭載された移動型マニピュレータを取り上げ、機構、運動学、動力学、冗長制御、力制御、軌道生成、システム実装等ロボティクス技術全般を理解することを目的とする。	隔年
	計測工学特論	ロボットやモノづくりに必要な工作機械などを制御するためには、物体の情報(位置、形状、動き、物体に作用する力やトルク)や温度、圧力のような状態量を計測する技術が必要不可欠である。本講義では、最初に、自動車やロボット、工作機械等で用いられているセンサを例に挙げ、特定の目的を達成するために未知の定量的情報を知る方法について学ぶ。次に、「生体に学ぶ」という観点から、目、耳、皮膚のような受容器(センサ)を用いて外界の情報を処理し、複雑な運動を実現しているヒトの感覚情報処理のしくみについても学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (7 宇田豊(2023年度より6 入部正継) / 7回) 物体や状態量を測る技術とその応用例について講義する。 (59 足田真一 / 8回) 人間の感覚情報処理のしくみについて講義する。	隔年 オムニバス方式
	バイオメカニズム論	本講義では、四肢の切断や麻痺などにより正常な運動機能を発揮できない身体部位を支援する現行の工学的手法を学習すると共に「義足・下肢装具」を例に挙げ、メカトロニクス分野における先端的な研究開発成果の現状と、今後の諸問題を定量化する手法に関して理解を深める。	隔年
	アクチュエータ工学特論	電動機の原理や構造を学び、簡単な制御回路の動作をシミュレーションで理解する。 (オムニバス方式/全15回) (23 月間満 / 8回) パワエレや電動機、電動機制御の基礎を復習し、回路シミュレータによる演習を実施する。 (12 兼宗進 / 7回) 情報科学	隔年 オムニバス方式
	機械力学特論	現代の機械技術においては、微小な振動が、機械の性能や機能を支配する重要な要因となる分野が増えている。これらの分野においては静的な強度から動的な強度、すなわち動剛性、振動減衰性、振動の周波数特性などの振動特性が設計の基準となっており、機械技術者には防振や制振に関する知識とあわせて機械振動特性解析のための基礎的な能力が求められている。本講義では学部で扱った一自由度振動系の復習を含めて、以下のテーマを取り扱う。 二自由度振動系、防振・制振、振動の計測、自励振動・係数励振・非線形振動	隔年
	材料力学特論	機械・構造物の破壊事故は、人命・財産の多大な損失をもたらす。破壊事故を防止するためには、なぜ破壊が生じるのかを知り、破壊事故を防ぐための対策を講じる必要がある。本講義では、物体に生じる応力・ひずみを求めるために必要不可欠である弾性力学について学習する。さらに、破壊力学(き裂の力学)、疲労強度に関する基礎的な内容について学習し、理解することを目的とする。	隔年
	加工学特論	最先端科学・技術の分野で要求される各種機器システムでは、すぐれた設計と共に、それらを実現するための高度な生産技術が要求され、加工技術はその中核をなすものである。本講義では、最先端の加工技術の理解を目的とする。 (オムニバス方式/全15回) (55 田代徹也 / 8回) ナノメートルレベルの精度を目指す、いわゆる超精密加工技術の理解を目的とする。 (21 田中宏明 / 7回) 切削加工中の加工状態と切削条件の関係を把握し、切削条件による切りくずの形態や工具摩耗の発生原因等の理解を目的とする。	隔年 オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要					
(工学研究科工学専攻 博士前期課程)					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
制御機械工学コース コース専門科目	機械・加工学分野	CAD工学特論	<p>CADとは計算機の手助けによって設計あるいはデザインの作業を効率よく高度なものにするための技術であり、CAD工学とはCADを作るための技術や理論のことをいう。この科目では通常の設計製図やコンピュータの講義では学ぶことができないCAD特有の理論について学習をし、どのようにしてコンピュータを利用してよい設計を得ることができるかについて知ることが目的とする。特に最新の話題や新しい技術について学び、大学院生にふさわしいCADの知識と能力を身につける。CAEの理論について注目して学習する。</p>	隔年	
	エネルギー・環境工学分野	熱工学特論	<p>自動車、航空機のエンジンなどの動力源や、火力、原子力発電所の発電器を駆動する動力源は、熱エネルギーを動力エネルギーに変換することによって得られる。このように、熱は人類のエネルギー利用にとってきわめて重要なものである。本講義では、熱・化学エネルギーと機械的仕事の相互変換による最適運用に係わる技術を論じる。 (オムニバス方式/全15回) (36 森幸治/8回) 燃焼を化学エネルギーから熱への変換という観点から考える。 (19 高岡大造(2022年度より63 田中孝徳)/7回) エネルギーの「量：(エンタルピー)」と「質：(エクセルギー)」の2つの指標からエネルギー変換を考える。</p>	隔年 オムニバス方式	
		環境設計工学	<p>近年、化石燃料の大量消費によるエネルギー枯渇問題、温室効果ガスの増大による地球温暖化問題が深刻化しており、我々技術者にとっても、早急に改善していくべき問題である。これらの問題を解決するためには、従来のような大量に製品を生産し、大量に消費するシステムから脱却し、環境影響の小さい製品の設計、あるいは、リサイクルし易いような製品を設計するなど環境に配慮しながら製品を設計し、生産していく必要がある。 本講義では、このような環境配慮設計手法(エコデザイン、ライフサイクルデザイン)について解説を行い、特に、製品が生まれてくる(素材の調達、製造)ところから死ぬ(廃棄)までのライフサイクルにおける環境影響評価を行う手法「ライフサイクルアセスメント(LCA)」について焦点を当てる。</p>	隔年	
		エネルギー変換工学特論	<p>近年、化石燃料を主体とする火力発電は、それに伴う炭酸ガスの排出によって地球温暖化を引き起こすとして大きな問題となっている。一方、原子力発電は炭酸ガスを放出しないので地球温暖化には寄与しない反面、半減期の長い使用済み核燃料の処理問題などが大きな課題である。これらの化石燃料が確実に枯渇する中で、浪費せずに効率的・長期的かつ安全に使うことが重要である一方、持続可能で安全な新しい発電システムを開発し、実用化していくことが急務である。以上のような背景から本講義では、「地球温暖化と化石燃料の枯渇問題」を念頭におき、火力、原子力、水力などを利用した従来の発電方式と、持続可能な発電方式として最近注目されている風力、太陽光の利用技術、さらには燃料電池の開発動向などについて幅広く解説する。</p>	隔年	
		流体工学特論	<p>粘性流体の一般の流れを解析するために必要な流体の基礎方程式を導出し、その解析手法について理解する。さらに、工業材料に多く見られる非ニュートン流体に関する基礎知識について学習し、その工学的応用の調査、検討を行い、その成果の発表を通じて、非ニュートン流体の工学的応用について知識を深める。</p>	隔年	
		コース共通分野	テクニカルコミュニケーション1	<p>エンジニアとして活躍する上では、英文摘要、論文、マニュアルさまざまな文書を作成し、口頭発表などを行う必要がある。大学院の学生としてふさわしい工学系の文書作成や発表の基本能力を身につけるためには、テクニカルコミュニケーションの能力が必要になる。また専門的な工業英語の知識も必要になる。先端技術の論文を作成する前の段階として、テクニカルコミュニケーションの基礎を学ぶ。この授業では主にエンジニアリングに利用する英作文の演習を行う。</p>	隔年
			テクニカルコミュニケーション2	<p>エンジニアとして活躍する上では、英文摘要、論文、マニュアルさまざまな文書を作成し、口頭発表などを行う必要がある。大学院の学生としてふさわしい工学系の文書作成や発表の基本能力を身につけるためには、テクニカルコミュニケーションの能力が必要になる。また専門的な工業英語の知識も必要になる。先端技術の論文を作成する前の段階として、テクニカルコミュニケーションの基礎を学ぶ。この授業では主にエンジニアリングに利用する口頭発表のための準備について学ぶ。</p>	隔年

授 業 科 目 の 概 要			
(工学研究科工学専攻 博士前期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
制御機械工学コース コース専門科目	国際工学技術特論1	<p>講義全体として、講師が考える「グローバルに通用する人材の要件」を伝え、学生自身なりに考えながら咀嚼してもらうことを目指す。</p> <p>講師が考えるグローバルに通用する人材の要件とは下記の3点。</p> <p>(1) 自分の意見を自分の言葉で伝えることができる—どんなことにも興味・疑問を持ち、それを自分なりに解釈して説明することができる、そのような癖をつける。</p> <p>(2) 多様性(ダイバーシティ)を受容できる—他国の文化を理解する。同時に自国の文化も理解し、その差を知らなければ比較ができない。その上で相手の言動を理解できる。</p> <p>(3) 現状を的確に捉え、目標に向けたマネジメントを行える—スピードが求められる現在では手持ちの武器とすぐに調達可能な武器で即決即応が求められる。そのためのマネジメントと、中期的なマネジメントを使い分けることができる。</p> <p>講義では、知識そのものを教授するのではなく、実務者の視点に沿った考え方や問題に対するスタンス、知識の活かし方を伝える。</p> <p>プログラム構成は「チーム研究」と「個別講義」の2本柱とする。</p> <p>チーム研究：与えられたテーマについて、1チーム2～4名でグループ研究を行い、発表を行う。テーマは例えば「負けるな、日本企業」「失敗事例から得られる教訓」など、「海外」や「技術」の切り口で講師が与える。</p> <p>個別講義：FE試験科目に対応した分野について各回でとり上げる。講義内では基本的な知識がどのように製品開発や研究に活かされているか、可能な限り実例を交えながら解説する。</p>	集中
	国際工学技術特論2	<p>講義全体として、講師が考える「グローバルに通用する人材の要件」を伝え、学生自身なりに考えながら咀嚼してもらうことを目指す。</p> <p>講師が考えるグローバルに通用する人材の要件とは下記の3点。</p> <p>(1) 自分の意見を自分の言葉で伝えることができる—どんなことにも興味・疑問を持ち、それを自分なりに解釈して説明することができる、そのような癖をつける。</p> <p>(2) 多様性(ダイバーシティ)を受容できる—他国の文化を理解する。同時に自国の文化も理解し、その差を知らなければ比較ができない。その上で相手の言動を理解できる。</p> <p>(3) 現状を的確に捉え、目標に向けたマネジメントを行える—スピードが求められる現在では手持ちの武器とすぐに調達可能な武器で即決即応が求められる。そのためのマネジメントと、中期的なマネジメントを使い分けることができる。</p> <p>講義では、知識そのものを教授するのではなく、実務者の視点に沿った考え方や問題に対するスタンス、知識の活かし方を伝える。</p> <p>プログラム構成は「チーム研究」と「個別講義」の2本柱とする。</p> <p>チーム研究：与えられたテーマについて、1チーム2～4名でグループ研究を行い、発表を行う。テーマは例えば「負けるな、日本企業」「失敗事例から得られる教訓」など、「海外」や「技術」の切り口で講師が与える。</p> <p>個別講義：FE試験科目に対応した分野について各回でとり上げる。講義内では基本的な知識がどのように製品開発や研究に活かされているか、可能な限り実例を交えながら解説する。</p>	集中
	産学連携機械工学特論	<p>巨大企業で要職につき、第一線で活躍している方々に「日本発ものづくり」と「グローバル事業展開」をキーワードにした講義をしていただき、企業におけるモノづくりの現状、大学で習った知識の活かされ方等について理解すると共に、学生諸君の進路選択に役立つ情報を提供する。</p>	
情報工学コース 情報基礎学分野	情報数理学特論	<p>情報数学、特に集合論、束論、ブール代数及びグラフ理論などについて講述する。詳細な項目は、次の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集合、関係 ・半順序集合 ・種々の束 ・ブール束 ・その他、情報数学に対する話題 	隔年
	自然言語処理特論	<p>自然言語の意味表現を行う高度な理論を理解し、自然言語処理に関連する先進的な研究開発を行う上で必要となる基盤技術を習得する。自然言語は人間の認知的側面と知的活動に深くかかわる。自然言語処理では人間の意味理解や対話活動を知識、言語構造、意味表現、推論といった処理過程に整理し、計算機処理可能な形式的なデータ構造およびそのアルゴリズムを開発する形で発展してきた。本講義では、それぞれの基本的なデータ構造と処理を解説するとともに、それが自然言語の認知・意味・理解モデルとどのような意義と関係をもつか位置づけを明らかにしつつ解説する。</p>	隔年

授 業 科 目 の 概 要			
(工学研究科工学専攻 博士前期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
情報処理学分野	パターン認識特論	文字認識、音声認識、画像処理などのパターン認識について、認識対象メディアを横軸に、パターンの観測、前処理、特徴抽出、識別などの処理の流れを縦軸にして、できるだけ系統的に講述するとともに、システム事例の紹介を通して、パターン認識の現状と問題点、可能性などについて言及する。また、講義と並行して、認識にまつわる基本的なアルゴリズムのプログラムを作成し、パターン認識に関する理解を深める。	隔年
	知能情報処理特論	知能情報処理は蓄積されたデータにおいて、一見、無関係に見えるデータ間の関係の中から有意な関係を見つけたしたり、有用な情報だけを抽出したりする技術である。概念についての情報処理であるオントロジーについて講述する。オントロジー構築・表現ツールのひとつであるトピックマップを用いた演習を試みる。本講では知能情報とその処理について理解を深めることをめざす。	隔年
	三次元計測特論	現在、さまざまな分野において三次元情報を活用した事例が見られる。物体の三次元情報を計測し、コンピュータに取り込むことで、工業・医療・アパレルなど、広い分野に応用されている。ますます、高精度、短時間で三次元情報が計測できる測定法が要求されている。本講義では、現在使用されている三次元計測法の全般的な理解を目的とし、講義を行う。	隔年
	画像情報解析特論	本講義では、カメラによるイメージングの幾何学、カメラのキャリブレーションにおける最適化理論、画像雑音の存在下のエッジ点検出の最適化理論、ステレオカメラを用いた3次元表面点測定法のエピソード幾何学を紹介する。これらの方法はコンピュータ・ビジョンや画像解析の基盤である一方、工学・科学分野において広く用いられている「数学的ツール」でもあるため、研究者の基盤知識として学んでもらいたい。	隔年
	コンピュータビジョン特論	画像は、シーンの3次元情報がカメラ等の投影変換によって、情報が2次元に縮退したものである。コンピュータビジョンでは、画像から3次元情報を復元するだけでなく、シーンの意味を理解することを目的とする。シーンの理解には、3次元情報だけでなく、動画像における時間変化、シーンの複雑さを表現する空間周波数も有効な手掛かりと考えられる。本講義では、画像における特徴量となる、色・局所変化量・形状・空間周波数・反射等の抽出アルゴリズムを解説する。また、応用となる人検出と認証・ヒューマンインターフェイス・マルチメディア応用技術について解説する。	隔年
生産管理工学分野	計算機統計学特論	近年、高い計算能力と洗練されたグラフ化能力を駆使して大量のデータから有益な情報を引き出す技術が数多く開発され、様々な分野の実際的な問題解決や意思決定において主要な役割を果たしている。それらの技術は、計算機統計学と総称され、情報化社会の要である。本講義では、計算機統計学の数学的理論について概説し、あわせて工学的応用についても述べる。現実問題を解決するためコンピュータソフトとしてRなどを使う。	隔年 集中
	人間工学特論	どんなに高度な技術システムでもそれを使うのは人間である。人工物設計における人間と人工物の関係に配慮することの重要性を理解し、人間の諸特性と人間中心設計手法の基礎を修得する。	隔年
計算機基礎学分野	理論計算機科学特論	計算機科学における理論的な側面に焦点を当て、理論的な計算機科学に関するテーマを選択的に取り上げ輪講形式で講義をすすめる。オートマトン理論、形式言語理論、離散数学に関する知識並びに英語論文の読解力において学部程度の学力を有していることが望ましい。特に有限オートマトン、正規言語、正規表現に関する知識は必須である。理論的な計算機科学に関するテーマを扱った英語論文を読み、毎回受講学生にプレゼンテーションをさせる。	隔年
	システムLSI設計特論	ハードウェア開発に関しては当然であるが、ソフトウェア開発、特に組み込みソフトウェア開発においても、プロセッサやインタフェースなどのハードウェアに関する知識や経験は極めて重要である。本講義では、システムLSIに関する知見を高めるとともに、プロセッサ設計を通して、システムLSIに関する設計技術を実践的に学ぶことを目的とする。	隔年
	コンピュータグラフィックス特論	コンピュータグラフィックスの世界は、基礎から応用まで幅広く様々な分野に及ぶ。その中でも、リアルな3次元画像を生成するための手法は、これらの基礎に当たる。そこで、本講義では、画像生成の原理やその高速化手法等について深く掘り下げて学ぶ。視線探索法やラジオンティ法、フォトンマッピング法など画像生成手法に関連する代表的な論文やテキストを選び、輪講形式で講読する。すなわち、受講生の中から発表者を募り、じっくり説明してもらう。教員や他の受講生は随時質問をしながら対話的に講義を進め、概念や技術に関する理解を深める。	隔年

授 業 科 目 の 概 要				
(工学研究科工学専攻 博士前期課程)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
コース専門科目	情報工学コース 視覚情報学分野	光情報センシング特論	計測・センシングは外界から情報を取得するための技術である。計測は物理量そのものの取得を指すことが多いが、センシングは物理量だけでなくそれにより形作られる意味情報の取得までを含む。センシング(計測)は物理現象を電気信号に変換する機器(センサ)を介して行われるが、物理現象の中でも特に光を利用したセンシング手法が広く用いられている。それは並列性、高速性、非侵襲性など光が多く優れた性質を有するからである。 本科目では光センシングの中でも、イメージセンサやカメラを利用し光を2次元分布情報すなわち画像として取得するセンシング手法を紹介する。特に、近年コンピュータビジョンや光計測の分野で登場してきた比較的新しい手法を取り上げる。講義では対象とする画像センシング手法を毎回変え、それに関連する主要文献(主に英語論文)を配布資料としてセンシング手法の要点を解説する。受講者には、講義で取り上げた画像センシング手法の中から1つを選び、それに関する英語文献を読んで内容を口頭とレポートにて発表する、という課題を与える。	隔年
		光情報処理特論	光情報処理とは光技術をベースとし、光をキャリアとする情報処理システムの入力から処理、出力までの情報処理全般を指し、光メモリ、光通信、光画像処理、光コンピューティング等を含む、広大な学術領域である。一方で、われわれ人間は、キャリアである光を網膜以降の視覚系で処理し、大脳レベルで形や色を認識すると言われており、一種の「光情報処理」を行っているといえることもできる。本講義では、人間の光情報処理である色知覚のみならず、計算機視覚における光情報、特にカラー情報の取得から解析、表現までを具体的な研究事例を紹介しながら解説し、この分野の基礎的知識や技術の理解を深めることを目的とする。	隔年

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとの設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする類を作成する必要はない。

授 業 科 目 の 概 要 (工学研究科工学専攻 博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
先端理工学コース	先端理工学特殊研究	<p>専門分野における独創的な研究や開発を行う。現在、及び未来に求められる課題を分析し、解決に近づけるための問題設定を行って、先端的な研究を実践する。また、得られた成果を客観的に分析して、その価値を公開する能力を涵養する。</p> <p>(7 榎本博行) ナノ複合材料の合成に関する基礎および応用に関する研究を行うことで、新規複合材料を創製する。 (30 安江常夫) 表面科学とナノテクノロジーに関する研究について、新規な成果を得るための課題や方法を確立し、それを完遂する能力を養う。</p> <p>(10 川口雅之) 機能性材料の作製、および物性評価に関する研究を行い、先端的な材料開発の能力を涵養する。</p> <p>(14 齊藤安貴子) ケミカルバイオロジー分野、および、生物有機化学分野の研究を進め、自らの研究が社会にどのように貢献できるか考えて目標を設定し、新たな成果を生み出す能力を養う。</p> <p>(29 森田成昭) 分子分光学の基礎、あるいはその応用に関する研究を開始するに当たり、その準備として、専門知識や高度技術を習得する。</p> <p>(33 湯口宜明) バイオナノ工学の基礎と応用に関する研究を行い、先端的な研究課題の取組み及び考察の技法を養う。</p> <p>(2 阿久津典子) 結晶成長に関連して、ディープラーニングの教師データとして使用できる、高精度かつリアルな表面・界面ダイナミクス・シミュレーションプログラムを開発する。 (22 原田融) ハドロシオン・原子核の生成・構造・崩壊についての新しい計算手法を開発して、理論計算を行うとともに論理的な思考を養う。実験データの理論的解析を進め、物理現象の解明を進める。</p> <p>(26 溝井浩) 先端的な放射線計測装置を開発し、その性能評価を行う。また、その装置を用いて、原子核の構造や反応を研究するための実験を行う。 (20 中村拓司) 低次元トポロジ、特に結び目理論における研究を行い、新しい定理を生み出し、他分野への応用を図る。</p> <p>(25 萬代武史) 解析学、特に微分方程式やウェーブレット解析における研究を行い、新たな成果(定理)を生み出す。 (31 柳田達雄) 現象数理学とその応用に関する研究を行い、現象に関する新たな知見および概念を創出する。</p>	
電子通信工学コース	電子通信工学特殊研究	<p>電気電子工学・情報通信工学分野における基盤技術の開発と構築をめざした先端的な研究開発を行う。現代および未来社会における社会的要請を分析・予測し、適切な技術的課題を設定する能力とともに、その課題を解決する手法を実践・模索、得られた成果を自己分析してその価値を公開・発表する能力を涵養する。</p> <p>(1 小見山彰) 電磁波の伝搬、導波、散乱、回折等の分野の研究動向を把握し、新しい課題を設定するとともに、数学的理論、数値計算法の深い理解の下、問題解決ができるよう指導する。</p> <p>(4 伊與田功) 電力、エネルギー変換に関する課題について研究動向を把握し、新しい課題を設定するとともに、実験、シミュレーションを用いた独自の解決方法を考え、検証することができるよう指導する。</p> <p>(24 松浦秀治) 半導体物理に関する知識を深め、次世代半導体の物性を評価できる測定方法の提案・開発、及び要求される性能を発現できる半導体デバイス構造を提案できる能力が身に付くように指導する。</p> <p>(18 富岡明宏) ナノフォトニクス領域におけるナノ材料の開発・メゾ構造体への組み上げを通して、次世代有機エレクトロニクスに応用できる光・電子デバイスの基礎研究を行う。</p> <p>(11 木原満) 光デバイス技術の研究動向を把握し、新しい課題を設定するとともに、数値計算による予測の基に、実験的検証において問題解決ができるよう指導する。</p> <p>(23 前川泰之) 衛星通信工学の電波伝搬現象の知識を深め、測定値や収集した情報の解析結果を従来の研究成果と比較し、新たな伝搬路推定法を提案することを指導する。</p> <p>(34 渡邊俊彦) 計算知能工学技術、機械学習技術に関して研究動向を把握し、新しい課題を設定するとともに、シミュレーションや実験を用いて独自の手法を考案し、その性能を検証することができるよう指導する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
（工学研究科工学専攻 博士後期課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
電子通信工学コース	電子通信工学特殊研究	<p>（8 海老原聡）地下電磁波計測工学に関する知識を深め、現在の地中レーダ計測の課題を自ら発見し、新たな考えをアンテナ、レーダシステムや信号処理法へ導入することで、課題を解決できる能力が身に付くように指導する。</p> <p>（27 村上恭通）情報セキュリティ技術に関して主に公開鍵暗号の課題について、研究動向を把握し、新しい課題を設定するとともに、暗号理論・計算量理論・数学的理論の深い理解の下、問題解決ができるよう指導する。</p>	
制御機械工学コース	制御機械工学特殊研究	<p>制御機械工学特殊研究では、指導教員の助言に基づき、以下の研究活動を、高い倫理観を持ち主体的に行うことを通じて、研究者・技術者として社会に貢献できる能力の獲得を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関連分野のみならず、諸分野における現状や課題に関する知識の吸収 ・ 新規事象の発見、考察 ・ 独創的なアイデアの創出 ・ 研究計画の立案、実施、評価、改善 ・ 成果の公表 <p>（3 井岡誠司）材料力学、連続体力学、破壊力学を基礎として、材料の強度評価や部材内部の欠陥検出手法の研究をもとに、機械・構造物の健全性維持のための研究を行う。</p> <p>（5 宇田豊）超精密形状計測および評価、機械要素特性測定および評価に関する独創的な手法を提案でき、有効性を確認する方法についても考案できるように研究を行い、学術論文としてまとめられるように指導する。</p> <p>（9 兼宗進）情報社会の基礎となる情報システムと、それを支えるソフトウェア、ネットワーク、データベース、セキュリティの技術を概観し、計測制御工学分野への応用についての発展に寄与する技術を探求する。</p> <p>（15 高岡大造）自らの知識と発想に基づき、微生物燃料電池や固液分離のメカニズムの解明とその工学的応用のために研究計画の立案、研究の実施、結果の評価、研究方法の改善のPDCAサイクルを回すことによって、新規事象の発見、成果の発信を行うための能力を育成する。</p> <p>（16 田中宏明）超精密加工に関する独創的な課題を創造し、新しい加工原理や加工現象の解析・解明を行う。</p> <p>（19 中田亮生）局地的な気象または水象の観測を行い、広範な産業分野への応用として、発生する問題の解決法の提案や有用な製品開発について検討する。対象分野の気象および水象に関する詳細な観測結果を基に、産業応用上有用な目的意識を持った研究を遂行できるよう指導する。文献調査、主にフィールドでの観測、データの整理・分析を経て、問題の解決法の提案や有用な製品開発までを行う。成果は、関連する国内外の学会で口頭またはポスター発表を行うとともに、学術雑誌に掲載されるレベルの原著論文にまとめることを目標とする。</p> <p>（21 新関雅俊）コンピュータを利用した設計の基礎技術の開発を行うとともに、効率的によりよい設計が得られるような手法について検討する。必要とされるソフトウェアの開発および効果的な利用について理解し、指導ができることを目的とする。</p> <p>（28 森幸治）エネルギーシステムおよび熱流動現象に関してテーマを設定し、調査、課題設定、研究、結果の整理および公表を通し、これまで未解明であった重要課題あるいは今後重要となる課題の解決に資する情報を社会に提供する。この研究を通して、社会に貢献する研究者を育成する。</p> <p>（32 山本剛宏）自らの知識と発想に基づき、複雑流体の流動現象の解明とその工学的応用のための研究を計画、遂行し、データの解析、新規事象の発見、成果の発信を行うための能力を涵養する。</p> <p>（17 鄭聖熹）ロボット・メカトロニクス分野において、これまで解決できていない社会的ニーズの高い課題を解決する独創的かつ有用性の高いシステムの研究開発を行い、ロボット・メカトロニクス分野の自立した研究者になるための研究指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要 (工学研究科工学専攻 博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
情報工学コース	情報工学特殊研究	<p>情報工学特殊研究では、担当教員の指導および助言に基づき下記の能力を体得することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身の専門のみならず関連する諸分野における現状や課題に関して広範かつ深遠な知識を継続的に修得し、それらの知識を本質的なレベルで関連付けることができる能力を獲得する。また獲得した知識を自らのアイデアにもとづいて活用することができる。 ・知的好奇心を発揮し、重要性の高い問題を発見し、主体的に研究を立案・遂行することで、その問題に対して主体的に取り組むことができる。 ・多様な観点にもとづいて協動的かつ創造的に問題解決することで、社会に貢献することができる。 ・自らの研究内容に関して、その成果を正確かつ適切に日本語および外国語で国内外に公表することができる。 ・高度な専門知識および高い倫理観を有し、社会的使命を果たすことができる。 <p>(6 越後富夫) 指導教員の助言に基づき、映像メディア処理分野の研究を通して解決可能な社会的課題を選定する。課題解決手段となる関連分野の研究論文をサーベイし、既存技術の課題を見出すとともに解決手法を主体的に提案し、研究計画を立案する。その研究成果は映像メディア処理関連分野の国内外の学会で広く公表し、学問的価値および社会価値を高める。</p> <p>(12 来海暁) 画像センシング分野における研究論文の講読を通じて、この分野における重要かつ未解決の研究課題を見出す。この研究課題を解決する独創的な手法を考案し、主体的に研究計画を立案するとともに、自律的に研究を遂行する。研究の成果は画像センシング分野の国内外の学会において発表するとともに、その学問的価値を学位論文として結実させる。</p> <p>(13 小森政嗣) 認知科学分野における重要かつ未解決の問題を見出し、様々な分野の研究動向を踏まえて主体的に自らの研究の立案をし、自律的に研究を進め、その成果を国内外に広く公表することを目指す。最終的には学位論文にその成果をまとめる。</p>	

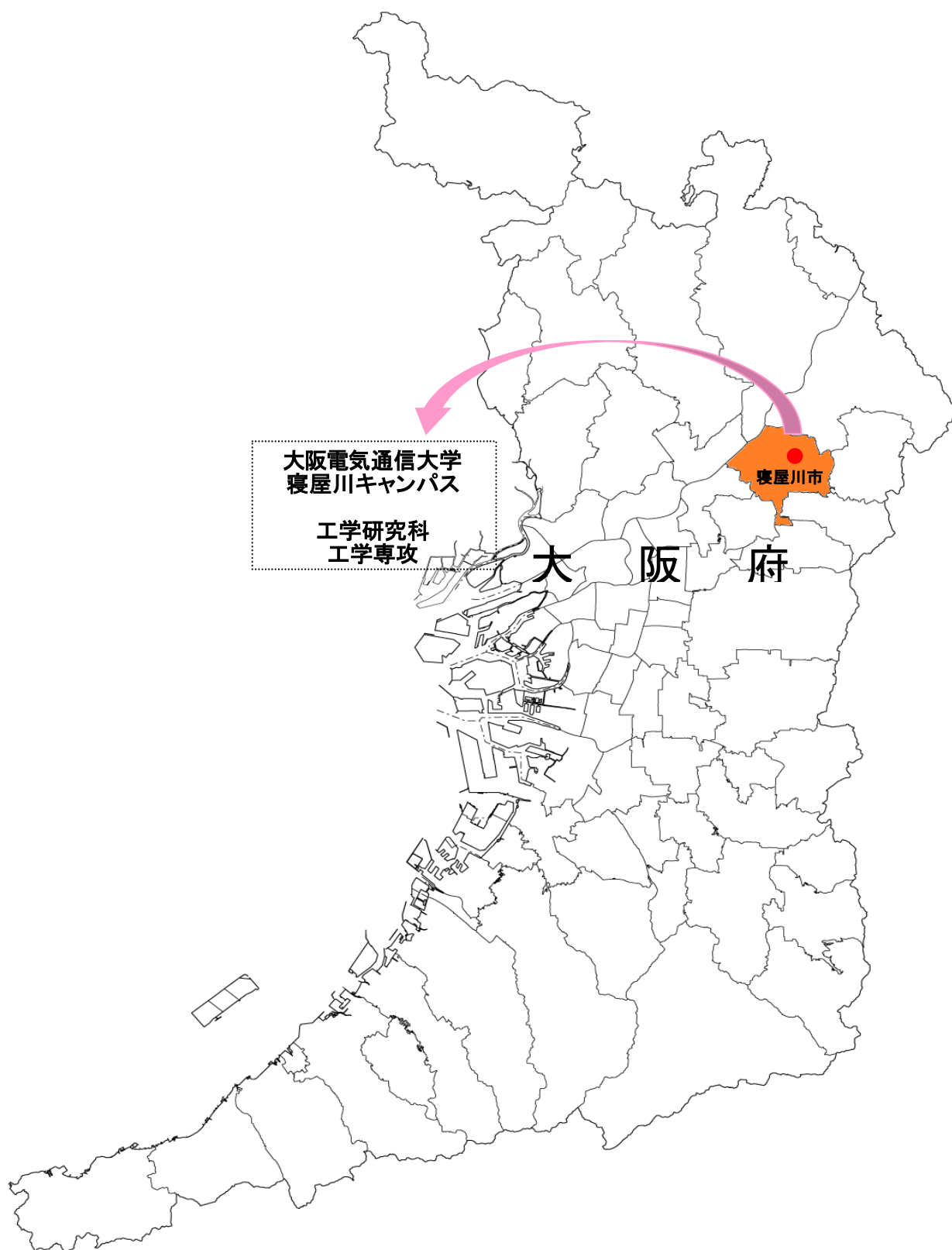
(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとの設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする類を作成する必要はない。

学校法人大阪電気通信大学 設置認可等に関わる組織の移行表

2019年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	2020年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
大阪電気通信大学				大阪電気通信大学				
工 学 部				工 学 部				
電気電子工学科	80	-	320	電気電子工学科	80	-	320	
電子機械工学科	80	-	320	電子機械工学科	80	-	320	
機械工学科	90	-	360	機械工学科	90	-	360	
基礎理工学科	60	-	240	基礎理工学科	60	-	240	
環境科学科	90	-	360	環境科学科	90	-	360	
建築学科	80	-	320	建築学科	80	-	320	
情報通信工学部				情報通信工学部				
情報工学科	160	-	640	情報工学科	160	-	640	
通信工学科	80	-	320	通信工学科	80	-	320	
医療福祉工学部				<u>医療健康科学部</u>				名称変更
医療福祉工学科	80	第3年次 5	330	<u>医療科学科</u>	80	第3年次 5	330	名称変更
理学療法学科	40	-	160	理学療法学科	40	-	160	
健康スポーツ科学科	70	第3年次 5	290	健康スポーツ科学科	70	第3年次 5	290	
総合情報学部				総合情報学部				
デジタルゲーム学科	140	第3年次 5	570	デジタルゲーム学科	140	第3年次 5	570	
ゲーム&メディア学科	110	-	440	ゲーム&メディア学科	110	-	440	
情報学科	90	-	360	情報学科	90	-	360	
計	1250	15	5030	計	1250	15	5030	
大阪電気通信大学大学院				大阪電気通信大学大学院				
工学研究科				工学研究科				
先端理工学専攻(M)	15	-	30	0	-	0	2020年4月学生募集停止	
先端理工学専攻(D)	3	-	9	0	-	0	2020年4月学生募集停止	
電子通信工学専攻(M)	20	-	40	0	-	0	2020年4月学生募集停止	
電子通信工学専攻(D)	3	-	9	0	-	0	2020年4月学生募集停止	
制御機械工学専攻(M)	30	-	60	0	-	0	2020年4月学生募集停止	
制御機械工学専攻(D)	5	-	15	0	-	0	2020年4月学生募集停止	
情報工学専攻(M)	35	-	70	0	-	0	2020年4月学生募集停止	
情報工学専攻(D)	5	-	15	0	-	0	2020年4月学生募集停止	
				<u>工学専攻(M)</u>	<u>70</u>	-	<u>140</u>	専攻の設置(届出)
				<u>工学専攻(D)</u>	<u>12</u>	-	<u>36</u>	専攻の設置(届出)
医療福祉工学研究科				医療福祉工学研究科				
医療福祉工学専攻(M)	10	-	20	医療福祉工学専攻(M)	10	-	20	
医療福祉工学専攻(D)	5	-	15	医療福祉工学専攻(D)	5	-	15	
総合情報学研究科				総合情報学研究科				
デジタルアート・アニメーション学専攻(M)	10	-	20	0	-	0	2020年4月学生募集停止	
デジタルゲーム学専攻(M)	10	-	20	0	-	0	2020年4月学生募集停止	
コンピュータサイエンス専攻(M)	10	-	20	0	-	0	2020年4月学生募集停止	
コンピュータサイエンス専攻(D)	5	-	15	0	-	0	2020年4月学生募集停止	
				<u>総合情報学専攻(M)</u>	<u>30</u>	-	<u>60</u>	専攻の設置(認可又は届出)
				<u>総合情報学専攻(D)</u>	<u>5</u>	-	<u>15</u>	専攻の設置(認可又は届出)
計	166	-	358	計	132	-	286	

大阪府内における学舎の位置



アクセス

3つあるキャンパスの最寄り駅は、それぞれ大阪・梅田から30分以内、京都から40分台と、関西エリアの幅広い地域が通学圏内の好立地。授業やクラブ活動が終わったあとのお出かけもスムーズです。

寝屋川キャンパス(工学部・情報通信工学部) 駅前キャンパス



寝屋川キャンパス
〒572-8530 大阪府寝屋川市初町18-8 Tel.072-824-1131(代) Fax.072-825-4589

駅前キャンパス
〒572-8537 大阪府寝屋川市早子町12-16 Tel.072-824-8900 Fax.072-824-8903

京阪本線「寝屋川市」駅までの所要時間(目安)

- 京橋駅から …… 約11分
- 大阪駅から …… 約25分
- 天王寺駅から …… 約30分
- 京都駅から …… 約48分
- 三ノ宮駅から …… 約54分
- 大阪空港から …… 約54分
- 関西空港から …… 約83分

四條畷キャンパス(医療福祉工学部・総合情報学部)

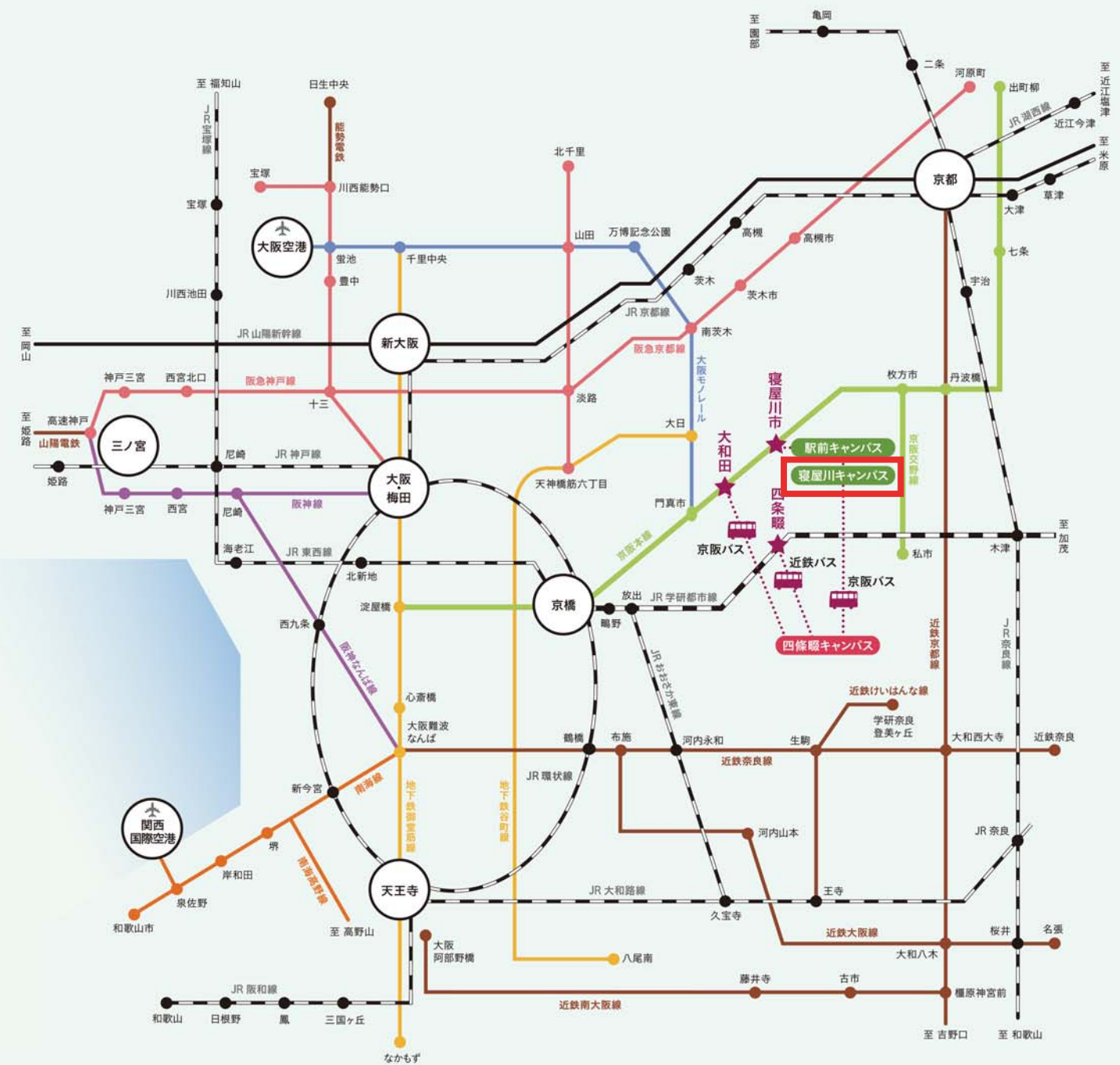


四條畷キャンパス
〒575-0063 大阪府四條畷市清滝1130-70 Tel.072-876-3317 Fax.072-876-3321

JR学研都市線「四條畷」駅までの所要時間(目安)


- 京橋駅から …… 約13分
- 大阪駅から …… 約25分
- 天王寺駅から …… 約30分
- 京都駅から …… 約59分
- 三ノ宮駅から …… 約54分
- 大阪空港から …… 約71分
- 関西空港から …… 約84分

忍ヶ丘駅～四條畷キャンパス
約2km



3キャンパスを結ぶ
路線バス

3つのキャンパスをラクラク移動！ キャンパス間をバスが運行しています。



3キャンパスを直結！

駅前・寝屋川・四條畷の3キャンパスを乗り換えなしで行き来可能。通学や授業での移動を手助けします。(駅前↔四條畷所要時間約30分)

30分間隔で運行！

運行時間は8:20～21:50。30分間隔で運行しています。また、スムーズな運行を行うため、混雑する時間帯は直行便を配車しています。

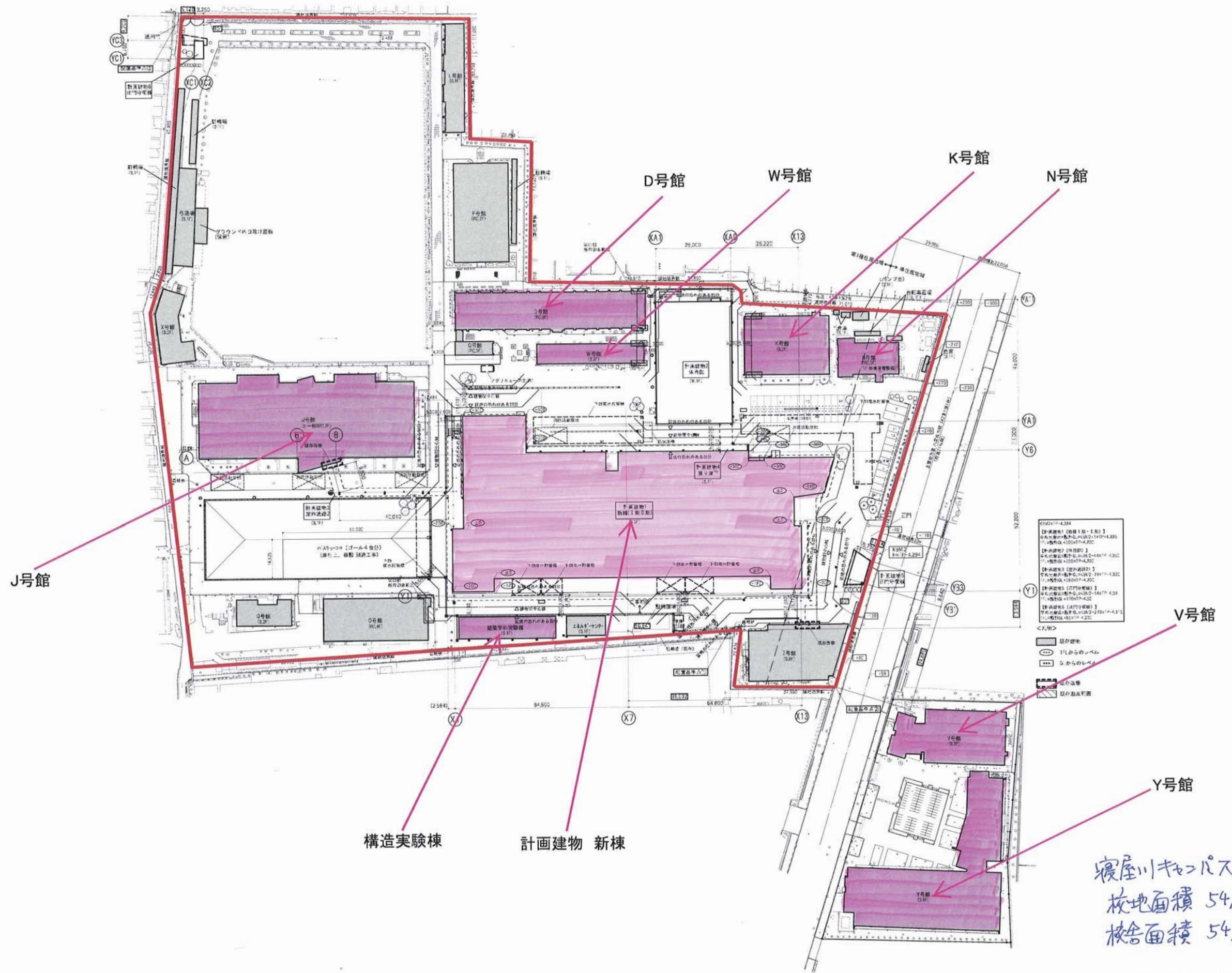
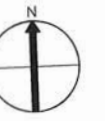
クラブ学生の味方！

クラブ活動でバスに乗る必要がある場合は、1日1往復まで乗車が無料に。活動の幅が広がります。

1か月4,000円！

寝屋川市駅から四條畷キャンパスへ通学する学生のために、大学にて前・後期ごとに半期定期券を24,000円で販売しています。1か月あたり4,000円で何度でも利用できます。





大阪電気通信大学寝屋川キャンパス
全体配置図

7. 1 学則全文

大阪電気通信大学大学院学則

第1章 総則

(名称)

第1条 本大学に大学院をおき、大阪電気通信大学大学院(以下「本学大学院」という。)と称する。

(目的)

第2条 本学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的とする。

(研究科)

第3条 本学大学院に次の研究科をおく。

- (1) 工学研究科
- (2) 医療福祉工学研究科
- (3) 総合情報学研究科

2 前項各研究科の目的は、次のとおりとする。

- (1) 工学研究科は、産業基盤の根幹をなす工学及び科学技術の基礎及び応用を教授研究するとともに、高度な工学技術をもって産業社会に貢献しうる専門的な人材を育成することを目的とする。
- (2) 医療福祉工学研究科は、医療、福祉及びリハビリテーションの各分野に展開しうる工学技術の基礎及び応用を教授研究するとともに、社会生活の質向上に向けて、当該分野で活躍できる専門的な人材を育成することを目的とする。
- (3) 総合情報学研究科は、映像、メディア分野等多方面に総合的に展開しうる情報技術の基礎及び応用を教授研究するとともに、情報化技術及びコンテンツ制作力をもって、生活文化の向上に寄与できる専門的な人材を育成することを目的とする。

3 本学大学院各研究科に研究科委員会をおく。

(課程及び修業年限)

第4条 研究科に博士課程をおく。

2 博士課程は、これを前期2年及び後期3年の課程に区分し、前期2年の課程を博士前期課程、後期3年の課程を博士後期課程とする。

3 博士前期課程は、修士課程として取り扱う。

4 博士前期課程の標準修業年限は、2年とし、在学年限は、4年を超えないものとする。

5 博士後期課程の標準修業年限は、3年とし、在学年限は、6年を超えないものとする。

6 前2項の規定にかかわらず、職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了することを希望する学生(以下「長期履修学生」という。)がその旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

7 長期履修学生の申し出は、入学時に行うものとする。

(課程の目的)

第4条の2 博士前期課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養うことを目的とする。

2 博士後期課程は、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

(専攻及び課程の収容定員)

第5条 本学大学院各研究科の専攻及び課程の収容定員は、次のとおりとする。

研究科	専攻	博士前期課程		博士後期課程	
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学研究科	工学専攻	70名	140名	12名	36名
医療福祉工学研究科	医療福祉工学専攻	10名	20名	5名	15名
総合情報学研究科	総合情報学専攻	30名	60名	5名	15名

2 各専攻に次のコースを置く。

専攻名	コース名
工学専攻	先端理工学コース
	電子通信工学コース
	制御機械工学コース
	情報工学コース
総合情報学専攻	デジタルアート・アニメーション学コース
	デジタルゲーム学コース
	コンピュータサイエンスコース

第2章 学年、学期及び休業日

(学年・学期)

第6条 学年は、4月1日に始まり、翌年の3月31日に終わる。

2 学年を分けて次の2学期とする。

前期 4月1日から9月15日まで

後期 9月16日から翌年3月31日まで

(休業日)

第7条 休業日は、次のとおりとする。

- (1) 日曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日
- (3) 本学の創立記念日 10月1日
- (4) 夏期休業日 8月1日から9月15日まで
- (5) 冬期休業日 12月24日から翌年1月7日まで

2 前項の規定にかかわらず、特に必要な場合には休業日に授業を行うことがある。

3 学長は、必要な場合、研究科委員会の議を経て、休業日を臨時に変更し、又は第1項に定めるもののほか、臨時の休業日を定めることができる。

第3章 入学、退学、休学、除籍及び懲戒等

(入学の時期)

第8条 入学の時期は、学年又は学期の始めとする。

(入学資格)

第9条 本学大学院の博士前期課程に入学することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 学校教育法(昭和22年法律第26号)第83条に定める大学を卒業した者
- (2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (4) 大学に3年以上在学し、又は外国において学校教育における15年の課程を修了し、当該研究科において、所定の単位を優秀な成績をもって修得したものと認められた者
- (5) 学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号)第155条第1項第5号の規定により、文部科学大臣が別に指定する専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)を文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (6) 学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号)第155条第1項第6号の規定に基づき、文部科学大臣が指定(昭和28年文部省告示第5号)した者
- (7) 学校教育法第83条に定める大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

2 本学大学院の博士後期課程に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 修士の学位を有する者
- (2) 専門職学位を有する者
- (3) 外国において、修士若しくは専門職学位又はこれに相当する学位を得た者
- (4) 修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者

(入学の出願)

第10条 本学大学院に入学を志願する者は、本学大学院所定の書類に入学検定料を添えて指定の期日までに提出しなければならない。

(入学者の選考)

第11条 前条の入学志願者については、選考により入学を許可すべき者を決定する。

2 選考の基準及び方法は、研究科委員会の議を経て学長が定める。

(入学手続及び入学許可)

第12条 前条の選考の結果に基づき、合格の通知を受けた者は、指定の期日までに、誓約書その他本学大学院所定の書類を提出するとともに、所定の入学金を納付しなければならない。

2 学長は、前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

3 前項により入学を許可された者は、入学式に出席し、かつ、入学の宣誓をしなければならない。

(編入学、再入学及び転学)

第13条 本学大学院に編入学又は再入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り、選考のうえ相当年次に入学を許可することができる。

2 前項の規定により入学を許可された者の既に修得した授業科目及び単位数の取り扱い並びに在学すべき年数については、研究科委員会の議を経て、学長が決定する。

3 本学大学院から他の大学院に転学しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

4 その他編入学及び再入学について必要な事項は、別に定める。

(退学)

第14条 退学しようとする者は、理由を記した退学願を学長に提出し、学長の許可を受けなければならない。

2 博士後期課程に3年以上在学し、所定の単位を修得した者は、学期末をもって満期退学したものと取り扱う。

(休学)

第15条 疾病その他やむを得ない事情により、3か月以上にわたって修学することのできない者は、学長の許可を得て休学することができる。

(休学の期間)

第16条 休学期間は、学年末を超えることはできない。ただし、特別の理由がある場合は、学長の許可を得て、休学期間を延長することができる。

2 博士前期課程の休学期間は、通算して2年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、更に2年以内に限って延長することができる。

3 博士後期課程の休学期間は、通算して3年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、更に3年以内に限って延

長することができる。

4 休学期間は、在学年数に算入しない。

(復学)

第17条 休学の理由が消滅した場合は、学長の許可を得て復学することができる。ただし、休学期間が3か月未満となる場合は、休学許可を取り消す。

(除籍)

第18条 次の各号のいずれかに該当する者は、学長が除籍する。

- (1) 第4条第4項及び第5項に定める在学年を超えた者
- (2) 学費の納入を怠り、督促してもなお納入しない者
- (3) 死亡した者
- (4) 入学式に正当な理由なく欠席した者又は宣誓しない者

(懲戒)

第19条 本学大学院の規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした者は、研究科委員会の議を十分に考慮した上で、学長が懲戒する。

2 前項の懲戒の種類は、退学、停学及び訓告とする。停学の期間は在学年数に算入しない。ただし、停学の期間が3か月以内の場合には、在学年数に算入することができる。

3 前項の退学は、次の各号のいずれかに該当する者についてこれを行う。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- (2) 学業を怠り、成業の見込みがないと認められる者
- (3) 正当の理由なくして、出席常でない者
- (4) 本学大学院の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

第4章 教育方法、授業科目及び履修方法

(教育方法)

第20条 本学大学院の教育は、授業科目の授業及び学位論文の作成等に対する指導(以下「研究指導」という。)によって行うものとする。

2 授業科目は、その授業の方法、内容及び年間の計画並びに成績評価の基準をあらかじめ学生に明示するものとする。

3 研究指導は、第38条に規定する教員が行うものとする。

(教育方法の特例)

第20条の2 各専攻においては、教育上必要があると認められる場合、標準修業年限の全期間にわたり、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

(他の大学院等における研究指導)

第20条の3 当該研究科が教育上有益と認めるときは、学生が他の大学院又は研究所等において必要な研究指導を受けることができる。ただし、博士前期課程の学生について認める場合には、当該研究指導を受ける期間は、一年を超えないものとする。

(成績評価基準等の明示等)

第20条の4 各研究科は、学修の成果及び学位論文に係る評価並びに修了の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

(授業の方法)

第20条の5 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3 第1項の授業を、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。

(教育内容等の改善のための組織的な研修等)

第20条の6 本学は、当該研究科の授業及び研究指導の内容及び方法等の改善を図るため、組織的な研修及び研究を行うものとする。

(授業科目及び単位数)

第21条 授業科目、単位数等は、別表第1のとおりとする。

2 各授業科目の単位数は、次の基準により計算する。

- (1) 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 演習については、30時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 実験、実習及び実技については、30時間の授業をもって1単位とする。

(履修方法)

第22条 博士前期課程における授業科目の履修は、次のとおりとする。

(1) 学生は、2年以上在学し必修科目・選択科目を含め30単位以上を修得しなければならない。

2 博士後期課程における授業科目の履修は、次のとおりとする。

(1) 学生は、3年以上在学し特殊研究を含め12単位以上を修得しなければならない。

3 学生は、指導教員の承認を受け、毎年指定する期間内にその学年で履修しようとする授業科目について履修登録を行わなければならない。

4 学長は、当該学生の研究上、特に必要と認めた場合に限り、他研究科又は他大学の大学院で履修した授業科目を本学大学院所定の単位に充当することができる。

(特別の課程)

第22条の2 本学大学院は、教育研究の成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するため、文部科学

大臣が別に定めるところにより、本学の学生以外の者を対象とした特別の課程を編成し、これを修了した者に対し、修了の事実を証する証明書を交付することができる。

- 2 特別の課程の編成等に関し必要な事項は、別に定める。

(入学前の既修得単位等の認定)

第22条の3 本学大学院は、教育上有益と認めるときは、学生が大学院に入学する前に大学院又は他の大学院において修得した授業科目の単位を大学院に入学した後の大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- 2 前項により修得したものとみなす単位数は、現在在籍している課程において修得した単位以外のものについては、10単位を超えてはならない。

第5章 試験及び課程修了

(試験)

第23条 本学大学院における正規の授業科目を履修した者に対しては、学期末に試験を課するか、又は研究報告を提出させる。

- 2 各授業科目の試験の成績の評価は、A、B、C、Dとし、A(優)、B(良)、C(可)を合格、D(不可)を不合格とする。合格した授業科目については所定の単位を与える。

- 3 前項の規定にかかわらず、特に定める授業科目の成績は、G(合格)、D(不合格)をもって表す。

(修了の要件)

第24条 博士前期課程の修了の要件は、本学大学院に2年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、当該研究科の目的に応じ、修士の学位論文又は特定の課題についての研究及び制作活動の成果の審査並びに最終試験に合格することとする。ただし、優れた研究業績を上げた者については、在学期間を1年以上とすることができる。

- 2 博士課程の修了の要件は、本学大学院に5年(博士前期課程(修士課程を含む。以下同じ。)を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。)以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、本学大学院に3年(博士前期課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。)以上在学すれば足りるものとする。

- 3 前項の規定にかかわらず、修士の学位若しくは専門職学位を有する者又は、学校教育法施行規則第156条の規定により大学院への入学資格に関し修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者が、本学大学院に入学した場合の修了要件は、博士後期課程に3年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、優れた研究業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。

第6章 学位及びその授与等

(学位の授与)

第25条 修士の学位は、前条に定める博士前期課程を修了した者に対し、学長がこれを授与する。

- 2 博士の学位は、前条に定める博士課程を修了した者に対し、学長がこれを授与する。

(論文提出による博士の学位)

第26条 前条第2項に定める者の他、本学大学院の博士課程を経ずに博士の学位を得ようとする者は、学位論文を提出して、審査を請求することができる。

- 2 本学大学院の行う博士論文の審査及び試験に合格し、かつ、本学大学院の博士課程を修了した者と同等以上の学力を有すると認められた者に対し、博士の学位を学長が授与する。

(学位の種類)

第27条 本学大学院の各研究科で授与する学位は、次のとおりとする。

研究科	博士前期課程	博士後期課程
工学研究科	修士(工学)	博士(工学)
医療福祉工学研究科	修士(工学)	博士(工学)
総合情報学研究科	修士(情報学)	博士(情報学)

(学位規則)

第28条 本学大学院の学位について、必要な事項は、別に定める。

(教育職員免許状)

第29条 高等学校教諭一種免許状所有者が、修士の学位を授与されたときは、選択したコースにより次の専修免許状の取得資格を有することができる。

研究科名	専攻名	免許状の種類
工学研究科	工学専攻	中学校教諭専修免許状(理科) 中学校教諭専修免許状(技術) 高等学校教諭専修免許状(理科) 高等学校教諭専修免許状(工業) 高等学校教諭専修免許状(情報)

- 2 免許状授与の所要資格の取得方法については、別に定める。

第7章 科目履修生、研究生及び外国人留学生等

(科目履修生)

第30条 本学大学院において特定の授業科目を履修することを志願する者があるときは、本学大学院生の教育研究に支障のない限り、学長は、科目履修生として入学を許可することができる。

- 2 科目履修生について必要な事項は別に定める。
(聴講生)
- 第30条の2 本学大学院において特定の授業科目を聴講することを志願する者があるときは、本学大学院生の教育研究に支障のない限り、学長は、聴講生として入学を許可することができる。
- 2 聴講生について必要な事項は別に定める。
(研究生)
- 第31条 本学大学院において特定の研究課題について研究することを志願する者があるときは、本学大学院学生の教育研究に支障のない限り、学長は、研究生として入学を許可することができる。
- 2 研究生について必要な事項は別に定める。
(外国人留学生)
- 第32条 外国人で本学大学院に入学を志願する者があるときは、学長は、研究科委員会の議を経て、外国人留学生として入学を許可することができる。
- 2 外国人留学生について必要な事項は、別に定める。
第8章 学費及びその他の費用
(学費)
- 第33条 入学金及び学費の金額は、別表第2のとおりとする。
(その他の費用)
- 第34条 学費の他学習等に必要の費用は、別にこれを徴収することができる。
(学費等の納入)
- 第35条 学費及びその他の費用の納入については、別に定める。
(休学の場合の学費)
- 第36条 休学期間中の者については、学費を免除し、別に定める在籍料を徴収する。
(既納の学費等)
- 第37条 既納の学費等は、原則としてこれを返付しない。
第9章 教員組織、運営組織及び事務組織
(教員組織)
- 第38条 本学大学院の授業及び研究指導を担当する者は、大阪電気通信大学学則第38条に規定する教授、准教授、講師の中から、大阪電気通信大学大学院担当教員選考基準に規定する資格に該当する専任の教員をもって充てる。
- 2 必要に応じて、他大学の大学院担当教員若しくは、その他の有資格者に授業又は研究指導の担当を依頼することができる。
- 第38条の2 本学は、教育研究活動等の組織的かつ効果的な運営を図るため、教員と事務職員等との適切な役割分担の下で、これらの者の間の連携体制を確保し、これらの者の協働によりその職務を行うものとする。
(科長)
- 第39条 本学大学院各研究科に研究科長(以下「科長」という。)をおき、前条の資格に該当する博士後期課程研究指導教員をもって充てる。
- 2 科長は、学長を補佐し、その命を受けて本学大学院の運営を遂行し、各研究科内の業務を処理するとともに、各研究科に所属する教員を指揮監督する。
(研究科委員会)
- 第40条 研究科委員会は、研究科における教育研究に関する事項を審議する。
- 2 研究科委員会は、当該研究科の科長及び各専攻の教員をもって組織する。
- 3 科長は、研究科委員会を招集し、その議長となる。
- 4 科長が職務を遂行できないときは、あらかじめ科長の指名した博士後期課程研究指導教員が科長の職務を代行する。
(研究科委員会の審議事項)
- 第41条 研究科委員会は、研究科に関する次の事項を審議し、学長が決定を行うにあたり意見を述べるものとする。
- (1) 教育課程に関する事項
 - (2) 学生の入学及び課程の修了その他学生の身分の取扱いに関する事項
 - (3) 学位の授与に関する事項
 - (4) 学生の学修指導及び評価に関する事項
 - (5) 学生の補導及び懲戒に関する事項
 - (6) 授業科目及び研究指導担当に関する事項
 - (7) 教育研究予算の配分に関する事項
 - (8) 教員の資格審査に関する事項
 - (9) 科長候補者の選考に関する事項
 - (10) 前各号のほか、この学則で研究科委員会の議を経るべきものと定められた事項
 - (11) 大学院に関する学則及び規則に関する事項
 - (12) 学長から付議又は諮問された事項及び専攻主任会議又はコース主任会議から提起された事項
 - (13) その他研究科の運営に関する事項
(専攻主任会議及びコース主任会議)
- 第41条の2 科長を補佐し研究科の円滑な運営に関する具体的業務を行うために、専攻主任会議又はコース主任会議をおく。
- 2 専攻主任会議及びコース主任会議に関する事項は、別に定める。
(事務組織)
- 第42条 本学大学院の事務の処理は、本学事務組織をもって行う。

第10章 付属施設

(図書室)

第43条 本学大学院に図書室を設ける。

(施設、設備の共用)

第44条 本学大学院の学生は、本学の施設、設備等をその課程の修得並びに研究達成のため使用することができる。

第11章 その他

(諸規則の準用)

第45条 本学大学院学則に定めるほか、本学の学則及びその他の諸規則を準用する。

(学則の改訂)

第46条 本学則の改正は、研究科委員会での意見を参酌し、運営会議の審議を経て学長が理事長に上程し、常任理事会での審議を経て理事会で決定する。

附 則 1

本学則は、平成2年4月1日から施行する。

平成4年4月1日改正・施行

平成5年4月1日改正・施行

平成5年9月24日改正・施行

平成6年4月1日改正・施行

平成6年9月22日改正・施行

平成7年4月1日改正・施行

平成7年7月18日改正・施行

平成8年4月1日改正・施行

平成9年4月1日改正・施行

平成10年4月1日改正・施行

平成11年4月1日改正・施行

平成12年4月1日改正・施行

平成13年4月1日改正・施行

平成13年9月16日改正・施行

平成14年4月1日改正・施行

附 則 2

第5条に規定する平成6年度の収容定員は、次のとおりとする。

研究科名	専攻名	前期課程		後期課程	
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学研究科	総合電子工学専攻	20名	30名	5名	15名
	制御機械工学専攻	20名	30名	5名	15名
	情報工学専攻	20名	30名	5名	15名

2 第5条に規定する平成13年度の収容定員は、次のとおりとする。

研究科名	専攻名	前期課程		後期課程	
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学研究科	総合電子工学専攻	30名	50名	5名	15名
	制御機械工学専攻	30名	50名	5名	15名
	情報工学専攻	35名	55名	5名	15名

附 則

この学則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 第5条に規定する平成18年度および平成19年度の収容定員は、次のとおりとする。

研究科・専攻		年度		平成18年度				平成19年度			
		研究科名	専攻名	修士課程		博士後期課程		修士課程		博士後期課程	
				入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学研究科	総合電子工学専攻	15名	45名	3名	13名	15名	30名	3名	11名		
	電子通信工学専攻	20名	20名	3名	3名	20名	40名	3名	6名		
	制御機械工学専攻	30名	60名	5名	15名	30名	60名	5名	15名		
	情報工学専攻	35名	70名	5名	15名	35名	70名	5名	15名		
医療福祉工学研究科	医療福祉工学専攻	10名	20名			10名	20名				
総合情報学研究科	メディア情報文化学専攻	20名	40名			20名	40名				
	デジタルゲーム学専攻	10名	20名			10名	20名				

- 3 改正後の別表第1については、平成17年度以前に入学した者には、従前の当該規定を適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 第5条に規定する平成18年度の収容定員は、次のとおりとする。

研究科・専攻		年度		平成18年度			
		研究科名	専攻名	修士課程		博士後期課程	
				入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学研究科	総合電子工学専攻	30名	60名	5名	15名		
	制御機械工学専攻	30名	60名	5名	15名		
	情報工学専攻	35名	70名	5名	15名		
医療福祉工学研究科	医療福祉工学専攻	10名	20名				
総合情報学研究科	メディア情報文化学専攻	10名	30名				
	デジタルゲーム学専攻	10名	20名				
	コンピュータサイエンス専攻	10名	10名				

附 則

この学則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成19年4月1日から施行する。
- 2 第5条に規定する平成19年度および平成20年度の収容定員は、次のとおりとする。

研究科・専攻		年度		平成19年度				平成20年度			
		研究科	専攻	修士課程		博士後期課程		修士課程		博士後期課程	
				入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学研究科	総合電子工学専攻	15名	30名	3名	11名	15名	30名	3名	9名		
	電子通信工学専攻	20名	40名	3名	6名	20名	40名	3名	9名		
	制御機械工学専攻	30名	60名	5名	15名	30名	60名	5名	15名		
	情報工学専攻	35名	70名	5名	15名	35名	70名	5名	15名		
医療福祉工学研究科	医療福祉工学専攻	10名	20名			10名	20名				
総合情報学研究科	メディア情報文化学専攻	10名	20名			10名	20名				
	デジタルゲーム学専攻	10名	20名			10名	20名				
	コンピュータサイエンス専攻	10名	20名	5名	5名	10名	20名	5名	10名		

附 則

- この学則は、平成19年4月1日から施行する。
- 第5条に規定する平成19年度および平成20年度の収容定員は、次のとおりとする。

研究科・専攻		年度		平成19年度				平成20年度			
		研究科	専攻	修士課程		博士後期課程		修士課程		博士後期課程	
				入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学研究科	総合電子工学専攻	15名	30名	3名	11名	15名	30名	3名	9名		
	電子通信工学専攻	20名	40名	3名	6名	20名	40名	3名	9名		
	制御機械工学専攻	30名	60名	5名	15名	30名	60名	5名	15名		
	情報工学専攻	35名	70名	5名	15名	35名	70名	5名	15名		
医療福祉工学研究科	医療福祉工学専攻	10名	20名	5名	5名	10名	20名	5名	10名		
総合情報学研究科	メディア情報文化学専攻	10名	20名			10名	20名				
	デジタルゲーム学専攻	10名	20名			10名	20名				
	コンピュータサイエンス専攻	10名	20名			10名	20名				

附 則

- この学則は、平成19年4月1日から施行する。
- 第5条に規定する平成19年度の収容定員は、次のとおりとする。

研究科・専攻		年度		平成19年度			
		研究科	専攻	修士課程		博士後期課程	
				入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学研究科	総合電子工学専攻	15名	30名	3名	11名		
	電子通信工学専攻	20名	40名	3名	6名		
	制御機械工学専攻	30名	60名	5名	15名		
	情報工学専攻	35名	70名	5名	15名		
医療福祉工学研究科	医療福祉工学専攻	10名	20名				
総合情報学研究科	メディア情報文化学専攻	—	10名				
	デジタルアート・アニメーション学専攻	10名	10名				
	デジタルゲーム学専攻	10名	20名				
	コンピュータサイエンス専攻	10名	20名				

- 総合情報学研究科メディア情報文化学専攻については、改正後の第5条にかかわらず、平成19年3月31日に当該専攻に在学する者が在学しなくなるまでの間、従前の学則を存続する。

附 則

この学則は、平成19年1月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成22年10月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 第5条に規定する平成24年度及び平成25年度の収容定員は、次のとおりとする。

研究科・専攻		年度		平成24年度				平成25年度			
		研究科	専攻	修士課程		博士後期課程		修士課程		博士後期課程	
				入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学研究科	総合電子工学専攻		15名		6名						3名
	先端理工学専攻	15名	15名	3名	3名	15名	30名	3名	6名		
	電子通信工学専攻	20名	40名	3名	9名	20名	40名	3名	9名		
	制御機械工学専攻	30名	60名	5名	15名	30名	60名	5名	15名		
	情報工学専攻	35名	70名	5名	15名	35名	70名	5名	15名		
医療福祉工学研究科	医療福祉工学専攻	10名	20名	5名	15名	10名	20名	5名	15名		
総合情報学研究科	デジタルアート・アニメーション学専攻	10名	20名			10名	20名				
	デジタルゲーム学専攻	10名	20名			10名	20名				
	コンピュータサイエンス専攻	10名	20名	5名	15名	10名	20名	5名	15名		

- 3 工学研究科総合電子工学専攻については、改正後の第5条にかかわらず、平成24年3月31日に当該専攻に在学する者が在学しなくなるまでの間、従前の学則を存続する。

附 則

- 1 この学則は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 工学研究科総合電子工学専攻については、改正後の第29条にかかわらず、平成24年3月31日に当該専攻に在学する者が在学しなくなるまでの間、従前の学則を存続する。
- 3 改正後の別表第1については、平成23年度以前に入学した者には、従前の当該規定を適用する。

附 則

この学則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成26年4月1日から施行する。
- 2 工学研究科各専攻については、改正後の別表第1にかかわらず、平成25年度以前に入学した者には従前の当該規定を適用する。

附 則

この学則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成29年4月1日から施行する。
- 2 医療福祉工学研究科医療福祉工学専攻及び総合情報学研究科デジタルゲーム学専攻については、改正後の別表第1にかかわらず、平成28年度以前に入学した者には従前の当該規定を適用する。

附 則

この学則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成30年8月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成30年11月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

- この学則は、2020年4月1日から施行する。
- 第5条に規定する2020年度、2021年度及び2022年度の収容定員は、次のとおりとする。

研究科・専攻		2020年度		2021年度				2022年度					
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員		
工学研究科	先端理工学専攻	—	15名	—	6名	—	—	—	3名	—	—	—	—
	電子通信工学専攻	—	20名	—	6名	—	—	—	3名	—	—	—	—
	制御機械工学専攻	—	30名	—	10名	—	—	—	5名	—	—	—	—
	情報工学専攻	—	35名	—	10名	—	—	—	5名	—	—	—	—
	工学専攻	70名	70名	12名	12名	70名	140名	12名	24名	70名	140名	12名	36名
医療福祉工学研究科	医療福祉工学専攻	10名	20名	5名	15名	10名	20名	5名	15名	10名	20名	5名	15名
総合情報学研究科	デジタルアート・アニメーション学専攻	—	10名	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	デジタルゲーム学専攻	—	10名	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	コンピュータサイエンス専攻	—	10名	—	10名	—	—	—	5名	—	—	—	—
	総合情報学専攻	30名	30名	5名	5名	30名	60名	5名	10名	30名	60名	5名	15名

別表第1

工学研究科 教育課程表
工学専攻 博士前期課程

科目区分		授業科目	単位数			修了要件単位数
			必修	選択必修	選択	
全コース共通科目		特別研究1	2			必修科目…12単位 選択したコースの選択必修科目…10単位以上 選択必修科目と選択科目を合わせて14単位以上
		特別研究2	2			
		特別研究3	2			
		特別研究4	2			
		ゼミナール1	1			
		ゼミナール2	1			
		ゼミナール3	1			
コース専門科目	総合電子工学分野	固体物理学特論1		1		(他コースの科目8単位以内を選択科目に充当可) 履修については、研究指導を担当する教員の指示に従うものとする 合計…30単位以上
		固体物理学特論2		1		
		半導体工学特論1		1		
		半導体工学特論2		1		
		ナノ工学特論			2	
		先端計測特論			2	
	物質化学分野	有機化学特論		2		
		無機化学特論		2		
		バイオナノテクノロジー特論			2	
		ケミカルバイオロジー特論		2		
		分子分光光学特論			2	
		資源工学特論			2	
		基礎科学分野	量子物理学特論		2	
	現代物理学特論			2		
	先端物理学特論				2	
	シミュレーション統計力学特論1				1	
	シミュレーション統計力学特論2				1	
	地球物理学特論				2	
	数理解析分野		複素解析特論		2	
		現代幾何学特論		2		
数理物理学特論				2		
確率モデル特論				2		

電子通信工学コース	コース共通分野	現象数理学特論		2		
		先端理工英語1		1		
		先端理工英語2		1		
	光・電子デバイス工学分野	半導体デバイス工学		2		
		光デバイス工学		2		
		集積デバイス工学			2	
		光・電子デバイス工学特論			2	
		電磁波論		2		
	光・マイクロ波工学分野	アンテナ工学		2		
		電磁計測特論			2	
		電波応用工学特論			2	
		衛星通信工学特論			2	
		電力システム工学			2	
	通信・ネットワーク工学分野	ネットワーク工学特論		2		
		情報セキュリティ		2		
		信号処理		2		
		暗号理論特論			2	
		信号システム理論特論			2	
	制御機械工学コース	計測制御工学分野	現代制御特論		2	
			ロボティクス特論			2
計測工学特論				2		
バイオメカニズム論					2	
アクチュエータ工学特論					2	
機械・加工学分野		機械力学特論		2		
		材料力学特論		2		
		加工学特論			2	
		CAD工学特論			2	
エネルギー・環境工学分野		熱工学特論		2		
		環境設計工学			2	
		エネルギー変換工学特論			2	
コース共通分野	流体工学特論		2			
	テクニカルコミュニケーション1		2			
	テクニカルコミュニケーション2		2			
	国際工学技術特論1			2		
	国際工学技術特論2			2		
情報工学コース	情報基礎学分野	産学連携機械工学特論		2		
		情報数理学特論		2		
	情報処理工学分野	自然言語処理特論		2		
		パターン認識特論		2		
		知能情報処理特論		2		
		三次元計測特論		2		
		画像情報解析特論		2		
	生産管理工学分野	コンピュータビジョン特論		2		
		計算機統計学特論		2		
	計算機基礎学分野	人間工学特論		2		
		理論計算機科学特論		2		
		システムLSI設計特論		2		
	視覚情報学分野	計算機統計学特論		2		
人間工学特論			2			
コンピュータグラフィックス特論			2			
		光情報センシング特論		2		
		光情報処理特論		2		

工学専攻 博士後期課程

科目区分	授業科目	授業を行う年次	単位数		修了要件単位数
			必修	選択	
先端理工学コース	先端理工学特殊研究	1-3	12		選択したコースの1科目(12単位)
電子通信工学コース	電子通信工学特殊研究	1-3	12		
制御機械工学コース	制御機械工学特殊研究	1-3	12		
情報工学コース	情報工学特殊研究	1-3	12		

医療福祉工学研究科 教育課程表
医療福祉工学専攻 博士前期課程

科目区分	授業科目	単位数			修了要件単位数
		必修	選択必修	選択	
生体医工学分野	ヒューマンインターフェース特論		2		必修科目…22単位 選択必修科目…4単位以上 (2以上の科目区分の中から修得すること)
	時系列信号処理特論		2		
	生体計測特論		2		
	医用物理学特論		2		
	医療情報分析学特論		2		
医療工学分野	臨床工学特論		2		選択必修科目と選択科目を合わせて8単位以上 (他研究科の科目4単位以内を選択科目に充当可)
	医療機器学特論		2		
	医用微小デバイス工学特論		2		
	生殖医学特論		2		
福祉工学分野	福祉情報工学特論		2		
	運動機構学特論		2		
健康運動科学分野	健康体力学特論		2		履修については、研究指導を担当する教員の指示に従うものとする
	身体機能解析学特論		2		
	運動心理学特論		2		
	補完代替医療特論		2		
	ヘルスケア機器学特論		2		
リハビリテーション科学分野	臨床運動学特論		2		合計…30単位以上
	スポーツ傷害理学療法特論		2		
	運動計測学特論		2		
	運動発達学特論		2		
共通分野	医療福祉工学総論	2			
	特別講義1			2	
	特別講義2			2	
	ゼミナール1	1			
	ゼミナール2	1			
	ゼミナール3	1			
	ゼミナール4	1			
	特別演習1	2			
	特別演習2	2			
	特別演習3	2			
	特別演習4	2			
	特別研究1	2			
	特別研究2	2			
	特別研究3	2			
特別研究4	2				

医療福祉工学専攻 博士後期課程

授業科目	授業を行う年次	単位数		修了要件単位数
		必修	選択	
医療福祉工学特殊研究	1—3	12		1科目(12単位)

総合情報学研究科 教育課程表
総合情報学専攻 博士前期課程

科目区分	授業科目	単位数			修了要件単位数
		必修	選択必修	選択	
全コース共通科目	特別研究1	2			<デジタルアート・アニメーション学コース> 必修科目…12単位 選択科目…18単位以上
	特別研究2	2			
	特別研究3	2			
	特別研究4	2			
	ゼミナール1	1			
	ゼミナール2	1			
	ゼミナール3	1			

コース専門科目	アニメーション学コース	芸術分野	ゼミナール4	1			<デジタルゲーム学コース> 必修科目…14単位 選択必修科目…2単位以上 選択科目14単位以上 <コンピュータサイエンスコース> 必修科目…20単位 選択科目…10単位以上 <全コース共通> 合計…30単位以上 他コース及び他研究科の科目8単位以内を選択科目に充当可 履修については、研究指導を担当する教員の指示に従うものとする
			比較映像特論			2	
			サウンドデザイン特論			2	
			クリエイティブマネジメント特論			2	
			イメージビジュアルライゼーション特論			2	
			ビジュアルデザイン特論			2	
			ミクストメディアアート特論			2	
			ハイブリッドアニメーション特論			2	
	キャラクターコミュニケーション特論			2			
	映像文化特論			2			
	情報分野	エンターテインメント工学特論			2		
		アートマネジメント特論			2		
		マーケティング特論			2		
	デジタルゲーム学コース	情報分野	情報アーキテクチャ特論			2	
			ソフトウェア構成学特論			2	
			教育ゲーム特論			2	
			プログラミング環境特論			2	
			問題解決特論			2	
			スクリプトプログラミング特論			2	
			デジタルメディアデザイン特論			2	
		芸術分野	デジタルゲーム特論			2	
			ゲーム・グラフィックス特論			2	
			情報デザイン特論			2	
			ゲームアート特論			2	
		コース共通分野	プランニング・プロデュース特論			2	
			デジタルゲーム学研究	2			
			プレゼンテーション実習1		1		
	プレゼンテーション実習2			1			
	プレゼンテーション実習3			1			
	プレゼンテーション実習4			1			
	コンピュータサイエンスコース	情報科学分野	情報理論特論			2	
アルゴリズム特論					2		
コンピュータシステム分野		オペレーティングシステム特論			2		
		計算機援用工学特論			2		
		情報ネットワーク特論			2		
メディアシステム分野		コンピュータグラフィックス応用工学			2		
		バーチャルリアリティ特論			2		
		ロボティクス特論			2		
コース共通分野		コンピュータビジョン特論			2		
		コンピュータサイエンス演習1	2				
		コンピュータサイエンス演習2	2				
	コンピュータサイエンス演習3	2					
	コンピュータサイエンス演習4	2					

総合情報学専攻 博士後期課程

授業科目	授業を行う年次	単位数		修了要件単位数
		必修	選択	
総合情報学特殊研究	1-3	12		1科目(12単位)

別表第2

入学金及び学費(年額)

内訳		金額(円)
入学金		100,000
学費	授業料	900,000
	実験実習料	150,000
合計		1,150,000

(注) 博士前期課程に引続き博士後期課程に進学する者の博士後期課程の入学金は、これを免除する。

○大阪電気通信大学大学院研究科運営規則

(趣旨)

第1条 この規則は、大阪電気通信大学大学院学則(以下「学則」という。)第3条第1項各号に定める各研究科の運営について必要な事項を定めるものである。

(研究科委員会の構成)

第2条 学則第3条第3項に定める大学院研究科委員会(以下「研究科委員会」という。)の構成員(以下「構成員」という。)は、学則第40条第2項のとおりする。ただし、研究科委員会が必要と認めた場合は、構成員以外の出席及び発言を求めることができる。

- 2 研究科委員会出席者の身上に関する事項を審議するときは、議長は、その者の退席を求めることができる。
- 3 研究科委員会は、構成員の過半数の出席によって成立し、その議決は構成員である出席者の過半数によって行う。
- 4 研究科委員会は、研究科長(以下「科長」という。)の招集により原則として毎月1回開催する。
- 5 研究科委員会の議案は、3日前までに構成員に通知するものとする。ただし、緊急を要する場合はこの限りではない。
- 6 研究科委員会の議事は記録し、議事録は構成員に対して公開するものとする。

(科長の職務)

第3条 学則第39条第1項に定める科長は、研究科委員会を主催し、運営会議で定めた方針に基づいて、研究科の運営に当たる。

- 2 科長の任期は2年とし、1回の再任を妨げない。

(専攻会議)

第4条 専攻ごとに、各専攻の構成員からなる専攻会議をおく。

- 2 専攻会議の運営については、各専攻で定める。

(専攻主任)

第5条 専攻ごとに専攻主任をおく。

- 2 専攻主任の任務は次の各号のとおりとする。
 - (1) 専攻会議を主催し、専攻内の意見をまとめる。

- (2) 専攻を代表して他専攻との調整に当たる。
- (3) 専攻内の事務を統轄する。
- (4) 専攻内重要事項について科長の諮問に応じる。

3 専攻主任は、各専攻会議で教授の中より選出する。専攻主任の任期は当該年度とし、再任を妨げない。

(専攻主任会議)

第6条 学則第41条の2に基づく専攻主任会議は、各専攻主任をもって組織し、科長がこれを招集し議長となる。

2 科長は、大学事務局長又は四條畷事務部長を同席させるものとし、必要と認めた場合は、その他の者の出席及び発言を求めることができる。

3 専攻主任会議は、次の各号の業務を行う。

- (1) 研究科委員会の議事の整理並びに研究科委員会に提出する議案の検討及び起案
- (2) 研究科委員会の決定事項の実施に関して必要な諸施策の検討
- (3) 専攻間の意見交換及び調整
- (4) 研究科の長期計画に関する事項の検討
- (5) その他科長が必要と認めた事項の検討

(大学院教員の資格審査)

第7条 専攻は、その所属する構成員の資格審査又は新たに当該専攻の構成員とすべき候補者についてその教員の専門分野を明記し、次の書類を付して科長に資格審査を申請する。

- (1) 履歴書(学歴、学位、職歴、専門分野、所属学会、学会及び社会における活動、資格、賞罰等)
- (2) 研究業績録(論文、講演論文、著書、作品発表、著作物等)
- (3) 教育研究業績書(教育上の能力に関する事項、職務上の実績に関する事項)
- (4) 主要業績資料(主要論文別刷、主要作品等)

2 科長は、前項の申請を受けて審査が必要と認めたとき、意見を付して学長に申請する。

3 学長は、前項の申請を受けて当該教員と面談し妥当と認めたとき、運営会議で意見を聴取し、必要に応じて科長に審査を依頼する。

4 科長は、前項の依頼を受けたとき、当該大学院博士後期課程指導教員会議(以下「指導教員会議」という。))に諮り、申請1件ごとに大学院資格審査委員会(以下「審査委員会」という。))を設置し、その審査を付託する。

5 審査委員会は、当該専攻より推薦された博士後期課程研究指導教員2名及びその他の専

攻から選出された博士後期課程研究指導教員3名の委員をもって組織する。ただし、総合情報学研究科において、修士課程研究指導教員及び修士課程研究指導補助教員の審査をする場合は、この限りでない。

- 6 前項のその他の専攻から選出される委員は、運営会議で推薦された候補者6名の中から、指導教員会議において投票により選出する。
- 7 審査委員会は、申請のあった教員について大阪電気通信大学大学院担当教員選考基準に基づき資格を審査し、結果を科長に報告する。
- 8 審査委員会は申請のあった教員の業績を縦覧に供するとともに、指導教員会議構成員からの質問等を受け付ける期間を7日間、設けなければならない。
- 9 縦覧、質疑応答期間中に提出された質問への回答は審査結果に含めることとし、指導教員会議において報告しなければならない。
- 10 科長は審査委員会の報告を指導教員会議に諮り、審査委員会代表に審査結果を説明させる。
- 11 指導教員会議は、審査委員会の審査結果について、専門的見地から適格性を審議して可否投票を行い、意見を取りまとめ、研究科長に報告する。
- 12 科長は、指導教員会議の審議結果について、研究科委員会の意見を聴取した後、研究科委員会の意見を学長に報告する。
- 13 学長は、科長から報告のあった研究科委員会の意見を参酌し、運営会議の議を経て決定し、理事長に報告する。
- 14 本学学部における教員採用人事の候補者を当該専攻の構成員とする資格審査については、次に掲げる条件をすべて満たしている場合に限り、科長は、指導教員会議に諮ることなく、当該の資格審査委員会を審査委員会とみなして審査を付託し、第4項から第6項に定める手続きを省略することができる。
 - (1) 教員補充の申請に大学院を担当できることが明記されていること。
 - (2) 当該候補者の選考にあたる資格審査委員会委員全員が博士後期課程研究指導教員であること。ただし、総合情報学研究科において、修士課程研究指導教員及び修士課程研究指導補助教員の審査をする場合はこの限りではない。なお、資格審査委員会に博士後期課程研究指導教員ではない学部長等が委員として入っている場合には、当該大学院における資格審査では審査委員会の構成員から除外する。
 - (3) 資格審査委員会委員のうち、当該専攻の委員が少なくとも1名以上いること。
- 15 本学学部における昇任人事候補者の資格変更審査又は新たに当該専攻の構成員とする

資格審査については、次に掲げる条件を満たしている場合に限り、科長は、指導教員会議に諮ることなく、当該の昇任審査委員会を審査委員会とみなして審査を付託し、第4項から第6項に定める手続きを省略することができる。

(1) 当該候補者の昇任を審査する昇任審査委員会委員全員が博士後期課程研究指導教員であること。ただし、資格審査委員会に博士後期課程研究指導教員ではない学部長等が委員として入っている場合には、当該大学院における資格審査では審査委員会の構成員から除外する。なお、総合情報学研究科において、修士課程研究指導教員及び修士課程研究指導補助教員の審査をする場合はこの限りではない。

(2) 専攻から資格審査の申請があること。

(改廃)

第8条 この規則の改廃は、研究科委員会での意見を参酌し、運営会議の審議を経て学長が理事長に上程し、常任理事会での審議を経て理事長が決裁する。

附 則

この規則は、平成2年12月18日から施行する。

附 則

この規則は、平成4年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成7年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成8年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成10年5月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成10年10月20日から施行する。

附 則

この規則は、平成11年12月9日から施行する。

附 則

この規則は、平成16年12月21日から施行する。

附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成22年3月16日から施行する。

附 則

1 この規則は、平成25年4月1日から施行する。

2 この規則の施行の日の前日に研究科長の職にある者が引き続き選任された場合、第3条第2項の規定に関わらず、以後の再任はできない。

附 則

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成30年8月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成31年2月12日から施行する。

設置の趣旨等を記載した書類

目次

1. 設置の趣旨及び必要性	p. 1
2. 修士課程までの構想か、又は、博士課程の設置を目指した構想か	p. 2
3. 専攻等の名称及び学位の名称	p. 3
4. 教育課程の編成の考え方及び特色	p. 3
5. 教員組織の編成の考え方及び特色	p. 7
6. 教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件	p. 8
7. 施設・設備等の整備計画	p. 12
8. 基礎となる学部との関係	p. 17
9. 入学者選抜の概要	p. 17
10. 取得可能な資格	p. 19
11. 管理運営	p. 19
12. 自己点検・評価	p. 21
13. 情報の公表	p. 21
14. 教育内容等の改善のための組織的な研修等	p. 23

1. 設置の趣旨及び必要性

1. 1 教育研究上の理念・目的

大阪電気通信大学は、時代のニーズにマッチした確かな技術力と人間力を身につけ、社会で役立つ人材を育成・輩出することを目指している。更に本学大学院では、学士で培った研究に関する基礎能力を更に発展させるべく、工学・医療・総合情報の各研究分野において、それぞれ志す専門分野の真理の探究に努め、未来社会の進展に貢献できる責任ある人材を輩出することを使命としている。その使命を達成するために現在、大学院に工学研究科、医療福祉工学研究科及び総合情報学研究科の3研究科を置いている。

1. 2 工学研究科の改編

「大阪電気通信大学大学院学則」第3条第2項において、工学研究科の目的を「産業基盤の根幹をなす工学及び科学技術の基礎及び応用を教授研究するとともに、高度な工学技術をもって産業社会に貢献しうる専門的な人材を育成する」こととしている。工学分野における技術の進展・複合化が急速に進む現代において、それらの目的を従前以上に確実に達成することを目指し、工学研究科の再編を計画している。

この改編により、従来の先端理工学専攻、電子通信工学専攻、制御機械工学専攻、情報工学専攻の4専攻の教育研究機能を、博士前期課程・博士後期課程ともに新たに設置する「工学専攻」へ集約し、専門分野間の連携を密なものにする。

この工学研究科の改編により、複数の分野に跨る複雑な課題を高度な専門知識と協調性に基づいて解決する能力を持つ人材育成を行う。

1. 3 設置の趣旨

近年、社会・産業を取り巻く環境はめまぐるしく変化している。特に、基礎科学、電気、電子、情報、通信、機械、制御などの工学分野における技術の進展、複合化は非常に速く、従来の電気、機械等の専門分野の枠組みでは、急速に変化する環境に対し、柔軟に対応することが難しくなっている。

このような産業構造の急速な変化や技術革新に適応するため、このたび工学研究科を工学専攻の一専攻とし、そこに先端理工学、電子通信工学、制御機械工学、情報工学の4コースを設けることとする。

各コースでは、自身が選択したコースの授業に加えて他のコースの授業を履修することにより、スペシャリストとしての深い専門知識と同時に、ジェネラリストとしての幅広い知識を獲得することができる。また、研究においては異なる分野の研究者の指導が受け易くなり、研究の幅を広げることができる。

1. 4 ディプロマ・ポリシー

工学研究科のディプロマ・ポリシーは次の通りである。

工学研究科では、高度な技術力と人間力を身につけ、社会に貢献しうる専門的な人材を育成することを使命としている。そのため工学分野の基礎・専門知識を広く修得した上に、

- (1) 自ら新たな課題を開拓し、柔軟な発想をもって課題を解決できる応用力を身につけている。
- (2) 高度に専門家した分野において、チームでの協働作業で自己の役割を果たした上で、さらに継続的な探究心と問題解決力を保持し、新たな技術の創成に寄与できる能力を身につけている。
- (3) 現代技術社会に広く対応できる、プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を身につけている。

以上に加えて、各分野における専門家として社会に貢献しうると認められた者に「修士（工学）」の学位を、さらに新しい分野を開拓し、独創的な研究を遂行でき、リーダーとしての強い責任感を有すると認められた者に「博士（工学）」の学位を授与する。

1. 5 修了後の進路および社会的な需要

博士前期課程修了後の進路は、エレクトロニクス、機械器具、食品・化学工業等の製造業、通信、情報サービス等の情報通信業、専門サービス業等への技術者、研究者としての就業、中学校・高等学校の教員、大学院博士後期課程への進学である。

博士後期課程修了後の進路は、製造業、情報通信業等の企業における研究・開発部門の研究者、大学教員である。

この度の工学専攻は、現在の工学研究科の先端理工学専攻、電子通信工学専攻、制御機械工学専攻及び情報工学専攻を改編して設置するが、現行の工学研究科4専攻の2017年度以前の過去5年間の就職率の平均は90.5%と全国平均を約15ポイント上回っている。そのため、工学専攻も社会的な需要は高いと予測される。

また、現今の経済情勢において、高度な専門知識・技術を有する理工系人材の需要は更に高まっており、修了後の就業については十分な需要があると考えている。

2. 修士課程までの構想か、又は、博士課程の設置を目指した構想か

工学研究科工学専攻は、博士課程の設置を目指した構想である。

3. 専攻等の名称及び学位の名称

工学研究科を一専攻化するに当たり、従来の 4 専攻：先端理工学専攻、電子通信工学専攻、制御機械工学専攻、情報工学専攻を統合する名称として「工学専攻」を選択した。

博士前期課程の学位名称は「修士（工学）」、博士後期課程の学位名称は「博士（工学）」である。

また、英文名称は以下の通りである。

工学研究科	Graduate School of Engineering
工学専攻	Division of Engineering
博士前期課程	Master's Degree Program
修士（工学）	Master of Engineering
博士後期課程	Doctoral Degree Program
博士（工学）	Doctor of Engineering

4. 教育課程の編成の考え方及び特色

4. 1 大学院の教育方針

大阪電気通信大学は、時代のニーズにマッチした確かな技術力と人間力を身につけ、社会で役立つ人材を育成・輩出することを使命としている。本学の大学院では工学研究科、医療福祉工学研究科、総合情報学研究科の 3 研究科を設置しており、それぞれの研究科内の各専攻において、実践的な実学の教育研究体制を構築している。すなわち、大学院でのカリキュラムや研究指導では、各専攻における専門性を追求しながら、人間生活や地球環境に関わるより幅広い分野の科学技術に対する興味と理解を深め、これからの社会や産業に貢献できる技術者としての人間力を養う。そのために、学修してきた知識や技能を応用しながら着実に課題を解決していく「問題解決能力」に加えて、社会のニーズから自分の研究課題を見出すことができる「問題発掘能力」を培っていく。

4. 2 大学院工学研究科

工学研究科のカリキュラム・ポリシーは次の通りである。

工学研究科では、基礎科学、電気、電子、通信、機械、制御、情報の分野において社会に貢献できる人材を育成することを目的としている。それらの分野における技術の進展、複合化は非常に速く、従来の電気、機械等の分野区別では十分な対応が難しくなっている。そのため工学研究科を工学専攻の一専攻とし、そこに先端理工学、電子通信工学、制御機械工学、情報工学の 4 コースを置き、選択したコースの授業に加えて他のコースの授業を履修することにより、幅広い知識を獲得できるようにした。また、研究においては分野の

異なる研究者の指導が受け易くなり、研究の幅を広げることができる。

それらのコースにおけるカリキュラムを通じて博士前期課程では

- (1) 自ら進んで学び、高度な専門知識を修得する。
- (2) 問題を設定し、自ら解決する能力を習得する。
- (3) 人の考えを理解し、自己の考えを適切に伝達できるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力および協調性を身につける。
- (4) 科学技術に対する正しい倫理観を身につける。

博士後期課程では、更に

- (5) 新しい分野を開拓し、独創的な研究を遂行できる能力を習得する。
- (6) リーダーとして責任感を持ち、課題解決を統率していく能力を習得する。

ことを目指している。

博士前期課程においては、各コースの共通科目として「特別研究」と「ゼミナール」を置き必修とする。「特別研究」は指導教員の指導の下、研究を立案・実施し、実践的な研究能力を養うことを目的としている。研究指導は主指導教員の他に 1 名あるいは複数の副指導教員を置き、互いに補佐・連携して大学院生の「特別研究」遂行を補助する。この副指導教員制度を通して、異なる分野の研究者の指導が受け易くなり、研究の幅を広げることができる。「ゼミナール」は「特別研究」を補完する科目であり、工学研究科において重視している科目である。大学院生は定期的に研究成果、関連する文献の内容等を発表し、教員を含む聴講者と質疑応答を行う。それを通してプレゼンテーション能力を修得するとともに問題解決能力を涵養する。また、研究の進捗状況を自ら把握する。研究を支える専門知識は各コースに設けられた科目群を通して修得する。専門知識の幅を広げるために、自身が選択したコースの科目に加えて他コースの科目を 8 単位まで履修できる制度を新たに導入している。

博士後期課程においては、各コースにそれぞれひとつの「特殊研究」を置き、異なる分野の研究者の指導を受け易くする体制を整えている。

博士前期課程

先端理工学コース

先端理工学コースは総合電子工学、物質化学、基礎科学、数理解析の 4 分野で構成されている。それぞれの分野に基幹科目とアドバンス科目をおき、幅広い知識を修得するようにしている。

(1) 総合電子工学

電子工学に基づいた新しいデバイスや材料の探求を続け、これまで培ってきた伝統をさらに発展させるための基盤となる固体電子工学やナノ工学などに関する専門知識を教授する。

- (2) 物質化学
有機・無機化学といった基礎科学からバイオナノテクノロジー・ケミカルテクノロジーといった先端科学分野において、物質化学的な側面から専門知識を教授する。
- (3) 基礎科学
広範な先端理工学分野に適応できうる柔軟な思考を持つ人材の育成において、基礎となる物理的な原理・原則を正しく理解するための専門知識を教授する。
- (4) 数理解析
理工学における共通語としての数学の基礎・専門知識を教授し、先端理工学の屋台骨を支え、問題解決に向けたモデリング能力にたけた技術者を育成する。

電子通信工学コース

電子通信工学コースは光・電子デバイス工学、光・マイクロ波工学、通信・ネットワーク工学の 3 分野で構成されている。それぞれの分野に基幹科目とアドバンス科目をおき、幅広い知識を修得するようにしている。

- (1) 光・電子デバイス工学
半導体中の電子や光の振る舞いを探求するとともに、その成果を電子デバイス、光デバイスの開発に応用するための専門知識を教授する。
- (2) 光・マイクロ波工学
光や電波の情報伝送、情報処理、センシングに関する最先端の応用技術を開発するとともに、その基礎を理解するための専門知識を教授する。
- (3) 通信・ネットワーク工学
ICT 社会を支える幅広い情報通信ネットワーク技術を学び、その基礎理論から実用的な情報セキュリティ技術までを網羅する専門知識を教授する。

制御機械工学コース

制御機械工学コースは、計測制御工学、機械・加工学、エネルギー・環境工学の 3 分野で構成されている。それぞれの分野に基幹科目とアドバンス科目をおき、幅広い知識を習得するようにしている。

- (1) 計測制御工学
機械や物体の動きを制御するために必要な制御理論や、物体の動きや位置を精密に計測するために必要な計測工学などに関する専門知識を教授する。
- (2) 機械・加工学
機械・構造物の設計や健全性評価に必要な機械振動特性解析、材料強度学や、設計された機械を実現するために必要な加工技術などに関する専門知識を教授する。
- (3) エネルギー・環境工学
機械を動かすためのエネルギーを作り出すために必要な熱工学や流体工学、環境に

配慮して効率よくエネルギーを利用するための環境工学に関する専門知識を教授する。

情報工学コース

情報工学コースは、情報基礎学、情報処理学、生産管理工学、計算機基礎学、視覚情報学の 5 分野で構成されている。それぞれの分野に基幹科目とアドバンス科目をおき、幅広い知識を習得するようにしている。

(1) 情報基礎学

情報工学の数理的基礎から数理論理学、アルゴリズム、および言語処理に関する専門知識を教授する。

(2) 情報処理学

画像解析やパタン認識などのコンピュータビジョンから知能情報処理に至るまで情報処理一般に関する専門的な知識を教授する。

(3) 生産管理工学

統計的方法を基礎として、産業の各分野における新しい管理技術の構築と分析に関する知識を教授する。

(4) 計算機基礎学

計算機の数理モデル化やアルゴリズムなどの計算機科学の基礎、および計算機の構成とハードウェアに関する知識を教授する。

(5) 視覚情報学

画像や映像などの視覚情報を中心として、光情報の解析や理解、合成に関する知識を教授する。

博士後期課程

各コースにそれぞれ「先端理工学特殊研究」、「電子通信工学特殊研究」、「制御機械工学特殊研究」、「情報工学特殊研究」が置かれている。

「先端理工学特殊研究」

専門分野における独創的な研究や開発を行う。現在、及び未来に求められる課題を分析し、解決に近づくための問題設定を行って、先端的な研究を実践する。また、得られた成果を客観的に分析して、その価値を公開する能力を涵養する。

「電子通信工学特殊研究」

電気電子工学・情報通信工学分野における基盤技術の開発と構築をめざした先端的な研究開発を行う。現代および未来社会における社会的要請を分析・予測し、適切な技術的課題を設定する能力とともに、その課題を解決する手法を実践・模索、得られた成果を自己

分析してその価値を公開・発表する能力を涵養する。

「制御機械工学特殊研究」

制御機械工学特殊研究では、指導教員の助言に基づき、以下の研究活動を、高い倫理観を持ち主体的に行うことを通じて、研究者・技術者として社会に貢献できる能力の獲得を目指す。

- ・ 関連分野のみならず、諸分野における現状や課題に関する知識の吸収
- ・ 新規事象の発見、考察
- ・ 独創的なアイデアの創出
- ・ 研究計画の立案、実施、評価、改善
- ・ 成果の公表

「情報工学特殊研究」

情報工学特殊研究では、担当教員の指導および助言に基づき下記の能力を体得することを目指す。

- ・ 自身の専門のみならず関連する諸分野における現状や課題に関して広範かつ深遠な知識を継続的に修得し、それらの知識を本質的なレベルで関連付けることができる能力を獲得する。また獲得した知識を自らのアイデアにもとづいて活用することができる。
- ・ 知的好奇心を発揮し、重要性の高い問題を発見し、主体的に研究を立案・遂行することで、その問題に対して主体的に取り組むことができる。
- ・ 多様な観点にもとづいて協調的かつ創造的に問題解決することで、社会に貢献することができる。
- ・ 自らの研究内容に関して、その成果を正確かつ適切に日本語および外国語で国内外に公表することができる。
- ・ 高度な専門知識および高い倫理観を有し、社会的使命を果たすことができる。

5. 教員組織の編成の考え方及び特色

5. 1 教員組織編成の考え方

工学研究科の授業及び研究指導を担当する者は、工学部、情報通信工学部及び共通教育機構の教員の中から、以下の「大阪電気通信大学大学院担当教員選考基準」に定める資格を十分に満たしていると考えられる者をもって充てる。高度な教育研究上の指導能力が求められることから、担当教員は原則として博士の学位を有していることが必要である。

「大阪電気通信大学大学院担当教員選考基準」

I 修士課程を担当する教員にあつては、次のいずれかに該当し、かつ、その担当する専門分野に関し、高度な教育研究上の指導能力があると認められる者とする。

- (イ) 博士の学位を有し、研究上の業績を有する者
- (ロ) 研究上の業績がイの者に準ずると認められる者
- (ハ) 芸術、体育等特定の専門分野について高度の技術・技能を有する者
- (ニ) 専攻分野について、特に優れた知識及び経験を有する者

II 博士後期課程を担当する教員にあつては、次のいずれかに該当し、かつ、その担当する専門分野に関し、極めて高度な教育研究上の指導能力があると認められる者とする。

- (イ) 博士の学位を有し、研究上の顕著な業績を有する者
- (ロ) 研究上の業績がイの者に準ずると認められる者
- (ハ) 専攻分野について、特に優れた知識及び経験を有する者

この選考基準において、修士課程研究指導教員、博士後期課程研究指導教員とは、I、IIに定める資格を有する教員をいう。また、修士課程研究指導補助教員、博士後期課程研究指導補助教員とは、I、IIに定める資格に準じた資格を有する教員をいう。

専攻を構成する専任教員の専門を、資料に示す。【資料1：専任教員の専門分野】

5. 2 教員の年齢構成

開設時の教員の年齢構成は、次の通り、教育研究水準の維持・向上及び活性化に支障がないバランスのよい構成となっている。

専任教員64名のうち、30歳以上40歳未満は3名、40歳以上50歳未満は17名、50歳以上60歳未満は27名、60歳以上70歳未満は17名である。なお、本学の定年は68歳を迎えた年度末であり、定年を超える雇用の計画はない。

定年に関する規程を資料に示す。

【資料2：学校法人大阪電気通信大学定年規則】

6. 教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件

6. 1 博士前期課程

教育方法

教育課程表に示された科目群において、学部で修得した専門知識、技術に基づいて、さらに高度な専門知識、応用技術を教授する。研究指導は一連の科目「特別研究」において、担当指導教員が直接的に行う。研究成果は「特別研究」の補完科目である一連の「ゼミナール」において、定期的に発表し、研究の進捗状況を明らかにするとともに、異なる分野

の教員の指導を受ける。最終的な研究成果は修士の学位論文としてまとめ、公聴会での発表、口頭試問を通して評価する。

履修指導

新入生に対して入学式直後にガイダンスを実施し、授業時間割、シラバスに関する説明、履修登録の方法、課程の修了要件、修了までのスケジュールなどの説明を行う。

授業科目の履修については、学生の意思を尊重した上で、担当指導教員の指導に基づき、ある特定の分野の授業科目に偏らないように決定している。

学生の単位修得状況を前・後期末に、専攻として確認し、適宜、履修指導を担当指導教員が行っている。

修了までのスケジュール表を資料に示す。【資料3：スケジュール表（博士前期課程）】

コースごとの履修モデルを資料に示す。【資料4：履修モデル（博士前期課程）】

研究指導の方法

研究課題の選定、関連する文献の調査・講読、研究の遂行、学内外での発表および修士の学位論文の作成は担当指導教員が、責任を持って、「特別研究」において指導する。研究の進捗状況は、「特別研究」の補完科目である「ゼミナール」において、定期的に発表することにより確認している。また、学外での発表を積極的に推奨している。発表の際、質疑応答を通して得られる他分野の研究者の意見を慎重に検討し、研究に反映させ、研究をより進展させる努力をすることが発表者には求められている。

修士の学位論文提出に関わる手続きについては、修士論文審査日程に基づき、担当指導教員の指導の下、行われている。最終的な研究成果である修士の学位論文は、公開の公聴会での発表、口頭試問を通して審査され、その質を大学として確認している。

修了要件

修了要件は、本学大学院に2年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士の学位論文の審査ならびに最終試験に合格することである。ただし、優れた研究業績を上げた者については、在学期間を1年以上とすることができる。

修了要件単位数は、「特別研究」、「ゼミナール」の必修科目12単位、選択したコースの選択必修科目10単位以上、選択必修科目と選択科目を合わせて14単位以上の合計30単位以上である。また、他コースの科目8単位以内を選択科目に充当することができる。

研究分野及び基礎的素養を涵養する関連分野

教育課程表において、科目群を「先端理工学コース」、「電子通信工学コース」、「制御機械工学コース」、「情報工学コース」の四つのコースに分類し、学ぶべき工学分野を示している。

教育課程表の科目区分の「分野」によって、ある特定の研究分野において求められる専門知識、技術の範囲を明示している。ある「分野」に分類された科目群の履修を通して、その「分野」の技術者としての知識、技術を修得することができる。

必修科目を除く科目群はコア科目とアドバンス科目に分類され、教育課程表においてはそれぞれ選択必修科目、選択科目として示されている。コア科目においては、研究分野における必須の専門知識が教授され、それらを履修することにより、高度な専門知識を持つ技術者としての基盤が形成される。アドバンス科目においては、先進的な応用技術が教授され、現実の社会における諸課題に対応しうる能力を養う。

選択したコースの科目に加えて、他のコースの科目を履修することにより、幅広い専門知識を修得できるようにすることを目的とした履修制度を用意している。

学位論文審査体制

修士論文の審査は、工学研究科委員会に審査委員会を設けて行う。審査委員会の委員は、担当指導教員を主査とし、当該論文に関連ある授業科目担当の教員 2 名以上を加える。修士論文は公開の公聴会で発表される。また、審査委員会は、修士の学位に関する試験を行う。試験は、修士論文を中心に、これに関係ある科目について口頭試問により行われる。審査委員会は、修士論文の審査結果をまとめ、修士の学位に関する試験結果とともに、修士の学位審査報告書を作成し、工学研究科長に提出する。工学研究科委員会は、学位審査報告書に基づき、修士の学位授与について審査を行う。工学研究科長は、その審査結果を学長に報告するとともに意見を述べる。学長は、その意見に基づいて、修士の学位の授与を決定する。

6. 2 博士後期課程

教育方法

工学専攻に「先端理工学特殊研究」、「電子通信工学特殊研究」、「制御機械工学特殊研究」、「情報工学特殊研究」の 4 科目を置き、それらから 1 科目を選択する。

研究課題の選定、関連分野の文献の調査・講読、研究の遂行などの指導は担当指導教員が行う。研究成果は、学内で定期的に発表し、研究の進捗状況を明らかにするとともに、異なる研究分野の教員の指導を受ける。また、学外での発表、論文公表を積極的に進める。最終的な研究成果は博士の学位論文としてまとめ、公聴会での発表、口頭試問を通して評価する。

履修指導

新入生に対して入学式直後にガイダンスを実施し、履修登録の方法、課程の修了要件、修了までのスケジュールなどの説明を行う。

修了までのスケジュール表を資料に示す。【資料 5：スケジュール表（博士後期課程）】

コースごとの履修モデルを資料に示す。【資料 6：履修モデル（博士後期課程）】

研究指導の方法

研究課題の選定、関連する文献の調査・講読、研究の遂行、学内外での発表、論文の公表および博士の学位論文の作成は担当指導教員が、責任を持って、「特殊研究」において指導する。研究の進捗状況は、定期的に学内で発表することにより確認している。また、学内外での発表を積極的に推奨している。発表の際、質疑応答を通して得られる他分野の研究者の意見を慎重に検討し、研究に反映させ、研究をより進展させる努力をすることが発表者には求められている。

博士の学位論文提出に関わる手続きについては、博士論文審査日程に基づき、担当指導教員の指導の下、行われている。最終的な研究成果である博士の学位論文は、公開の公聴会での発表、口頭試問を通して審査され、その質を大学として確認している。

修了要件

修了要件は、本学大学院に 5 年（博士前期課程を修了した者にあつては、当該課程における 2 年の在学期間を含む。）以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、博士の学位論文の審査ならびに最終試験に合格することである。ただし、優れた研究業績を上げた者については、本学大学院に 3 年（博士前期課程に 2 年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における 2 年の在学期間を含む。）以上在学すれば足りるものとする。

修了要件単位数は、選択したコースの 1 科目 12 単位である。

学位論文審査体制

博士論文の審査は、工学研究科指導教員会議に審査委員会を設けて行う。審査委員会の委員は、当該論文に関連ある博士後期課程研究指導教員のうちから指導教員会議において 3 名以上選出するものとし、担当指導教員が主査となる。審査委員会は、論文の審査を行うとともに、学位申請者の研究成果を確認するため、試験を行う。また、審査委員会は、公聴会を開催する。審査委員会は、論文審査の結果及び試験の結果をまとめた博士論文審査報告書を作成し、指導教員会議へ報告する。指導教員会議は、博士論文審査報告書に基づき、博士の学位授与について審査を行う。審査は、無記名投票による可否投票とし、出席者の 3 分の 2 以上の同意をもって可否の審査結果とする。工学研究科長は審査結果を学長に報告するとともに意見を述べる。学長は、その意見に基づき、博士の学位の授与を決定する。

6. 3 学位論文の公表

修士の学位論文は本学図書館に保管されている。

博士の学位論文については「博士学位論文内容の要旨及び審査結果の要旨」を本学ホームページにて公表する。また、学位論文は本学図書館及び国会図書館にて保管、公表されている。

6. 4 研究の倫理審査体制

研究倫理審査体制としては、本学の研究に携わる教員や大学院生が等しく認識すべき倫理や基本的責務、研究活動の基本的姿勢等を明確化するために「大阪電気通信大学研究倫理ガイドライン」を策定し、周知している。

【資料7：大阪電気通信大学研究倫理ガイドライン】

また、研究活動における不正行為又はその恐れのある行為を防止する体制を整備するため、「大阪電気通信大学における公正な研究活動の推進等に関する規程」を策定し、周知している。

【資料8：大阪電気通信大学における公正な研究活動の推進等に関する規程】

この規程に基づき研究倫理向上推進委員会を設置し、以下の業務を行っている。

- (1) 研究活動における不正行為の実態の把握・検証
- (2) 不正防止計画を作成・推進
- (3) 関係部局と協力し不正発生要因に対する改善策の実施
- (4) 本学研究者の行動に関する規範の浸透を図るための方策の推進

研究倫理向上推進委員会は、学長を委員長とし、最高管理責任者として全体を統括している。

研究科長は、研究倫理教育責任者として統括管理責任者の指示の下、以下の職務を行い研究科所属教員の倫理審査体制を構築している。

- (1) 自己の管理監督又は指導する部局等における研究倫理教育の実施を促進し、実施状況を確認する。
- (2) 研究科の構成員が、適切に研究活動を行っているか等をモニタリングし、必要に応じて改善を指導する。
- (3) 学内の部門の長と連携し、学生の研究者倫理に関する規範意識を徹底していくため、学生に対する研究倫理教育の実施を促進する。

7. 施設・設備等の整備計画

7. 1 校地運動場の整備計画

本学は、大阪府の東北部、淀川沿いの寝屋川市に「寝屋川キャンパス」と「駅前キャンパス」があり、寝屋川市に隣接する関西文化学術研究都市のエントランスゾーンに位置す

る四條畷市清滝に「四條畷キャンパス」がある。

校地面積については、寝屋川キャンパス 54,164.49 m²、駅前キャンパス 1,178.64 m²、四條畷キャンパス 150,791.00 m²、その他（グラウンド） 86,377.00 m²、合計 292,511.13 m²となり、当然に設置基準を満たすものである。

寝屋川キャンパスでは、これまで工学研究科を4専攻（先端理工学専攻、電子通信工学専攻、制御機械工学専攻、情報工学専攻）に分けてそれぞれの専門分野に特化した教育を行ってきたが、昨今の教育のボーダレス化、グローバル化に鑑み、4専攻を一旦廃止して、新たに工学専攻を設置し、既設の工学部5学科（電気電子工学科、電子機械工学科、機械工学科、基礎理工学科、環境科学科）及び情報通信工学部2学科（情報工学科、通信工学科）を土台とし、分野の壁を越えた大学院教育及び研究を実現する。講義室、研究室、実験・演習室などの各教室と運動場などの基本的な教育研究の設備環境は十分に整備されている。さらに、現在寝屋川キャンパスでは、リニューアル工事を計画中である。

7. 2 校舎等施設の整備計画

寝屋川キャンパスリニューアル工事において、既存の教室、研究室及び学生の厚生施設等を含む建物9棟分を1棟に集約した新棟建築を2019年6月から着工し、2023年6月までの4年間をかけて全面的に整備を行う。これにより、新棟の中央に約100mにわたって学生の行き交う通路（パサージュ）を配置し、教室が主であるJ号館（教育棟）及び食堂や売店等、学生の厚生施設が主であるZ号館（厚生棟）を接続することにより、全体で一体感のある、機能的に整備されたキャンパスとなり、学生及び教職員の利便性が向上するとともに、相互のコミュニケーションが促進される環境を整備する。また、新棟内を貫く中央通路側（パサージュ側）から研究室の様子が見えるよう設計し、学生及び教員がお互いの研究内容が見える化することによる教育・研究の相乗効果を期待できる環境に整備する。

学生の休息、交流場所としては、J号館の学生ラウンジ及びZ号館の学生ホールの他、新棟の中央に約100mにわたって設けられる学生の行き交う通路（パサージュ）の各所に椅子や談話スペースを配置し、学生の一時的な休息、交流場所を整備する。これにより、パサージュを行き交う他の学生・教職員との自然なコミュニケーションが生まれる空間を提供する。

寝屋川キャンパスには11,975.72m²のグラウンドが整備されており、新棟計画には、1,170 m²の体育館が含まれている。新棟の体育館は、大学院生の主な居場所となる研究室とは至近の位置に計画されている。体育館は最大でバスケットコート2面、バレーボールコート2面、バドミントンコート4面、卓球10面のいずれかを確保でき、様々な運動が実現可能な施設となっている。

寝屋川キャンパスリニューアル工事で整備する新棟はキャンパス敷地の中心部に配置し、延床面積18,900m²（体育館1,170m²を含む）の3階建ての低層建物であり、2階、3階部分には主に教員室、研究室、実験室やプロジェクトルーム等を備え、研究棟としての機能を集約

している。1階部分は事務部門を集約し、学生への事務手続きのワンストップサービスを実現する。又、新棟を中心として、図書館や教室が集約されているJ号館（教育棟）及び生協売店や食堂が集約されているZ号館（厚生棟）と新棟の中央通路（パサージュ）の2階部分をブリッジにより接続することにより、寝屋川キャンパス全体で一体感のある、効率的な動線による学園運営が可能なキャンパス整備となっている。

新設する工学専攻は、現在、工学研究科に置かれた先端理工学専攻、電子通信工学専攻、制御機械工学専攻、情報工学専攻の機能を基礎とするものであり、（各専攻とも、2020年4月学生募集停止予定）各専攻の教育・研究施設を引き継ぐこととなる。

本専攻の教育研究施設の整備状況は下表のとおりであり、専攻の教育研究の遂行、教育課程の実現のために十分な環境を整えている。

工学研究科工学専攻において使用する教育研究施設の整備状況	
・ 教員室65室※	
・ 研究室10室※	研究室は大部屋スペース（約370㎡～560㎡）に複数の研究室が同居し、机・椅子及び家具等によって各研究室の区分けを行う。 （1研究室あたり40㎡想定）
・ 教室30室	
・ 実験実習室87室	
・ コンピュータ演習室7室	
・ 製図室3室	
・ エレクトロニクス基礎研究所	
・ メカトロニクス基礎研究所	
・ 情報学研究所	
・ 3D造形先端加工センター	
・ 衛星通信研究施設	
※印については、新棟2022年3月竣工予定。竣工までの間は、既存の施設を利用する。	

上表のうち、本専攻の専門施設として、3つの研究所（エレクトロニクス基礎研究所、メカトロニクス基礎研究所、情報学研究所）と高度な教育研究装置を備えた2つの施設（3D造形先端加工センター、衛星通信研究施設）を置き、実験及び実習等に必要な装置や器具を備え、教育研究活動の充実を図っている。

- ・ エレクトロニクス基礎研究所には、新素材やデバイスの開発、原子・分子レベルの薄膜制御、評価方法の開発を行う装置を備えている。
- ・ メカトロニクス基礎研究所には、機械工学部門、エネルギー・環境部門、計測・制御・ロボティクス部門、バイオエンジニアリング部門など、さまざまな角度から計測・実験を行える機器を備えている。
- ・ 情報学研究所には、暗室等を整備し、視覚情報の計測を行う機器が備えられている。

- ・ 3D造形先端加工センターには、3DCADで作成したデータなどをもとに、樹脂層の積層幅が最小0.127mmという薄さで非常に細かい造形物を出力できる3Dプリンタ FORTUS360mc-S、工作物を機械にセットしたままフライス、穴あけ、中ぐり、ねじ立て等、様々な加工ができる5軸制御立型マシニングセンタMX-520、レーザ照射による焼結と、高速切削仕上げの繰り返しにより、高品質かつ短時間の精密加工を実現する「金属光造形複合加工機LUMEX AVANCE-25」、放電により、加工物の表面を溶かし、自由な形に切断できる「高速・高性能ワイヤ放電加工機：SL400G」を備えている。
- ・ 衛星通信研究施設には、他大学との交信装置や気象観測装置による20年以上にわたる蓄積データベースがあり、通信衛星とデータ伝送に関する研究を行っている。

大学院生の研究室等は学部生と共通であり、実験に必要な各種設備については、大学院の研究に十分な環境を整えている。研究室の面積は、大学院生を収容する想定で確保されており、各フロアの大部屋スペースの中に学生の人数等によってフロア面積が割り当てられ、机や家具等の配置によってエリア分けを行うことにより、フレキシブルにレイアウト変更が出来るようになってきている。具体的には、研究室は大部屋スペース（約 370 m²～560 m²）に複数の研究室が同居し、机、椅子及び家具等によって各研究室の区分けを行い、1研究室あたり 40 m²程度としている。

研究室の見取り図を資料として示す。【資料 9：研究室見取図】

また、複数の研究室が同居する構成であるため、学内の他の研究室の活動に触発され、お互いに新しいアイデアが生まれやすい環境に整備する。又、教員室と研究室は向かい合う位置に配置されており、ガラス張りで活動が見えるようになっており、学生と教員の相互のコミュニケーションが常に取れるように設計されている。

自習室については、研究室の他、既存建屋の図書館自習室及びラーニングスペースにより、十分なスペースが整備されている。

合わせて、寝屋川キャンパスリニューアル工事では、既存の自習室以外に研究室が配置される 2 階・3 階にミーティングルーム 3 室を配置し、グループでの意見交換やディスカッション及び研究発表の出来る場を整備する。又、プロジェクトルームをパサージュの各所に配置し、プレゼンテーションを行える場を整備するとともに、パサージュを行き交う学生・教職員が自然と足を止めてプレゼンテーションを見学できる仕組みを整備する。

また、工学専攻各コースの時間割案を資料として示す。

隔年開講科目が多いため、開設 1 年目となる 2020 年度と開設 2 年目となる 2021 年度の時間割表を示す。【資料 10：工学専攻時間割案】

7. 3 図書等の資料及び図書館の整備計画

本学は、工学を中心とする教育研究を柱として、理工系図書を中心に蔵書数約 29 万冊、雑誌約 3,800 点を有する図書館を設置している。一方で、情報化社会に対応して、情報検

索システムの構築及びオンライン化や学術雑誌の電子ジャーナル化など、環境、設備の充実に努めている。特に情報検索システムについては、「JDreamⅢ」「MathSciNet」などと契約を行い利用者が希望する情報を的確に収集できる体制を構築している。

図書館は、寝屋川キャンパス図書館（本館）及び四條畷キャンパス図書館のほか、駅前キャンパスに図書室を配置している。各キャンパスにおいて設置学部及び研究科が異なっており、本館は工学・情報通信分野、四條畷館は医療系、生物学、スポーツ科学、ソフトウェア分野、駅前図書室は経済学、金融学分野を重点的に収書している。工学研究科工学専攻は、寝屋川キャンパスにあるため本館を主に利用することが想定される。

本館には、約 250 席の閲覧席を設置しており、自習スペースは十分にあり、ここで自習に励む学生が多い。また、個人パソコンを持ち込んでの使用が可能だけでなく、学内 LAN に接続するための無線 LAN を整備しており、個人パソコンやタブレット端末、スマートフォン等を Wi-Fi 接続して利用することができる。その他、DVD 等の図書館所蔵の視聴覚資料が館内で視聴ができるよう、13 席のパーソナルスペースも確保している。図書、視聴覚資料ともに所蔵がないものについては、学生の要望を受け付けており、学生一人ひとりのニーズに答えている。

学術研究用の雑誌については、和雑誌については電子情報通信学会技術研究報告、電気学会論文誌、数理科学、Newton など、洋雑誌については Nature、Langmuir、Journal of the American Chemical Society、Macromolecules などを整備している。

所蔵の無い資料については、国立国会図書館や他大学図書館、British Library などに閲覧・複写・貸出の依頼を行い、利用者が求める論文や図書を購入しており、利用者が求める資料を 1 つでも多く手元に届けられるよう手配を行っている。また、他大学図書館などから同様の依頼があった際は、当館に所蔵のある資料であれば積極的に対応を行い、図書館同士の相互協力にも貢献している。

図書館では、近年、特筆すべき 3 つの学生支援策を講じている。

第 1 は 2012 年からの取り組みで英語教育研究センターと連携して英語の習熟度に応じたレベルの本をたくさん読むこと（多読、リーディングシャワー）によって英語に慣れ親しみ、理解力の向上を目指している。多読授業を開始してから年々図書館利用者が増えており、多読図書の所蔵も増えている。

第 2 はカリキュラム上の各教育科目において指定された教科書、参考書を各館にてそれぞれ配架し、学生の図書館利用と学習の便宜向上を図っている。

第 3 は教員と連携して図書館内にてビブリオバトルを開催し、学生の読書意欲の向上、プレゼンテーション能力の育成など学修支援活動の一翼を担っている。

このように図書館を単なる「知識の宝庫」として受動的に整備するだけでなく学内の教員、学生などと連携して、図書館のより効率的な利用を目指して積極的に取り組んでいる。

8. 基礎となる学部との関係

このたび新たに設置する工学研究科工学専攻とその基礎となる学部学科の関係を、資料に示す。

【資料 11：基礎となる学部と博士前期課程及び後期課程の関係図】

工学部 5 学科（電気電子工学科、電子機械工学科、機械工学科、基礎理工学科、環境科学科）及び情報通信工学部 2 学科（情報工学科、通信工学科）を基礎とし、その専門を深く勉学研究することを可能とするため、工学研究科に工学専攻を設置するものである。

電気電子工学科及び通信工学科での学びを更に深めるため、工学専攻に電子通信工学コースを用意する。電子機械工学科、機械工学科及び環境科学科（エネルギー・環境工学系）での学びを更に深めるために、工学専攻に制御機械工学コースを用意する。基礎理工学科及び環境科学科（物質化学系）での学びを更に深めるために、工学専攻に先端理工学コースを用意する。情報工学科での学びを更に深めるために、工学専攻に情報工学コースを用意する。このように学部における工学全般における学びを更に深めることができるよう、工学専攻にコースを設置し、専門性に応じた教育課程を編成している。

また、工学専攻は、博士前期課程及び博士後期課程ともに前述の 4 つのコースを用意し、更にその専門を深めることができるよう組織を整備するものである。

9. 入学者選抜の概要

9. 1 アドミッション・ポリシー

工学研究科は、産業の基盤となる工学およびその根幹をなす科学技術の基礎と応用を教授研究するとともに、高度な工学技術を通して社会に貢献できる専門的な人材を育成することを目的としています。このため、次のような学生を求めています。

- (1) 社会に関する幅広い教養と、基礎科学および工学の知識を身につけている人。
- (2) 工学、科学に関する高度な専門知識を修得し、新しい分野を開拓し、自ら問題解決をしたいと思っている人。
- (3) 科学技術に対する正しい倫理観を持ち、自らの専門知識を通して社会に貢献したいと考えている人。

9. 2 学生募集の概要

上記アドミッション・ポリシー及び求める人物像に基づき、次の学生募集を実施する。なお、募集人員は入試ごとには定めず、専攻の入学定員とし、コースごとの人数の目安を定めている。

課程	専攻	コース	入学定員	コースごとの人数の目安
博士前期課程	工学専攻	先端理工学コース	70名	15名
		電子通信工学コース		15名
		制御機械工学コース		20名
		情報工学コース		20名
博士後期課程	工学専攻	先端理工学コース	12名	3名
		電子通信工学コース		3名
		制御機械工学コース		3名
		情報工学コース		3名

博士前期課程

①内部進学入学試験

大阪電気通信大学を卒業見込みの者を対象として実施する。

選考は口頭試問、面接又は学力試験、書類審査により総合的に行う。なお、3年次終了時の学業成績が上位の者については面接と書類審査により総合的に選考を行う。

②一般入学試験

大学を卒業した者又は卒業見込みの者を対象として実施する。

選考は学力試験、口頭試問又は面接及び書類審査により総合的に行う。

③社会人入学試験

大学を卒業した者で、正規職員として同一の教育・研究機関、官公庁、企業等で専攻と関係する分野における業務に2年以上従事している者を対象に実施する。

選考は口述試験及び書類審査により総合的に行う。

④外国人留学生入学試験

外国の国籍を有する者で、外国において学校教育における16年の課程を修了した者又は修了見込みの者を対象として実施する。選考は口述試験及び書類審査により総合的に行う。

博士後期課程

①内部進学入学試験

大阪電気通信大学大学院博士前期課程を修了見込みの者を対象として実施する。

選考は口述試験及び書類審査により総合的に行う。

②一般入学試験

修士の学位を有する者又は取得見込み等の者を対象として実施する。

選考は口述試験及び書類審査により総合的に行う。

③社会人入学試験

修士の学位を有する者で、正規職員として同一の教育・研究機関、官公庁、企業等で専攻と関係する分野における業務に2年以上従事している者を対象に実施する。

④外国人留学生入学試験

外国の国籍を有する者で、外国において修士に相当する学位を得た者又は修了見込みの者を対象として実施する。

選考は口述試験及び書類審査により総合的に行う。

10. 取得可能な資格

工学研究科工学専攻博士前期課程において、修了要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目を履修することで、次の国家資格が取得可能となる。

中学校教諭専修免許（理科）

中学校教諭専修免許（技術）

高等学校教諭専修免許（理科）

高等学校教諭専修免許（工業）

高等学校教諭専修免許（情報）

11. 管理運営

①運営会議

大学（学部及び大学院）全体に係る教育及び研究に関する最高審議機関として、運営会議を設置している。構成員は、学長、副学長、各学部長、共通教育機構長、各研究科長、学務部長、就職部長、入試部長及び大学事務局長であり、必要に応じて学長が招集して議長となる。また、構成員は、審議内容に応じて、教育開発推進センター長、図書館長、メディアコミュニケーションセンター長が出席している。

運営会議は、次の事項を審議する。

- (1) 教育の基本方針及び教育編成並びに大学の将来計画に関する事項
- (2) 教育研究予算の編成方針に関する事項
- (3) 学生の入学、卒業及び課程の修了その他学生の身分の取扱いに関する事項
- (4) 学位の授与の基本に関する事項
- (5) 学生の懲戒の決定に関する事項
- (6) 教員人事の方針、選考基準及び最終選考に関する事項
- (7) 学部長及び研究科長の選考に関する事項
- (8) 学則その他の重要な規則の制定改廃に関する事項

- (9) 自己点検及び外部評価に関する事項
 - (10) 学部その他の機関相互の連絡・調整に関する事項
 - (11) 理事会から付議又は諮問された事項及び学部教授会又は大学院研究科委員会から提起された事項
 - (12) その他大学の運営に関する重要事項
- さらに、学部及び大学院に渉る全学的事項について意見を集約し、学長の意思決定の円滑化を図る。運営会議の設置にともなう、以下の組織における役割についても変更を加えている。

②工学研究会委員会

工学研究科の教員及びその中から選ばれた科長をもって工学研究科委員会が組織されている。工学研究科委員会は、工学研究科に関する次の事項を審議し、学長が決定を行うにあたり意見を述べる。

- (1) 教育課程に関する事項
- (2) 学生の入学及び課程の修了その他学生の身分の取扱いに関する事項
- (3) 学位の授与に関する事項
- (4) 学生の学修指導及び評価に関する事項
- (5) 学生の補導及び懲戒に関する事項
- (6) 授業科目及び研究指導担当に関する事項
- (7) 教育研究予算の配分に関する事項
- (8) 教員の資格審査に関する事項
- (9) 科長候補者の選考に関する事項
- (10) 大学院学則で研究科委員会の議を経るべきものと定められた事項
- (11) 大学院に関する学則及び規則に関する事項
- (12) 学長から付議又は諮問された事項及びコース主任会議から提起された事項
- (13) その他研究科の運営に関する事項

③コース主任会議

科長を補佐し、工学研究科の円滑な運営に関する具体的な業務を行うために、コース主任会議をおく。

コース主任会議は科長と各コース主任をもって組織し、次の業務を行う。

- (1) 研究科委員会の議事の整理並びに研究科委員会に提出する議案の検討及び起案
- (2) 研究科委員会の決定事項の実施に関して必要な諸施策の検討
- (3) コース間の意見交換及び調整
- (4) 研究科の長期計画に関する事項の検討
- (5) その他科長が必要と認めた事項の検討

12. 自己点検・評価

自己点検・評価については、毎年度、日本高等教育評価機構の基準項目に準じて大学全体について自己点検評価を行い、結果を自己点検評価書にまとめている。この自己点検評価書は、学長を議長とし、全学部長、全研究科長等を構成員とした IRE 委員会において審議して作成し、大学 HP で公開している。自己点検評価書内の大学院の部分については、研究科長を取りまとめ役とし、所属の専攻主任が自専攻の自己点検・評価を行っている。

自己点検・評価の結果については、自己点検評価書が完成した段階で、研究科の構成員による審議機関である研究科委員会において報告し、改善に向けての周知を促している。

13. 情報の公表

13.1 紙媒体を通じての提供

紙媒体による情報提供については、定期的（年3回）発行する学報を発行し、保護者・卒業生をはじめ近隣の各種機関など幅広く配布し、本学の取組みについて周知を行っている。

13.2 インターネットを通じての提供

学校教育法施行規則等の一部を改正する省令（平成22年文部科学省令第15号）の趣旨に沿って、大学が公的な教育機関として、社会に対する説明責任を果たすとともに、教育の質向上の観点から、教育研究に関する情報については、大学ホームページ上に次のとおり公開している。

大学ホームページ URL <https://www.osakac.ac.jp/>

①大学の教育研究上の目的に関すること

次のとおり大学ホームページ上に公開している。

トップ⇒大学紹介⇒学部、学科、課程、研究科、専攻ごとの名称及び教育研究上の目的

②教育研究上の基本組織に関すること

大学院学則第5条に規定されており、大学ホームページ上に公開している。

トップ⇒大学紹介⇒学則・設置認可／届出に関する書類⇒大阪電気通信大学大学院学則

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

- 1) 教員組織と各教員が保有する学位及び業績
次のとおり大学ホームページ上に公開している。
トップ⇒大学紹介⇒教員情報データベース（学位、業績等）
- 2) 教員の数
次のとおり大学ホームページ上に公開している。
トップ⇒大学紹介⇒教育情報の公表⇒教職員数等

④入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

次のとおり大学ホームページ上に公開している。

- 1) 入学者受入れ方針
次のとおり大学ホームページ上に公開している。
トップ⇒大学紹介⇒教育情報の公表⇒入学者に関する受入方針、入学者数、収容定員、在学者数、卒業（修了）者数、進学者数、就職者数⇒大学院のアドミッション・ポリシー
- 2) 入学者の数、収容定員、在学学生数、卒業生数、進学者数、就職者数
次のとおり大学ホームページ上に公開している。
トップ⇒大学紹介⇒教育情報の公表⇒入学者に関する受入方針、入学者数、収容定員、在学者数、卒業（修了）者数、進学者数、就職者数⇒「入学者数、入学者推移」、収容定員、在学者数、学位授与（卒業・修了）者数、進学・就職者数
- 3) 進学・就職の状況
進学・就職の状況及び主な就職内定先については、次のとおり大学ホームページ上に公開している。
トップ⇒大学紹介⇒教育情報の公表⇒入学者に関する受入方針、入学者数、収容定員、在学者数、卒業（修了）者数、進学者数、就職者数⇒主な内定先及び内定先業種⇒大学院

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

次のとおり大学ホームページ上に公開している。

トップ⇒大学紹介⇒教育情報の公表⇒授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画（シラバス又は年間授業計画の概要）⇒WEBシラバス、年間の授業計画

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

大学院学則第 23 条及び第 24 条に規定されており、次のとおり大学ホームページ上に公開している。

トップ⇒大学紹介⇒教育情報の公表⇒学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準⇒大学院（学則）

⑦校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

寝屋川キャンパス、四條畷キャンパス、駅前キャンパスの 3 つのキャンパスがあるが、各キャンパスの建物の配置及び施設の情報については、次のとおり大学ホームページ上に情報公開している。

トップ⇒大学紹介⇒教育情報の公表⇒校地校舎の施設その他の学生の教育研究環境⇒寝屋川キャンパス、駅前キャンパス、四條畷キャンパス

⑧授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

次のとおり大学ホームページ上に公開している。

トップ⇒大学紹介⇒教育情報の公表⇒授業料、入学料その他の大学等が徴収する費用⇒学費（大学院）

⑨大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

次のとおり大学ホームページ上に公開している。

トップ⇒大学紹介⇒教育情報の公表⇒学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援⇒修学・心身の健康等に関する支援、進路選択に関する支援

⑩その他

財務情報、学則等の各規程、設置認可申請書及び届出書、設置計画履行状況等報告書、自己点検・自己評価報告書及び認証評価等の情報についても、大学ホームページ上に掲載し、積極的に情報公開している。

1 4. 教育内容等の改善のための組織的な研修等

1 4. 1 FD・SD 研修会の開催

教育改革に対する意識啓発を図るために、大学教職員全員を対象として、FD・SD 研修会を開催している。2018 年度の主なテーマは以下の通りである。

- ・リメディアル教育実践紹介

- ・シラバスの考え方ー授業デザインの道具としてー
- ・配慮願いを取り巻く社会的現状と本学のシステム
- ・本学に帰属意識の高い学生は授業をどうみているのか
- ・アセスメントポリシー確立の取り組みについて
- ・「OECU 教育モデル開発」結果について
- ・社会人基礎力の育成を目指した新しい総合科目の提案

2018年度のFD・SD研修会の実施について、資料に示す。

【資料12：2018年度FD・SD研修実施テーマ】

FD・SD研修会は、授業のない日程で、寝屋川キャンパスと四條畷キャンパスの2キャンパス間を同時中継することにより、教職員全員が参加できるように配慮して、開催している。

14.2 授業アンケートの実施

工学研究科で開講している全授業科目について、学生を対象とした授業アンケートを毎年前期と後期に実施している。質問項目は、教員の授業への取り組み、説明方法、授業レベル、学生の授業内容への関心、総合評価であり、回答は無記名式である。また、アンケートには自由記述欄が設けられている。

アンケート結果は工学研究科長が確認し、評価の低い授業科目の担当教員に「授業改善プラン」の提出を求め、授業改善に努めている。

資 料 目 次

- | | |
|-------|-------------------------------|
| 資料 1 | 専任教員の専門分野 |
| 資料 2 | 学校法人大阪電気通信大学定年規則 |
| 資料 3 | スケジュール表（博士前期課程） |
| 資料 4 | 履修モデル（博士前期課程） |
| 資料 5 | スケジュール表（博士後期課程） |
| 資料 6 | 履修モデル（博士後期課程） |
| 資料 7 | 大阪電気通信大学研究倫理ガイドライン |
| 資料 8 | 大阪電気通信大学における公正な研究活動の推進等に関する規程 |
| 資料 9 | 研究室見取図 |
| 資料 10 | 工学専攻時間割案 |
| 資料 11 | 基礎となる学部と博士前期課程及び後期課程の関係図 |
| 資料 12 | 2018 年度 F D ・ S D 研修実施テーマ |

専任教員の専門分野

先端理工学コース

研究領域	職名	教員氏名	専門分野
総合電子工学分野	教授	安江常夫	表面物理学
	教授	榎本博行	ナノ工学
	教授	影島賢巳	先端計測
物質化学分野	准教授	青沼秀児	有機化学
	教授	川口雅之	無機化学
	教授	湯口宣明	バイオナノテクノロジー
	教授	齊藤安貴子	ケミカルバイオロジー
	教授	森田成昭	分子分光学
	講師	田中孝徳	資源工学
基礎科学分野	教授	原田 融	量子物理学
	教授	溝井 浩	現代物理学
	講師	多米田裕一郎	先端物理学
	教授	阿久津典子	シミュレーション統計力学
	准教授	尾花由紀	地球物理学
数理解析分野	教授	萬代武史	複素解析
	教授	中村拓司	現代幾何学
	准教授	木村和広	数理物理学
	教授	柳田達雄	現象数理学

専任教員の専門分野 電子通信工学コース

研究領域	職名	教員氏名	専門分野
光・電子デバイス工学分野	教授	松浦秀治	半導体デバイス工学
	教授	木原 満	光デバイス工学
	教授	中瀬泰伸	集積デバイス工学
	教授	富岡明宏	光・電子デバイス工学
光・マイクロ波工学分野	教授	小見山彰	電磁波論
	准教授	何 一偉	アンテナ工学
	教授	海老原聡	電磁計測
	教授	柴垣佳明	電波応用光学
	教授	前川泰之	衛星通信工学
	教授	伊與田功	電力システム工学
通信・ネットワーク工学分野	准教授	佐藤寧洋	ネットワーク工学
	准教授	境 隆一	情報セキュリティ
	准教授	土居元紀	信号処理
	教授	村上恭通	暗号処理
	准教授	伊藤義道	信号システム理論
	教授	渡邊俊彦	情報システム工学

専任教員の専門分野 制御機械工学コース

研究領域	職名	教員氏名	専門分野
計測制御工学分野	教授	入部正継	現代制御
	教授	鄭 聖熹	ロボティクス
	准教授	疋田真一	計測工学
	教授	宇田 豊	計測工学
	准教授	吉田晴行	バイオメカニズム論
	教授	月間 満	アクチュエータ工学
	教授	兼宗 進	アクチュエータ工学
機械・加工学分野	教授	阿南景子	機械力学
	教授	井岡誠司	材料力学
	教授	田中宏明	加工学
	准教授	田代徹也	加工学
	教授	新関雅俊	CAD工学
エネルギー・環境工学分野	教授	森 幸治	熱工学
	教授	高岡大造	熱工学
	准教授	添田晴生	環境設計工学
	教授	中田亮生	エネルギー変換工学
	教授	山本剛宏	流体工学

専任教員の専門分野

情報工学コース

研究領域	職名	教員氏名	専門分野
情報基礎学分野	教授	小森政嗣	人間工学
	准教授	阿部 昇	情報数理学
	教授	竹内和広	自然言語処理
情報処理工学分野	准教授	早坂 昇	パターン認識
	准教授	加藤常員	知能情報処理
	准教授	光本浩士	三次元計測
	教授	ヒルド・ミヒヤエル	画像情報解析
	教授	越後富夫	コンピュータビジョン
視覚情報学分野	准教授	上嶋章宏	理論計算機科学
	准教授	藤田 玄	システムLSI設計
	准教授	河合利幸	コンピュータグラフィクス
	教授	来海 暁	光情報センシング
	准教授	西 省吾	光情報処理

学校法人大阪電気通信大学定年規則

第1条 この規則は、学校法人大阪電気通信大学就業規則(以下、「就業規則」という。)第41条の定めに基づき、本法人に勤務する専任職員の定年に関する事項を定める。

第2条 職員の定年は、次のとおりとする。

- (1) 学長 満74歳
- (2) 校長 満68歳
- (3) 教授 満68歳
- (4) その他の職員 満65歳

2 学長、校長については、任期の定めにかかわらず前項の適用を受けるものとする。

第3条 職員は、定年に達した日の属する年度末をもって、当然に雇用契約が終了し、退職するものとする。

第4条 退職一時金支給については、就業規則別表1「退職一時金支給率表」中、定年による支給率を適用する。

第5条 削除

第6条 勤続年数が満20年以上の職員が退職するときは、その受けるべき退職一時金に関し、定年による支給率を適用する。

第7条 法人は、退職期日の60日以前に文書をもって、定年該当者にその旨通知するものとする。

附 則

この規程は、昭和49年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、昭和55年3月31日から施行する。

附 則

この規程は、昭和62年2月24日から施行する。

附 則

この規程は、平成3年2月6日から施行する。

附 則

1 この規程は、平成4年3月27日から施行する。

2 第5条については、平成4年4月1日以降採用者から適用する。

附 則

この規則は、平成7年5月27日から施行する。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

1 この規則は、平成19年4月1日から施行する。

2 削除

附 則

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成21年5月23日から施行する。

附 則

この規則は、2019年5月23日から施行する。

博士前期課程修了までのスケジュール(3月期)

年次・学期	履修登録及び学位論文の提出等	研究指導
1年次前期	履修登録(4月) から 成績発表(9月)	特別研究1:担当教員の指導に基づいて文献考動を行い、研究動向を把握するとともに研究分野および関連分野に関する高度な専門知識、技術を習得するための基礎を身につける。また、担当教員との議論を通して研究課題を設定する。
		ゼミナール1:研究成果、関連する文献の内容等の発表、聴講を通して、プレゼンテーション能力の基礎となる資料の作成および発表技術の基本を修得する。
1年次後期	履修再登録(9月) から 成績発表(3月)	特別研究2:担当教員および他の教員からの助言に基づいて、研究に主体的に取り組み、直面する様々な問題を協調的に解決する能力を身に付ける。また課題解決に必要な、研究分野および関連分野に関する高度な専門知識、技術を修得する。
		ゼミナール2:プレゼンテーション用資料の作成および発表の技術をさらに向上させるとともに、研究によって得られた専門知識や研究内容を正確かつ適切に表現する能力を修得する。
2年次前期	履修登録(4月) から 成績発表(9月)	特別研究3:研究を遂行し、これまでに得られた成果をまとめ、教員および他の大学院生と討議を行い、研究の進展に必要な要因を客観的に分析することで、問題点および課題の見直しを行う。
		ゼミナール3:自らの発表に関する質疑応答において聴講者から出された意見に正しく対応するとともに、その意見について深く検討し、自らの研究に発展的に反映させる能力を修得する。
2年次後期	履修再登録(9月) から 成績発表(3月)	特別研究4:これまでに得られた研究成果をまとめ、学会発表、論文投稿を目指す。それによって得られた知見に基づいて研究内容を修正し、最終的に学位論文としてまとめる。
		ゼミナール4:自らの発表における質疑応答や他の学生の発表に関する討論への積極的な参加を通して協調的かつ創造的に問題解決を行う能力を修得する。
	学位申請書の提出(1月) 修士論文の提出(2月) 修士論文発表会(2月) 論文審査及び口頭試問(2月) 学位授与の判定結果の発表(3月)	

博士前期課程 先端理工学コース 履修モデル

科目区分	授業科目	単位数			履修モデル			
		必修	選択必修	選択	総合電子工学モデル	物質化学モデル	基礎科学モデル	数理解析モデル
総合電子工学分野	固体物理学特論1		1		○	○		
	固体物理学特論2		1		○	○		
	半導体工学特論1		1		○	○		
	半導体工学特論2		1		○	○		
	ナノ工学特論			2	○			
	先端計測特論			2	○			
物質化学分野	有機化学特論		2			○		
	無機化学特論		2		○	○		
	バイオナノテクノロジー特論			2		○		
	ケミカルバイオロジー特論		2			○		
	分子分光光学特論			2		○		
	資源工学特論			2		○		
基礎科学分野	量子物理学特論		2		○		○	○
	現代物理学特論		2		○		○	○
	先端物理学特論			2			○	○
	シミュレーション統計力学特論1			1	○		○	
	シミュレーション統計力学特論2			1	○		○	
	地球物理学特論			2			○	
数理解析分野	複素解析特論		2				○	○
	現代幾何学特論		2				○	○
	数理物理学特論			2				○
	確率モデル特論			2				○
	現象数理学特論		2				○	○
コース共通分野	先端理工英語1		1		○	○	○	○
	先端理工英語2		1		○	○	○	○
全コース共通科目	特別研究1	2			◎	◎	◎	◎
	特別研究2	2			◎	◎	◎	◎
	特別研究3	2			◎	◎	◎	◎
	特別研究4	2			◎	◎	◎	◎
	ゼミナール1	1			◎	◎	◎	◎
	ゼミナール2	1			◎	◎	◎	◎
	ゼミナール3	1			◎	◎	◎	◎
	ゼミナール4	1			◎	◎	◎	◎

博士前期課程 電子通信工学コース 履修モデル

科目区分	授業科目	単位数			履修モデル		
		必修	選択必修	選択	光・電子デバイス工学モデル	光・マイクロ波工学モデル	通信・ネットワーク工学モデル
光・電子デバイス工学分野	半導体デバイス工学		2		○		○
	光デバイス工学		2		○	○	
	集積デバイス工学			2	○		
	光・電子デバイス工学特論			2	○		
光・マイクロ波工学分野	電磁波論		2			○	○
	アンテナ工学		2		○	○	
	電磁計測特論			2	○	○	
	電波応用工学特論			2		○	○
	衛星通信工学特論			2	○	○	
	電力システム工学			2		○	
通信・ネットワーク工学分野	ネットワーク工学特論		2			○	○
	情報セキュリティ		2				○
	信号処理		2			○	○
	暗号理論特論			2			○
	信号システム理論特論			2	○		○
	情報システム工学特論			2			○
制御機械工学コース (機械・加工学分野)	CAD工学特論			2	○		
全コース共通科目	特別研究1	2			◎	◎	◎
	特別研究2	2			◎	◎	◎
	特別研究3	2			◎	◎	◎
	特別研究4	2			◎	◎	◎
	ゼミナール1	1			◎	◎	◎
	ゼミナール2	1			◎	◎	◎
	ゼミナール3	1			◎	◎	◎
	ゼミナール4	1			◎	◎	◎

博士前期課程 制御機械工学コース 履修モデル

科目区分	授業科目	単位数			履修モデル		
		必修	選択必修	選択	計測制御工学モデル	機械・加工学モデル	エネルギー・環境工学モデル
計測制御工学分野	現代制御特論		2		○		
	ロボティクス特論			2	○		
	計測工学特論		2		○	○	
	バイオメカニズム論			2	○		
	アクチュエータ工学特論			2	○		
機械・加工学分野	機械力学特論		2			○	
	材料力学特論		2		○	○	○
	加工学特論			2		○	
	CAD工学特論			2		○	
エネルギー・環境工学分野	熱工学特論		2				○
	環境設計工学			2			○
	エネルギー変換工学特論			2			○
	流体工学特論		2				○
コース共通分野	テクニカルコミュニケーション1		2		○	○	○
	テクニカルコミュニケーション2		2		○	○	○
	国際工学技術特論1			2	○	○	○
	国際工学技術特論2			2	○	○	○
	産学連携機会工学特論			2	○	○	○
全コース共通科目	特別研究1	2			◎	◎	◎
	特別研究2	2			◎	◎	◎
	特別研究3	2			◎	◎	◎
	特別研究4	2			◎	◎	◎
	ゼミナール1	1			◎	◎	◎
	ゼミナール2	1			◎	◎	◎
	ゼミナール3	1			◎	◎	◎
	ゼミナール4	1			◎	◎	◎

博士前期課程 情報工学コース 履修モデル

科目区分	授業科目	単位数			履修モデル			
		必修	選択必修	選択	人工知能 モデル	データサイ エンス モデル	メディア 情報モデ ル	情報基盤 システム モデル
情報基礎学分野	情報数理学特論		2		○	○		○
	自然言語処理特論		2		○	○		○
情報処理工学分野	パターン認識特論		2		○	○	○	○
	知能情報処理特論		2		○	○	○	○
	三次元計測特論		2				○	○
	画像情報解析特論		2		○	○	○	
	コンピュータビジョン特論		2		○		○	○
生産管理工学分野	計算機統計学特論		2		○	○		○
	人間工学特論		2		○	○		
計算機基礎学分野	理論計算機科学特論		2		○	○		○
	システムLSI設計特論		2				○	○
視覚情報学分野	コンピュータグラフィックス特論		2				○	
	光情報センシング特論		2				○	○
	光情報処理特論		2				○	
全コース共通科目	特別研究1	2			◎	◎	◎	◎
	特別研究2	2			◎	◎	◎	◎
	特別研究3	2			◎	◎	◎	◎
	特別研究4	2			◎	◎	◎	◎
	ゼミナール1	1			◎	◎	◎	◎
	ゼミナール2	1			◎	◎	◎	◎
	ゼミナール3	1			◎	◎	◎	◎
	ゼミナール4	1			◎	◎	◎	◎
他コース								
先端理工学コース(数理解析分野)	複素解析特論			2		○		
先端理工学コース(数理解析分野)	確率モデル特論			2		○		
電子通信工学コース(通信・ネットワーク工学分野)	信号処理			2			○	
電子通信工学コース(通信・ネットワーク工学分野)	情報システム工学特論			2	○			○
制御機械工学コース(計測制御工学分野)	計測工学特論			2			○	

博士後期課程修了までのスケジュール(3月期)

年次	履修登録及び学位論文の提出等	研究指導
1年次	履修登録(4月)	研究課題の決定 研究計画の立案 研究の遂行 学内、学外での研究成果の発表
2年次		研究の遂行 学内、学外での研究成果の発表
3年次	学位申請書の提出(12月) 博士論文の提出(1月) 博士論文公聴会(2月) 博士の学位に関する試験及び論文審査(2月) 学位授与の判定結果の発表(3月)	研究の遂行 学内、学外での研究成果の発表

博士後期課程 履修モデル

科目区分	授業科目	授業を行う年次	単位数		履修モデル			
			必修	選択	先端理工学コース	電子通信工学コース	制御機械工学コース	情報工学コース
先端理工学コース	先端理工学特殊研究	1-3	12		◎			
電子通信工学コース	電子通信工学特殊研究	1-3	12			◎		
制御機械工学コース	制御機械工学特殊研究	1-3	12				◎	
情報工学コース	情報工学特殊研究	1-3	12					◎

大阪電気通信大学研究倫理ガイドライン

1. 目的

大阪電気通信大学は、伝統的な学風の特徴である、自由闊達な思考とあくなき探求の精神に基づき、絶えざる自己変革を通じてつねに科学的精神を高揚し、すべての人々の尊厳と幸福のために貢献していく。このガイドラインでは、大阪電気通信大学において研究に携わる者が等しく認識すべき倫理や基本的責務、研究活動の基本的姿勢等を明確化するために必要な事項を定める。

2. 原則**(1) 尊厳**

本学は、人間の尊厳を守り、生命倫理を尊重し、人類や社会の安全と自然環境の保全に努めなければならない。

(2) 研究活動の公正性・透明性の確保

本学は、研究活動の倫理的妥当性をつねに吟味し、その諸過程において公正性・透明性を重視するとともに、説明責任を果たさなければならない。

(3) 研究交流の促進

本学は、研究の交流を積極的に推進し、学外の研究者と学生との自由で開かれた交流や協力を努めなければならない。また、学外交流にあたっては、自主、平和利用、情報公開の3つの原則に基づかなければならない。

3. 大学の責務

(1)本学は、研究倫理に係る意識を高め、研究活動に係る不正行為及び研究費の取扱における不正行為を防止するため、研究活動及び研究費の適切な管理・運営等について必要な措置を講じる。

(2)本学は、研究活動に不適切な行為が認められた場合は、速やかに原因の究明と適切な措置を講じ、学内外への説明責任を果たす。

4. 研究者の責務

このガイドラインにおける「研究者」とは、本学に所属する教員、研究員の他、本学で研究活動に従事するすべての者を指し、学生も研究活動に従事するときは、研究者に準ずるものとする。

(1) 行動規範

研究者は、学術研究が社会からの信頼と負託の上に成り立っていることを自覚し、良心と信念に従って、誠実に行動する。

(2) 法令等の遵守

研究者は、当該研究において人間の尊厳と基本的人権を尊重し、社会の理解を得られるように努める。また、国際的に認められた規範、規約および条約等、国内の法令、指針等および本学の諸規程を遵守する。

(3) 差別やハラスメントの排除

研究者は、研究活動のあらゆる局面において、各個人の人格と自由を尊重し、国籍、性別、年齢等による差別を行わない。また、研究上の優位な立場や権限を利用して、その指示、指導等を受ける者に不利益を与えるような言動をとらない。

(4) 環境・安全への配慮、生命倫理の尊重

研究者は、協働して研究に従事する人々の安全や環境に対して、責任ある取り組みを行う。研究実施上、環境・安全に対して有害となる可能性のあるものを取り扱う場合には、関連する法令、本学規則、関連省庁や学会等の指針等を遵守し、必要に応じて学内外の委員会での承認を受けるとともに、特に、人や動物を対象とした研究においては生命倫理を最大限に尊重する。

(5) 研究等交流の原則

学外機関との交流の決定及び運用に関する基準は、次の自主・平和利用・情報公開の3原則に基づくものとする。

① 自主の原則

イ. 研究を担当する本学研究者の自由や創意が尊重され、研究者の意思決定の自由が確保されていること。

ロ. 人事の決定権等が本学に確保されている等、交流が大学の自治を侵害するものでないこと。

② 平和利用の原則

イ. 軍事開発や人権抑圧等反人類的内容を目的とする研究は行わないこと。

ロ. 交流による研究成果が、明白に軍事開発や人権抑圧等反人類的内容の目的で利用されるものではないこと。

③ 情報公開の原則

イ. 交流による研究成果については、公開を禁止されたものではないこと。

ロ. 工業所有権等の取得及びその他合理的理由のため公表を制約する場合は、合理的期間

の範囲内とされていること。

(6) 審査の公正性

研究者は、他者の研究論文の査読や審査にあたる場合には、審査対象者の属性や審査対象者との関係等によって不当な評価を行うことなく、学問的な基準や当該審査の審査基準に基づいて、公正に審査を行う。

(7) 研究費の適正な使用

研究者は、研究の実施、研究費の使用にあたっては、研究の助成目的等を最大限に尊重するとともに、本学規則及び研究費ごとに定められた条件や使用ルール等を遵守する。

(8) 学術研究における不正行為の防止

研究者は、研究活動のあらゆる局面において、捏造、改ざん、盗用等の不正行為を行わないこと、加担しないことはもとより、研究、調査データの記録保存や適切な取扱いを徹底し、不正行為の発生を未然に防止するよう研究環境の整備に努める。また、研究を指導する立場にある者は、不正行為が行われないよう、指揮下にある研究活動及び研究者等の管理、配慮を行う。

(9) 研究成果の適切な発表、オーサーシップ

研究者は、研究成果の公表について、データや論拠の信頼性の確保に向けて十分留意するとともに、他の研究者の研究成果やオリジナリティーを尊重して公正かつ適切な引用を行うことを基本姿勢とする。また、学術論文等の発表に際しては、オーサーシップや既に発表されている関連データの利用や著作権等について、各研究組織、研究分野、学術誌ごとにある固有の慣例やルールに則って細心の注意を払い、著者全員の十分な了解のもとに行う。

(10) 個人情報の保護

研究者は、研究の過程で入手した他者の個人情報の保護に努め、本学規則に基づき適正な取扱いを行う。

(11) 利益相反の適正なマネジメント

研究者は、自らの研究活動にあたって、利益相反や責務相反の発生に十分な注意を払い、かかる状況が発生する場合には、本学規則に基づき情報公開を行い、適正なマネジメントを行う。

附 則

このガイドラインは、平成30年7月24日から施行する。

大阪電気通信大学における公正な研究活動の推進等に関する規程

(目的)

第1条 この規程は、大阪電気通信大学(以下「本学」という。)における研究活動における不正行為又はその恐れのある行為を防止する体制を整備し、もって本学における健全な研究活動の発展に資することを目的とする。

(定義)

第2条 この規程において用いる用語は、次の各項の定義によるものとする。

(1) 「研究者等」とは、次に掲げる者をいう。

- (ア) 本学の職員、学術研究員、博士研究員又は嘱託職員
- (イ) 本学の施設設備を利用する者で、この規程に従う旨の契約をした者
- (ウ) 本学の学生、研究生又は客員研究員であって、本学職員の指導の下に研究を行っている者

(2) 研究活動における「不正行為」とは、次に掲げる行為をいう。

- (ア) 捏造 存在しないデータ、研究結果等を作成すること。
- (イ) 改ざん 研究資料・機器・過程を変更する操作を行い、データ、研究活動によって得られた結果等を真正でないものに加工すること。
- (ウ) 盗用 他の研究者のアイディア、分析・解析方法、データ、研究結果、論文又は用語を当該研究者の了解又は適切な表示なく流用すること。

2 新たな研究成果により従来の仮説や研究成果が否定されることは、研究活動の本質でもあって、科学的に適切な方法により正当に得られた研究成果が結果的に誤りであったとしても、それは不正行為には当たらない。

3 この規程において、「悪意」とは、被告発者を陥れるため、又は被告発者が行う研究を妨害するためなど、専ら被告発者に何らかの損害を与えることや本学に不利益を与えることを目的とする意思をいう。

4 この規程において、「配分機関」とは、文部科学省、独立行政法人科学技術振興機構、独立行政法人日本学術振興会、各府省庁(各府省庁から当該研究資金に係る委託を受けた機関を含む。)等をいう。

5 この規程において、「研究データ」とは、実験の生データ及び実験・観察ノート等、外

部に発表する論文又は研究成果を導出するために必要とした各種データ等をいう。

(研究者等の責務)

第3条 本学の研究者等は、高い倫理性及び自己規律を保持し、公正な研究活動を行わなければならない。

(研究データの保存等)

第4条 本学の研究者等は、適正な保存方法により、一定期間(各研究分野の特性に依るが、概ね5年)研究データを保存し、必要に応じて当該研究データを開示しなければならない。

(組織)

第5条 本学の研究倫理の向上を図る組織として、第8条第2項で定める最高管理責任者を委員長とする研究倫理向上推進委員会を設置する。

(役割)

第6条 研究倫理向上推進委員会は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 研究活動における不正行為の実態の把握・検証に関すること。
- (2) 前号に基づき不正防止計画を作成・推進し、関係部局と協力し不正発生要因に対する改善策を講ずること。
- (3) 本学研究者の行動に関する規範の浸透を図るための方策を推進すること。
- (4) その他必要な事項に関すること。

(組織の構成)

第7条 委員会は、次の各号の者をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 大学事務局長
- (4) 研究科長
- (5) 学部長
- (6) 共通教育機構長
- (7) 研究機構長(研究所長又は研究施設長の中から学長が指名した1名)
- (8) 研究連携推進センター長
- (9) 学務部長
- (10) 四條畷事務部長
- (11) 大学事務局次長
- (12) 研究支援室長

(13) 学長が指名する教職員

(14) その他、学長が必要に応じて指名する専門的知識を有する学外者
(職務)

第8条 委員会には以下の責任者を置く。

2 委員長は学長とし、最高管理責任者とする。最高管理責任者は、本学全体を統括し、研究活動において最終責任を負う。最高管理責任者は、不正防止対策の基本方針を策定・周知するとともに、それらを実施するために必要な措置を講じる。また、以下に定める統括管理責任者及び研究倫理教育責任者が責任を持って研究倫理教育が行えるよう、本学全体を統率する。

3 副委員長は副学長とし、最高管理責任者を補佐する。

4 統括管理責任者は大学事務局長とする。統括管理責任者は、不正防止対策の組織横断的な体制の責任者として、最高管理責任者の下、下記の職務を行う。

(1) 基本方針に基づき、本学全体の具体的な対策を策定・実施する。

(2) 実施状況を確認するとともに、最高管理責任者に報告する。

(3) 不正行為を事前に防止し、公正な研究活動を推進するために研究倫理教育を実施する。

5 研究科長、学部長、共通教育機構長、研究機構長、研究連携推進センター長及び学務部長をして、研究倫理教育責任者とする。研究倫理教育責任者は、統括管理責任者の指示の下、下記の職務を行う。

(1) 自己の管理監督又は指導する部局等における研究倫理教育の実施を促進し、実施状況を確認するとともに、実施状況を統括管理責任者に報告する。

(2) 自己の管理監督又は指導する部局等において、構成員が、適切に研究活動を行っているか等をモニタリングし、必要に応じて改善を指導する。

(3) 学務部長、研究科長及び学部長は連携し、学生の研究者倫理に関する規範意識を徹底していくため、研究科及び学部の教育研究上の目的及び専攻分野の特性に応じて、学生に対する研究倫理教育の実施を促進する。

6 四條畷事務部長、大学事務局次長及び研究支援室長をして、研究倫理教育副責任者とする。研究倫理教育副責任者は、研究倫理教育責任者を補佐し、研究倫理の涵養を図る。

(不正防止計画の策定及び実施)

第9条 最高管理責任者は、不正防止計画案を統括管理責任者へ提示する。

2 統括管理責任者は、不正防止計画を実施し、事業年度ごとに実施状況を調査し、最高管

理責任者へ報告しなければならない。

3 研究倫理教育責任者は、研究倫理教育の実施計画を策定し、実施し、状況を統括管理責任者へ報告しなければならない。

4 最高管理責任者は、本学における実施状況を把握し、必要に応じて改善を指示する。

(研究活動のルールに関する相談窓口)

第10条 本学における研究活動におけるルールについて本学内外からの相談を受ける窓口を置く。

2 相談窓口は、研究支援室とする。

3 相談窓口は、本学における効率的な研究遂行のための適切なルールの作成や遵守の体制を支援するよう努めるものとする。

(告発受付窓口)

第11条 研究活動における不正行為に関する告発又は告発までに至らない段階の相談等(以下「告発等」という。)は、学校法人大阪電気通信大学公益通報等に関する規則第2条に定める法人内部監査室を通じて受け付ける。

(告発の取扱い)

第12条 告発等は、告発受付窓口に対する書面、電話、FAX、電子メール、面談等を通じて、直接行われるべきものとする。

2 原則として、告発は顕名により行われ、不正行為を行ったとする研究者・グループ、不正行為の態様等、事案の内容が明示され、かつ不正とする科学的な合理性のある理由が示されているもののみを受け付ける。ただし、匿名による告発があった場合、告発の内容に応じ、顕名の告発があった場合に準じた取扱いをすることができる。

3 告発等を受け付けたときは、速やかに最高管理責任者に報告するものとする。

4 告発等の受付や調査・事実確認を行う者は、自己との利害関係を持つ事案には関与してはならない。

(告発者・被告発者の取扱い)

第13条 告発を受け付ける場合、個室で面談したり、電話や電子メール等を窓口の担当職員以外は見聞できないようにしたりするなど、告発内容や告発者の秘密を守るため適切な方法を講じなければならない。

2 受付窓口に寄せられた告発の告発者、被告発者、告発内容及び調査内容について、調査結果の公表まで、告発者及び被告発者の意に反して調査関係者以外に漏えいしないよう、関係者の秘密保持を徹底しなければならない。

- 3 悪意に基づく告発を防止するため、告発は原則として顕名によるもののみ受け付ける。
- 4 告発には不正とする科学的な合理性のある理由を示すことが必要であり、告発者に調査に協力を求める場合がある。また、調査の結果、悪意に基づく告発であったことが判明した場合は、氏名の公表や懲戒処分、刑事告発を行うこともある旨を告知する。
- 5 悪意に基づく告発であることが判明しない限り、単に告発したことを理由に、告発者に対し、解雇、降格、減給その他不利益な取扱いをしてはならない。
- 6 相当な理由なしに、単に告発等がなされたことのみをもって、被告発者の研究活動を部分的又は全面的に禁止したり、解雇、降格、減給その他不利益な取扱いをしたりしてはならない。

(告発の受付によらないものの取扱い)

第14条 告発の意思を明示しない相談については、相談を受け付けた法人内部監査室は、その内容に応じ、告発に準じてその内容を確認・精査し、相当の理由があると認めた場合は、相談者に対して告発の意思があるか否かを確認しなければならない。

- 2 前項の相談について、告発の意思表示がなされない場合にも、最高管理責任者の判断でその事案の調査を開始することができる。
- 3 学会等の科学コミュニティや報道により不正行為の疑いが指摘された場合は、本学に告発があった場合に準じた取扱いをすることができる。
- 4 不正行為の疑いがインターネット上に掲載されていることを、本学が確認した場合、本学に告発があった場合に準じた取扱いをすることができる。ただし、不正行為を行ったとする研究者・グループ、不正行為の態様等、事案の内容が明示され、かつ不正とする科学的な合理性のある理由が示されている場合のみとする。

(警告)

第15条 不正行為が行われようとしている、又は不正行為を求められているという告発等については、最高管理責任者は、その内容を確認・精査し、合理的な理由があると認めたときは、被告発者に警告を行うものとする。ただし、被告発者が本学の研究者等でないときは、警告に代えて被告発者の所属する機関に当該事案を回付することができる。

(調査を行う機関)

第16条 本学に所属する研究者等に係る不正行為の告発があった場合、原則として、本学が告発された事案の調査を行う。

- 2 被告発者が本学と異なる研究機関で行った研究活動に係る告発があった場合、本学と当該研究活動が行われた研究機関とが合同で、告発された事案の調査を行う。

- 3 被告発者が、告発された事案に係る研究活動を行っていた際に所属していた研究機関を既に離職している場合、本学は、離職した研究機関と合同で、告発された事案の調査を行う。
- 4 本学は、告発された事案に係る研究活動の分野に関連がある機関や学協会等の科学コミュニティがある場合、関連がある機関や学協会等の科学コミュニティに調査を委託すること又は調査を実施する上での協力を求める。

(予備調査)

- 第17条 最高管理責任者は、告発を受け付けた後速やかに、調査委員会を設置し予備調査を行う。調査委員会の構成は、被告発者の所属する学部長、被告発者の所属する学科から1名、大学事務局長、学長が指名する学外有識者3名で構成される。
- 2 調査委員会は、告発を受け付けた後速やかに、告発された不正行為が行われた可能性、告発の際示された科学的な合理性のある理由の論理性、告発された事案に係る研究活動の公表から告発までの期間が、研究成果の事後の検証を可能とするもの(生データ、実験・観察ノート、実験試料・試薬等)については、合理的な保存期間を超えるか否か等、告発内容の合理性、調査可能性等について予備調査を行う。
 - 3 最高管理責任者は、予備調査の結果、告発がなされた事案が本調査をすべきものか30日以内に決定する。
 - 4 本調査を行わないことを決定した場合、その旨を理由とともに告発者に通知するものとする。この場合、最高管理責任者は予備調査に係る資料等を保存し、その事案に係る配分機関等及び被告発者の求めに応じ開示するものとする。

(本調査)

- 第18条 本調査を行うことを決定した場合、最高管理責任者は、告発者及び被告発者に対し、本調査を行うことを通知し、調査への協力を求める。被告発者が本学以外の機関に所属している場合は、その所属機関にも通知する。
- 2 最高管理責任者は、当該事案に係る配分機関等及び文部科学省に本調査を行う旨報告する。
 - 3 本調査の実施の決定後、実際に本調査が開始されるまでの期間の目安は30日以内とする。

(調査体制)

- 第19条 本調査は、予備調査で設置した調査委員会が引き続き行う。
- 2 最高管理責任者が必要と認める場合には、委員を追加することができる。ただし、学外有識者の数が半数以上とする必要がある。

- 3 最高管理責任者は、調査委員会に調査を当たらせるに際し、委員の氏名や所属を告発者及び被告発者に示すものとする。これに対し、告発者及び被告発者は、7日以内に異議申立てをすることができる。異議申立てがあった場合、調査委員会は内容を審査し、その内容が妥当であると判断したときは、最高管理責任者は、当該異議申立てに係る調査委員を交代させるとともに、その旨を告発者及び被告発者に通知する。

(調査方法・権限)

第20条 本調査は、告発された事案に係る研究活動に関する論文や実験・観察ノート、生データ等の各種資料の精査や、関係者のヒアリング、再実験の要請等により行われる。この際、被告発者の弁明の聴取が行われなければならない。

- 2 告発された不正行為が行われた可能性を調査するために、調査委員会が再実験等により再現性を示すことを被告発者に求める場合、又は被告発者自らの意思によりそれを申し出て調査委員会がその必要性を認める場合は、それに要する期間及び機会(機器、経費等を含む。)に関し本学により合理的に必要と判断される範囲内において、これを行う。その際、調査委員会の指導・監督の下に行うこととする。

- 3 この調査権限に基づく調査委員会の調査に対し、告発者及び被告発者等の関係者は誠実に協力しなければならない。また、本学以外の機関において調査がなされる場合も誠実に協力しなければならない。

(調査の対象となる研究活動)

第21条 調査の対象には、告発された事案に係る研究活動のほか、調査委員会の判断により調査に関連した被告発者の他の研究活動も含めることができる。

(証拠の保全措置)

第22条 最高管理責任者は本調査に当たって、告発された事案に係る研究活動に関して、証拠となるような資料等を保全する措置をとる。本学が告発された事案に係る研究活動が行われた研究機関となっていないときは、調査機関の要請に応じ、告発された事案に係る研究活動に関して、証拠となるような資料等を保全する措置をとる。これらの措置に影響しない範囲内であれば、被告発者の研究活動を制限しない。

(調査の中間報告)

第23条 告発された事案に係る研究活動の予算の配分又は措置をした配分機関等の求めに応じ、調査の終了前であっても、調査の中間報告を当該配分機関等に提出するものとする。

(調査における研究又は技術上の情報の保護)

第24条 調査に当たっては、調査対象における公表前のデータ、論文等の研究又は技術上

秘密とすべき情報が、調査の遂行上必要な範囲外に漏えいすることのないよう十分配慮する。

(認定)

第25条 調査委員会は、本調査の開始後、150日以内を目安として調査した内容をまとめ、不正行為が行われたか否か、不正行為と認定された場合はその内容、不正行為に関与した者とその関与の度合い、不正行為と認定された研究活動に係る論文等の各著者の当該論文等及び当該研究活動における役割を認定する。

- 2 調査委員会は、被告発者が行う説明を受けるとともに、調査によって得られた、物的・科学的証拠、証言、被告発者の自認等の諸証拠を総合的に判断して、不正行為か否かの認定を行う。
- 3 不正行為に関する証拠が提出された場合には、被告発者の説明及びその他の証拠によって、不正行為であるとの疑いが覆されないときは、不正行為と認定される。また、被告発者が生データや実験・観察ノート、実験試料・試薬等の不existence等、本来存在すべき基本的な要素の不足により、不正行為であるとの疑いを覆すに足る証拠を示せないときも同様とする。ただし、被告発者が善良な管理者の注意義務を履行していたにもかかわらず、その責によらない理由(例えば災害等)により、上記の基本的な要素を十分に示すことができなくなった場合等正当な理由があると認められる場合はこの限りではない。また、生データや実験・観察ノート、実験試料・試薬等の不existence等が、各研究分野の特性に応じた合理的な保存期間や被告発者が所属する、又は告発に係る研究活動を行っていたときに所属していた研究機関が定める保存期間を超えることによるものである場合についても同様とする。
- 4 不正行為が行われなかったと認定される場合であって、調査を通じて告発が悪意に基づくものであることが判明したときは、調査委員会は、併せてその旨の認定を行うものとする。この認定を行うに当たっては、告発者に弁明の機会を与えなければならない。
- 5 認定を終了したときは、調査委員会は直ちにその設置者たる最高管理責任者に報告する。
- 6 最高管理責任者は、調査結果を速やかに告発者及び被告発者に通知する。被告発者が本学以外の機関に所属している場合は、その所属機関にも当該調査結果を通知する。
- 7 最高管理責任者は、その事案に係る配分機関等及び文部科学省に当該調査結果を報告する。
- 8 悪意に基づく告発との認定があった場合、最高管理責任者は告発者の所属機関にも通知する。

(不正行為の疑惑への説明責任)

第26条 調査委員会の調査において、被告発者が告発された事案に係る研究活動に関する疑惑を晴らそうとする場合には、自己の責任において、当該研究活動が科学的に適正な方法と手続ののっとり行われたこと、論文等もそれに基づいて適切な表現で書かれたものであることを、科学的根拠を示して説明しなければならない。

2 説明責任の程度及び本来存在するべき基本的要素については、研究分野の特性に応じ、調査委員会の判断に委ねられる。

(不服申立て)

第27条 不正行為と認定された被告発者は、10日以内に不服申立てをすることができる。

2 告発が悪意に基づくものと認定された告発者は、その認定について、10日以内に不服申立てをすることができる。

3 不服申立ての審査は調査委員会が行う。その際、不服申立ての趣旨が新たに専門性を要する判断が必要となるものである場合には、最高管理責任者は、調査委員の交代若しくは追加、又は調査委員会に代えて他の者に審査をさせる。ただし、当該不服申立てについて調査委員会の構成の変更等を必要とする相当の理由がないと認めるときは、この限りでない。

4 不正行為があったと認定された場合に係る被告発者による不服申立てについて、調査委員会は、不服申立ての趣旨、理由等を勘案し、その事案の再調査を行うか否かを速やかに決定する。当該事案の再調査を行うまでもなく、不服申立てを却下すべきものと決定した場合には、直ちに最高管理責任者に報告し、最高管理責任者は被告発者に当該決定を通知する。このとき、当該不服申立てが当該事案の引き延ばしや認定に伴う各措置の先送りを主な目的とすると調査委員会が判断するときには、本学は以後の不服申立てを受け付けないことができる。

5 最高管理責任者は、被告発者から不正行為の認定に係る不服申立てがあったときは、告発者に通知する。加えて、最高管理責任者は、その事案に係る配分機関等及び文部科学省に報告する。不服申立ての却下及び再調査開始の決定をしたときも同様とする。

6 悪意に基づく告発と認定された告発者から不服申立てがあった場合、最高管理責任者は、被告発者、告発者及び告発者の所属機関に通知する。加えて、その事案に係る配分機関等及び文部科学省に報告する。

(再調査)

第28条 前条に基づく不服申し立てについて、再調査を行う決定を行った場合には、調査

委員会は被告発者に対し、先の調査結果を覆すに足る資料の提出等、当該事案の速やかな解決に向けて、再調査に協力することを求める。その協力が得られない場合には、再調査を行わず、審査を打ち切ることができる。その場合には直ちに最高管理責任者に報告し、最高管理責任者は被告発者に当該決定を通知する。

- 2 調査委員会が再調査を開始した場合は、目安として50日以内に、先の調査結果を覆すか否かを決定し、その結果を直ちに最高管理責任者に報告し、最高管理責任者は当該結果を被告発者及び告発者に通知する。被告発者が本学以外の機関に所属している場合は、その所属機関にも当該調査結果を通知する。加えて、最高管理責任者は、その事案に係る配分機関等及び文部科学省に報告する。
- 3 不服申立てについては、調査委員会は、目安として30日以内に再調査を行い、その結果を直ちに最高管理責任者に報告するものとする。最高管理責任者は、当該結果を告発者及び被告発者等に通知する。加えて、最高管理責任者は、その事案に係る配分機関等及び文部科学省に報告する。

(調査結果の公表)

第29条 最高管理責任者は、不正行為が行われたとの認定があった場合は、速やかに調査結果を公表する。

- 2 前項の公表における公表内容は、次の各号に定めるものとする。
 - (1) 不正行為に関与した者の氏名及び所属
 - (2) 不正行為の概要
 - (3) 不正行為に対して、本学が講じた措置の概要
 - (4) 調査委員会委員の氏名及び所属、調査方法の概要
 - (5) その他最高管理責任者が必要と認めた事項
- 3 前項にかかわらず、個人情報又は知的財産の保護等、最高管理責任者が非公表とするにつき合理的な理由があると認める場合は、一部の事項を非公表とすることができる。
- 4 最高管理責任者は、不正行為が行われなかったとの認定があった場合は、原則として調査結果を公表しない。ただし、調査事案が外部に漏えいしていた場合及び論文等に故意によるものでない誤りがあった場合は、調査結果を公表する。悪意に基づく告発の認定があったときは、調査結果を公表する。

(告発者及び被告発者に対する措置)

第30条 不正行為が行われたとの認定があった場合、不正行為への関与が認定された者及び関与したとまでは認定されないが、不正行為が認定された論文等の内容について責任を

負う者として認定された著者(以下「被認定者」という。)に対しては、就業規則に基づき処分を行うとともに、不正行為と認定された論文等の取下げを勧告する。

2 告発が悪意に基づくものと認定された場合、当該者に対し、就業規則に基づき処分を行う。

(雑則)

第31条 研究倫理向上推進委員会の事務は、法人内部監査室及び担当課の協力を得て、研究支援室において処理する。

(改廃)

第32条 この規程の改廃は、教授会での意見を参酌し、運営会議の審議を経て学長が理事長に上程し、常任理事会での審議を経て理事長が決裁する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年9月1日から施行する。

附 則

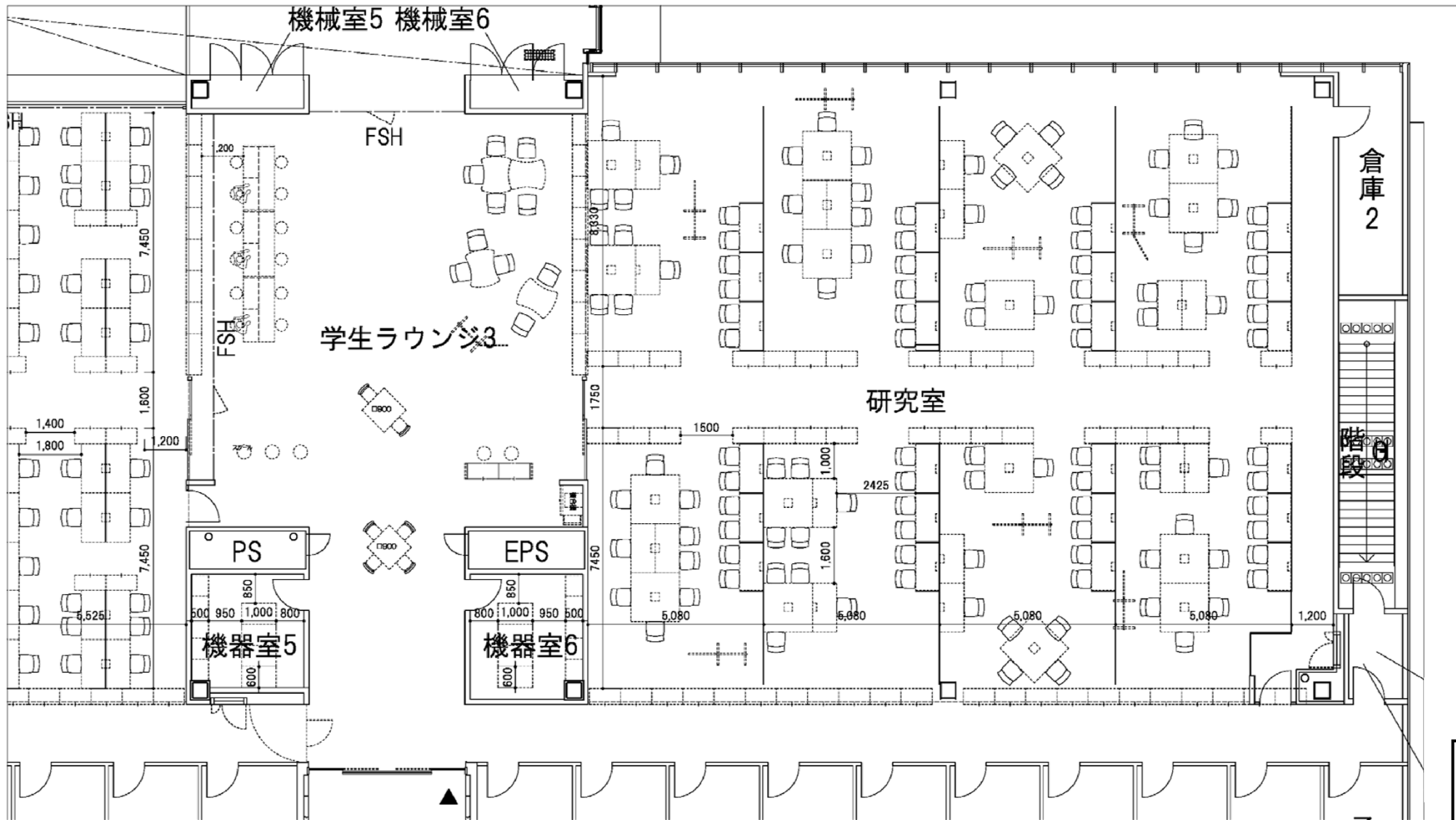
この規程は、平成29年6月13日から施行する。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成30年10月1日から施行する。



大阪電気通信大学大学院 工学研究科 工学専攻 寝屋川キャンパス新棟 研究室見取図

大学院 工学研究科工学専攻修士課程 授業時間割 (2020年度)

時限	曜日 期別	コース	月			火			水			木			金						
			科 目	担当	教室	科 目	担当	教室	科 目	担当	教室	科 目	担当	教室	科 目	担当	教室				
1	9:00 ~ 10:30	前	先端理工	(後半) 固体物理学特論 2	榎本	J401				量子物理学特論	原田	J414									
			電子通信																		
			制御機械													テクニカル コミュニケーション 1	新関	J401			
			情報																		
		後	先端理工	現代幾何学特論	中村拓	J401	分子分光学特論	森田	J414												
			電子通信																		
			制御機械																		
			情報																		
2	10:40 ~ 12:10	前	先端理工	無機化学特論	川口	J414	(前半) 固体物理学特論 1	安江	J414												
			電子通信	電磁計測特論	海老原	J401				電波応用工学特論	柴垣	J401									
			制御機械				計測工学特論	宇田 足田	J401												
			情報							光情報センシング特論	来海	J313									
		後	先端理工	先端計測特論	安江 榎本 影島	J414				バイオナノテクノロジー特論	湯口	J313	(前半) 半導体工学特論 1	影島	J414						
			電子通信										(後半) 半導体工学特論 2	影島	J414						
			制御機械							環境設計工学	添田	J508	電磁波論	小見山	J402						
			情報													パターン認識特論	早坂	J313			
			3	13:00 ~ 14:30	前	先端理工															
						電子通信				情報システム工学特論	渡邊	J401									
						制御機械															
						情報							システムLSI設計特論	藤田	J313	情報数理学特論	阿部	J414			
後	先端理工																				
	電子通信							光デバイス工学	木原	J401											
	制御機械													テクニカル コミュニケーション 2	新関	J401					
	情報				理論計算機科学特論	上嶋	J414														

大学院 工学研究科工学専攻修士課程 授業時間割 (2020年度)

時限	曜日 期別	コース	月			火			水			木			金			
			科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	
4	14:40 ~ 16:10	前	先端理工	複素解析特論	萬代	J414	確率モデル特論	木村	J313	現代物理学特論	溝井	J414						
			電子通信				光・電子デバイス工学特論	富岡	J401	電カシステム工学	伊與田	J401						
			制御機械															
			情報															
	後	先端理工																
		電子通信	アンテナ工学	何	J401				情報セキュリティ	境	J414							
		制御機械				流体工学特論	山本	J313	産学連携機械工学特論	阿南	1601			アクチュエータ工学特論	月間兼宗	J401		
		情報																
5	16:20 ~ 17:50	前	先端理工	ゼミナール3	全教員	J514	ゼミナール1	全教員	J514					先端理工英語1	森田	J703b		
			電子通信	ゼミナール3	全教員	J407	ゼミナール1	全教員	J407									
			制御機械	ゼミナール3	全教員	J307	ゼミナール1	全教員	J307									
			情報	ゼミナール3	全教員	J509	ゼミナール1	全教員	J509									
	後	先端理工	ゼミナール4	全教員	J514	ゼミナール2	全教員	J514						先端理工英語2	森田	J703b		
		電子通信	ゼミナール4	全教員	J407	ゼミナール2	全教員	J407										
		制御機械	ゼミナール4	全教員	J307	ゼミナール2	全教員	J307						材料力学特論	井岡	J313		
		情報	ゼミナール4	全教員	J509	ゼミナール2	全教員	J509										
集中授業	前	制御機械	土曜集中 科目：国際工学技術特論1 担当：鄭 教室：J307															
		制御機械	土曜集中 科目：国際工学技術特論2 担当：鄭 教室：J307															
	情報	夏期集中 科目：計算機統計学特論 担当：遠里 教室：J313																
後																		

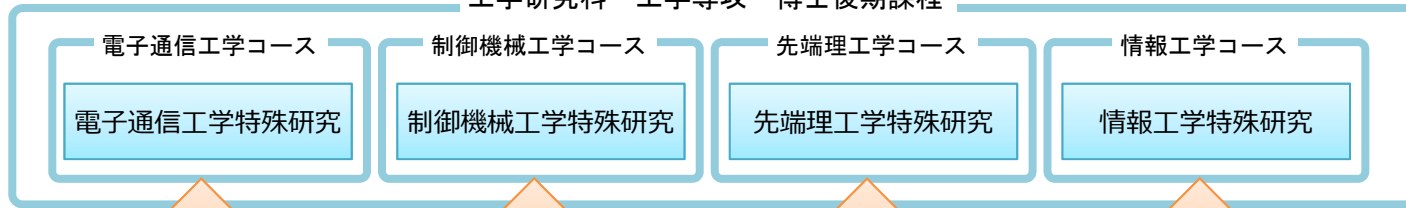
大学院 工学研究科工学専攻修士課程 授業時間割 (2021年度)

時限	曜日 期別	コース	月			火			水			木			金			
			科 目	担当	教室	科 目	担当	教室	科 目	担当	教室	科 目	担当	教室	科 目	担当	教室	
1	9:00 ~ 10:30	前	先端理工	(後半) 固体物理学特論2	榎本	J401												
			電子通信															
			制御機械	CAD工学特論	新関	J708												
			情報															
	後	先端理工	資源工学特論	田中	J401				地球物理学特論	尾花	Y324							
		電子通信																
		制御機械										熱工学特論	森 高岡	J313				
		情報																
2	10:40 ~ 12:10	前	先端理工	ナノ工学特論	榎本 影島 安江	J401	(前半) 固体物理学特論1	安江	J414	有機化学特論	青沼	J401						
			電子通信	ネットワーク工学特論	佐藤	J414	信号システム理論特論	伊藤	J401						暗号理論特論	村上	J313	
			制御機械							現代制御特論	入部	J313	バイオメカニズム論	吉田	J313			
			情報	三次元計測特論	光本	J313							コンピュータビジョン特論	越後	J414			
	後	先端理工											先端物理学特論	多米田	J401			
		電子通信																
		制御機械	ロボティクス特論	鄭	J401							エネルギー変換工学特論	中田	J313				
		情報				知能情報処理特論	加藤	J414	光情報処理特論	西	J414							
3	13:00 ~ 14:30	前	先端理工															
			電子通信						信号処理	土居	J703a							
			制御機械															
			情報															
	後	先端理工	(前半) シミュレーション統計力学特論1	阿久津	J708													
			(後半) シミュレーション統計力学特論2	阿久津														
		電子通信	半導体デバイス工学	松浦	J313	集積デバイス工学	中瀬	J313										
		制御機械	機械力学特論	阿南	J401							加工学特論	田中 田代	J313				
情報	画像情報解析特論	ヒルド	J414															

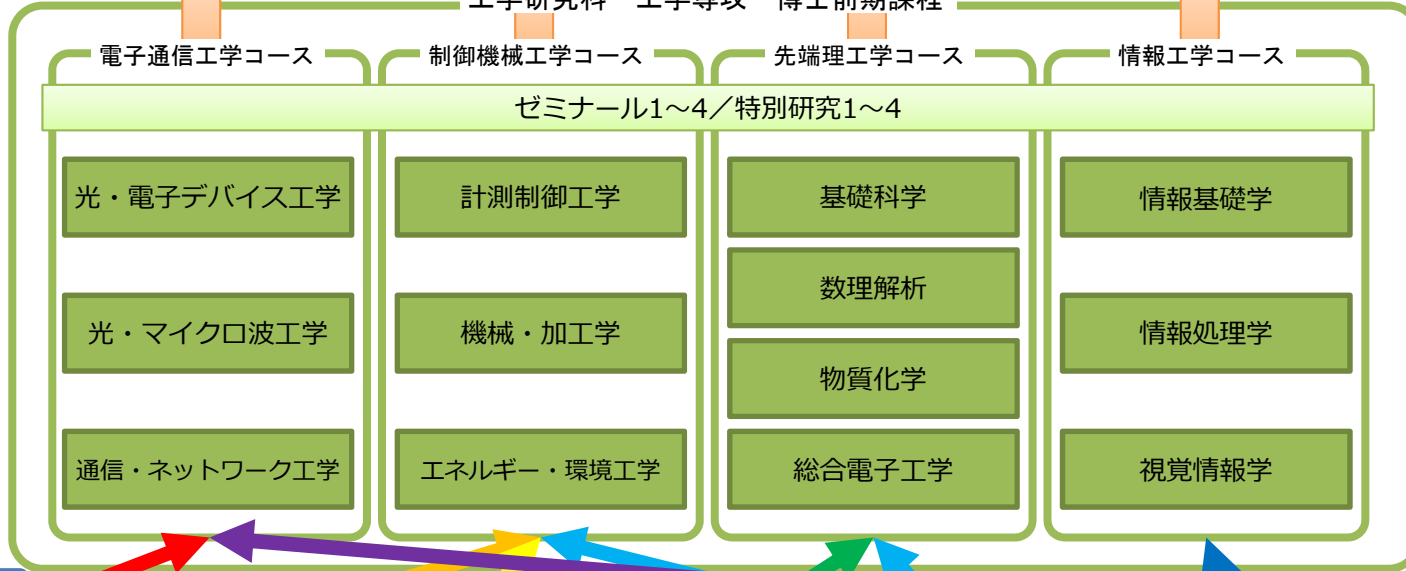
大学院 工学研究科工学専攻修士課程 授業時間割 (2021年度)

時限	曜日 期別	コース	月			火			水			木			金				
			科 目	担当	教室	科 目	担当	教室	科 目	担当	教室	科 目	担当	教室	科 目	担当	教室		
4	14:40 ~ 16:10	前	先端理工	数理解物理学特論	木村	J401	現象数理学特論	柳田	J313										
			電子通信				衛星通信工学特論	前川	J401										
			制御機械																
			情報				人間工学特論	小森	J414										
	後	先端理工							ケミカルバイオロジー特論	齊藤	J401								
		電子通信																	
		制御機械							産学連携機械工学特論	阿南	1601								
		情報				コンピュータ グラフィックス特論	河合	J414											
5	16:20 ~ 17:50	前	先端理工	ゼミナール3	全教員	J514	ゼミナール1	全教員	J514						先端理工英語1	森田	J703b		
			電子通信	ゼミナール3	全教員	J407	ゼミナール1	全教員	J407										
			制御機械	ゼミナール3	全教員	J307	ゼミナール1	全教員	J307										
			情報	ゼミナール3	全教員	J509	ゼミナール1	全教員	J509						自然言語処理特論	竹内	J414		
	後	先端理工	ゼミナール4	全教員	J514	ゼミナール2	全教員	J514							先端理工英語2	森田	J703b		
		電子通信	ゼミナール4	全教員	J407	ゼミナール2	全教員	J407											
		制御機械	ゼミナール4	全教員	J307	ゼミナール2	全教員	J307											
		情報	ゼミナール4	全教員	J509	ゼミナール2	全教員	J509											
集中授業	前	制御機械	土曜集中 科目：国際工学技術特論1 担当：鄭 教室：J307																
	土曜集中 科目：国際工学技術特論2 担当：鄭 教室：J307																		
後																			

工学研究科 工学専攻 博士後期課程



工学研究科 工学専攻 博士前期課程



工学部

情報通信工学部

電気電子工学科	電子機械工学科	機械工学科	基礎理工学科	環境科学科	情報工学科	通信工学科
卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究
電子・光デバイス	情報・制御	電気電子・情報機器応用	融合領域	エネルギー機械	メディア情報工学	情報・制御
計測制御工学	電気・電子工学	設計・製図	情報・計測シミュレーション	バイオ化学 食品系	情報システム	電気・電子工学
エネルギー電気応用	生産・加工学	機械材料・設計	化学系	バイオ化学 生物系	統計情報解析	情報工学・プログラミング
電気電子回路	機械基礎力学	計測制御工学	物理系	エコ化学	知的情報処理	情報通信ネットワーク
電気電子工学基礎	数理基礎	熱・流体力学	数学系	特別基礎科目	情報ネットワーク	通信方式
基礎専門科目	基礎専門科目	基礎専門科目	基礎専門科目	基礎専門科目	基礎専門科目	基礎専門科目
数学/物理/情報/工学入門	数学/物理/化学/情報/工学入門	数学/物理/化学/情報/工学入門	数学/理科基礎/情報	理科/数学/情報/環境基礎	数学/理科/情報/電気電子	数学/物理/情報/工学入門

キャリア形成科目

FD・SD研修 実施テーマ

2018年度 テーマ一覧

日程等		テーマ	講師
第1回	2018年4月2日（月）	新任研修「教育の基本方針と第1次5カ年計画について」	学長 大石 利光 教授
第2回	2018年5月17日（木）	学内教育実践事例報告① 「社会人基礎力の育成を目指した新しい総合科目の提案」	教育開発推進センター長 森 幸治 教授
第3回	2018年6月14日（木）	学内教育実践事例報告② 「『OECU教育モデル開発』結果について」	工学部電気電子工学科 富岡 明宏 教授 工学部環境科学科 中田 亮生 教授 工学部環境科学科 齊藤 安貴子 教授
第4回	2018年10月4日（木）	学内教育実践事例報告③ 「新たなOECUキャリア教育科目『自分と社会のつながりかた』実践報告」	工学部電気電子工学科 伊藤 義道 准教授 工学基礎理工学科 森田 成昭 教授 工学部建築学科 添田 晴生 准教授 情報通信工学部情報工学科 竹内 和広 教授 情報通信工学部通信工学科 柴垣 佳明 教授 就職部次長 不破信勝 氏
第5回	2018年11月22日（木）	「総合学生支援センター（GSSC）自立支援室の紹介」	総合学生支援センター長 伊與田 功 教授 総合学生支援センター 高橋 和子 特任准教授
第6回	2019年1月17日（木）	「シラバスの考え方」	教育開発推進センター 齊尾 恭子 准教授
第7回	2019年2月22日（金）	学内教育実践事例報告④ 「大阪電気通信大学 リメディアル教育実践紹介」	各学科リメディアル教育担当教員
第8回	2019年3月22日（金）	「化学物質に係る大阪電通大の現状と現実的な対応について」	NPO法人 教育研究機関化学物質管理ネットワーク 理事長 木下知己氏

	動画視聴型FD研修	H30 年度夏期 OECU学生教育改善委員会報告	教育開発推進センター 齊尾 恭子 准教授
	動画視聴型FD研修	アセスメント・ポリシー確立の取り組みについて	大学事務局長 塩田邦成 氏
—	2018年12月12日（水）	OECUランチョンSD「教務系業務と質保障の関係について①」	教育開発推進センター 齊尾 恭子 准教授
—	2018年12月19日（水）	OECUランチョンSD「教務系業務と質保障の関係について②」	教育開発推進センター 齊尾 恭子 准教授

学生の確保の見通し等を記載した書類

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取り組み状況

(1) 学生確保の見通し

(ア) 定員充足の見込み

このたびの工学研究科工学専攻の入学定員は、博士前期課程については70人、博士後期課程については12人と設定した。

入学定員を設定するにあたり、大阪府内の理工学分野の大学院を設置する大学について、学部の入学定員に対する大学院博士前期課程の入学定員の割合と博士前期課程の入学定員に対する博士後期課程の入学定員の割合を参考とした。

【資料1】

博士前期課程においては、学部の入学定員に対して6.8%から23.4%の入学定員を設定している。

また、博士後期課程においては、博士前期課程の入学定員に対して5.5%から20.7%の入学定員を設定している。

このたびの工学研究科工学専攻は、基礎となる学部が工学部および情報通信工学部であることから、2学部を合わせた入学定員のうち建築学科を除いた入学定員である640人に対する博士前期課程の入学定員70人の割合は10.9%、博士前期課程の入学定員70人に対する博士後期課程の入学定員12人の割合は17.1%である。

以上のことから、工学研究科工学専攻の入学定員は、競合する大学の学部と大学院の規模割合と比較して、適正な規模であると考えます。

本専攻を設置するにあたり、要望の実態を確認するため、博士前期課程については本学工学部および情報通信工学部に在籍する3年生を、博士後期課程については本学工学部及び情報通信工学部に在籍する4年生と、本学大学院工学研究科博士前期課程に在籍する1年生を対象としたアンケート調査を実施した。

【資料2】

その結果、「工学研究科工学専攻を受験し合格した場合、入学したいと思いませんか」との質問に対し、博士前期課程においては212名（回答者の47.6%）が「入学したい」または「入学を検討したい」と回答している。

また、博士後期課程においては208名（回答者の50.0%）が「入学したい」または「入学を検討したい」と回答している。そのうち、本学大学院工学研究科博士前期課程に在籍する1年生のみ抽出集計した場合、39名の回答者中28名（回答者の71.8%）が「入学したい」または「入学を検討したい」と回答している。【資料3】

このように、本学の学部在籍者および大学院在籍者に限定した調査結果にお

いても、工学研究科工学専攻への進学意向がうかがえることから、博士前期課程、博士後期課程のいずれにおいても、定員充足については充分に見込みがあると考えられる。

(イ) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

このたび、要望の実態を確認するため、博士前期課程については本学工学部および情報通信工学部に在籍する 3 年生を、博士後期課程については本学工学部及び情報通信工学部に在籍する 4 年生と、本学大学院工学研究科博士前期課程に在籍する 1 年生を対象としたアンケート調査を実施した。

調査の概要は次のとおりである。

1) 調査の目的

2020 年 4 月開設予定の「工学研究科工学専攻（博士前期課程・博士後期課程）」の設置構想に関して、本学在学生のニーズを把握する。

2) 調査概要

調査対象は以下のとおりとした。

- ・博士前期課程：本学工学部電気電子工学科、電子機械工学科、機械工学科、基礎理工学科、環境科学科および情報通信工学部情報工学科、通信工学科に在籍する 3 年生 650 名
- ・博士後期課程：本学大学院工学研究科先端理工学専攻、電子通信工学専攻、制御機械工学専攻、情報工学専攻に在籍する博士前期課程 1 年生 39 名ならびに本学工学部電気電子工学科、電子機械工学科、機械工学科、基礎理工学科、環境科学科および情報通信工学部情報工学科、通信工学科に在籍する 4 年生 635 名

調査時期は 2019 年 1 月 10 日から 1 月 22 日で実施した。

調査の回収数は博士前期課程が 445 名（回収率 68.5%）、博士後期課程が 416 名（回収率 61.8%）であった。

3) 調査項目

調査の項目は「工学専攻の特色に対する興味・関心」「受験意向」「受験し合格した場合の入学意向」とした。

4) 調査結果

博士前期課程

『「工学研究科工学専攻」（仮称）に興味・関心がありますか。』との設問に対

し、回答のあった 445 名のうち、39 名(8.8%)が「とても興味・関心がある」と回答し、126 名(28.3%)が「興味・関心がある」と回答した。

『「工学研究科工学専攻」(仮称)を受験してみたいと思いますか。』との設問に対し、回答のあった 445 名のうち、35 名(7.9%)が「受験してみたい」と回答し、120 名(27.0%)が「受験を検討したい」と回答した。

『「工学研究科工学専攻」(仮称)を受験し合格した場合、入学したいと思いますか。』との設問に対し、回答のあった 445 名のうち、41 名(9.2%)が「入学したい」と回答し、171 名(38.4%)が「入学を検討したい」と回答した。

博士後期課程

『「工学研究科工学専攻」(仮称)に興味・関心がありますか。』との設問に対し、回答のあった 416 名のうち、38 名(9.1%)が「とても興味・関心がある」と回答し、151 名(36.2%)が「興味・関心がある」と回答した。

『「工学研究科工学専攻」(仮称)を受験してみたいと思いますか。』との設問に対し、回答のあった 416 名のうち、33 名(7.9%)が「受験したい」と回答し、143 名(34.4%)が「受験を検討したい」と回答した。

『「工学研究科工学専攻」(仮称)を受験し合格した場合、入学したいと思いますか。』との設問に対し、回答のあった 416 名のうち、46 名(11.1%)が「入学したい」と回答し、162 名(38.9%)が「入学を検討したい」と回答した。

また、予定どおり開設が実現すれば開設初年度の入学対象となる、大学院博士前期課程 1 年生のみ抽出集計を行ったところ、『「工学研究科工学専攻」(仮称)を受験してみたいと思いますか。』との設問に対し、回答のあった 39 名のうち、2 名(5.1%)が「受験したい」と回答し、22 名(56.4%)が「受験を検討したい」と回答した。また、『「工学研究科工学専攻」(仮称)を受験し合格した場合、入学したいと思いますか。』との設問に対し、4 名(10.3%)が「入学したい」と回答し、24 名(61.5%)が「入学を検討したい」と回答した。【資料 3】

(ウ) 学生納付金の設定の考え方

このたびの工学専攻は、工学研究科に既設の先端理工学専攻、電子通信工学専攻、制御機械工学専攻、情報工学専攻の 4 専攻を改編し設置することから、現在の工学研究科と同額で設定することが妥当であると考えます。

具体的な学生納付金は、次のとおりである。

博士前期課程

(単位：円)

	入学金	授業料	実験実習料	初年度納入金	納入金合計
工学研究科 工学専攻	100,000	900,000	150,000	1,150,000	2,200,000

博士後期課程

(単位：円)

	入学金	授業料	実験実習料	初年度納入金	納入金合計
工学研究科 工学専攻	100,000	900,000	150,000	1,150,000	3,250,000

文部科学省の行った「私立大学等の平成 29 年度入学者に係る学生納付金等調査」において、工学の学問分野における定員 1 人当たりの学生納付金平均額は【資料 4】のとおりである。

比較対象となる大阪府内近隣他大学の学生納付金は【資料 5】のとおりである。

本学で設定する学生納付金は、学生納付金等調査の結果と本研究科の初年度納入金を比較した場合、博士後期課程においては平均額を 98,005 円上回っているものの、博士前期課程においては平均額を 77,629 円下回っており、入学定員の多い博士前期課程を平均より低い学費とすることで経済的負担に考慮した学費設定であり、妥当な額であると考えられる。

また、近隣大学との比較からみても、妥当な額であると考えられる。

(2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

学生確保のために、既設の大学院工学研究科と同様に、大学院の魅力を伝えるリーフレットを作成し、入学希望者への配布を予定している。また、大学院ホームページを開設し、学内外の入学希望者に対して広く周知をし、学生確保に努める。

しかしながら、媒体等を使った広報活動だけでは学生確保に向けた十分な取組みとは言えないと考える。

そこで本学では、既設の大学院工学研究科において、工学部および情報通信工学部に在籍する 3 年生を対象に、進学説明会を開催し、大学院進学の魅力を伝えるとともに、進学の際のハードルと思われる経済負担に対する各種奨学金制度による負担軽減策など、大学院進学への動機づけを積極的に行っており、工学専攻についても同様の取組みを実施する予定である。

また、大学ではグループ担任制を導入しており、4年生まではグループ担任の教員による進学指導を、4年生時には所属研究室の卒業研究指導教員による進学指導を積極的に展開していく。

本学では、以上のように広範な広報活動と局所的な学生募集活動、集中的な進学指導を組み合わせることにより、継続的な学生確保につながると考えており、これらを中心に学生募集を実施していく予定にしている。

2. 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

工学研究科の目的は「産業基盤の根幹をなす工学及び科学技術の基礎及び応用を教授研究するとともに、高度な工学技術をもって産業社会に貢献しうる専門的な人材を育成する」こととしている。

また人材養成の目的は「産業の基盤となる工学およびその根幹をなす科学技術の基礎と応用を教授研究するとともに、高度な工学技術を通して基礎科学、電気、電子、情報、通信、機械、制御の分野において、社会に貢献できる専門的な人材を育成する」こととしている。

(2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

既述したとおり、このたびの工学専攻は、工学研究科に既設の先端理工学専攻、電子通信工学専攻、制御機械工学専攻、情報工学専攻の4専攻を改編し設置することから、当該4専攻の修了生について過去5年間における修了後の状況を学校基本調査への回答を基に調べた。【資料6】

工学研究科博士前期課程全体の就職率は、2013年度83.8%、2014年度93.2%、2015年度94.9%、2016年度100%、2017年度84.4%であり、すべての年度において全国平均を上回っており、過去5年間の平均では90.5%と全国平均を約15ポイント上回っている。

また、就職者について職業別にみると、工学研究科博士前期課程全体では、5年間の平均で86%が専門的・技術的職業従事者についている。同じく、産業別にみると、就職者の多くが工学と密接にかかわる産業である製造業、情報通信業に従事している。

以上のことから、当該4専攻の専門性と、これからの社会や産業に貢献できる技術者としての人間力を養うという大学院の教育方針とその実践が、社会に理解されているものと推察され、また、当該4専攻を改編の基礎としていることから、工学専攻においてもこれまでと同様の結果が期待できるものとする。

博士後期課程については、修了後に就職するケースは少なく、専攻の専門分野に関連する産業、職業において技術職や研究職に従事している有職者が、学位取

得のために入学する人が多いという現況がある。さらに、今後将来については、「理工系人材育成に関する産学官行動計画」（平成 28 年 8 月、文部科学省、経済産業省共催の「理工系人材育成に関する産学官円卓会議」による取りまとめ）において、博士人材育成の促進が産業界からの要請を踏まえて強く打ち出されていることから、今後博士後期課程修了後の就業についても、産業界から十分な需要があると見込まれる。

資料目次

- 資料 1 比較対象となる近隣他大学の入学定員
- 資料 2 大阪電気通信大学大学院「工学研究科工学専攻」（仮称）の設置に関するアンケート（博士前期課程・博士後期課程）
- 資料 3 大阪電気通信大学大学院「工学研究科工学専攻」（仮称）の設置に関するアンケート 結果集計（博士前期課程・博士後期課程）
- 資料 4 比較対象となる近隣他大学の学生納付金
- 資料 5 平成 29 年度 私立大学大学院入学者に係る初年度学生納付金平均額（定員 1 人当たり）
- 資料 6 修了後の状況

比較対象となる大阪府内の近隣他大学の入学定員

関西大学	システム理工学部		501名
	環境都市工学部		325名
	化学生命工学部		347名
	計		1,173名
関西大学大学院	理工学研究科	博士課程前期課程	275名
		博士課程後期課程	57名
学部入学定員に対する博士前期課程入学定員の割合			23.4%
博士前期課程に対する博士後期課程の割合			20.7%

近畿大学	理工学部		1,130名
近畿大学大学院	総合理工学研究科	博士前期課程	150名
		博士後期課程	12名
学部入学定員に対する博士前期課程入学定員の割合			13.3%
博士前期課程に対する博士後期課程の割合			8.0%

大阪工業大学	工学部		900名
大阪工業大学大学院	工学研究科	博士前期課程	110名
		博士後期課程	6名
学部入学定員に対する博士前期課程入学定員の割合			12.2%
博士前期課程に対する博士後期課程の割合			5.5%

摂南大学	理工学部		500名
摂南大学大学院	理工学研究科	博士前期課程	34名
		博士後期課程	4名
学部入学定員に対する博士前期課程入学定員の割合			6.8%
博士前期課程に対する博士後期課程の割合			11.8%

大阪産業大学	工学部		425名
	デザイン工学部		290名
	計		715名
	大阪産業大学大学院	工学研究科	博士前期課程
博士後期課程			6名
学部入学定員に対する博士前期課程入学定員の割合			8.4%
博士前期課程に対する博士後期課程の割合			10.0%

2019年4月3日現在の各大学HPより抜粋

大阪電気通信大学	工学部（建築学科を除く）		400名
	情報通信工学部		240名
	計		640名
大阪電気通信大学大学院	工学研究科	博士前期課程	70名
		博士後期課程	12名
学部入学定員に対する博士前期課程入学定員の割合			10.9%
博士前期課程に対する博士後期課程の割合			17.1%

大阪電気通信大学大学院

「工学研究科工学専攻（博士前期課程）」（仮称）の設置概要【予定】

1. 名 称

大阪電気通信大学大学院 工学研究科工学専攻博士前期課程(仮称)

2. 定 員

入学定員70人(収容定員140人)

3. 学位の名称

修士(工学)

4. 設置の趣旨

近年、社会・産業を取り巻く環境はめまぐるしく変化しています。

特に、基礎科学、電気、電子、情報、通信、機械、制御などの工学分野における技術の進展、複合化は非常に速く、従来の電気、機械等の学問分野の枠組みでは、急速に変化する環境に対し、柔軟に対応することが難しくなっています。

このような産業構造の急速な変化や技術革新に適応するため、このたび工学研究科を工学専攻の一専攻とし、そこに先端理工学、電子通信工学、制御機械工学、情報工学の4コースを設けることとしました。

各コースでは、自身が選択したコースの授業に加えて他のコースの授業を履修することにより、スペシャリストとしての深い専門知識と同時に、ジェネラリストとしての幅広い知識を獲得できるようにしました。

また、研究においては分野の異なる研究者の指導が受け易くなり、研究の幅を広げることができます。

5. 養成する人物像

工学研究科工学専攻(仮称)では、産業の基盤となる工学およびその根幹をなす科学技術の基礎と応用を教授研究するとともに、高度な工学技術を通して基礎科学、電気、電子、情報、通信、機械、制御の分野において、社会に貢献できる専門的な人材を育成することを目的としています。

具体的には、工学分野の基礎・専門知識を広く修得した上で、

- (1)自ら新たな課題を開拓し、柔軟な発想をもって課題を解決できる応用力を身につけていること。
- (2)高度に専門化した分野において、チームでの協働作業で自己の役割を果たした上で、さらに継続的な探究心と問題解決力を保持し、新たな技術の創成に寄与できる能力を身につけていること。
- (3)現代技術社会に広く対応できる、プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を身につけていること。

以上の条件を満たし、各分野における専門家として社会に貢献できる人材を育成します。

6. 設置場所

大阪府寝屋川市初町18番8号(本学寝屋川キャンパス)

7. 学 費

初年度納入金 115 万円

(内訳:入学金 10 万円(入学時のみ), 授業料 90 万円, 実験実習料 15 万円)

大阪電気通信大学大学院

「工学研究科工学専攻（博士前期課程）」（仮称）の設置に関するアンケート

現在、大阪電気通信大学大学院では、従来の4専攻からなる工学研究科博士前期課程を改組し、新たな大学院教育の形として工学研究科を1専攻とし、「先端理工学」「電子通信工学」「制御機械工学」「情報工学」の4コースを置く「工学研究科工学専攻博士前期課程」（仮称）の2020年（平成32年）4月の開設を計画しています。

本アンケートは、工学部及び情報通信工学部に在籍する3年生の方を対象として、進学意向などをお尋ねし、今後の計画に反映させたいと考えています。

裏面の「工学研究科工学専攻（博士前期課程）」（仮称）の設置概要をお読みいただき、以下の問いにお答えください。

※ 回答は、該当する項目の□にチェックを入れてください

Q1 あなたのことについて教えてください。

- 所属学部学科： 工学部 電気電子工学科 工学部 電子機械工学科
 工学部 機械工学科 工学部 基礎理工学科
 工学部 環境科学科
 情報通信工学部 情報工学科 情報通信工学部 通信工学科
- 性別： 男性 女性

Q2 「工学研究科工学専攻」(仮称)に興味・関心がありますか。

- とても興味・関心がある 興味・関心がある
 あまり興味・関心がない 全く興味・関心がない

Q3 「工学研究科工学専攻」(仮称)を受験してみたいと思いますか。

- 受験してみたい 受験を検討したい 受験したいと思わない

Q4 「工学研究科工学専攻」(仮称)を受験し合格した場合、入学したいと思いますか。

- 入学したい 入学を検討したい 入学したいと思わない

Q5 「工学研究科工学専攻」(仮称)に要望等があれば、お聞かせください。

ご協力ありがとうございました。

大阪電気通信大学大学院

「工学研究科工学専攻（博士後期課程）」（仮称）の設置概要【予定】

1. 名 称

大阪電気通信大学大学院 工学研究科工学専攻博士後期課程（仮称）

2. 定 員

入学定員12人（収容定員36人）

3. 学位の名称

博士（工学）

4. 設置の趣旨

近年、社会・産業を取り巻く環境はめまぐるしく変化しています。

特に、基礎科学、電気、電子、情報、通信、機械、制御などの工学分野における技術の進展、複合化は非常に速く、従来の電気、機械等の学問分野の枠組みでは、急速に変化する環境に対し、柔軟に対応することが難しくなっています。

このような産業構造の急速な変化や技術革新に適応するため、このたび工学研究科を工学専攻の一専攻とし、そこに先端理工学、電子通信工学、制御機械工学、情報工学の4コースを設けることとしました。

各コースでは、自身が選択したコースの授業に加えて他のコースの授業を履修することにより、スペシャリストとしての深い専門知識と同時に、ジェネラリストとしての幅広い知識を獲得できるようにしました。

また、研究においては分野の異なる研究者の指導が受け易くなり、研究の幅を広げることができます。

5. 養成する人物像

工学研究科工学専攻（仮称）では、産業の基盤となる工学およびその根幹をなす科学技術の基礎と応用を教授研究するとともに、高度な工学技術を通して基礎科学、電気、電子、情報、通信、機械、制御の分野において、社会に貢献できる専門的な人材を育成することを目的としています。

具体的には、工学分野の基礎・専門知識を広く修得した上に、

(1) 自ら新たな課題を開拓し、柔軟な発想をもって課題を解決できる応用力を身につけていること。

(2) 高度に専門化した分野において、チームでの協働作業で自己の役割を果たした上で、さらに継続的な探究心と問題解決力を保持し、新たな技術の創成に寄与できる能力を身につけていること。

(3) 現代技術社会に広く対応できる、プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を身につけていること。

以上の条件を満たし、各分野における専門家として社会に貢献できる人材で、なおかつ、新しい分野を開拓し、独創的な研究を遂行でき、リーダーとしての強い責任感を有する人材を育成します。

6. 設置場所

大阪府寝屋川市初町18番8号（本学寝屋川キャンパス）

7. 学 費

初年度納入金 115 万円

（内訳：入学金 10 万円（入学時のみ）、授業料 90 万円、実験実習料 15 万円）

※ 修士課程に引続き博士後期課程に進学する方は、入学金を免除します。

※ 博士後期課程特待生制度による給費奨学金があります。

大阪電気通信大学大学院
「工学研究科工学専攻（博士後期課程）」（仮称）の設置に関するアンケート

現在、大阪電気通信大学大学院では、従来の4専攻からなる工学研究科博士後期課程を改組し、新たな大学院教育の形として工学研究科を1専攻とし、「先端理工学」「電子通信工学」「制御機械工学」「情報工学」の4コースを置く「工学研究科工学専攻博士後期課程」（仮称）の2020年（平成32年）4月の開設を計画しています。

本アンケートは、工学研究科に在籍する博士前期課程1年生ならびに工学部及び情報通信工学部に在籍する4年生の方を対象として、進学意向などをお尋ねし、今後の計画に反映させたいと考えています。

裏面の「工学研究科工学専攻（博士後期課程）」（仮称）の設置概要をお読みいただき、以下の問いにお答えください。

※ 回答は、該当する項目の□にチェックを入れてください

Q1 あなたのことについて教えてください。

- | | | | |
|--------|---|--|--|
| 所属専攻 | ： | <input type="checkbox"/> 大学院 先端理工学専攻 | <input type="checkbox"/> 大学院 電子通信工学専攻 |
| または | | <input type="checkbox"/> 大学院 制御機械工学専攻 | <input type="checkbox"/> 大学院 情報工学専攻 |
| 所属学部学科 | ： | <input type="checkbox"/> 工学部 電気電子工学科 | <input type="checkbox"/> 工学部 電子機械工学科 |
| | | <input type="checkbox"/> 工学部 機械工学科 | <input type="checkbox"/> 工学部 基礎理工学科 |
| | | <input type="checkbox"/> 工学部 環境科学科 | |
| | | <input type="checkbox"/> 情報通信工学部 情報工学科 | <input type="checkbox"/> 情報通信工学部 通信工学科 |
| 性別 | ： | <input type="checkbox"/> 男性 | <input type="checkbox"/> 女性 |

Q2 「工学研究科工学専攻」（仮称）に興味・関心がありますか。

- | | |
|--------------------------------------|-------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> とても興味・関心がある | <input type="checkbox"/> 興味・関心がある |
| <input type="checkbox"/> あまり興味・関心がない | <input type="checkbox"/> 全く興味・関心がない |

Q3 「工学研究科工学専攻」（仮称）を受験してみたいと思いますか。

- | | | |
|----------------------------------|-----------------------------------|-------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 受験してみたい | <input type="checkbox"/> 受験を検討したい | <input type="checkbox"/> 受験したいと思わない |
|----------------------------------|-----------------------------------|-------------------------------------|

Q4 「工学研究科工学専攻」（仮称）を受験し合格した場合、入学したいと思いますか。

- | | | |
|--------------------------------|-----------------------------------|-------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 入学したい | <input type="checkbox"/> 入学を検討したい | <input type="checkbox"/> 入学したいと思わない |
|--------------------------------|-----------------------------------|-------------------------------------|

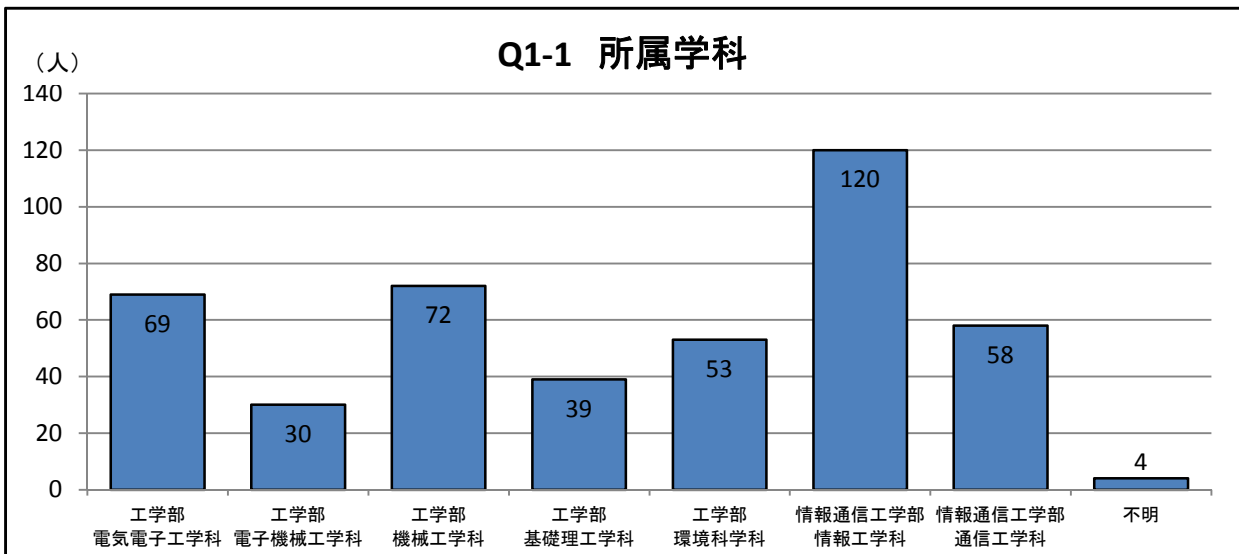
Q5 「工学研究科工学専攻」（仮称）に要望等があれば、お聞かせください。

ご協力ありがとうございました。

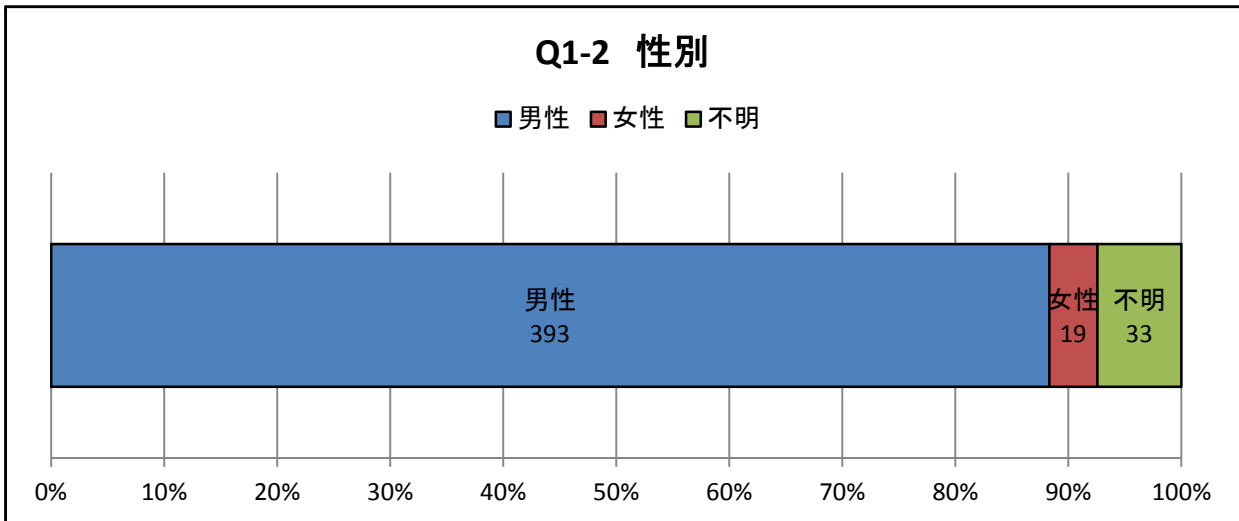
大阪電気通信大学大学院「工学研究科工学専攻（博士前期課程）」（仮称）の設置に関するアンケート集計結果

Q1-1：所属学科	(人)
工学部電気電子工学科	69
工学部電子機械工学科	30
工学部機械工学科	72
工学部基礎理工学科	39
工学部環境科学科	53
情報通信工学部情報工学科	120
情報通信工学部通信工学科	58
不明	4
総計	445

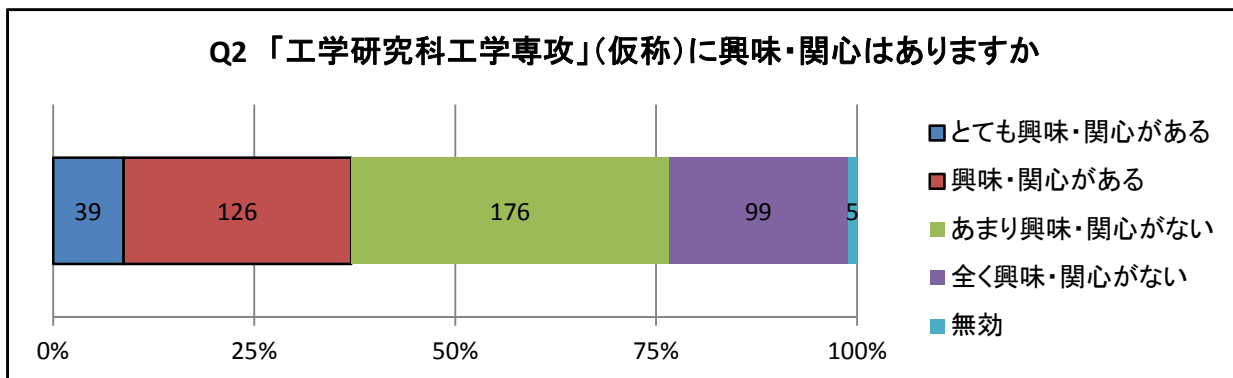
調査対象：本学工学部および情報通信工学部に在籍する3年生
 調査対象数：依頼数 650人
 回収数 445人
 回収率 68.5%
 調査時期：2019年1月10日～1月22日



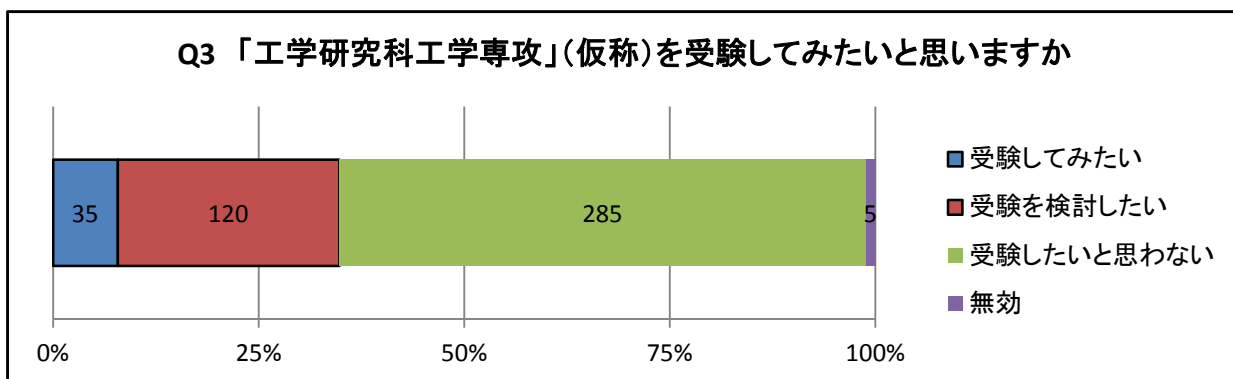
Q1-2：性別	(人)
男性	393
女性	19
不明	33
総計	445



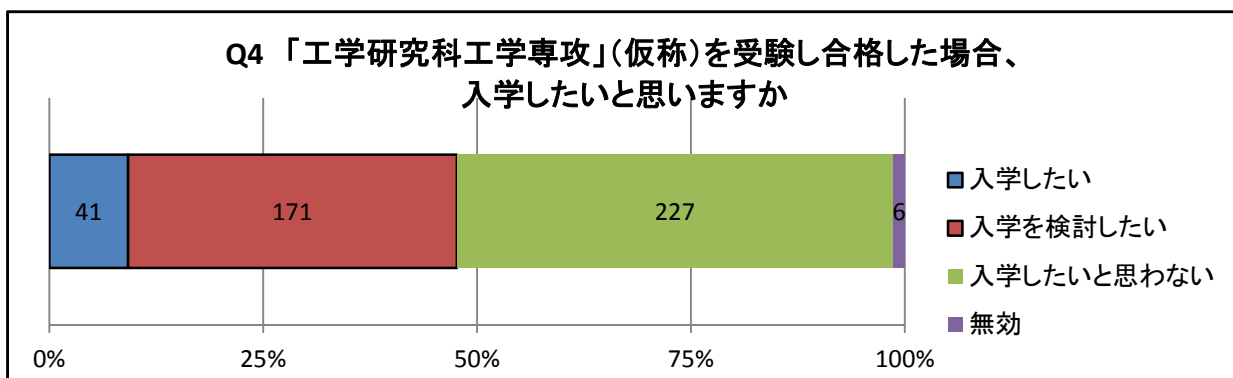
Q2：「工学研究科工学専攻」（仮称）に興味・関心はありますか。	(人)
とても興味・関心がある	39
興味・関心がある	126
あまり興味・関心がない	176
全く興味・関心がない	99
無効	5
総計	445



Q3：「工学研究科工学専攻」（仮称）を受験してみたいと思いますか	(人)
受験してみたい	35
受験を検討したい	120
受験したいと思わない	285
無効	5
総計	445



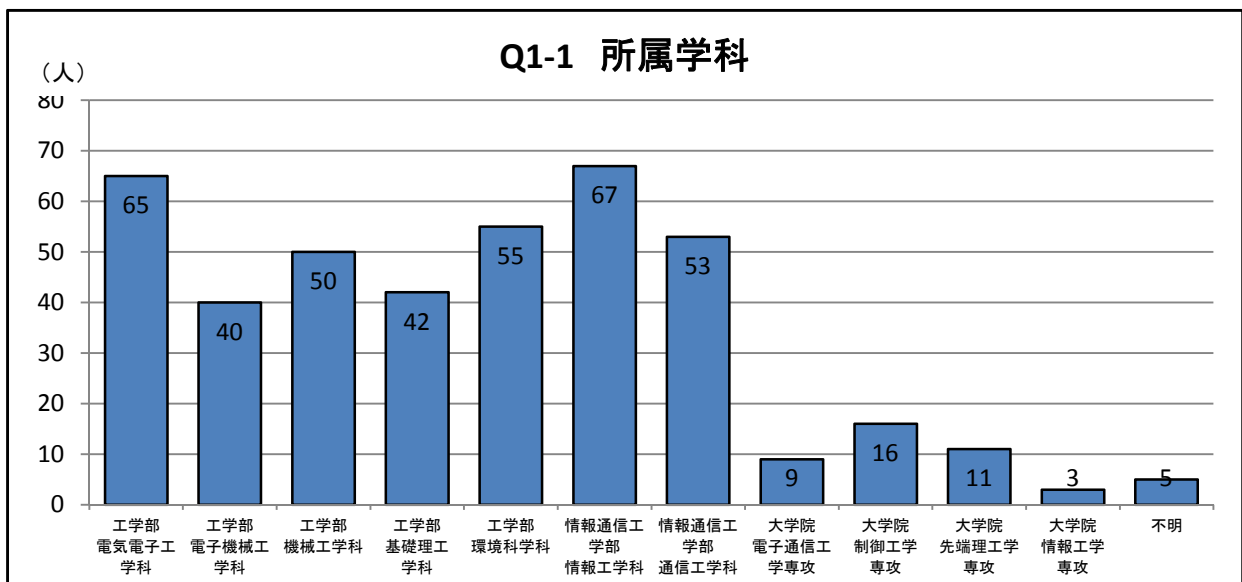
Q4：「工学研究科工学専攻」（仮称）を受験し合格した場合、入学したいと思いますか。	(人)
入学したい	41
入学を検討したい	171
入学したいと思わない	227
無効	6
総計	445



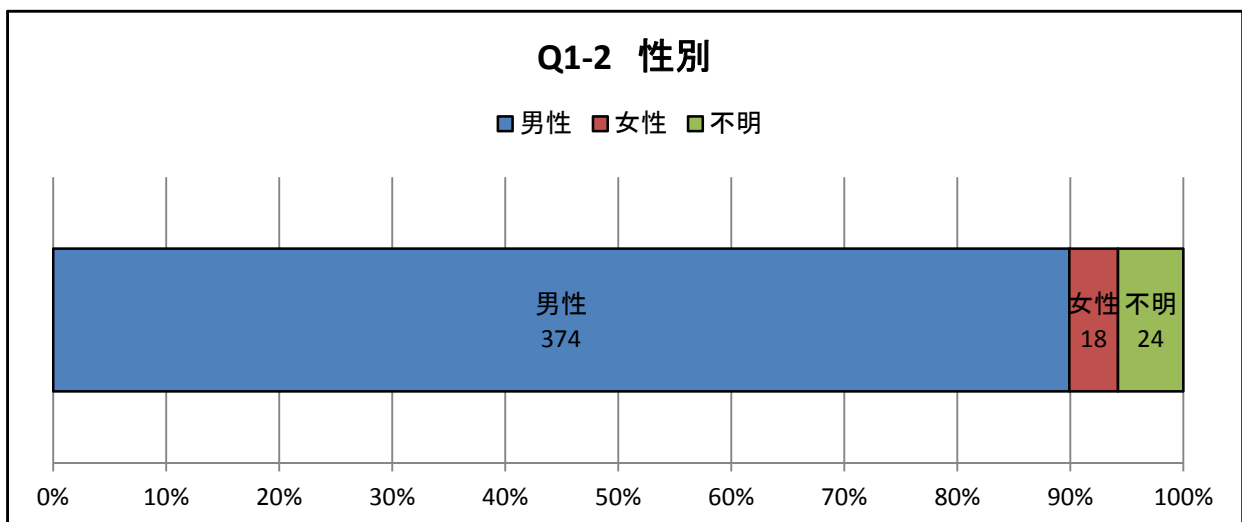
大阪電気通信大学大学院「工学研究科工学専攻（博士後期課程）」（仮称）の設置に関するアンケート集計結果

Q1-1：所属専攻または所属学科	(人)
工学部電気電子工学科	65
工学部電子機械工学科	40
工学部機械工学科	50
工学部基礎理工学科	42
工学部環境科学科	55
情報通信工学部情報工学科	67
情報通信工学部通信工学科	53
大学院電子通信工学専攻	9
大学院制御工学専攻	16
大学院先端理工学専攻	11
大学院情報工学専攻	3
不明	5
総計	416

調査対象：本学工学部および情報通信工学部に在籍する4年生ならびに本学大学院工学研究科博士前期課程に在籍する1年生
 調査対象数：依頼数 673人
 回収数 416人
 回収率 61.8%
 調査時期：2019年1月10日～1月22日

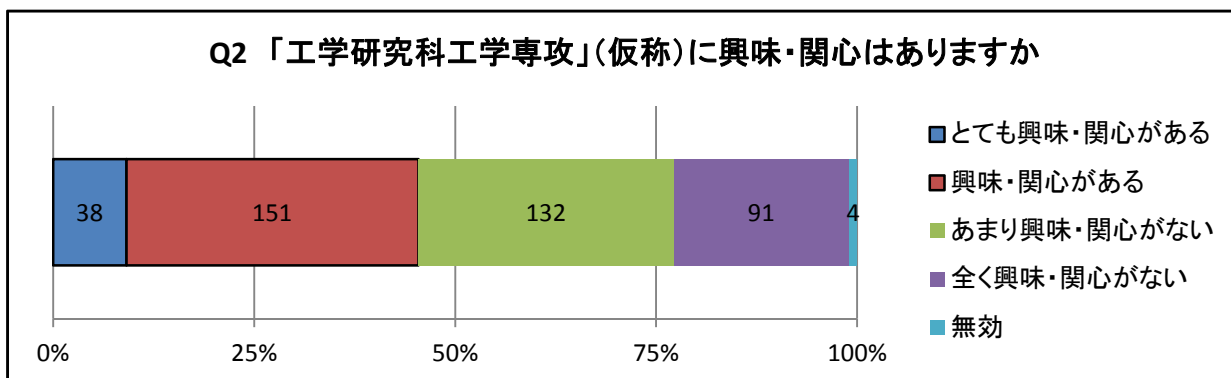


Q1-2：性別	(人)
男性	374
女性	18
不明	24
総計	416

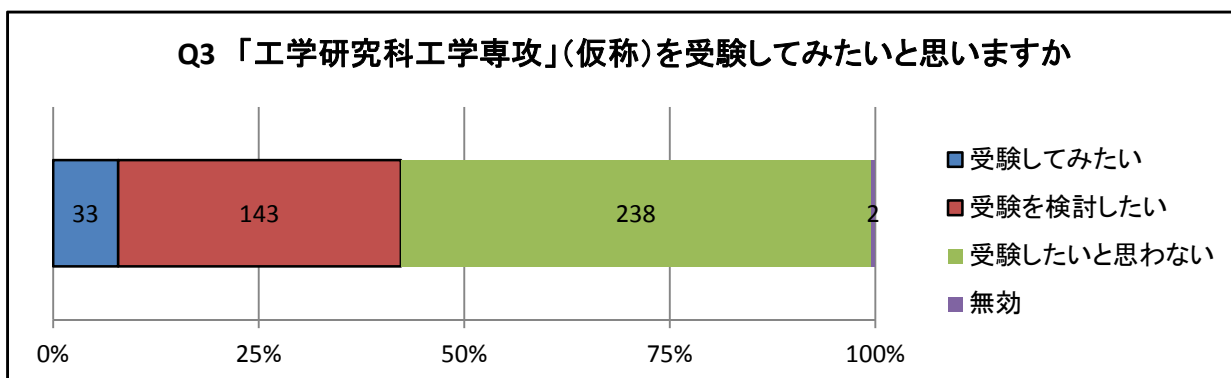


回答結果（全体）

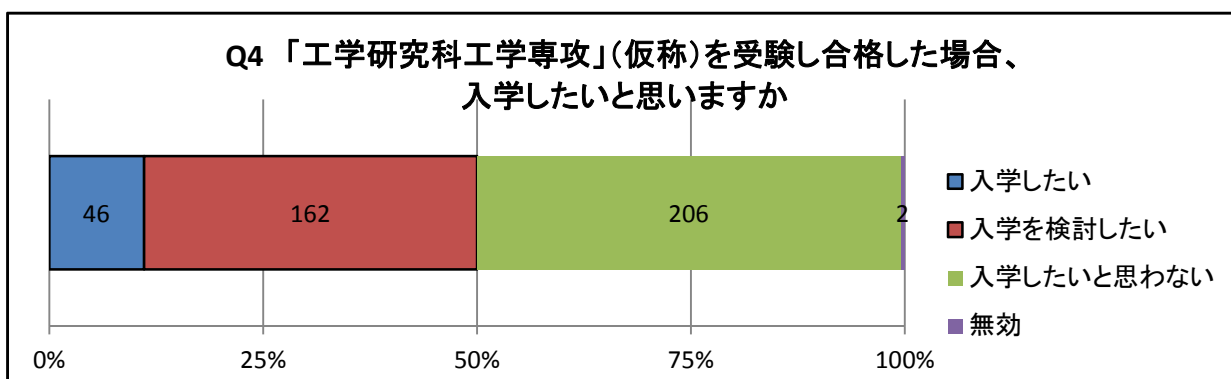
Q2：「工学研究科工学専攻（仮称）に興味・関心はありますか。	（人）
とても興味・関心がある	38
興味・関心がある	151
あまり興味・関心がない	132
全く興味・関心がない	91
無効	4
総計	416



Q3：「工学研究科工学専攻」（仮称）を受験してみたいと思いますか	（人）
受験してみたい	33
受験を検討したい	143
受験したいと思わない	238
無効	2
総計	416

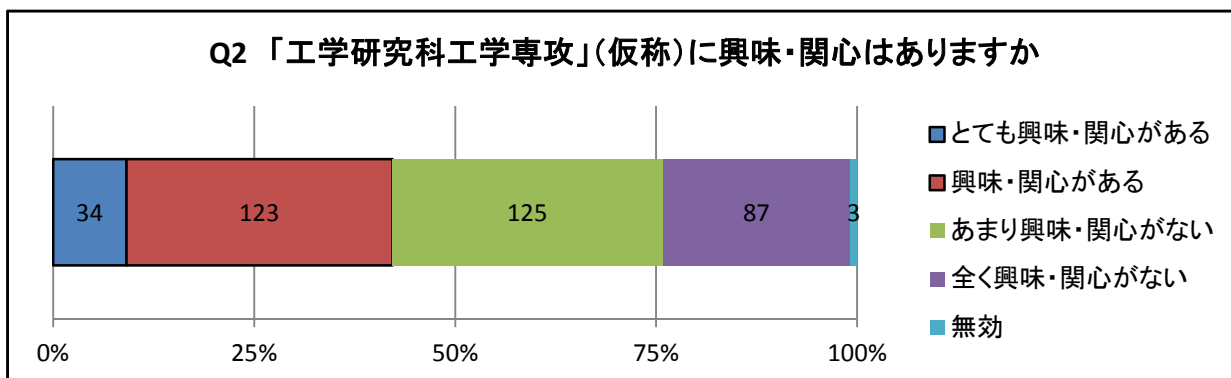


Q4：「工学研究科工学専攻」（仮称）を受験し合格した場合、入学したいと思いますか。	（人）
入学したい	46
入学を検討したい	162
入学したいと思わない	206
無効	2
総計	416

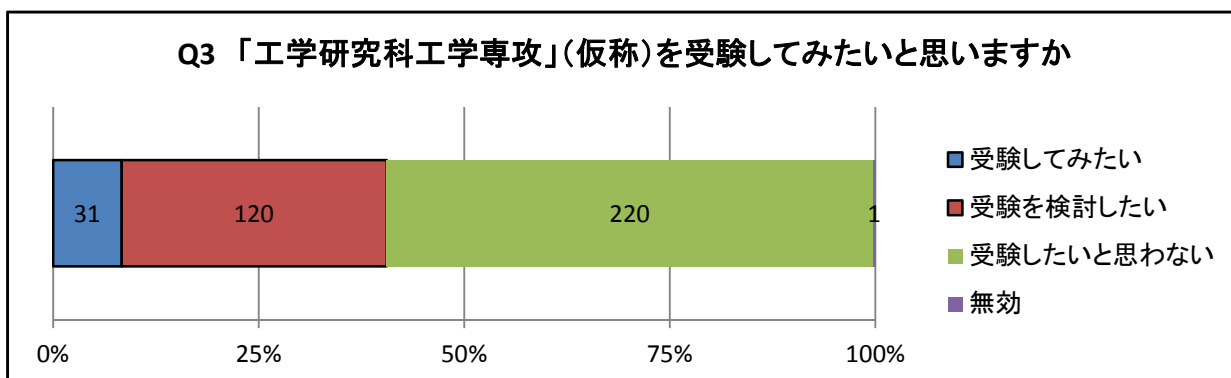


回答結果（工学部 情報通信工学部 4年生のみ）

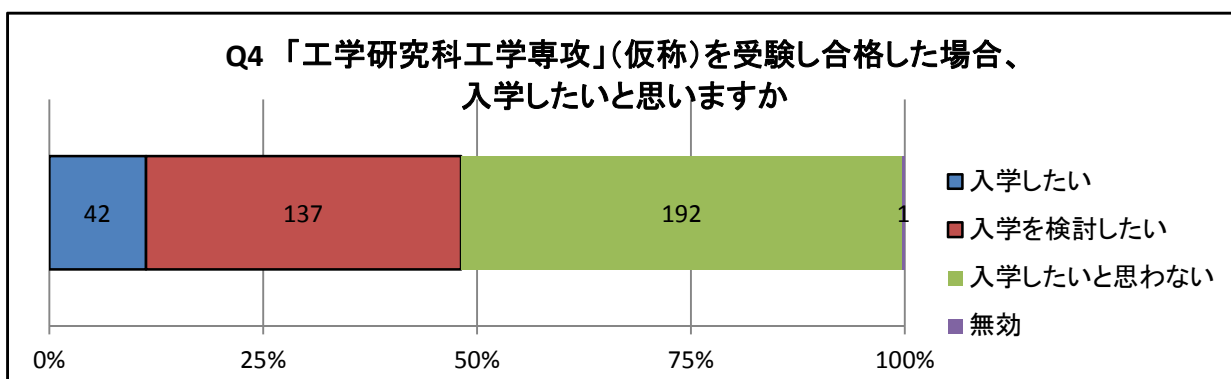
Q2：「工学研究科工学専攻（仮称）に興味・関心はありますか。	(人)
とても興味・関心がある	34
興味・関心がある	123
あまり興味・関心がない	125
全く興味・関心がない	87
無効	3
総計	372



Q3：「工学研究科工学専攻」（仮称）を受験してみたいと思いますか	(人)
受験してみたい	31
受験を検討したい	120
受験したいと思わない	220
無効	1
総計	372

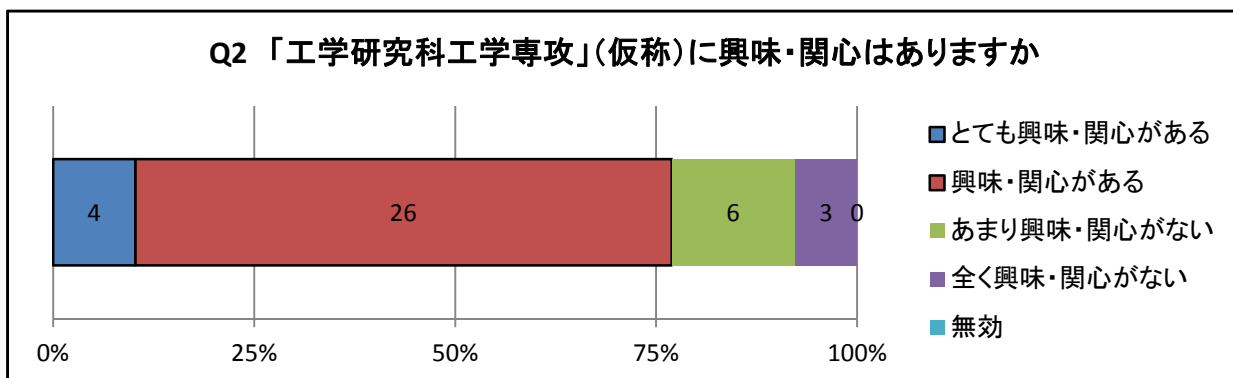


Q4：「工学研究科工学専攻」（仮称）を受験し合格した場合、入学したいと思いますか。	(人)
入学したい	42
入学を検討したい	137
入学したいと思わない	192
無効	1
総計	372

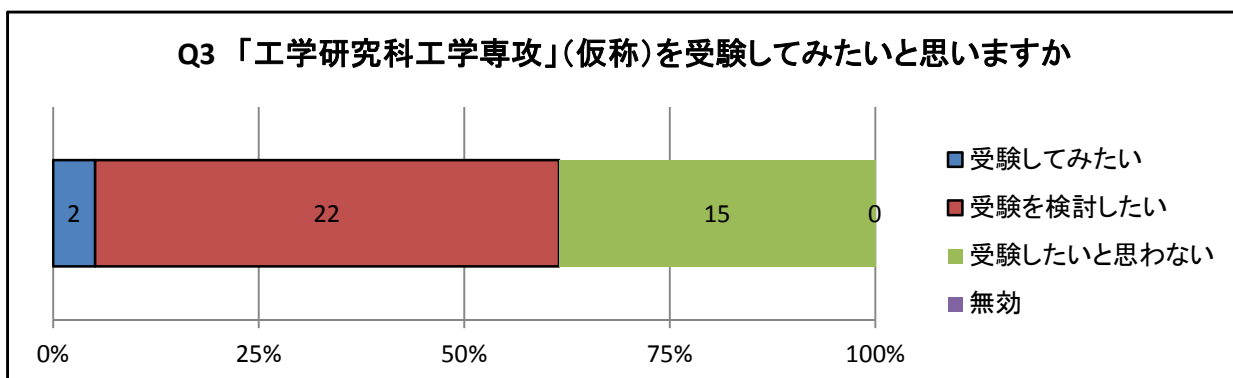


回答結果（工学研究科博士前期課程1年生のみ）

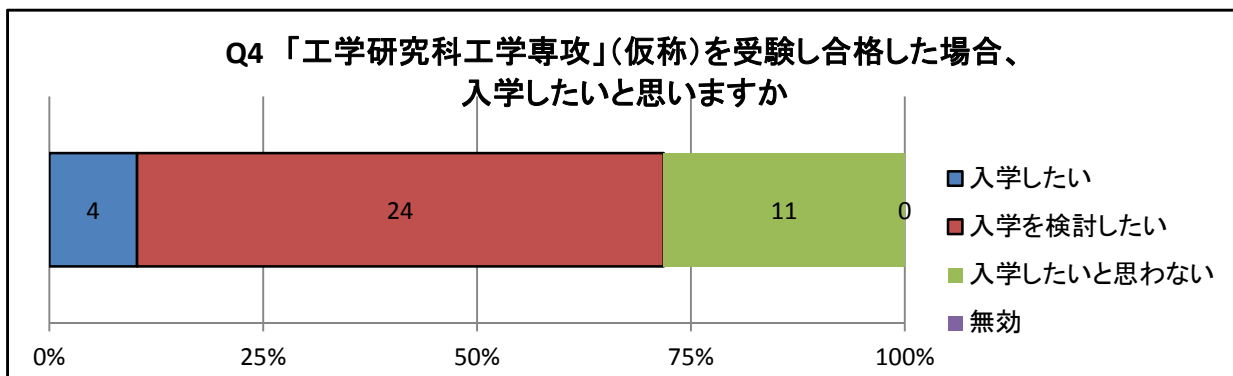
Q2：「工学研究科工学専攻（仮称）に興味・関心はありますか。	(人)
とても興味・関心がある	4
興味・関心がある	26
あまり興味・関心がない	6
全く興味・関心がない	3
無効	0
総計	39



Q3：「工学研究科工学専攻」（仮称）を受験してみたいと思いますか	(人)
受験してみたい	2
受験を検討したい	22
受験したいと思わない	15
無効	0
総計	39



Q4：「工学研究科工学専攻」（仮称）を受験し合格した場合、入学したいと思いますか。	(人)
入学したい	4
入学を検討したい	24
入学したいと思わない	11
無効	0
総計	39



比較対象となる大阪府内の近隣他大学の学生納付金

(2019年度入学生)

(単位:円)

博士前期課程

	入学金	授業料	その他諸費	初年度納入金	納入金合計
関西大学 理工学研究科	130,000	1,139,000		1,269,000	2,408,000
近畿大学 総合理工学研究科	200,000	※ 950,000		1,150,000	2,150,000
大阪工業大学 工学研究科	150,000	1,000,000		1,150,000	2,150,000
摂南大学 理工学研究科	150,000	1,000,000		1,150,000	2,150,000
大阪産業大学 工学研究科	250,000	※※ 663,000	※※ 168,000	1,081,000	1,912,000

※ 2年目は50,000円UP

※※ 学年進行に伴い前々年度の消費者物価指数の平均上昇率等を勘案してスライド制を実施

博士後期課程

	入学金	授業料	その他諸費	初年度納入金	納入金合計
関西大学 理工学研究科	130,000	819,000		949,000	2,587,000
近畿大学 総合理工学研究科	200,000	※ 950,000		1,150,000	3,180,000
大阪工業大学 工学研究科	220,000	940,000		1,160,000	3,040,000
摂南大学 理工学研究科	220,000	940,000		1,160,000	3,040,000
大阪産業大学 工学研究科	250,000	※※ 663,000	※※ 168,000	1,081,000	2,743,000

※ 2年目は50,000円UP, 3年目は30,000円UP

※※ 学年進行に伴い前々年度の消費者物価指数の平均上昇率等を勘案してスライド制を実施

2019年4月3日現在の各大学HPより抜粋

平成29年度 私立大学大学院入学者に係る初年度学生納付金平均額（定員1人当たり）

（単位：円）

博士前期課程(修士課程を含む)(昼間部)

	入学金	授業料	施設設備費	実験実習料 その他	総計
理工・農学【工学】	208,111	880,413	71,194	67,910	1,227,629

博士後期課程(博士課程を含む)(昼間部)

	入学金	授業料	施設設備費	実験実習料 その他	総計
理工・農学【工学】	189,363	725,395	72,144	65,093	1,051,995

文部科学省「私立大学等の平成29年度入学者に係る学生納付金等調査」より抜粋

修了後の状況

※平成26～30年度「学校基本調査」の回答を基に作成

工学研究科博士前期課程
先端理工学専攻

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	5ヵ年平均
修了者	11	14	9	7	14	11.0
就職者数	11	11	7	7	11	9.4
就職率	100.0%	78.6%	77.8%	100.0%	78.6%	85.5%

電子通信工学専攻

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	5ヵ年平均
修了者	6	7	9	9	3	6.8
就職者数	4	7	9	9	3	6.4
就職率	66.7%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	94.1%

制御機械工学専攻

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	5ヵ年平均
修了者	43	16	15	18	7	19.8
就職者数	37	16	15	18	6	18.4
就職率	86.1%	100.0%	100.0%	100.0%	85.7%	92.9%

情報工学専攻

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	5ヵ年平均
修了者	8	7	6	4	8	6.6
就職者数	5	7	6	4	7	5.8
就職率	62.5%	100.0%	100.0%	100.0%	87.5%	87.9%

工学研究科全体(M)

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	5ヵ年平均
修了者	68	44	39	38	32	44.2
就職者数	57	41	37	38	27	40.0
就職率	83.8%	93.2%	94.9%	100.0%	84.4%	90.5%

※参考 文部科学統計要覧（平成30年版）より

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	5ヵ年平均
修了者	76,511	73,154	71,301	71,016	71,187	72,633.8
就職者数	56,164	54,247	54,138	54,821	55,429	54,959.8
就職率	73.4%	74.2%	75.9%	77.2%	77.9%	75.7%

修了後の状況(職業別就職者)

※平成26～30年度「学校基本調査」の回答を基に作成

工学研究科博士前期課程 工学研究科全体(M)

職業別就職者数	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	5ヵ年 合計
専門的・技術的職業従事者 (内訳)	46	33	33	36	24	172
研究者						
農林水産技術者						
製造技術者(開発)						
機械技術者	(26)	(10)	(9)	(12)	(4)	(61)
電気技術者	(5)	(5)	(8)	(8)	(8)	(34)
化学技術者	(3)					(3)
その他の技術者						
製造技術者(開発除く)						
機械技術者	(4)	(1)	(3)	(4)	(1)	(13)
電気技術者	(2)	(5)	(6)	(5)	(4)	(22)
化学技術者						
その他の技術者						
建築・土木・測量技術者						
情報処理・通信技術者	(5)	(8)	(7)	(6)	(7)	(33)
その他の技術者						
教員						
幼稚園教員						
小学校教員						
中学校教員	(1)					(1)
高等学校教員		(3)				(3)
中等教育学校教員						
高等専門学校教員						
短期大学教員						
大学教員						
特別支援学校教員						
上記以外の学校の教員		(1)				(1)
医師，歯科医師，獣医師，薬剤師						
医師，歯科医師						
獣医師						
薬剤師						
保健師，助産師，看護師						
医療技術者						
その他の保健医療従事者						
栄養士						
その他の保健医療従事者						
美術家，写真家，デザイナー，音楽家，舞台芸術家						
その他の専門的・技術的職業従事者				(1)		(1)
管理的職業従事者						
事務従事者						
販売従事者	1	1	1	1		4
サービス職業従事者		1				1
保安職業従事者						
農林漁業従事者						
農林業従事者						
漁業従事者						
生産工程従事者						
輸送・機械運転従事者						
建設・採掘従事者						
運搬・清掃等従事者						
上記以外のもの	10	6	3	1	3	23
合 計	57	41	37	38	27	200

修了後の状況(産業別就職者)

※平成26～30年度「学校基本調査」の回答を基に作成

工学研究科博士前期課程

工学研究科全体(M)

産業別就職者数	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	5ヵ年 合計
農業, 林業						
漁業						
鉱業, 採石業, 砂利採取業						
建設業	4	2	4	2		12
製造業	35	18	21	25	11	110
(内訳)						
食料品・飲料・たばこ・飼料製造業	(1)		(2)	(1)	(2)	(6)
繊維工業			(1)			(1)
印刷・同関連業				(2)		(2)
化学工業, 石油・石炭製品製造業	(2)		(1)	(2)		(5)
鉄鋼業, 非鉄金属・金属製品製造業	(4)	(2)	(4)	(4)	(2)	(16)
はん用・生産用・業務用機械器具製造業	(15)	(4)	(4)	(7)	(4)	(34)
電子部品・デバイス・電子回路製造業	(2)	(1)	(3)	(3)	(1)	(10)
電気・情報通信機械器具製造業	(8)	(3)	(5)	(1)	(1)	(18)
輸送用機械器具製造業	(2)	(7)	(1)	(3)	(1)	(14)
その他の製造業	(1)	(1)		(2)		(4)
電気・ガス・熱供給・水道業				1		1
情報通信業	4	6	6	6	4	26
運輸業, 郵便業	1				1	2
卸売業, 小売業						
卸売業	4	2	3		1	10
小売業		1				1
金融業, 保険業						
金融業						
保険業						
不動産業, 物品賃貸業						
不動産取引・賃貸・管理業						
物品賃貸業						
学術研究, 専門・技術サービス業						
学術・開発研究機関	1					1
法務						
その他の専門・技術サービス業	2	3	2	2	5	14
宿泊業, 飲食サービス業						
生活関連サービス業, 娯楽業		2				2
教育, 学習支援業						
学校教育	3	5				8
その他の教育, 学習支援業						
医療, 福祉						
医療業, 保健衛生						
社会保険・社会福祉・介護事業						
複合サービス事業						
サービス業(他に分類されないもの)						
宗教						
その他のサービス業	2	1		2	5	10
公務(他に分類されるものを除く)						
国家公務		1				1
地方公務	1					1
上記以外のもの			1			1
合 計	57	41	37	38	27	200

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
-	学長	オオイシ トシミツ 大石 利光 <2020年4月>		高等学校卒		大阪電気通信大学 学長 (2016.4~2020.3)

（注） 高等専門学校にあっては校長について記入すること。

教 員 の 氏 名 等												
（工学研究科工学専攻 博士前期課程）												
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 単 位 数	年 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する週当 たり平均日数
1	専	教授 (研究 科長)	コミヤマ アキラ 小見山 彰 <2020年4月>		工学 博士		電磁波論【隔年】	1後	2	1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科電子通信 工学専攻 教授 (1986.4)	5日
2	専	教授	アクト ノリコ 阿久津 典子 <2020年4月>		理学 博士		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 シミュレーション統計力学特論1【隔年】 シミュレーション統計力学特論2【隔年】	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1③ 1④	2 2 2 2 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科先端理工 学専攻 教授 (1991.4)	5日
3	専	教授	アナムi ケイコ 阿南 景子 <2020年4月>		博士 (工学)		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 機械力学特論【隔年】 産学連携機械工学特論	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1後 1後	2 2 2 2 1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科制御機械 工学専攻 教授 (2016.4)	5日
4	専	教授	イオカ セイジ 井岡 誠司 <2020年4月>		博士 (工学)		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 材料力学特論【隔年】	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1後	2 2 2 2 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科制御機械 工学専攻 教授 (2011.4)	5日
5	専	教授	イヨダ イサオ 伊與田 功 <2020年4月>		工学 博士		電力システム工学【隔年】	1前	2	1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科電子通信 工学専攻 教授 (2009.4)	5日
6	専	教授	イリベ マサツグ 入部 正継 <2020年4月>		博士 (工学)		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 現代制御特論【隔年】 計測工学特論※【隔年】	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1前 1前	2 2 2 2 1 1 1 1 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科制御機械 工学専攻 教授 (2007.4)	5日
7	専	教授	ウダ ユタカ 宇田 豊 <2020年4月>		工学 博士		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 計測工学特論※【隔年】	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1前	2 2 2 2 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科制御機械 工学専攻 教授 (2006.4)	5日
8	専	教授	エチゴ トミオ 越後 富夫 <2020年4月>		博士 (工学)		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 画像情報解析特論【隔年】 コンピュータビジョン特論【隔年】	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1後 1前	2 2 2 2 1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科情報工学 専攻 教授 (2006.4)	5日
9	専	教授	エノモト ヒロユキ 榎本 博行 <2020年4月>		博士 (工学)		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 固体物理学特論2 ナノ工学特論 ※【隔年】 先端計測特論 ※【隔年】	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1② 1前 1後	2 2 2 2 1 1 1 1 1 0.7 0.7	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科先端理工 学専攻 教授 (1992.4)	5日

教 員 の 氏 名 等												
(工学研究科工学専攻 博士前期課程)												
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 単 位 数	当 年 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する週 たり平均日数
10	専	教授	エビハラ サトシ 海老原 聡 <2020年4月>		博士 (工学)		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 電磁計測特論【隔年】	1前 1後 2前 2後 1前 1後 1前 2前 2後 1前	2 2 2 2 1 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科電子通信 工学専攻 教授 (2003.4)	5日
11	専	教授	カゲシマ マサミ 影島 賢巳 <2020年4月>		博士 (工学)		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 半導体工学特論1【隔年】 半導体工学特論2【隔年】 ナノ工学特論 ※【隔年】 先端計測特論 ※【隔年】	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1③ 1④ 1前 1後	2 2 2 2 1 1 1 1 1 0.7 0.7	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科先端理工 学専攻 教授 (2017.4)	5日
12	専	教授	カナムネ ススム 兼宗 進 <2020年4月>		博士 (システム・ マネジメント)		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 アタチュエータ工学特論 ※【隔年】	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1後	2 2 2 2 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科制御機械 工学専攻 教授 (2009.4)	5日
13	専	教授	カワガチ マサユキ 川口 雅之 <2020年4月>		工学 博士		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 無機化学特論【隔年】	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1前	2 2 2 2 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科先端理工 学専攻 教授 (1994.4)	5日
14	専	教授	キハラ ミツル 木原 満 <2020年4月>		博士 (工学)		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 光デバイス工学【隔年】	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1後	2 2 2 2 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科電子通信 工学専攻 教授 (2017.4)	5日
15	専	教授	キマチ アキラ 来海 暁 <2020年4月>		博士 (工学)		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 光情報センシング特論【隔年】	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1前	2 2 2 2 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科情報工学 専攻 教授 (2001.4)	5日
16	専	教授	コモリ マサン 小森 政嗣 <2020年4月>		博士 (人間 科学)		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 人間工学特論【隔年】	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1前	2 2 2 2 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科情報工学 専攻 教授 (2003.4)	5日
17	専	教授	サイトウ(カワサキ)ア キコ 齊藤(川崎)安貴子 <2020年4月>		博士 (学術)		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 ゲミカルバイオロジー特論【隔年】	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1後	2 2 2 2 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科先端理工 学専攻 教授 (2010.4)	5日
18	専	教授	シバガキ ヨシアキ 柴垣 佳明 <2020年4月>		博士 (工学)		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 電波応用工学特論【隔年】	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1前	2 2 2 2 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科電子通信 工学専攻 教授 (1999.4)	5日

教 員 の 氏 名 等												
(工学研究科工学専攻 博士前期課程)												
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 単 位 数	当 年 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する週当 たり平均日数
19	専	教授	タカオカ ダイゾウ 高岡 大造 <2020年4月>		博士 (工学)		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 熱工学特論※【隔年】	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1後	2 2 2 2 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科制御機械 工学専攻 教授 (2010.4)	5日
20	専	教授	タケウチ カズヒロ 竹内 和広 <2020年4月>		博士 (工学)		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 自然言語処理特論【隔年】 知能情報処理特論【隔年】	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1前 1後	2 2 2 2 1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科情報工学 専攻 教授 (2006.4)	5日
21	専	教授	タナカ ヒロアキ 田中 宏明 <2020年4月>		博士 (工学)		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 加工学特論 ※【隔年】	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1後	2 2 2 2 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科制御機械 工学専攻 教授 (2000.4)	5日
22	専	教授	チョン ソンヒ 鄭 聖熹 <2020年4月>		博士 (情報 科学)		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 ロボティクス特論【隔年】 国際工学技術特論1 国際工学技術特論2	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1前 1後	2 2 2 2 1 1 1 1 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科制御機械 工学専攻 教授 (2009.9)	5日
23	専	教授	ツキマ ミツル 月間 満 <2020年4月>		博士 (工学)		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 電力システム工学【隔年】 アクチュエータ工学特論 ※【隔年】	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1前 1後	2 2 2 2 1 1 1 1 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科制御機械 工学専攻 教授 (2017.4)	5日
24	専	教授	トミオカ アキヒロ 富岡 明宏 <2020年4月>		理学 博士		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 光・電子デバイス工学特論【隔年】	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1前	2 2 2 2 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科電子通信 工学専攻 教授 (1997.4)	5日
25	専	教授	ナカセ ヤスノブ 中瀬 泰伸 <2020年4月>		博士 (工学)		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 集積デバイス工学【隔年】	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1後	2 2 2 2 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科電子通信 工学専攻 教授 (2016.4)	5日
26	専	教授	ナカタ アキリ 中田 亮生 <2020年4月>		博士 (工学)		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 エネルギー変換工学特論【隔年】	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1後	2 2 2 2 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科制御機械 工学専攻 教授 (1998.4)	5日
27	専	教授	ナカムラ タクジ 中村 拓司 <2020年4月>		博士 (理学)		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 複素解析特論【隔年】 現代幾何学特論【隔年】	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1前 1後	2 2 2 2 1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科先端理工 学専攻 教授 (2005.4)	5日

教 員 の 氏 名 等												
(工学研究科工学専攻 博士前期課程)												
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 単 位 数	当 年 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する週当 たり平均日数
28	専	教授	ニイゼキ マサトシ 新関 雅俊 <2020年4月>		博士 (工学)		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 CAD工学特論【隔年】 テクニカルコミュニケーション1【隔年】 テクニカルコミュニケーション2【隔年】	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1前 1後 1後	2 2 2 2 1 1 1 1 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科制御機械 工学専攻 教授 (1995.4)	5日
29	専	教授	ハラダ トオル 原田 融 <2020年4月>		理学 博士		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 量子物理学特論【隔年】	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1前	2 2 2 2 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科先端理工 学専攻 教授 (2000.4)	5日
30	専	教授	ヒルド ミハヤエル ヒルド ミハヤエル <2020年4月>		博士 (工学)		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 画像情報解析特論【隔年】	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1後	2 2 2 2 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科情報工学 専攻 教授 (1994.4)	5日
31	専	教授	マエカワ ヤスユキ 前川 泰之 <2020年4月>		工学 博士		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 衛星通信工学特論【隔年】	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1前	2 2 2 2 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科電子通信 工学専攻 教授 (1985.4)	5日
32	専	教授	マツウラ ヒデハル 松浦 秀治 <2020年4月>		工学 博士		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 半導体デバイス工学【隔年】	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1後	2 2 2 2 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科電子通信 工学専攻 教授 (1995.4)	5日
33	専	教授	マンダイ タケシ 萬代 武史 <2020年4月>		理学 博士		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 複素解析特論【隔年】	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1前	2 2 2 2 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科先端理工 学専攻 教授 (1999.4)	5日
34	専	教授	ミゾイ ユタカ 溝井 浩 <2020年4月>		博士 (理学)		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 現代物理学特論【隔年】	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1前	2 2 2 2 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科先端理工 学専攻 教授 (2004.4)	5日
35	専	教授	ムラカミ ヤスユキ 村上 恭通 <2020年4月>		博士 (工学)		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 暗号理論特論【隔年】	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1前	2 2 2 2 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科電子通信 工学専攻 教授 (2003.4)	5日
36	専	教授	モリ コウジ 森 幸治 <2020年4月>		博士 (工学)		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 熱工学特論※【隔年】	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1後	2 2 2 2 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科制御機械 工学専攻 教授 (1998.4)	5日

教 員 の 氏 名 等												
(工学研究科工学専攻 博士前期課程)												
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 単 位 数	当 年 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する週 たり平均日数
37	専	教授	モリタ シンゲアキ 森田 成昭 <2020年4月>		博士 (学術)		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 分子分光学特論【隔年】 シミュレーション統計力学特論1【隔年】 シミュレーション統計力学特論2【隔年】 先端理工英語1 先端理工英語2	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1後 1③ 1④ 1前 1後	2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科先端理工 学専攻 教授 (2012.4)	5日
38	専	教授	ヤスエ ツネオ 安江 常夫 <2020年4月>		工学 博士		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 固体物理学特論1 ナノ工学特論 ※【隔年】 先端計測特論 ※【隔年】	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1① 1前 1後	2 1 1 1 1 1 1 1 1 0.7 0.7	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科先端理工 学専攻 教授 (1990.4)	5日
39	専	教授	ヤナギタ タツオ 柳田 達雄 <2020年4月>		博士 (学術)		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 数理物理学特論【隔年】 確率モデル特論【隔年】 現象数学特論【隔年】	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1前 1後 1前 1後	2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科先端理工 学専攻 教授 (2011.9)	5日
40	専	教授	ヤマモト タケヒロ 山本 剛宏 <2020年4月>		博士 (工学)		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 流体工学特論【隔年】	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1後	2 1 1 1 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科制御機械 工学専攻 教授 (2016.4)	5日
41	専	教授	ユグチ ノブアキ 湯口 宜明 <2020年4月>		博士 (工学)		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 バイオナノテクノロジー特論【隔年】	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1後	2 1 1 1 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科先端理工 学専攻 教授 (2006.4)	5日
42	専	教授	ワタナベ トシヒロ 渡邊 俊彦 <2020年4月>		博士 (工学)		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 情報システム工学特論【隔年】	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1前	2 1 1 1 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科電子通信 工学専攻 教授 (2001.4)	5日
43	専	准教授	アオヌマ シュウジ 青沼 秀児 <2020年4月>		博士 (工学)		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 有機化学特論【隔年】	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1前	2 1 1 1 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科先端理工 学専攻 准教授 (2001.4)	5日
44	専	准教授	アベ ノボル 阿部 昇 <2020年4月>		博士 (工学)		ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 情報数学特論【隔年】	1前 1後 2前 2後 1前	1 1 1 1 2	1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科情報工学 専攻 准教授 (2005.4)	5日
45	専	准教授	イトウ ヨシミチ 伊藤 義道 <2020年4月>		博士 (工学)		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 信号システム理論特論【隔年】	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1前	2 1 1 1 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科電子通信 工学専攻 准教授 (2013.4)	5日

教 員 の 氏 名 等												
(工学研究科工学専攻 博士前期課程)												
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 単 位 数	年 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する週当 たり平均日数
46	専	准教授	ウエジマ アキヒロ 上嶋 章宏 <2020年4月>		博士 (情報学)		ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 理論計算機科学特論【隔年】	1前 1後 2前 2後 1後	1 1 1 1 2	1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科情報工学 専攻 准教授 (2005.4)	5日
47	専	准教授	オバナ(ヒガシ) ユキ 尾花(東) 由紀 <2020年4月>		博士 (理学)		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 地球物理学特論【隔年】	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1後	2 2 2 2 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科先端理工 学専攻 准教授 (2010.4)	5日
48	専	准教授	カイチエイ 何 一徳 <2020年4月>		工学 博士		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 電磁波論【隔年】 アンテナ工学【隔年】	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1後 1後	2 2 2 2 1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科電子通信 工学専攻 准教授 (1996.4)	5日
49	専	准教授	カトウ ツネカズ 加藤 常員 <2020年4月>		理学 博士		ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 知能情報処理特論【隔年】	1前 1後 2前 2後 1後	1 1 1 1 2	1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科情報工学 専攻 准教授 (1990.4)	5日
50	専	准教授	カワイ トシユキ 河合 利幸 <2020年4月>		工学 博士		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 コンピュータグラフィックス特論【隔年】	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1後	2 2 2 2 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科情報工学 専攻 准教授 (1988.4)	5日
51	専	准教授	キムラ カズヒロ 木村 和広 <2020年4月>		学術 博士		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 数理解物理学特論【隔年】 確率モデル特論【隔年】	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1前 1後	2 2 2 2 1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科先端理工 学専攻 准教授 (平10.4)	5日
52	専	准教授	サカイ リュウイチ 境 隆一 <2020年4月>		博士 (工学)		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 情報セキュリティ【隔年】	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1後	2 2 2 2 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科電子通信 工学専攻 准教授 (平7.4)	5日
53	専	准教授	サトウ ヤスヒロ 佐藤 寧洋 <2020年4月>		博士 (工学)		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 ネットワーク工学特論【隔年】	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1前	2 2 2 2 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科電子通信 工学専攻 准教授 (平30.4)	5日
54	専	准教授	ソエダ ハルオ 添田 晴生 <2020年4月>		博士 (工学)		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 環境設計工学【隔年】	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1後	2 2 2 2 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科制御機械 工学専攻 准教授 (平15.4)	5日
55	専	准教授	タシロ テツヤ 田代 徹也 <2020年4月>		博士 (工学)		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 加工学特論※【隔年】	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1後	2 2 2 2 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科制御機械 工学専攻 准教授 (平29.4)	5日

教 員 の 氏 名 等												
(工学研究科工学専攻 博士前期課程)												
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 当 年 次	担 単 位 数	当 年 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する週当 たり平均日数
56	専	准教授	ドイツノリ 土居 元紀 <2020年4月>		博士 (工学)		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 信号処理【隔年】	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1前	2 2 2 2 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科電子通信 工学専攻 准教授 (平13.4)	5日
57	専	准教授	ニシ ショウゴ 西 省吾 <2020年4月>		博士 (工学)		ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 光情報処理特論【隔年】	1前 1後 2前 2後 1後	1 1 1 1 2	1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科情報工学 専攻 准教授 (平17.4)	5日
58	専	准教授	ハヤシカ ノボル 早坂 昇 <2020年4月>		博士 (情報 科学)		ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 パターン認識特論【隔年】	1前 1後 2前 2後 1後	1 1 1 1 2	1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科情報工学 専攻 准教授 (平25.4)	5日
59	専	准教授	ヒキタ シンイチ 疋田 真一 <2020年4月>		博士 (工学)		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 計測工学特論※【隔年】	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1前	2 2 2 2 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科制御機械 工学専攻 准教授 (平25.9)	5日
60	専	准教授	フジタ ゲン 藤田 玄 <2020年4月>		博士 (情報 科学)		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 システムLSI設計特論【隔年】	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1前	2 2 2 2 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科情報工学 専攻 准教授 (平18.4)	5日
61	専	准教授	ミツモト ヒロシ 光本 浩士 <2020年4月>		博士 (工学)		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 三次元計測特論【隔年】	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1前	2 2 2 2 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科情報工学 専攻 准教授 (平4.4)	5日
62	専	准教授	ヨシダ ハルユキ 吉田 晴行 <2020年4月>		博士 (工学)		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 バイオメカニクス論【隔年】	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1前	2 2 2 2 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科制御機械 工学専攻 准教授 (平14.4)	5日
63	専	講師	タナカ タカノリ 田中 孝徳 <2020年4月>		博士 (理学)		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 資源工学特論【隔年】 熱工学特論※【隔年】	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1後 1前	2 2 2 2 1 1 1 1 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科先端理工 学専攻 講師 (平28.4)	5日
64	専	講師	タメダ ユウイチロウ 多米田 裕一郎 <2020年4月>		博士 (理学)		特別研究1 特別研究2 特別研究3 特別研究4 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 先端物理学特論【隔年】	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1後	2 2 2 2 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学大学 院工学研究科先端理工 学専攻 講師 (平29.4)	5日
65	兼任	講師	トオサト(イトガ) ユカ コ 遠里(糸賀)由佳子 <2020年4月>		博士 (工学)		計算機統計学特論【隔年】	1前	2	1	立命館大学情報理工学 部情報理工学科 教授 (平31.4)	1日

(注)

- 1 教員の数に応じ、適宜枠を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校に就任に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 「申請に係る学部等に従事する週当たりの平均日数」の欄は、専任教員のみ記載すること。

教 員 の 氏 名 等												
(工学研究科工学専攻 博士後期課程)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 単 位 数	当 年 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する週当 たり平均日数
1	専	教授 (研究 科長)	コヤマ アキラ 小見山 彰 <2020年4月>		工学 博士		電子通信工学特殊研究	1~3 通	12	1	大阪電気通信大学大 学院工学研究科電子 通信工学専攻 教授 (1986.4)	5日
2	専	教授	アクトツ ノリコ 阿久津 典子 <2020年4月>		理学 博士		先端理工学特殊研究	1~3 通	12	1	大阪電気通信大学大 学院工学研究科先端 理工学専攻 教授 (1991.4)	5日
3	専	教授	イオカ セイジ 井岡 誠司 <2020年4月>		博士 (工学)		制御機械工学特殊研究	1~3 通	12	1	大阪電気通信大学大 学院工学研究科制御 機械工学専攻 教授 (2011.4)	5日
4	専	教授	イヨダ イサオ 伊與田 功 <2020年4月>		工学 博士		電子通信工学特殊研究	1~3 通	12	1	大阪電気通信大学大 学院工学研究科電子 通信工学専攻 教授 (2009.4)	5日
5	専	教授	ウダ ユタカ 宇田 豊 <2020年4月>		工学 博士		制御機械工学特殊研究	1~3 通	12	1	大阪電気通信大学大 学院工学研究科制御 機械工学専攻 教授 (2006.4)	5日
6	専	教授	エチゴ トミオ 越後 富夫 <2020年4月>		博士 (工学)		情報工学特殊研究	1~3 通	12	1	大阪電気通信大学大 学院工学研究科情報 工学専攻 教授 (2006.4)	5日
7	専	教授	エノモト ヒロユ キ 榎本 博行 <2020年4月>		博士 (工学)		先端理工学特殊研究	1~3 通	12	1	大阪電気通信大学大 学院工学研究科先端 理工学専攻 教授 (1992.4)	5日
8	専	教授	エビハラ サトシ 海老原 聡 <2020年4月>		博士 (工学)		電子通信工学特殊研究	1~3 通	12	1	大阪電気通信大学大 学院工学研究科電子 通信工学専攻 教授 (2003.4)	5日
9	専	教授	カネムネ ススム 兼宗 進 <2020年4月>		博士 (システム・ マネジメン ト)		制御機械工学特殊研究	1~3 通	12	1	大阪電気通信大学大 学院工学研究科制御 機械工学専攻 教授 (2009.4)	5日
10	専	教授	カワグチ マサユ キ 川口 雅之 <2020年4月>		工学 博士		先端理工学特殊研究	1~3 通	12	1	大阪電気通信大学大 学院工学研究科先端 理工学専攻 教授 (1994.4)	5日
11	専	教授	キハラ ミツル 木原 満 <2020年4月>		博士 (工学)		電子通信工学特殊研究	1~3 通	12	1	大阪電気通信大学大 学院工学研究科電子 通信工学専攻 教授 (2017.4)	5日
12	専	教授	キマチ アキラ 来海 暁 <2020年4月>		博士 (工学)		情報工学特殊研究	1~3 通	12	1	大阪電気通信大学大 学院工学研究科情報 工学専攻 教授 (2001.4)	5日
13	専	教授	コモリ マサシ 小森 政嗣 <2020年4月>		博士 (人間 科学)		情報工学特殊研究	1~3 通	12	1	大阪電気通信大学大 学院工学研究科情報 工学専攻 教授 (2003.4)	5日
14	専	教授	サイトウ (カワサ キ) アキコ 齊藤 (川崎) 安貴 子 <2020年4月>		博士 (学術)		先端理工学特殊研究	1~3 通	12	1	大阪電気通信大学大 学院工学研究科先端 理工学専攻 教授 (2010.4)	5日
15	専	教授	タカオカ ダイノウ 高岡 大造 <2020年4月>		博士 (工学)		制御機械工学特殊研究	1~3 通	12	1	大阪電気通信大学大 学院工学研究科制御 機械工学専攻 教授 (2010.4)	5日
16	専	教授	タナカ ヒロアキ 田中 宏明 <2020年4月>		博士 (工学)		制御機械工学特殊研究	1~3 通	12	1	大阪電気通信大学大 学院工学研究科制御 機械工学専攻 教授 (2000.4)	5日
17	専	教授	ジョン ソンヒ 鄭 聖熹 <2020年4月>		博士 (情報 科学)		制御機械工学特殊研究	1~3 通	12	1	大阪電気通信大学大 学院工学研究科制御 機械工学専攻 教授 (2009.9)	5日

教 員 の 氏 名 等												
(工学研究科工学専攻 博士後期課程)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 単 位 数	年 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する週当 たり平均日数
18	専	教授	トミオカ アキヒロ 富岡 明宏 <2020年4月>		理学 博士		電子通信工学特殊研究	1~3 通	12	1	大阪電気通信大学大 学院工学研究科電子 通信工学専攻 教授 (1997.4)	5日
19	専	教授	ナカタ アキノリ 中田 亮生 <2020年4月>		博士 (工学)		制御機械工学特殊研究	1~3 通	12	1	大阪電気通信大学大 学院工学研究科制御 機械工学専攻 教授 (1998.4)	5日
20	専	教授	ナカムラ タクジ 中村 拓司 <2020年4月>		博士 (理学)		先端理工学特殊研究	1~3 通	12	1	大阪電気通信大学大 学院工学研究科先端 理工学専攻 教授 (2005.4)	5日
21	専	教授	ニイゼキ マサトシ 新関 雅俊 <2020年4月>		博士 (工学)		制御機械工学特殊研究	1~3 通	12	1	大阪電気通信大学大 学院工学研究科制御 機械工学専攻 教授 (1995.4)	5日
22	専	教授	ハラダ トオル 原田 融 <2020年4月>		理学 博士		先端理工学特殊研究	1~3 通	12	1	大阪電気通信大学大 学院工学研究科先端 理工学専攻 教授 (2000.4)	5日
23	専	教授	マエカワ ヤスユキ 前川 泰之 <2020年4月>		工学 博士		電子通信工学特殊研究	1~3 通	12	1	大阪電気通信大学大 学院工学研究科電子 通信工学専攻 教授 (1985.4)	5日
24	専	教授	マツウラ ヒデハル 松浦 秀治 <2020年4月>		工学 博士		電子通信工学特殊研究	1~3 通	12	1	大阪電気通信大学大 学院工学研究科電子 通信工学専攻 教授 (1995.4)	5日
25	専	教授	マンダイ タケシ 萬代 武史 <2020年4月>		理学 博士		先端理工学特殊研究	1~3 通	12	1	大阪電気通信大学大 学院工学研究科先端 理工学専攻 教授 (1999.4)	5日
26	専	教授	ミゾイ ユタカ 溝井 浩 <2020年4月>		博士 (理学)		先端理工学特殊研究	1~3 通	12	1	大阪電気通信大学大 学院工学研究科先端 理工学専攻 教授 (2004.4)	5日
27	専	教授	ムラカミ ヤスユキ 村上 恭通 <2020年4月>		博士 (工学)		電子通信工学特殊研究	1~3 通	12	1	大阪電気通信大学大 学院工学研究科電子 通信工学専攻 教授 (2003.4)	5日
28	専	教授	モリ コウジ 森 幸治 <2020年4月>		博士 (工学)		制御機械工学特殊研究	1~3 通	12	1	大阪電気通信大学大 学院工学研究科制御 機械工学専攻 教授 (1998.4)	5日
29	専	教授	モリタ シンゲアキ 森田 成昭 <2020年4月>		博士 (学術)		先端理工学特殊研究	1~3 通	12	1	大阪電気通信大学大 学院工学研究科先端 理工学専攻 教授 (2012.4)	5日
30	専	教授	ヤスエ ツネオ 安江 常夫 <2020年4月>		工学 博士		先端理工学特殊研究	1~3 通	12	1	大阪電気通信大学大 学院工学研究科先端 理工学専攻 教授 (1990.4)	5日
31	専	教授	ヤナギタ タツオ 柳田 達雄 <2020年4月>		博士 (学術)		先端理工学特殊研究	1~3 通	12	1	大阪電気通信大学大 学院工学研究科先端 理工学専攻 教授 (2011.9)	5日
32	専	教授	ヤマモト タケヒロ 山本 剛宏 <2020年4月>		博士 (工学)		制御機械工学特殊研究	1~3 通	12	1	大阪電気通信大学大 学院工学研究科制御 機械工学専攻 教授 (2016.4)	5日
33	専	教授	ユグチ ノブアキ 湯口 宜明 <2020年4月>		博士 (工学)		先端理工学特殊研究	1~3 通	12	1	大阪電気通信大学大 学院工学研究科先端 理工学専攻 教授 (2006.4)	5日
34	専	教授	ワタナベ トシヒコ 渡邊 俊彦 <2020年4月>		博士 (工学)		電子通信工学特殊研究	1~3 通	12	1	大阪電気通信大学大 学院工学研究科電子 通信工学専攻 教授 (2001.4)	5日

教 員 の 氏 名 等												
(工学研究科工学専攻 博士後期課程)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 単 位 数	当 年 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する週当 たり平均日数
35	専	教授	アナミ ケイコ 阿南 景子 <2020年4月>		博士 (工学)		(研究指導補助)		-		大阪電気通信大学大 学院工学研究科制御 機械工学専攻 教授 (2016.4)	5日
36	専	教授	イリベ マサツグ 入部 正継 <2020年4月>		博士 (工学)		(研究指導補助)		-		大阪電気通信大学大 学院工学研究科制御 機械工学専攻 教授 (2007.4)	5日
37	専	教授	カゲシマ マサミ 影島 賢巳 <2020年4月>		博士 (工学)		(研究指導補助)		-		大阪電気通信大学大 学院工学研究科先端 理工学専攻 教授 (2017.4)	5日
38	専	教授	シバカギ ヨシアキ 柴垣 佳明 <2020年4月>		博士 (工学)		(研究指導補助)		-		大阪電気通信大学大 学院工学研究科電子 通信工学専攻 教授 (1999.4)	5日
39	専	教授	タケウチ カズヒロ 竹内 和広 <2020年4月>		博士 (工学)		(研究指導補助)		-		大阪電気通信大学大 学院工学研究科情報 工学専攻 教授 (2006.4)	5日
40	専	教授	ツキマ ミツル 月間 満 <2020年4月>		博士 (工学)		(研究指導補助)		-		大阪電気通信大学大 学院工学研究科制御 機械工学専攻 教授 (2017.4)	5日
41	専	教授	ナカセ ヤスノブ 中瀬 泰伸 <2020年4月>		博士 (工学)		(研究指導補助)		-		大阪電気通信大学大 学院工学研究科電子 通信工学専攻 教授 (2016.4)	5日
42	専	教授	ヒルド ミハヤエル ヒルド ミハヤエル <2020年4月>		博士 (工学)		(研究指導補助)		-		大阪電気通信大学大 学院工学研究科情報 工学専攻 教授 (1994.4)	5日
43	専	准教授	アオスマ シュウジ 青沼 秀児 <2020年4月>		博士 (工学)		(研究指導補助)		-		大阪電気通信大学大 学院工学研究科先端 理工学専攻 准教授 (2001.4)	5日
44	専	准教授	アベ ノボル 阿部 昇 <2020年4月>		博士 (工学)		(研究指導補助)		-		大阪電気通信大学大 学院工学研究科情報 工学専攻 准教授 (2005.4)	5日
45	専	准教授	イトウ ヨシミチ 伊藤 義道 <2020年4月>		博士 (工学)		(研究指導補助)		-		大阪電気通信大学大 学院工学研究科電子 通信工学専攻 准教授 (2013.4)	5日
46	専	准教授	ウエジマ アキヒロ 上嶋 章宏 <2020年4月>		博士 (情報学)		(研究指導補助)		-		大阪電気通信大学大 学院工学研究科情報 工学専攻 准教授 (2005.4)	5日
47	専	准教授	オバナ(ヒガシ)ユキ 尾花(東)由紀 <2020年4月>		博士 (理学)		(研究指導補助)		-		大阪電気通信大学大 学院工学研究科先端 理工学専攻 准教授 (2010.4)	5日
48	専	准教授	カ イチエイ 何 一偉 <2020年4月>		工学 博士		(研究指導補助)		-		大阪電気通信大学大 学院工学研究科電子 通信工学専攻 准教授 (1996.4)	5日
49	専	准教授	カトウ ツネカズ 加藤 常員 <2020年4月>		理学 博士		(研究指導補助)		-		大阪電気通信大学大 学院工学研究科情報 工学専攻 准教授 (1990.4)	5日
50	専	准教授	カワイ トシユキ 河合 利幸 <2020年4月>		工学 博士		(研究指導補助)		-		大阪電気通信大学大 学院工学研究科情報 工学専攻 准教授 (1988.4)	5日
51	専	准教授	キムラ カズヒロ 木村 和広 <2020年4月>		学術 博士		(研究指導補助)		-		大阪電気通信大学大 学院工学研究科先端 理工学専攻 准教授 (1998.4)	5日

教 員 の 氏 名 等												
(工学研究科工学専攻 博士後期課程)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する週 あたり平均日数
52	専	准教授	サカイ リュウイチ 境 隆一 <2020年4月>		博士 (工学)		(研究指導補助)		-		大阪電気通信大学大 学院工学研究科電子 通信工学専攻 准教授 (1995.4)	5日
53	専	准教授	サトウ ヤスヒロ 佐藤 寧洋 <2020年4月>		博士 (工学)		(研究指導補助)		-		大阪電気通信大学大 学院工学研究科電子 通信工学専攻 准教授 (2018.4)	5日
54	専	准教授	ソエダ ハルオ 添田 晴生 <2020年4月>		博士 (工学)		(研究指導補助)		-		大阪電気通信大学大 学院工学研究科制御 機械工学専攻 准教授 (2003.4)	5日
55	専	准教授	タシロ テツヤ 田代 徹也 <2020年4月>		博士 (工学)		(研究指導補助)		-		大阪電気通信大学大 学院工学研究科制御 機械工学専攻 准教授 (2017.4)	5日
56	専	准教授	ドイ モトノリ 土居 元紀 <2020年4月>		博士 (工学)		(研究指導補助)		-		大阪電気通信大学大 学院工学研究科電子 通信工学専攻 准教授 (2001.4)	5日
57	専	准教授	ニシ ショウゴ 西 省吾 <2020年4月>		博士 (工学)		(研究指導補助)		-		大阪電気通信大学大 学院工学研究科情報 工学専攻 准教授 (2005.4)	5日
58	専	准教授	ハヤサカ ノボル 早坂 昇 <2020年4月>		博士 (情報 科学)		(研究指導補助)		-		大阪電気通信大学大 学院工学研究科情報 工学専攻 准教授 (2013.4)	5日
59	専	准教授	ヒキタ シンイチ 疋田 真一 <2020年4月>		博士 (工学)		(研究指導補助)		-		大阪電気通信大学大 学院工学研究科制御 機械工学専攻 准教授 (2013.9)	5日
60	専	准教授	フジタ ゲン 藤田 玄 <2020年4月>		博士 (情報 科学)		(研究指導補助)		-		大阪電気通信大学大 学院工学研究科情報 工学専攻 准教授 (2006.4)	5日
61	専	准教授	ミツモト ヒロシ 光本 浩士 <2020年4月>		博士 (工学)		(研究指導補助)		-		大阪電気通信大学大 学院工学研究科情報 工学専攻 准教授 (1992.4)	5日
62	専	准教授	ヨシダ ハルユキ 吉田 晴行 <2020年4月>		博士 (工学)		(研究指導補助)		-		大阪電気通信大学大 学院工学研究科制御 機械工学専攻 准教授 (2002.4)	5日
63	専	講師	タナカ タカノリ 田中 孝徳 <2020年4月>		博士 (理学)		(研究指導補助)		-		大阪電気通信大学大 学院工学研究科先端 理工学専攻 講師 (2016.4)	5日
64	専	講師	タメダ ヌウイチロウ 多米田 裕一郎 <2020年4月>		博士 (理学)		(研究指導補助)		-		大阪電気通信大学大 学院工学研究科先端 理工学専攻 講師 (2017.4)	5日

(注)

- 1 教員の数に応じ、適宜枠を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校に収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 「申請に係る学部等に従事する週当たりの平均日数」の欄は、専任教員のみ記載すること。

専任教員の年齢構成・学位保有状況 (工学研究科工学専攻 博士前期課程)										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	1人	19人	8人	7人	人	35人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博 士	人	人	5人	9人	3人	1人	人	18人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	人	2人	人	人	人	人	2人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	人	8人	28人	11人	8人	人	55人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	

(注)

- この書類は、申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
- この書類は、専任教員についてのみ、作成すること。
- この書類は、申請又は届出に係る学部等の開設後、当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度（以下「完成年度」という。）における状況を記載すること。
- 専門職大学院の課程を修了した者に対し授与された学位については、「その他」の欄にその数を記載し、「備考」の欄に、具体的な学位名称を付記すること。

専任教員の年齢構成・学位保有状況 (工学研究科工学専攻 博士後期課程)										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	1人	19人	8人	7人	人	35人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博 士	人	人	5人	9人	3人	1人	人	18人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	人	2人	人	人	人	人	2人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	人	8人	28人	11人	8人	人	55人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	

(注)

- この書類は、申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
- この書類は、専任教員についてのみ、作成すること。
- この書類は、申請又は届出に係る学部等の開設後、当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度（以下「完成年度」という。）における状況を記載すること。
- 専門職大学院の課程を修了した者に対し授与された学位については、「その他」の欄にその数を記載し、「備考」の欄に、具体的な学位名称を付記すること。